

令和 6 年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」
沖縄・動物系分野における有機的高専連携プログラム開発・実証事業

事業報告書

2025 年 2 月

学校法人 KBC学園
沖縄ペットワールド専門学校

本報告書は、文部科学省の専修学校による地域産業中核人材養成事業による委託事業として、学校法人KBC学園沖縄ペットワールド専門学校が実施した、令和 6 年度「沖縄・動物系分野における有機的高専連携プログラム開発・実証事業」の成果をとりまとめたものです。

目 次

1	事業の概要	
1.1	実施体制	1
1.2	事業の趣旨	2
1.3	令和6年度の事業	
2	第一回連携プログラム開発検討委員会	
2.1	小祿高等学校 職業講話	4
2.2	ボランティア活動評価	13
2.3	学生の社会貢献活動の方向性	17
2.4	令和6年度の事業の検討と意見	21
3	第二回連携プログラム開発検討委員会	
3.1	中部農林高等学校 職業講話（動物系の仕事）	23
3.2	中部農林高等学校 職業講話（コミュニケーション）	31
3.3	卒後セミナー（看護）	39
3.4	ボランティア活動（沖縄こどもの国）	45
3.5	ボランティア活動（県民環境フェア）	58
3.6	中部農林高校職業意識プログラム前調査	69
3.7	委員意見	92
4	第三回連携プログラム開発検討委員会	
4.1	中部農林高等学校 職業講話（情報の生かし方）	94
4.2	北部農林高等学校 職業講話（マナー）	103
4.3	ボランティア活動（なは動物愛護フェスタ）	108
4.4	中部農林高校職業意識プログラム前後調査	122
4.5	ジョブシャドウイング・インターンシップ受入企業調査	145
4.6	委員意見	160
5	第三回連携プログラム開発検討委員会以降に実施した事業（卒後セミナー）	162

議事録

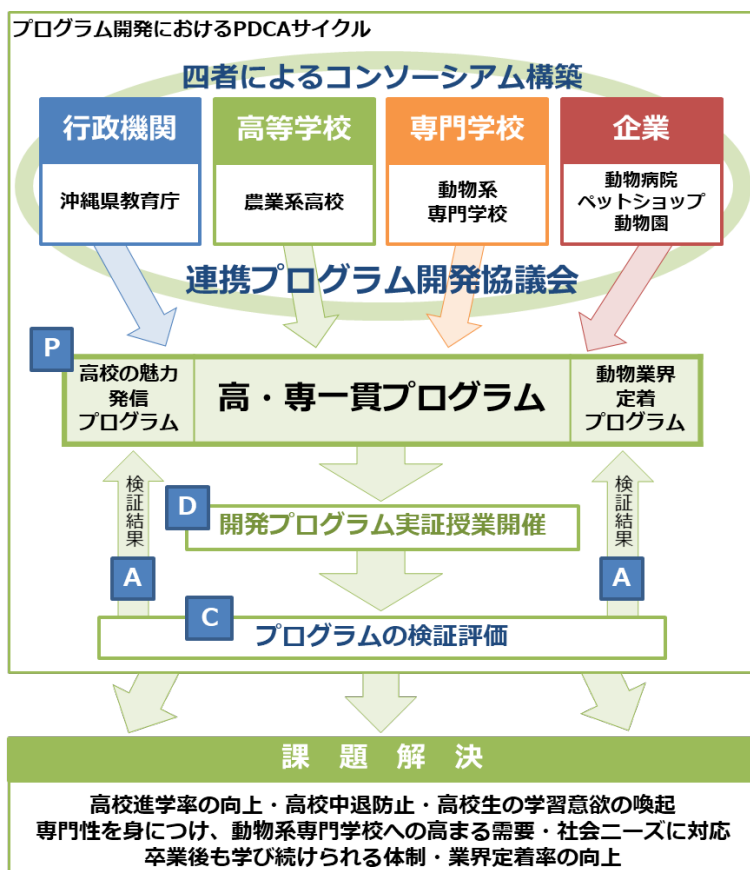
第1回プログラム検討委員会	172
第2回プログラム検討委員会	177
第3回プログラム検討委員会	182

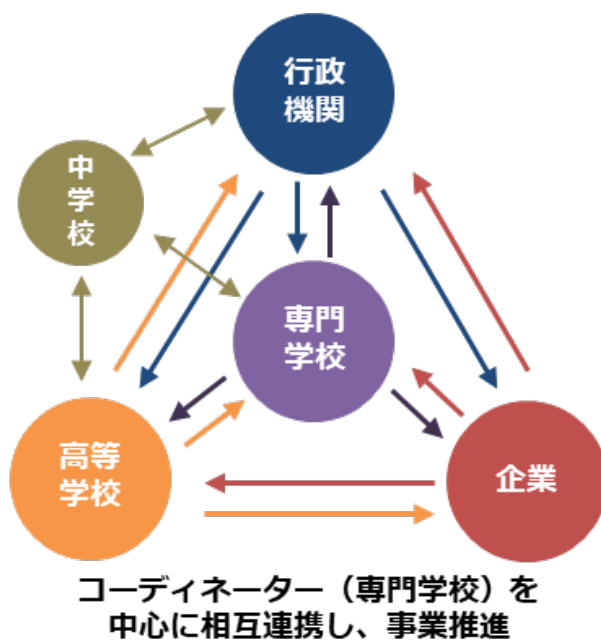
1 事業の概要

1.1 実施体制

行政機関、高等学校、企業、専門学校四者によるコンソーシアムを構築。「連携プログラム開発協議会」を設立し、高・専一貫プログラムの計画を立案する。

計画を基に開発プログラム実証授業を開催し、プログラムの検証評価委員会によってプログラムの評価を行う。検証結果を基に新たな計画に反映させ実証授業を行う。このPDCAサイクルを有機的に機能させ、実効性・教育効果の高い連携プログラムを開発する。





1.2 事業の趣旨

開発プログラムは「高校生」「専門学校生」はもちろん、高校と専門学校の前後に位置する「中学生」及び「社会人」も包括する。時系列に見ると、中学と高校の橋渡しとして「高校の魅力発信プログラム」を開発。開発プログラムにより中学生にとっても魅力的な高校となり、地域課題である高校進学率の向上、高校中退防止に繋げる。次に、高校と専門学校で5年かけて学ぶ「高・専一貫プログラム」を開発。共通目標と一貫したカリキュラムを構築し、動物系分野の高まる受容や社会ニーズに対応できる専門人材を育成する。そして、専門学校卒業後も学び続けられる体制づくりとして「動物業界定着プログラム」を開発。離職を減らし、動物業界への定着率を向上する。卒業生の業界での活躍は高・専一貫プログラムで学ぶ高校生と専門学校生の身近な将来像であり、将来像の明確化は共通の目標設定や一貫したカリキュラムの重要な要素となる。

開発プログラムにより「動物にかかわりながら、専門性を身につけ、人や社会への貢献を認識しつつ、収入が安定し、一生続けられる仕事として動物業界で活躍できる」という好循環を本プログラムを通して実現していく。そして、我が国の労働生産性及び生涯を通じた学習機会の拡大に寄与する。

1.3 令和6年度の事業

◆今年度スケジュール

時期	連携プログラム開発協議会	実証授業の開催	プログラム開発	コーディネーター業務
7月	第1回委員会	実証授業実施		連携校・連携企業の開拓、高等学校・行政・企業の橋渡し
8月			プログラム開発	
9月		実証授業実施		
10月		実証授業実施		
11月	第2回委員会	実証授業実施	検証評価委員会	
12月		実証授業実施	プログラム修正	
1月	第3回委員会		プログラム完成	
2月				

①連携プログラム開発協議会の開催

高等学校、行政、専門学校、企業の四者による高専連携プログラム開発に向けた協議会を発足、プログラム開発に向けた委員会を開催する。ヒアリング調査の分析、課題及びニーズ整理、開発内容の選定を行う。

また、開発プログラムの課題整理、導入に向けた手順を整理する。

第1回委員会（7月予定）：今年度スケジュール紹介、開発プログラム概要

第2回委員会（11月予定）：実証授業開催報告、開発プログラム紹介

第3回委員会（1月予定）：今年度成果報告、次年度方向性確認

<連携プログラム開発協議会委員>

氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
1 徳田 佐	沖縄県立中部農林高等学校教諭	委員	沖縄県
2 平良 一郎	沖縄県教育庁県立学校教育課 指導主事	委員	沖縄県
3 吉川 鉄平	学校法人シモソノ学園国際動物専門学校・大宮国際動物専門学校 募集広報部 部長	委員	東京都
4 喜納 保	ペットメディカルセンター・エイル取締役	委員	沖縄県
5 翁長 朝	公益財団法人 沖縄こどもの国 動物みらい課 課長	委員	沖縄県
6 吉田 剛	学校法人KBC学園 沖縄ペットワールド専門学校 副校長	委員長	沖縄県
7 仲松 謙	学校法人KBC学園 沖縄ペットワールド専門学校 事務局長	委員	沖縄県
8 崎山 孝司	学校法人KBC学園 沖縄ペットワールド専門学校 就職課主任	委員	沖縄県
9 儀間 秀人	学校法人KBC学園 沖縄ペットワールド専門学校 教務主任	委員	沖縄県
10 山城 正仁	学校法人KBC学園 沖縄ペットワールド専門学校 教務主任	委員	沖縄県
11 名護 聡美	学校法人KBC学園 沖縄ペットワールド専門学校 教務主任	委員	沖縄県
12 永井 洋美	学校法人KBC学園 沖縄ペットワールド専門学校 教務	委員	沖縄県

②実証授業の開催

- ・沖縄県立中部農林高校 熱帯資源科（動物コース）2、3年生対象
開催月： 令和6年7月～12月
- ・沖縄県立中部農林高校 熱帯資源科 1年生対象
開催月： 令和6年11月
- ・北部農林高校 熱帯農業科 1年生対象
開催月： 令和6年12月

③プログラム開発

愛玩動物飼養管理士2級対策 自習用教材制作（50分授業×4コマ分）
 愛玩動物飼養管理士1級対策 自習用教材制作（50分授業×4コマ分）
 動物分野 職業理解のための高校生キャリア教育教材制作（50分授業×3コマ分）

それぞれの動画教材は「視聴用（15分）」と「記入用（7分）」に分け、記入用動画には視聴しながら内容を記載するヒアリングシートを連携教材として併せて作成。
 2種類の動画は高校での授業の目的や受講対象者に合わせて制作している。

「視聴用」

職業内容の理解やその職業に就くための取組を伝達する目的。
 対象としては、キャリア構築初期の高校1年生をイメージ。

「記入用」

職業の理解はもちろん、「聞く力」「話す力」を訓練する目的。
 対象としては、インターンシップや面接等を控えた高校2・3年生をイメージ。

④調査・分析

- ・専門学校の学生が参画するフィールドワークのレポート制作

高校、専門学校は共に動物関係への就職が明確になっており専門的な知識（資格）の実証授業は順調に進んでおり今後も継続したい。また本プログラムを受講した高校生が専門学校に入学することになり将来の沖縄県の中核的人材を養成するために更なるスキルアップを図るために令和6年度は以下の取組みを実施したい。

- ・フィールドワークメンバーとして地域社会に貢献したい。
 （沖縄県、那覇市、動物園などが主催する動物愛護関係のボランティア活動に参画する）
 ※フィールドワークに参加する実施前と実施後の意識の変容調査を行う。
- ・インターンシップ企業受入れレポート制作

高校生の将来の職業を検討するにあたり、実際に働いている人の話を聞いて、その現場を見る事ができる経験は非常に大きい。その中でも、現在実施されているインターンシップやジョブシャドウイングは最も効果の高い取り組みである。今回「一人ひとりにあったキャリア支援プログラム」の具体的教材として、インターンシップに向かう高校生の意識づけや事前準備を行う「インターンシップ前準備プログラム」と受け入れ企業が、目的を持って参加した高校生に対し、適切な情報提供ができるような「インターンシップ受け入れ企業プログラム」を検討する。検討に先立ちまずは受け入れ企業へのヒアリングを行い、それをレポートにまとめプログラム開発検討の端緒とする。

⑤コーディネーター業務

連携校・連携企業の開拓、高等学校・行政・企業の橋渡し
 インターンシップ受入れプログラム導入企業開拓
 ジョブシャドウイングプログラム導入企業開拓

2 第一回連携プログラム開発検討委員会

令和6年度事業計画の検討、実証授業、プログラム評価についての意見交換を行った。

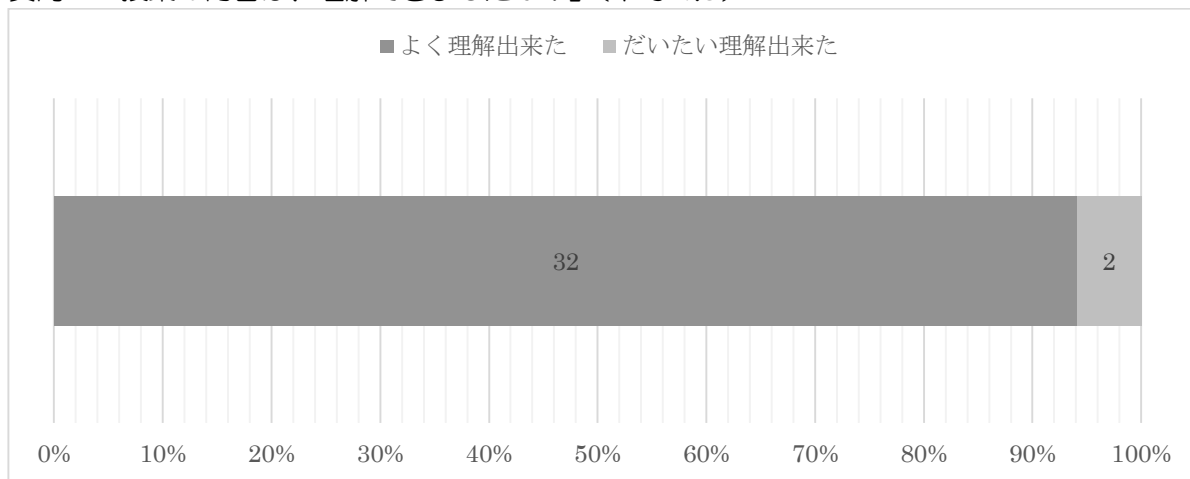
2.1 小禄高等学校 職業講話

2.1.1 実施概要

日時 令和6年6月28日（金）午後2コマ
 対象 沖縄県立小禄高等学校 情報ビジネス科 3年生
 人数 34名（男16、女17、無回答1）
 講師 KBC学園 花城奈美子
 内容 「面接試験対策講座」

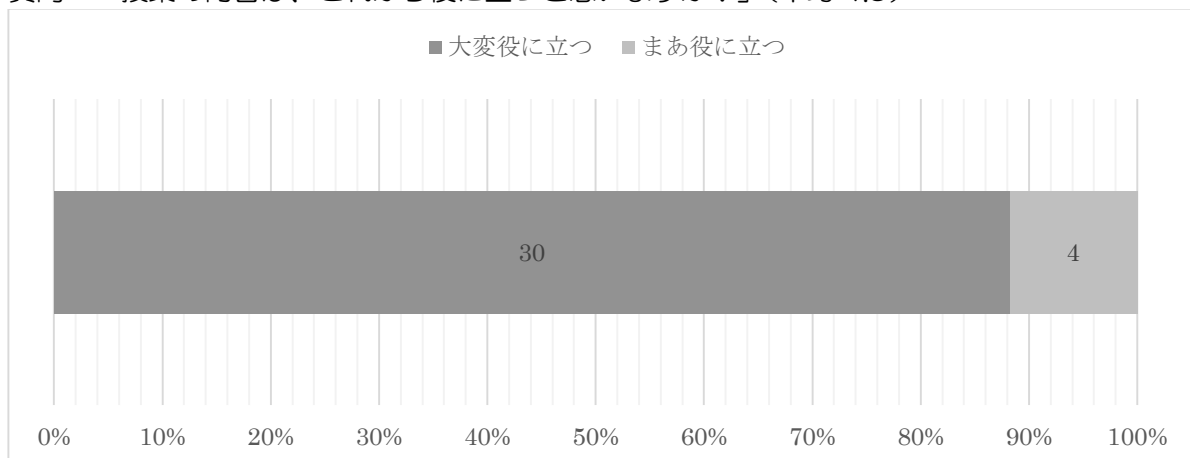
2.1.2 生徒アンケート結果

質問 「授業の内容は、理解できましたか？」（平均 4.9）



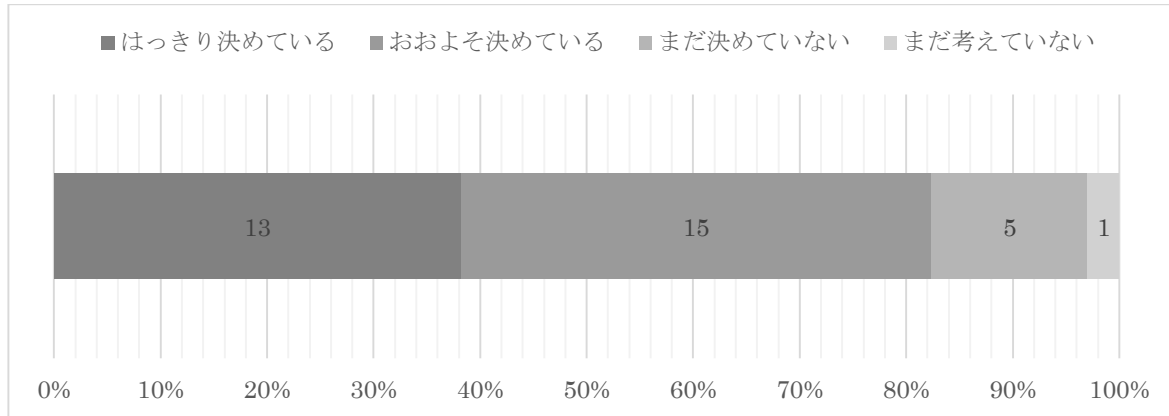
100%の生徒が「よく理解できた」「だいたい理解できた」と答えた。

質問 「授業の内容は、これから役に立つと思いますか？」（平均 4.9）



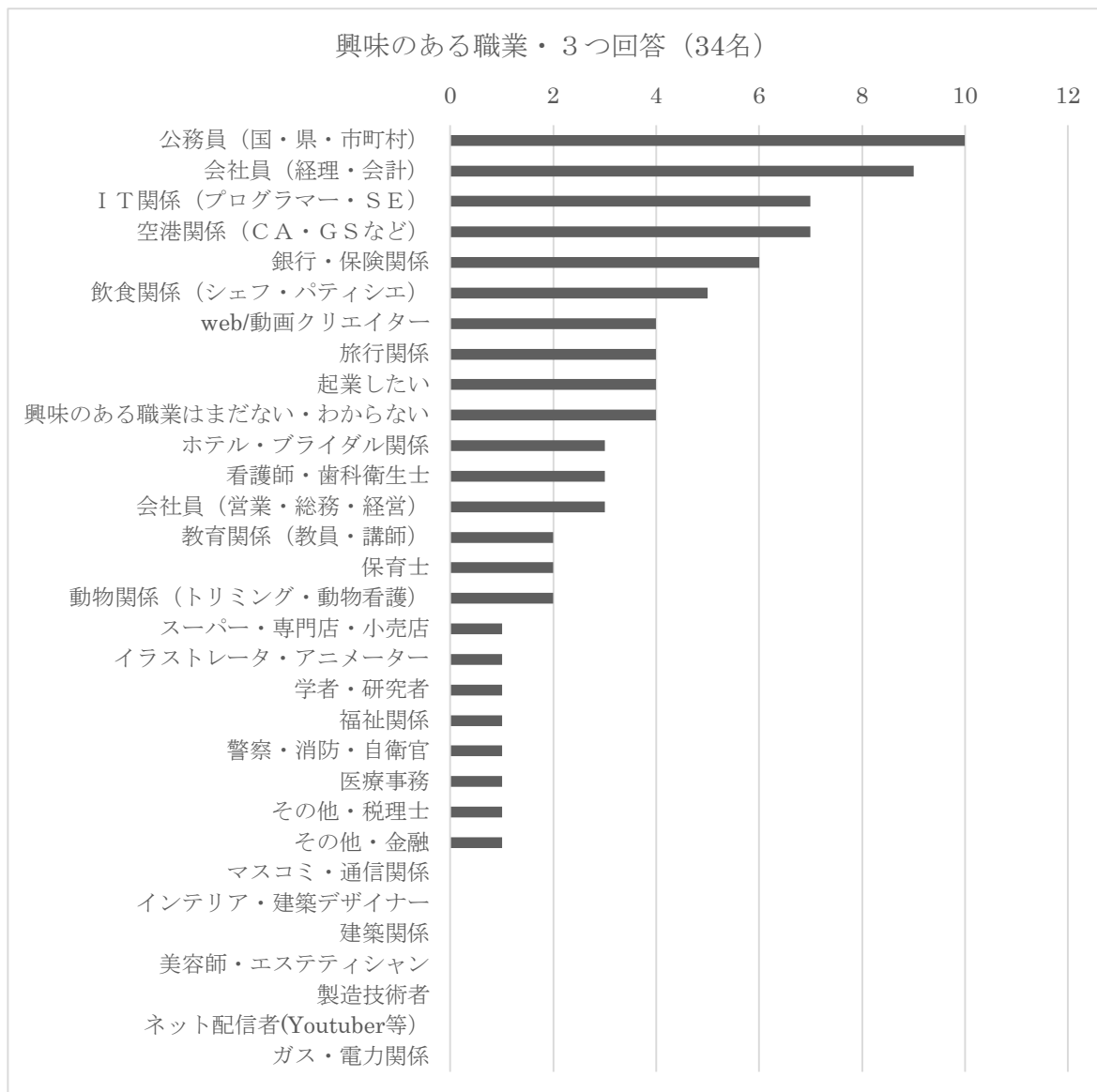
100%の生徒が「大変役に立つ」「まあ役に立つ」と答えた。

質問 「あなたは今、希望する職業を決めていますか。」（平均 4.2）



82%の生徒が「はっきり決めている」「おおよそ決めている」と答えた。

質問 「あなたが今、興味のある職業は何ですか？当てはまるものの番号に3つ〇をつけてください。」



質問 「授業を受けて特に印象に残った事、授業を受けてはじめて知ったことを記入してください。」

※生徒の書いた原文を忠実に表現するため、誤字や文章の訂正・修正を行っていない。また、句読点の位置も原文のままにしている。

・印象に残ったことはやーなれーふかなれーというのは本当だということです。実際、普段は面接のときにする座り方や姿勢をやらないので 3 分ほどでしんどくなってしまい気づいたら姿勢がくずれ始めてしまいました。普段から姿勢を気にしていざというときに役立てたいと思いました。

・面接官に対しての印象というのは、やはり外見で決まるため、内容だけを意識してしまうのではなく、外見の身なりや表情、挨拶の仕方は第一印象で決まってしまうのでそういった部分からちゃんと練習する。また、面接の際の質問で答えられないものがあつたので、しっかりと自分の事も理解しておく。

・面接の時のマナーは知らない事や覚えていないことが多かつたので、学べてよかつた。また、面接時に聞かれることや、姿勢について、実際に動きながら考えたりできたので、緊張感を持ててよかつた。

・「やーなれーふかなれー」が印象に残りました。家や学校などで日頃から姿勢や歩き方、しゃべり方を意識して自然にできるようにしていきたいです。

・面接を受ける時その会社、学校は、その人の人柄を見ていると知って、これからの 2 か月間、姿勢をよくすることに取り組んだり、消しゴムのカスを捨てたり、小さいことから、自分の行動を見直そうと思いました。

・イスに正しい姿勢（※原文ママ）で座った時に 3 分あたりからキツくなってしまったこと。面接はその日 1 日の朝から始まって最後まで気がぬけない。

・授業を受けて印象に残ったことは、入室の流れです。高校受験の時も同じことを習っていて、その流れ、動きをまだ覚えていて、正しく行動することができました。また、面積メモ（※原文ママ）を作っておくと聞いたので、本番までにつくって答えられるようにします。

・特に印象に残ったことは、人の第一印象は初めの 3～5 秒できまり、視覚から得られる情報で判断されるということです。また、あまり普段で語先・語礼を使えてなかつたので、意識していきたいです。

・普段家や学校でしていることは、面接などの大事な場面や、ふとした時に必ず行動に出る

・面接での内容はほとんど決まっている。面接ノートを文章でかくのではなく、かじょうがきで書くことが大切だとわかつた。

・今回の授業を受けて特に印象に残ったことは、志望する大学や専門学校の先輩から話をきいていいということでした。また、面接官の方々は Web にのってあるようなあたりまえ、知っていて当然な情報ではなく、知る人ぞ知る魅力や話を知っているとよりいいということがわかりました。

・面接で、ずっと膝を付けとかなないといけないのが大変だなと印象に残った。あと、面接のとき印象良くするために、笑顔が大切だということを初めて知ったので、面接のときは、きんちょうで表情がかたくならないように意識していく。

・面接のとき、面接を受ける学校に入ったしゅんかんから面接官に見られているということを自覚し行動しようと思った。また、人の見た目は 3～5 秒で決まるので日頃から身だしなみを整えたりイスに座るときは姿勢を意識する。

- ・語先語礼をしても、表情で「笑顔」が伝わらないと、面接官にあんまり良い印象を覚えてもらえないから「笑顔」を大切にしたい。
- ・印象に残っていることは人の印象は 3〜5 秒できまるということです。だから、私は面接などをするときには最低限度の身だしなみをして、最初から良い印象をもってもらうようにしていきたいです。
- ・今回の授業を受けて、面接は、印象が大切なので、いすのすわり方に気をつけたり、身だしなみを整えることが大切とあらためて分かった。面接までにすわり方を直してなれていきたい。
- ・面接についての礼や、あいさつなど、改めて知れたので、今後の役に絶対立つと思いました。また、面接では、その建物に入った時から見られている事もあるとはじめて知りました。
- ・面接は、受ける前から、会社の人にみられていたり、まったく予想していないような質問がとんできたりするというのは始めてきてこれから活かそうと思った。
- ・マスクをつけてでも印象は分かりやすく、相手には全て見られている気持ちで取り組むことが大切。
- ・控え室（学校）に入った時から、見られているという話を聞いて、常に見られているんだと思い特に印象に残っています。
- ・授業で語先後礼を意識するようと言われていた事がとても役立つことを知ったし頑張りたいと思いました。
- ・面接時の基本的なマナーを知ることができて良かった。実際に面接時の姿勢をやってみて、ひざをとじるのが思った以上にキツかったので、これからの授業などで意識して、なれていきたいと思った。
- ・「この体勢で 10 分座る！！」というのがまずキツイ・・・と思ったのとこれじゃだめだから授業中にまず心がけ、5 分だけでもがんばろう！！と思えた。
- ・もぎ面接の質問で答えられないものが多くてリサーチ不足だと思った。
- ・面接の時は、その人の実力がどれくらい知らないなので、身だしなみを整えて第一印象を良くすること。面接だけではなく、トイレや他の所でも見られている可能性が高いからハンカチなども持参しとく。普段家でやっていることは試験会場でもやってしまうから普段からも家での行いを良くする
- ・今日の授業を受けて面接の立ちふるまいやマナーなどがわかり、特に「やーなれーふかなれー」という方言を初めて知って印象的でした。自分は家での習慣が特に学校の外でうつっていると思うので、すわり方やくせなどを失くせるよう家でも頑張りたいです。
- ・面接質問で何がでてどう答えるか知ることができた。
- ・控え室やエントランスから見られていると知った。ネットとか動画では見たことあったけど本当に見られているとは思ってなかった。
- ・面接の基本的な動作を学ぶことができた。正しい姿勢をキープすることは大変だが、今後のことを考えたときにできてたほうがいいと思った。やーなれーふかなれーを忘れずに家でも気を抜かずにがんばりたい。

- ・マナー講座は何度か受けていて分かっていたことも多くあったけど、〇〇の「フラッシュ面接」は初めてやってみたので、少しおもしろいなと感じた。3～5 秒で文も考えて言いたいことをもとめるのは難しいなと思った。

- ・人の印象は出会って 3 秒で決まるので、面接も大事なことだが、その前にまず身なり清潔感が大事である。イスに座るときに、失礼しますといい、お辞儀をすることを初めて知った。

- ・面接の時のマナーだったり、座わり方（※原文ママ）だったり困かい（※原文ママ）所まで学ぶことができてとてもいい講座（※原文ママ）でした。お辞儀をする時の右手と左手の位置を逆にしていたので今回の授業で知ることができてよかったです。座わる時（※原文ママ）の姿勢がきつかったので次回からの授業の 5 分間たえて、慣れていきたいです。

- ・授業を受けて、特に印象に残ったことは、面接がはじまる前の動きも見られているということや、面接が終ってトイレの時のハンカチなど、面接以外にも気おつけなければならない（※原文ママ）と感じました。

- ・今回の授業を受けて、面接では正しい姿勢（※原文ママ）をすることで、相手に伝わる像承（※原文ママ）が変わるから、立ち方や、すわり方、あるき方など、正しいことをしたほうが良いと分った。

テキストマイニング結果



人の印象は笑顔や身だしなみで決まる
家にいるときも、普段から姿勢や表情を意識したい

質問 「今後、授業で取り上げて欲しい仕事内容や職業に必要なことなどがあれば自由に書いてください。」

※生徒の書いた原文を忠実に表現するため、誤字や文章の訂正・修正を行っていない。また、句読点の位置も原文のままにしている。

- ・電話で対応や会議や車の中での座り方など。
- ・自分にあった仕事の見つけ方や、いい職業に就くために大切なことなどを教えてほしい。
- ・電話の対応、転職
- ・電話での話し方、食品関係の仕事を知りたい
- ・面接のときに文がまとまらない時はどうすればいいですか。（しりめつれつになったりしたときなど。）
- ・旅行関係の業界での仕事の内容を知りたい。
- ・金融の職業について知りたい、面積（※原文ママ）で聞かれた質問のくわしい答え方
- ・空港関係や経理の仕事を知りたい。
- ・起業するのに必要な知識、資格、資金を知りたい。
- ・面接の応答の内容の NG 例や話し方の NG 例あるあるなどを知りたいです。
- ・自分に合う職業
- ・自分に向いている仕事は何か知りたい。
- ・福祉とか介護だけではないから、職業の中でもすることがちかかったりするから、知りたい。
- ・もっとくわしく面接の仕方を教えてほしい。
- ・起業する事があると思うので、その時必要な事など、色々知りたいと思いました。
- ・営業や接客について、どのような種類があったり、マナーや、対応のしかたを知りたいです。
- ・自分の夢を決定する決め手を知りたい。
- ・自分が向いている仕事を知りたい。
- ・自分に向いている職業を知って将来に役立たせたい！（※原文ママ）服装や電話の対応の仕方が知りたい！
- ・自分の PR などの仕方や、医療系の職業に就きたいから、その職業についてもっと詳しく知ることがしたい。
- ・どういう人材がその業界や会社に向いているかが知りたい。

- ・IT 関係の仕事にはいろんな種類があるけど、どれが何の仕事をするのか知りたい
- ・自分に向いてる仕事がわからない。電話面接が苦手
- ・文字の書き方、見やすい字のかきかた等を知りたい。
- ・世の中ではあまり目立たないが、収入が高い仕事などまだ知らない世界を知りたい
- ・銀行などの金融についての仕事を知りたい、起業するときに大事なことなどを知りたい。

<キャリア形成に関わること>

自分に合った仕事・職業のを見つけ方	7
起業の仕方	3
収入が高いなど様々な仕事	1
転職について知りたい	1

<仕事のノウハウ>

電話対応	5
マナー・接遇・座り方・服装	3
話し方	1
読みやすい字の書き方	1

<面接対策>

面接で質問の答え方	4
自己PRの仕方	1

<業界に関すること（詳しく知りたい）>

金融	2
旅行・空港	2
医療・福祉	2
食品	1
IT	1

<職種に関すること（詳しく知りたい）>

経理	1
営業	1

2.2 ボランティア活動評価

ボランティア活動2024 活動前

ボランティア活動評価(学生用)

ボランティア活動の前後でみなさんの非認知能力(目に見えない能力)がどのように変化したかを調べるため、アンケートにご協力ください。

調査は、無記名で行います。答えたくないと思ったものは答えなくてもかまいません。また、提出したくないと思った場合は提出しなくてもかまいません。回答内容や、また、回答や提出をしなくても学校での成績や評価には一切影響しません。

Q1.あなたが今回のボランティア活動に参加された理由について伺います。該当するものにチェックをつけてください。

	とても当てはまる	まあまあ当てはまる	あまり当てはまらない	全く当てはまらない
1.社会の役に立ちたいと思ったから	☐	☐	☐	☐
2.自分の成長につながるから	☐	☐	☐	☐
3.社会勉強になるから	☐	☐	☐	☐
4.就職に有利だから	☐	☐	☐	☐
5.友達や先生から勧められたから	☐	☐	☐	☐

Q2.あなたは、現在自分には下のような力がどのくらいあると思いますか。それぞれの力について当てはまるところにチェックをつけてください。

	とてもある	まあある	あまりない	全くない
1.人から言われるのではなく、やらないといけないことを見つけて、自分から進んで取り組む力	☐	☐	☐	☐
2.目標を達成するために周りの人に呼びかけて一緒に行動する力	☐	☐	☐	☐
3.言われたことをやるだけでなく、自分で目標を設定して粘り強く行動する力	☐	☐	☐	☐
4.目標を達成するために解決すべき問題を見つける力	☐	☐	☐	☐
5.目標を達成するための方法やすべきことの順番を考えて準備する力	☐	☐	☐	☐
6.解決すべき問題について、解決方法を工夫して考える力	☐	☐	☐	☐
7.自分の考えをわかりやすく整理して、相手に理解してもらえるように伝える力	☐	☐	☐	☐
8.人が話しやすい雰囲気を作って、人の意見をきちんと理解して聞く力	☐	☐	☐	☐
9.自分の考えだけにとらわれずに、自分とは違う考えや立場も尊重して理解しようとする力	☐	☐	☐	☐
10.グループの中で、自分がどんな役割をすればよいのかを理解する力	☐	☐	☐	☐
11.集団や社会生活の規則やルールを守って適切に行動する力	☐	☐	☐	☐
12.自分に必要な情報や資料を探したり、選びだしたりする力	☐	☐	☐	☐
13.学校で学んだことや体験したことを自分の生活や周りの人たちの仕事と結びつけて考える力	☐	☐	☐	☐
14.自分の考えや意見を相手が納得するように伝える力	☐	☐	☐	☐
15.伝えたい情報をわかりやすいように工夫して伝える力	☐	☐	☐	☐

<本アンケートの問い合わせ先> 調査責任者:学校法人KBC学園 地域創生室 伊藤 TEL:098-861-1381

ボランティア活動2024 活動後

ボランティア活動評価(学生用)

ボランティア活動の前後でみなさんの非認知能力(目に見えない能力)がどのように変化したかを調べるため、アンケートにご協力ください。

調査は、無記名で行います。答えたくないと思ったものは答えなくてもかまいません。また、提出したくないと思った場合は提出しなくてもかまいません。回答内容や、また、回答や提出をしなくても学校での成績や評価には一切影響しません。

Q1.あなたが今回のボランティア活動で感じたことを伺います。該当するものにチェックをつけてください。

	とても当てはまる	まあまあ当てはまる	あまり当てはまらない	全く当てはまらない
1.社会の役に立てた	☐	☐	☐	☐
2.自分の成長につながった	☐	☐	☐	☐
3.社会勉強になった	☐	☐	☐	☐
4.就職に有利になる	☐	☐	☐	☐
5.後輩や友達にボランティア活動を薦めたい	☐	☐	☐	☐

Q2.あなたは、現在自分には下のような力がどのくらいあると思いますか。それぞれの力について当てはまるところにチェックをつけてください。

	とてもある	まあある	あまりない	全くない
1.人から言われるのではなく、やらないといけないことを見つけて、自分から進んで取り組む力	☐	☐	☐	☐
2.目標を達成するために周りの人に呼びかけて一緒に行動する力	☐	☐	☐	☐
3.言われたことをやるだけでなく、自分で目標を設定して粘り強く行動する力	☐	☐	☐	☐
4.目標を達成するために解決すべき問題を見つける力	☐	☐	☐	☐
5.目標を達成するための方法やすべきことの順番を考えて準備する力	☐	☐	☐	☐
6.解決すべき問題について、解決方法を工夫して考える力	☐	☐	☐	☐
7.自分の考えをわかりやすく整理して、相手に理解してもらえるように伝える力	☐	☐	☐	☐
8.人が話しやすい雰囲気を作って、人の意見をきちんと理解して聞く力	☐	☐	☐	☐
9.自分の考えだけにとらわれずに、自分とは違う考えや立場も尊重して理解しようとする力	☐	☐	☐	☐
10.グループの中で、自分がどんな役割をすればよいのかを理解する力	☐	☐	☐	☐
11.集団や社会生活の規則やルールを守って適切に行動する力	☐	☐	☐	☐
12.自分に必要な情報や資料を探したり、選びだしたりする力	☐	☐	☐	☐
13.学校で学んだことや体験したことを自分の生活や周りの人たちの仕事と結びつけて考える力	☐	☐	☐	☐
14.自分の考えや意見を相手が納得するように伝える力	☐	☐	☐	☐
15.伝えたい情報をわかりやすいように工夫して伝える力	☐	☐	☐	☐

<本アンケートの問い合わせ先> 調査責任者:学校法人KBC学園 地域創造室 伊藤 TEL:098-861-1381

ボランティア活動2024 活動前

ボランティア活動評価(教員用)

ボランティア活動の前後で学生の非認知能力の変化を調査すると同時に、先生から見た学生たちの非認知能力評価の変化調査を行います。

ボランティア活動に参加する学生グループについて、現在の非認知能力を評価してください。

	とてもある	まあある	あまりない	全くない
1.人から言われるのではなく、やらないといけなことを見つけて、自分から進んで 取り組む力	☐	☐	☐	☐
2.目標を達成するために周りの人に呼びかけて一緒に行動する力	☐	☐	☐	☐
3.言われたことをやるだけでなく、自分で目標を設定して粘り強く行動する力	☐	☐	☐	☐
4.目標を達成するために解決すべき問題を見つける力	☐	☐	☐	☐
5.目標を達成するための方法やすべきことの順番を考えて準備する力	☐	☐	☐	☐
6.解決すべき問題について、解決方法を工夫して考える力	☐	☐	☐	☐
7.自分の考えをわかりやすく整理して、相手に理解してもらえるように伝える力	☐	☐	☐	☐
8.人が話しやすい雰囲気を作って、人の意見をきちんと理解して聞く力	☐	☐	☐	☐
9.自分の考えだけにとらわれずに、自分とは違う考えや立場も尊重して 理解しようとする力	☐	☐	☐	☐
10.グループの中で、自分がどんな役割をすればよいのかを理解する 力	☐	☐	☐	☐
11.集団や社会生活の規則やルールを守って適切に行動する力	☐	☐	☐	☐
12.自分に必要な情報や資料を探したり、選びだしたりする力	☐	☐	☐	☐
13.学校で学んだことや体験したことを自分の生活や周りの人たちの仕事と 結びつけて考える力	☐	☐	☐	☐
14.自分の考えや意見を相手が納得するように伝える力	☐	☐	☐	☐
15.伝えたい情報をわかりやすいように工夫して伝える力	☐	☐	☐	☐

<本アンケートの問い合わせ先> 調査責任者:学校法人KBC学園 地域創生室 伊藤 TEL:098-861-1281

ボランティア活動2024 活動後

ボランティア活動評価(教員用)

ボランティア活動の前後で学生の非認知能力の変化を調査すると同時に、先生からみた学生たちの非認知能力評価の変化調査を行います。

ボランティア活動に参加した学生グループについて、現在の非認知能力を評価してください。

	とてもある	まあある	あまりない	全くない
1.人から言われるのではなく、やらないといけないことを見つけて、自分から進んで 取り組む力	☐	☐	☐	☐
2.目標を達成するために周りの人に呼びかけて一緒に行動する力	☐	☐	☐	☐
3.言われたことをやるだけでなく、自分で目標を設定して粘り強く行動する力	☐	☐	☐	☐
4.目標を達成するために解決すべき問題を見つける力	☐	☐	☐	☐
5.目標を達成するための方法やするべきことの順番を考えて準備する力	☐	☐	☐	☐
6.解決すべき問題について、解決方法を工夫して考える力	☐	☐	☐	☐
7.自分の考えをわかりやすく整理して、相手に理解してもらえるように伝える力	☐	☐	☐	☐
8.人が話しやすい雰囲気を作って、人の意見をきちんと理解して聞く力	☐	☐	☐	☐
9.自分の考えだけにとらわれずに、自分とは違う考えや立場も尊重して 理解しようとする力	☐	☐	☐	☐
10.グループの中で、自分がどんな役割をすればよいのかを理解する 力	☐	☐	☐	☐
11.集団や社会生活の規則やルールを守って適切に行動する力	☐	☐	☐	☐
12.自分に必要な情報や資料を探したり、選びだしたりする力	☐	☐	☐	☐
13.学校で学んだことや体験したことを自分の生活や周りの人たちの仕事と 結びつけて考える力	☐	☐	☐	☐
14.自分の考えや意見を相手が納得するように伝える力	☐	☐	☐	☐
15.伝えたい情報をわかりやすいように工夫して伝える力	☐	☐	☐	☐

<本アンケートの問い合わせ先> 調査責任者:学校法人KBC学園 地域創生室 伊藤 TEL:098-861-1381

2.3 学生の社会貢献活動の方向性

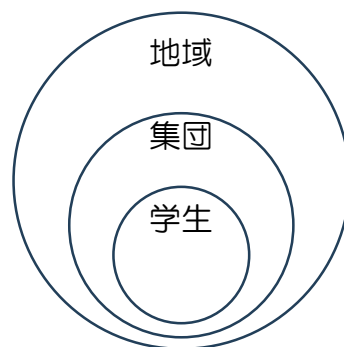
ボランティア活動とは

「自発的な意志に基づき」、「他人や社会に貢献する行為」。

「活動者個人の自己実現欲求の充足」のために「時間や労力、知識、技能を提供する」活動によって、さまざまな構成員がともに支え合い、地域社会づくりが進むなど大きな意義を持つ。

ボランティア評価の視点

- ①ミクロの評価「人の評価」：参加した学生の考え方、意識、行動・態度の変容評価
- ②メゾの評価「組織・集団の評価」：ボランティア組織の作業、計画、行動、情報共有の評価
- ③マクロの評価「地域・社会の評価」：ボランティア活動を通じた地域、組織、社会の関連性や行動変容の評価



ボランティア活動と教育の難しさ

（私立大学退職金財団「学生ボランティアの正しいススめ」環境活動家：田中優）

●参加する学生の問題点

- ①「自分探し」のために参加する学生が多い。ボランティアは他人のために行うことであり、ボランティアの趣旨と相反する。
- ②活動を「何かの手段」にする学生が多い。進学や就職活動に役に立つという目的で参加すると真の気づきは得られない。
- ③「ぶっつけ本番」ではいけない。事前に必要な知識や能力について勉強をする必要がある。

●送り出す教員の問題点

- ①「行事化や参加の強制」はしない。教員の仕事は参加を指示するのではなく、参加しやすい環境を整える。
- ②「評価対象」にしない。ボランティア活動を評価対象にすると学生は評価対象を気にするようになり、建前の感想を述べるようになる。

●ボランティア活動を受ける側の問題点

- ①安い労働力とみなさない。
- ②頼りきりにならない。

学校外の活動への参加経験

（「高校生の社会参加に関する意識調査報告書-日本・米国・中国・韓国の比較-」国立青少年教育振興機構：令和3年 6月）

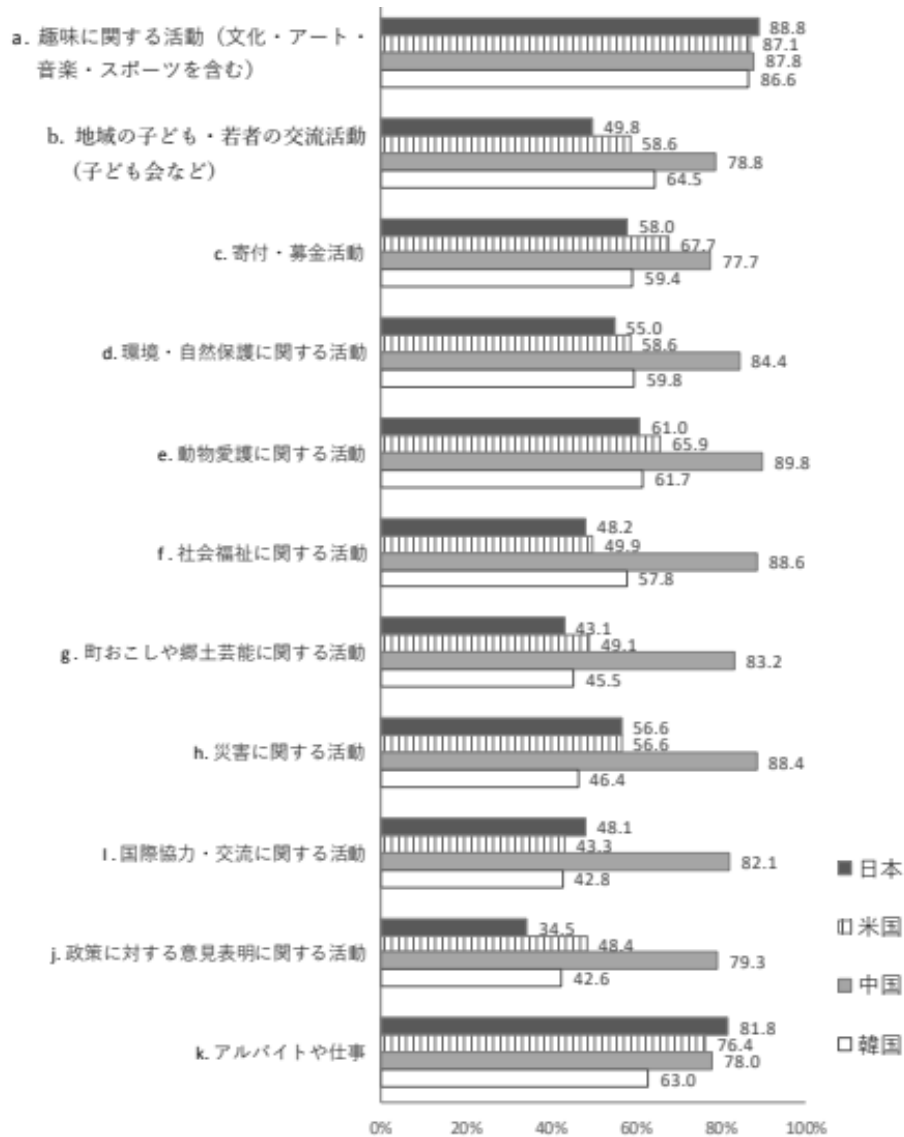


図 2-3 a～k.の活動にどのくらい関心を持っていますか（「とても関心がある」「まあ関心がある」と回答した者の割合）

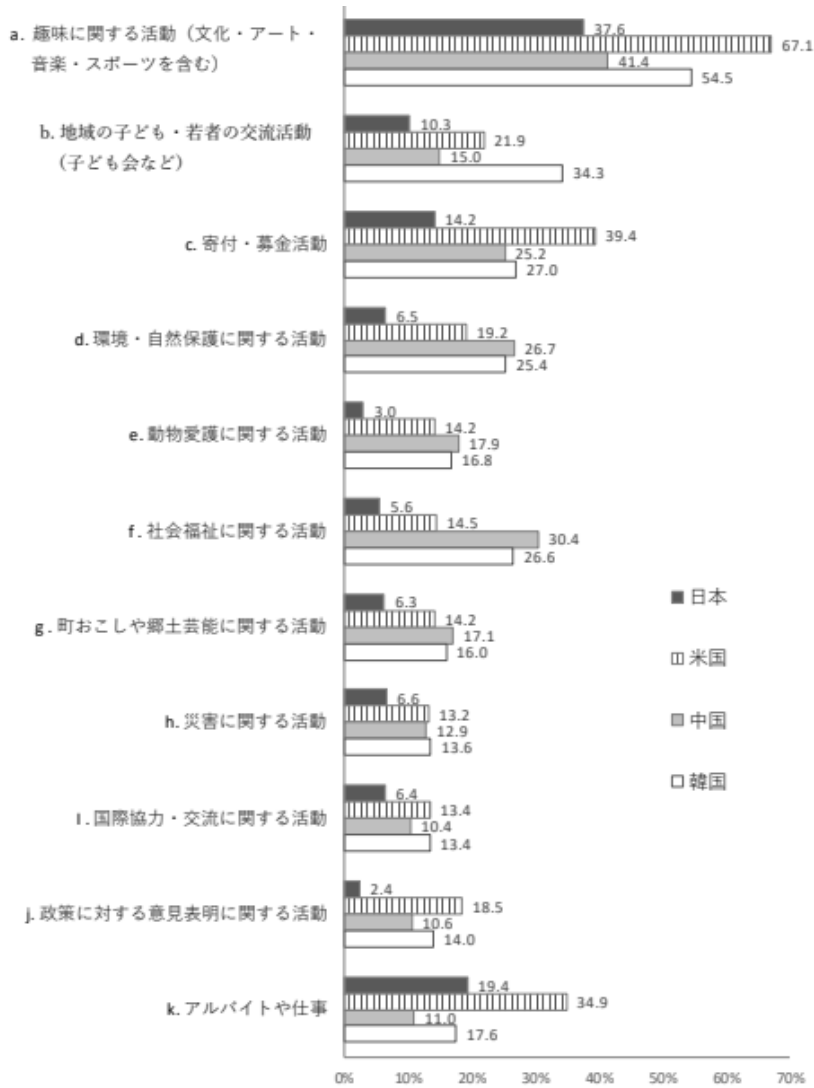


図 2-1 最近 1 年間、学校外で参加したことがある(現在、参加しているも含む)こと

KBC「サービス・ラーニング」について

サービス・ラーニングとは、「学校における学び」と「社会における諸課題の解決」を具体的な実践活動を通して結合させていく学びの手法です。このような視点から実践される様々な社会貢献活動によって、双方向の人間関係を育み、学生が市民としての資質や社会性を高め、課題解決力、チームとしての実践力などを高めていくことを目的としています。

社会活動を通じて市民性を育む



学生の主体的な学びの場を「地域課題」の中に見いだし、地域の方々と協働して活動することにより連携、交流が活発化し、さらには学生自らが成長を実感する状況を実現する。また、ステークホルダーに対して KBC 学園の学びへの信頼感を高め、地域を支える人材や活動の拠点としての学園づくりを進める。

プログラム例

地域の身近な問題についての①要因分析を行い、②解決策を立て、③関係団体と協働で解決計画を立案し、④自主的な活動（ボランティアに相当）を行い、⑤新たな課題を見いだす、一連の教育活動

①地域課題の調査と分析（課題抽出） → 県や市町村、団体に提出・報告、協議

②目標設定と活動計画作成 → 県や市町村、団体に提出・報告、協議

目標設定事項

①どれだけ地域にインパクトを与えられるか（アウトカム指標：組織・地域の質的評価）

例）保護猫減少率、環境保護寄付金額など具体的な数値目標

②①を達成するための活動（アウトプット指標：いつ、どこで、だれが、なにを、どのように、どのくらい活動するか）

例）ボランティア参加者数、活動回数、活動内容、集客数、パンフ配布数、

SNS 視聴数

③活動実施 → 県や市町村、団体と協働

④活動振り返り →

①活動評価（アウトプット指標の評価）→次年度への活動指針作成

②成果評価（アウトカム指標の評価）→次年度への活動指針作成

③学生の意識・行動変容評価

2.4 令和6年度事業の検討と意見

＜動物看護ボランティア活動について＞

動物看護専攻は1年生 32 名を対象に那覇市主催のボランティアに参画する趣旨を説明。実行委員に11 名が集まり、まずボランティアについてどのように取り組んでいけるかを話し合った。

授業もあり、放課後に全員が集まる時間が多く取れなかったためミーティングは2回しかできていないが、学生たちで目的は何を持ってやるか決めてきた。

これまでも多くのボランティアを行ってきたが、情報を多く与えすぎるとどうしても傾いてしまうので最小限の情報だけで学生たちにどうするか話し合ってもらった。今回は犬猫の適正飼育を伝えることが私たちの役割で、理解を深めてもらうことを目的にしていろいろ挙げてもらったところ、ワクチンや狂犬病、飼育方法をPCやポスターを使って伝えることとなった。

動物を使って商業施設の芝生などで実施を希望している。また自分たちで作ったものを販売して、売上を動物団体やボランティア活動をしているところへ寄付したいという意見も出た。

＜トータル専攻ボランティア活動について＞

トータル専攻科は愛玩動物使用管理士を取得している4名の中部農林高校出身の学生を中心に5回ほどミーティングを持った。自分たちの持つ技術を使い、爪切りや耳掃除を提供したい。

こちらでもグッズ等を販売してチャリティー募金活動をしたいという意見が出た。すでに沖縄県主催の「愛護の集いボランティア」に参加が決まっているので、その場所のできることを詰めている。

＜飼育専攻ボランティア活動について＞

飼育専攻はコロナ禍に入るまで毎年沖縄子どもの国と連携して、9月 20 日～26 日の動物愛護週間内の基本日曜日にボランティア活動をしていた。

5種類ほどの動物に分かれ、動物の特徴を子ども向けに紙芝居を作成。説明を聞いてくれたらスタンプを押すスタンプラリーを行い、最後におやつをプレゼントしていた。

担当となる1年生には日程や内容、先方からの依頼などが決まったら話す予定。実行委員を立ち上げて、何ができるか話をしていくと思う。

＜動物看護卒後セミナーについて＞

看護専攻では毎年、卒後セミナーを実施。講師を学校に呼び、その内容をFAXで県内の動物病院へ情報提供して勉強会に参加してもらった。コロナ禍前には年に2～3回実施。今年から復活させ、8月と12月に実施予定。

8月は日程も決まっており、愛玩動物看護師に来てもらい、国家資格となり採血等できることが増えた独占業務を対面で実習する内容。特に採血は病院によっては獣医師しかやらない。実際に行っている看護師もいるが、1～2年目はまだできていないと思うのでそういった方や、その指導者を対象にした。

＜トータル専攻の卒後セミナーについて＞

トータル専攻の卒後セミナーも8月に実施していたが、資格試験が重なるため個々の卒業生を対象にやっていた。今年は12月に県外専門学校のトリマー講師に声をかけているが未確定。

<委員意見>

事前学習を行い、参加できる生徒が行くといった活動がボランティアにあたると思う。これを教育として結び付けサービスマーケティングという部分にどう昇華させるのか、参加しながら学内に持って帰れるように勉強しないといけないと思った。

考え方の両面性というか、教育と相容れない部分で難しいところに取り組んでいることは素晴らしいと思うし、ヒントになるところは取り入れたい。

初めは中部農林高校を中心としたプログラム作成であったが、そこからボランティア活動、それに伴う教育活動と膨らみ、沖縄県の掲げるキャリア教育の理想形というか、高校で終わるのではなく専門学校、さらに追跡調査等を行い将来まで結び付けているところが印象的でよかった。生徒一人ひとりが生き方を見つけていくものがキャリア教育である。

ボランティア活動を評価することはちょっと難しい。自分で行動することがボランティアであり、その点を盛り込んだ教育、カリキュラムを作っていくとのことなので参考にしたいと思う。

中核的人材養成事業ということで、グラウンドで使えるプレイヤーという人材育成だが、実際はフィールドに立つとなかなかプレイできないところが問題。規模によるものかわからないが、4～5名単位の病院だとスマートに安定する人材でうまくいくが、30名ほどを流動させながら行うとなかなかうまくいかない部分もある。

学生の間は「学び」という部分でうまく対応してくれる。社会人は3年目で環境にちょうど馴染んでくる頃、5年くらいで自分がある程度出せる状況になるかと思う。そういった経験をしている人たちとコミュニケーションを取らせてもいいかと思う。

3 第二回連携プログラム開発検討委員会

実証授業結果報告と検討、キャリア教育に関する意見交換を行った。

3.1 中部農林高等学校 職業講話

3.1.1 実施概要

日時 令和6年11月7日 10:00~12:00
 対象 沖縄県立中部農林高等学校 熱帯資源科 1年生
 人数 38名
 講師 沖縄ペットワールド専門学校 仲里祥輝先生
 内容 動物系の仕事

3.1.2 生徒アンケート結果

質問「本日の講話を受けて、仕事の内容が理解できましたか？」（平均 4.9）

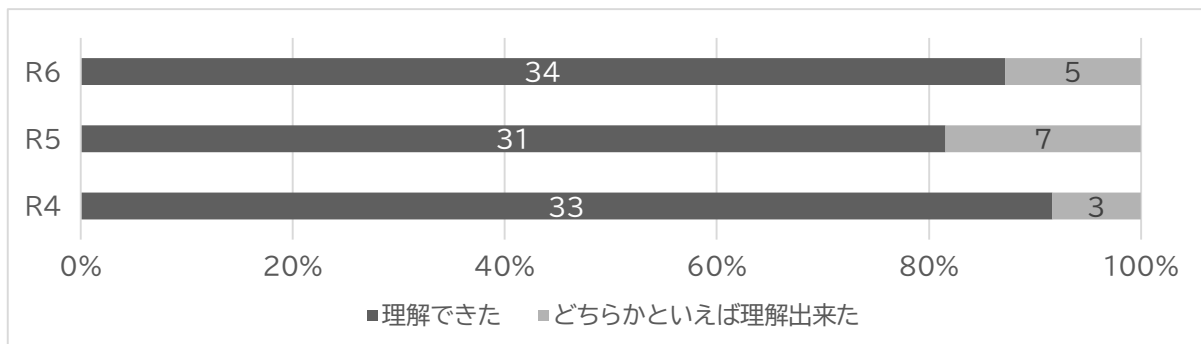


図 1-1 仕事理解度

100%の生徒が、「理解できた」「どちらかといえば理解できた」と答えた。

質問 「仕事に必要な知識がわかりましたか？」（平均 4.7）

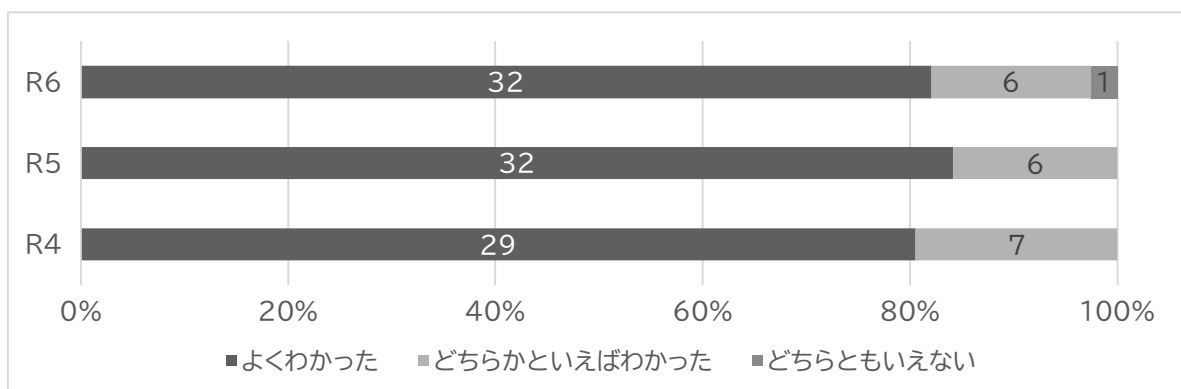


図 1-2 仕事知識

97%の生徒が、「理解できた」「どちらかといえば理解できた」と答えた。

質問 「仕事に必要な資格や技術について理解ができましたか？」（平均 4.8）

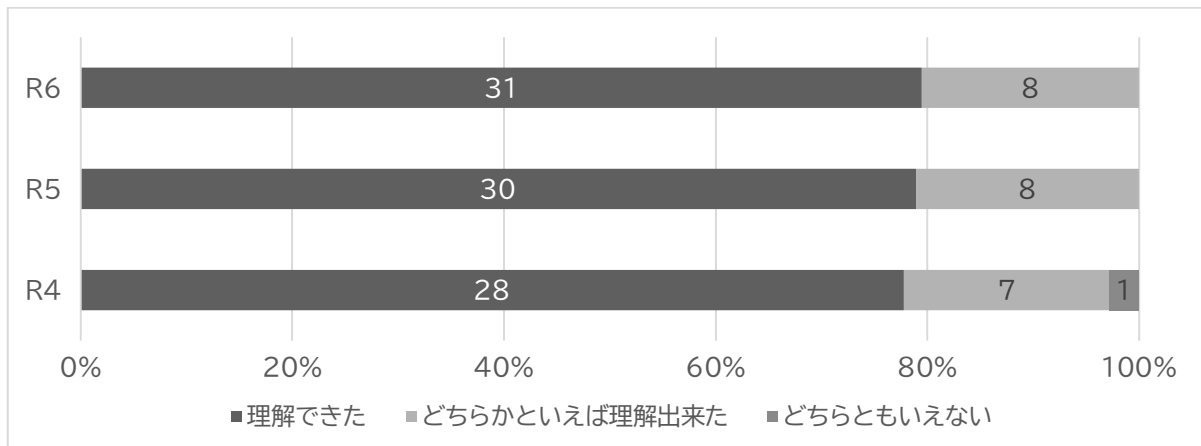


図 1-3 仕事資格

100%の生徒が、「理解できた」「どちらかといえば理解できた」と答えた。

質問 「必要な知識や資格・技術の学び方がわかりましたか？」（平均 4.4）

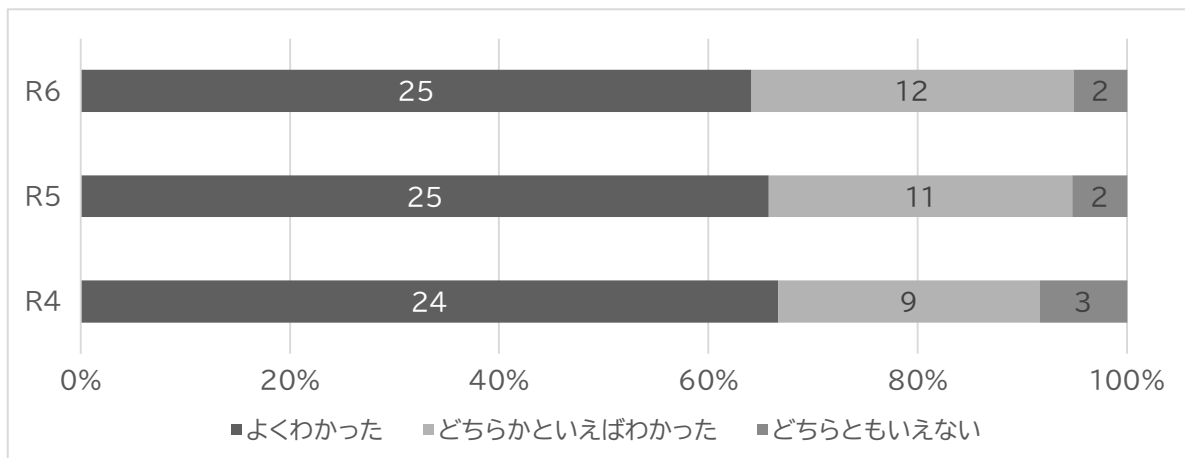


図 1-4 資格の学び方

95%の生徒が、「理解できた」「どちらかといえば理解できた」と答えた。

質問 「特に印象に残ったことや初めて知ったことを、箇条書きで記入してください。」

※生徒の書いた原文を忠実に表現するため、誤字や文章の訂正・修正を行っていない。また、句読点の位置も原文のままにしている。

動物の仕事でも色々な仕事があることが分かった。動物に関する仕事の内容や資格などを知ることができた。印象に残ったことはペットショップの店員は幅広い商品の知識やお客様が必要としているものを的確にアドバイスなどする仕事もあるんだなと思った。動物に関する仕事は動物中心の生活になる。

--

動物に関わる仕事にもいろいろなしゅるいがあると知った。使役犬には3種類あって、補助犬、もうどう犬、ちょうどう犬がいて、手足・目・耳が不自由な人を助けていると知った。

--

野生生物保護官という職業があることをはじめて知った。動物に関わる仕事には資格だけでなく、コミュニケーションや体力根性が必要ということが印象に残った。

--

自分が将来お店を開きたいと思っていて、それには資格が必要だったり実績も大切に国や県から許可をもらわないといけないということをはじめて知りました。特に印象に残ったところは、資格と技術、知識はもちろん大切だけど体力が結構大事と分かりました。

--

これまで動物に関する仕事を調べる機会はたくさんあったけど、水族館など水中の動物のお世話などは考えた事がなくて印象に残りました。

--

色々な職の取るべき資格。職の内容や資格。動物に関わる大切な事

--

動物は変化があったらサインを出すからちゃんと見ておくこと。トリマーは技術だけでなく犬の毛の特徴などの知識を学ぶ。ペットショップの人でも犬や猫たちのことを理解しておかないといけない。ドックトレーナーと訓練士はしつける犬が家庭の犬や働く犬でわかれている。コミュニケーションが大切。

--

悪い流れに負けない。お互いを支え合うために働く。2023年に国家資格愛玩動物看護師。必要なこと資格・免許・技術・知識、やる気・根性。体力が大事。動物をしっかり観察する。動物たちを中心とした生活。動物の幅広い知識。

--

自分の目線を明確に。お互いを支え合うために働く。動物の仕事をするうえで大切な事は体力、観察が大切。

--

動物と関わっている仕事の多さです。私は5つくらいしか思いつきませんでした。それ以上にあることにびっくりしました。また、ひとつの仕事でもその内容が多く、トリマーでは毛をカットするだけではなく、お客さんの要望や相談に答えたりなど私が分からなかった仕事内容もありびっくりしました。

--

犬の保育園などがあることがはじめて知った。アニマルカフェの話してふくろうやハリネズミは知っていたけど、ナマケモノははじめて聞きました。それぞれの職業につくとき、こういった資格をとるといなどが分かりました。コミュニケーション能力は社会にでるときに必要。動物の仕事は人と話すことが多くコミュニケーション力が必要。

--

講話の中で、動物を扱う業種には7首里ほどあり、それぞれの業種には取得する資格や検定、学ぶことが違うことが知れた。また、動物を扱う職業は人と話す力が大切で、いまのうちに社会に出るため、コミュニケーション能力を身に付けることが大切と知れた。

--

動物と関わる仕事はたくさんあって、どれもコミュニケーション力や知識などが必要なんだと思いました。

--
今日の講話で水族館のスタッフやドルフィントレーナーなどの仕事が国家資格だということをはじめて知った。動物の仕事は必ず人や飼い主さんがいる。自分の幸せは他人の喜びに言っていたのが印象に残った。

--
人によろこんでもらうため働く。自利利他：自分の幸せは他人のよろこび。ペットホテル、野生生物保護官、動物が好きを仕事と動物の意識へ。

--
体力、資格、免許、やる気、根性、技術・知識が必要。

--
トリマーの犬や猫が病気にならないようにするためにトリミングをするという話しがかったよかった。動物とふれあって仕事をするから動物中心の生活がくるときもある。

--
自利利他：自分の幸せは他人の喜び。動物を好きという気持ち。命を取り扱うということ。飼育している動物は、私たちがお世話をしないと生きていけない。コミュニケーションを取ることも大事。

--
今日の講話の中で私が特に印象に残ったことは動物に関わる仕事には命を扱う仕事だという責任を持つことが印象に残りました。はじめて知ったことは、資格と免許の違いです。どちらも同じだと思っていたけど、獣医師や看護師には免許も必要ということを知れました。

--
働いてくれる人がいるから生活が成り立っている。お互いを支え合うために働く。自利利他。動物の愛護及び管理に関する法律がある。

--
決まったルート（普通の大学に通ってでは獣医とか無理）、潜水土は筆記。自分のやりやすい環境をつくる。コミュニケーション力が大事。

--
動物に関わる仕事で思った以上に動物と関わる仕事があっぴびっくりしました。やっぱり資格とか色々なものを取っておいたほうがいいんだなと思いました。

--
動物取扱い業種別、業種によって必要な資格がちがう。潜水土の資格はペーパーテストのみで受けるとはじめて知った。実技テストだと思っていた。

--
動物に関わる仕事それぞれにたくさんの意味があって、ペットショップ店員などは販売するだけでなく、お客様に的確に教え伝えることも重要な役目であったりなどやっぱり動物を扱う仕事であっても人間は必ず関わってくるのだとわかった。

--
自分でペットショップなどの店をたてるときは県へ登録が必要で責任者を決めなければならないと知った。そして責任者になるためには獣医師免許か愛玩動物飼養管理士の資格と必要な知識と経験が必要であると知った。

--
観察力、コミュニケーション能力が必要。資格を持っていた方が有利。水族館は飼育だけでなく研究もしている。

--
動物に関わる仕事では資格や技術、知識、やる気が大切

--
犬の保育園などがあったりペットのホテルが存在していることです。印象に残っていることは、すごい難しい資格だったりが必要だということが印象に残りました。あとは様々な業種とその内容も印象に残りました。

はじめて知ったことは、動物に関わる職業を運営するためには動物取扱い業責任者要件資格を取得するということです。また、アニマルカフェは捨てられた動物を保護してふれあいをさせ里親を見つけるということが雑処分される動物を減らせてよいなと思いました。

--

お互いを支え合うために働く。資格を取ることは大切。動物を取り扱うときは登録と責任者が必要。人と話すことも必要なためコミュニケーション能力も必要になる。

--

自利利他。愛玩動物看護師が国家資格になった。

--

職種によって資格が異なること。ペットフード販売士などの資格があること。

--

販売や貸出で業者の資格が異なること。

--

お互いを支え合うために働く。自利利他。資格免許技術知識やる気根性が必要。

--

資格はもちろん、免許や技術、やる気が動物に関わる仕事では大切で中でも免許と技術が大切である。あとコミュニケーションもなかなか大事。

--

動物に関わる職業はやる気・根性がある。ドッグトレーナーと訓練の違い。動物を中心とした生活になるかも。

--

全国の獣医師の大学の定員は人の医師大学の定員よりも少ないことが印象に残った。ヒレタカフジクジラの人工子宮装置で人工授精がはじめて知った。

--

コミュニケーションを取る。動物中心の生活になること。

質問 「本日の講話を聞いて、感じたことや思ったことを自由に書いてください。」

※生徒の書いた原文を忠実に表現するため、誤字や文章の訂正・修正を行っていない。また、句読点の位置も原文のままにしている。

色々な動物に関する仕事があり、ひとつひとつ内容や業務なども違うことを知った。動物好きだけではやっていけない仕事だということも知った。大変な仕事だし資格なども取らないといけないと思うけど今日の話聞いてそれほどやりがいを感じる仕事が多いと思った。

--

動物と関わる仕事は種類がいっぱいあって、なるには資格や免許も必要だし、大変そうだなと思った。

--

講話を聞いて、仕事をするうえでコミュニケーション力や動物たちの体調の変化に気づけるような観察力が必要だということがわかりました。将来のために、今のうちから人に話しかけたりしてコミュニケーション力を身に付けていきたいと思いました。

--

色々な職業の話をきけて良かったです。コミュニケーション能力が大切だということもよく分かりました。

--

話す順番や話し方がわかりやすくてすごいなと思いました。

--

色々な職があって興味をひいた職の内容だったり、はじめて知る資格があったりで取った方がいい資格を考えることができたので良かったです。

--

愛玩動物看護師は獣医師の許可があればマイクロチップなどを埋め込めれる、また、2023年に国家資格になった。

--

資格を取るだけでなく動物の幅広い知識も大切だということが分かりました。説明も分かりやすくてとても理解することができました。

--

職種によってとる資格とかが違うこともわかったし、動物と関わる仕事には動物にストレスとかかけないことも大事ということも知りました。

--

動物と関わる仕事は、いろんな資格、免許をとってつけるとしり、とても大変だと思いました。自分も将来仕事が決まったら計画的にやろうと思いました。

--

動物に関する仕事で案外大変な仕事ばかりだなと思いました。この授業をとおして、1年生のうちから色々な資格に挑戦していこうと思いました。進路でもせっきょくてきにいろんあんことを調べていこうと思いました。あとは、もっと人と話そうと思いました。

--

動物の仕事をするうえでは命をあつかう心構え、経営、資格、技術、知識、根性が大切と感じた。また、動物たちは私たちがお世話をしないと生きていけないことを知り、命を扱う仕事として動物を第一に考えようと思った。

--

動物の仕事は資格や知識をたくさん身に付けたいといけない仕事なので、将来に向けてコミュニケーション力とかを身に付けていきたいと思いました。

--

あらためて自分の犬のご飯のメーカーを覚えていなかったり、色々なものに触れていないなと感じたので、将来ペットトレーナーになりたいと思っているので、今からでも意識していきたいと思えた。

--

動物の仕事は少し興味がありました。ですが、理由は動物が好きだからだったので、今日学んだことをふまえたらそう簡単に動物の仕事につけないことがわかり、動物と関わる仕事への認識を変えることができたのでよかったなと思いました。

--

動物の仕事をするうえで、観察力、体力、動物たちを中心とした生活、コミュニケーション力が必要だと聞いて納得しました。動物は言葉が話すことが出来ないのも、私たちが観察して読み取っていくしかないんだなと思った。観察力をみがきます。

--

犬や猫だけの仕事だと思っていたけど、魚や鳥、植物も入ってて動物と触れ合うことってたくさんあるんだと思った。コミュニケーション大事。

--

動物に関わる仕事というのは、必ず正しい知識や責任感、資格など色々なことが関わってくるということが分かりました。仕事内容も幅広い仕事があり、参考にしていきたいと思いました。動物には命があり、それを私たちが愛情を持って、最後まで育てるということを忘れずにしていきたいです。

--

どんな仕事でもコミュニケーションが大事だということを感じました。

--

説明をしていた仕事はどれも動物の正しい知識を学んでおくことが大切だということがありました。動物に関わる仕事だったのでもっとたくさんの職業について自分で調べてみたいと思います。

--

今まで動物に関わる仕事を少ししか知らなくて、その中のものだけで考えてあきらめていたけど、今日の講話で動物に関わる仕事はとてたくさんあることがわかってやっぱりもう少し考えたいと思うことができたので良かったです。

--

動物にも人にもたくさん関わる仕事だからコミュニケーション能力はすごい大事ななと思いました。資格や実績をたくさんとって将来自分のためにもがんばりたいと思いました。

--

何をするにも資格、どこへ行っても人とのコミュニケーションが大切だと思った。

--

動物と関わる仕事でも他の仕事でもやっぱりコミュニケーション能力は大事だということがあった。

--

講話を聞いて、動物に関する仕事ではじめて知った職業もあった。やりたい職業によって取るべき資格が違うので、自分のやりたい職業には何が必要なのか調べてみようと思った。

--

動物と関わる仕事は、人間と違って言葉が通じなかったりするから改めて簡単にはつけない仕事だということを実感しました。これから取れる資格などは取っておこうと思いました。

--

たくさんの業種、その内容、資格、仕事の内容が知れて良かったです。コミュニケーション能力や体力が必要なことがわかったので力をつけたいと思いました。気が向いたら目指してみようと思いました。

--

仕事をするときに必要な知識・技術・コミュニケーション力をいまのうちから高めようと思いました。

--

動物についての仕事をするためには体力ややる気や気持ちが必要だとわかった。動物関係の仕事をするためにも資格をとるのは必要なのでとろうと思った。

--

今までぼんやりとしかどんな職業なのかどういった資格が必要なのかあった方がいいのかわかっていなかったけど、資格をもっている方が選択肢が広がることがわかったのでがんばっていききたいと思いました。

--

今日の講話を聞いてもし私がペット関係、動物の仕事につくとしたら「保護猫カフェ」で働いたり、経営をしてみたいなと思いました。もともと保護活動に興味があったけど資金だったり場所だったりといろいろなん点があったので、この職業を知れてよかったと思いました。

--

動物に関わるすべての職業には「動物の命を扱う」という心構えが必要だとあらためて感じることができました。

--

動物に関わる仕事は自分が思っていたよりもたくさんあって驚きました。どの仕事も楽しいことだけでなく、つらいこともたくさんあるし、その仕事に就くために資格や免許を取るなど多くの時間やお金をつかうこともあることがわかりました。知識だけでなく、コミュニケーションを取ることや動物とも周りの人とも向き合うことが大切だとわかりました。

--

免許や技術、やる気が大切というけれど、個人的には根性がとても大切だと思った。

--

動物に関わる職業についていろいろ知ることができた。今日の講話をふまえて進路について考えてみようと思った。

--

動物に関係する仕事は、いっぱいあるけどそれぞれ資格がないと出来ないこともわかり、動物に関わるためには動物系の資格を取るため勉強をがんばるということがわかった。

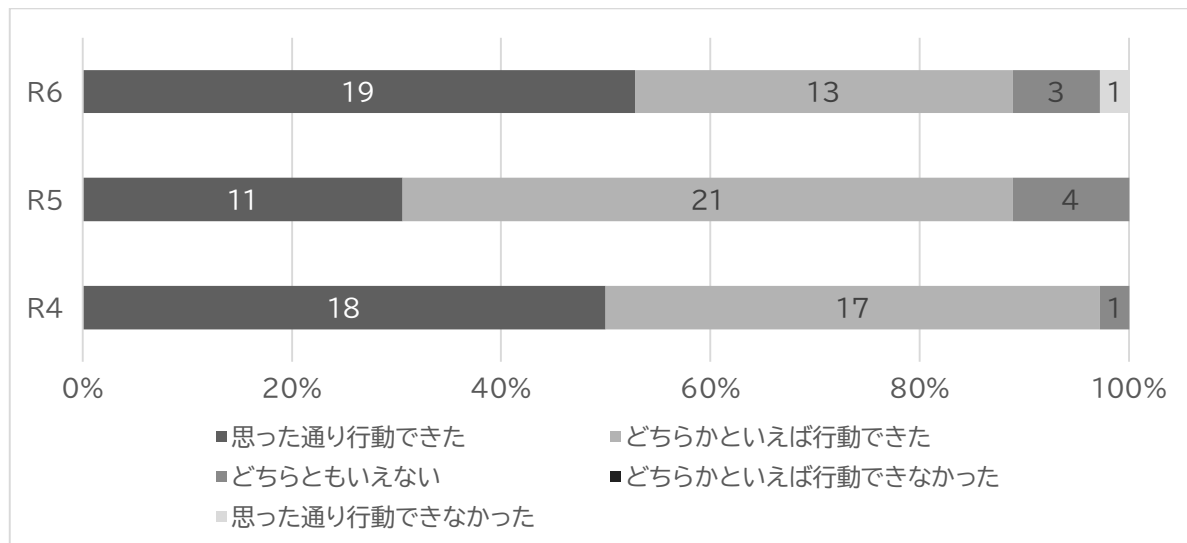
3.2 中部農林高等学校 職業講話

3.2.1 実施概要

日時 令和6年11月28日 10:00~12:00
 対象 沖縄県立中部農林高等学校 熱帯資源科 1年生
 人数 36名
 講師 沖縄ペットワールド専門学校 吉田 剛先生
 内容 コミュニケーションの大切さ

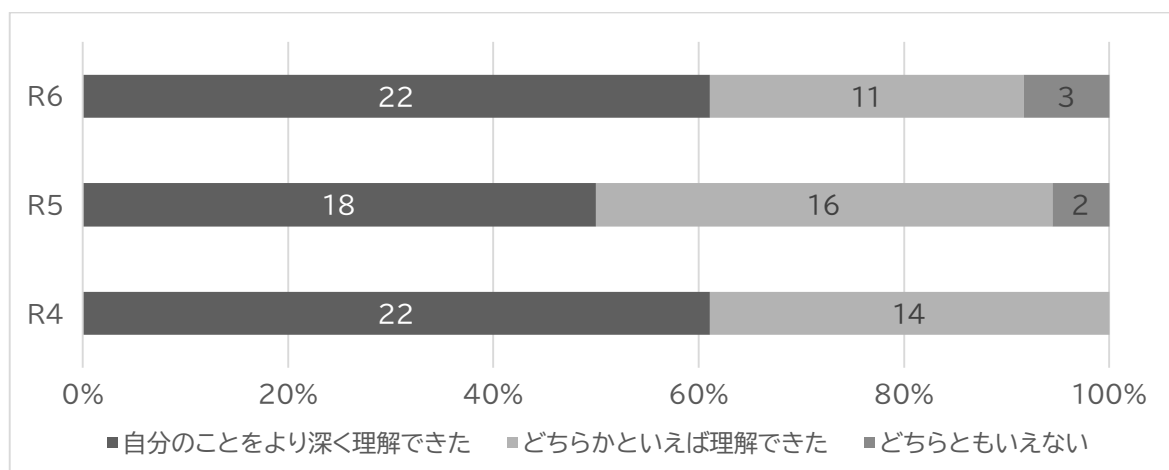
3.2.2 生徒アンケート結果

質問「課題では自分が思った通りに行動することができましたか？」（平均 4.2）



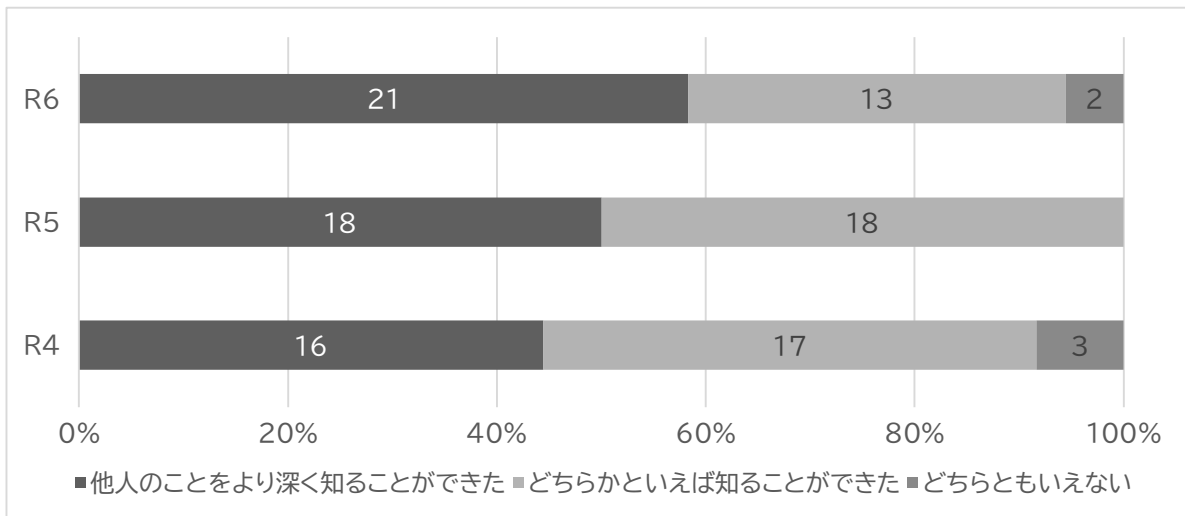
89%の生徒が、「思った通り行動できた」「どちらかといえば行動できた」と答えた。

質問「自分のことをより深く知ることができましたか？」（平均 4.3）



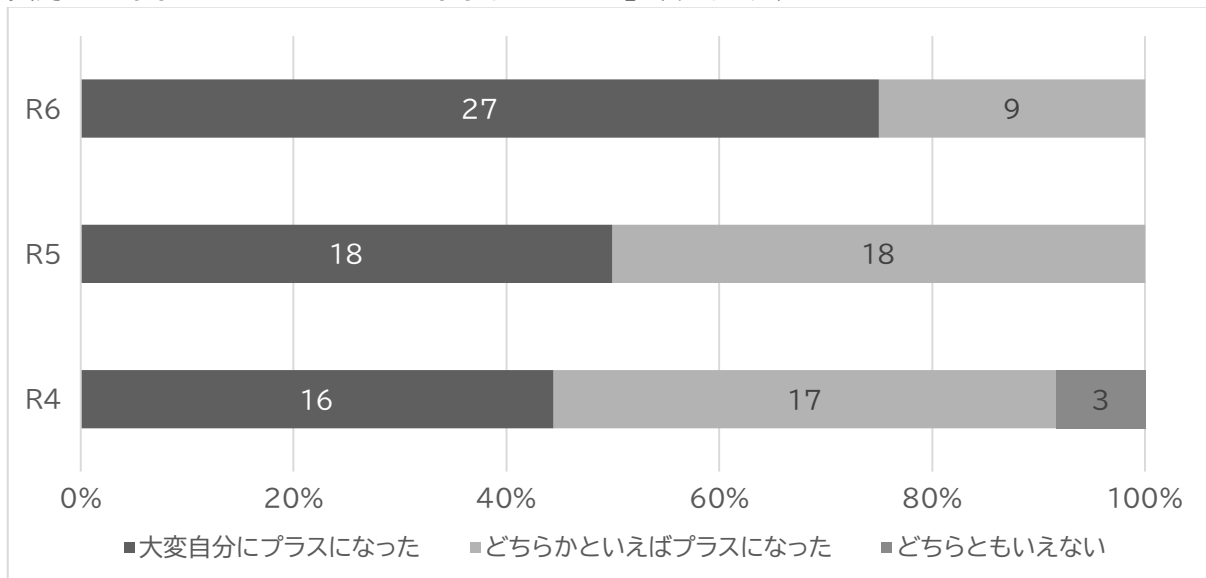
92%の生徒が、「深く知ることができた」「どちらかといえば知ることができた」と答えた。

質問 「他の人のことをより深く知ることができましたか？」（平均 4.4）



94%の生徒が、「深く知ることができた」「どちらかといえば知ることができた」と答えた。

質問 「あなたにとってプラスになりましたか？」（平均 4.8）



100%の生徒が、「大変プラスになった」「どちらかといえばプラスになった」と答えた。

質問 「特に印象に残ったことや初めて知ったことを、箇条書きで記入してください。」

※生徒の書いた原文を忠実に表現するため、誤字や文章の訂正・修正を行っていない。また、句読点の位置も原文のままにしている。

特に印象に残ったことは、エゴグラム・チェックリストです。最終的に自分の性格の特徴を知れたからです。初めて知ったことは、ごちゃまぜBINGOで友だちの血液型や左利きとおいうことが知れました。

--

エゴグラム・コミュニケーションが大切、なぞの宝島

--

エゴグラム、謎の宝島が印象に残った。エゴグラムでは自分の性格や傾向を知れたし、謎の宝島では人の話を聞いたり自分の話をしたりして楽しかった。

--

エゴグラムでは自分のことを知ることができた。謎の宝島はみんなの情報をかさねていって、だんだん島の様子がわかってきたのが面白かった。黄色の箱の中身まで考えていて答えるのがおそかったのがくやしかった。

--

ごちゃまぜビンゴでやエゴグラム、宝島でのコミュニケーション能力や協力

--

自分のことだけでなく、他者にも目を向けて話したり興味を持つことで、コミュニケーション能力が身につく。

--

印象に残ったことは宝探しでグループの人と協力しながらなぞを解くことができた。エゴグラムを通して自分がどういうタイプなのか、どの数値が一番高いかなど確認することができた。

--

今日の授業で色々なゲームをしてみんなの事をはじめてしることとか、知っていることとかが知れたし、自分のこともたくさん知る事ができた。宝を探すのはあまり話したことの無い人たちでチームになって協力して宝を探すことができた。もっと仲良くなったと思う。

--

エゴグラムでは自分がどのタイプにあてはまるかが分かった。最後の宝島が特に印象に残っていて、自分のコミュニケーション能力の低さをあらためて実感できた。

--

エゴグラムがきれいに2と6にわかれていてびっくりした。

--

今日、エゴグラムというゲームをして自分は献身パターンでAが高くて大人な考え方をする人ということがわかって印象に残った。

--

エゴグラムで自分の性格とかをよりしることができた。ちょっと大人っぽいとかお母さんタイプとかを初めて知ることができて、自分への理解が深めることができた。

--

今回のゲームでごちゃまぜビンゴの時にいろんな人にあてはまるようなものをいったり、アディダスのくつの人ーとか大声でいいました。それで友達の知らなかったことや初めて知ったことがきけて良かったです。

--

仕事のほとんどは人とかわからないと成り立たないことを初めて知った。また、みんなといろんなことを話し、情報を共有していくおもしろさが特に印象に残った。

--

宝探しで自分の情報を相手に話すことやしっかり聞くことは大切なんだなと思った。人と協力してやることは大切だと分かった。

--

エゴグラムでより自己分析ができ、印象に残った。クラスの人とたくさん交流してとても楽しくビンゴも宝箱も印象に残った。リレーションや自分を知ることって大切。相手に感心を持つ事もとても大切だと分かった。

--

エゴグラムと謎の宝島が印象にのこっていて、エゴグラムは自分はどんな人なのかをわかったし、なぞの宝島ではみんなと一緒に情報をだしながら問題をとけた。

--

みんなの協力やコミュニケーションがないと問題や課題を解決することはできないことがわかりました。初めて知ったことは自分の性格です。

--

一番楽しかったゲームは謎の宝島。ごちゃまぜビンゴでは、お互いのことがよく知れた。エゴグラムでは自分の特徴や性格がわかった。みんなで情報を交換できた。

--

謎の宝島ゲーム、自分のエゴグラムの結果。自分の考え方。

--

ビンゴのときコミュニケーションをとることで友達の知らないことを知れた。自分はアイドル型のエゴだと知った。

--

うまくコミュニケーションをとって情報共有することができたことが特に印象に残った。話すこと、聞くこと、協力し合う姿勢がないとなりたないことを初めて知ることができた。

--

コミュニケーション能力、協力する、リーダーシップ、発言力

--

エゴグラムでは自分のむいている職業とか性格がわかったので自分自身を見つめ直せたと思います。自分に合った仕事を見つけてがんばりたい。

--

エゴグラムで自分の特性が初めてわかり自分は周りに優しくする方だということを知り、そして、それを自分の意思で変えることもできる事が印象に残った。

--

エゴグラム、自己理解を深めることでこれから人と付き合う上で気をつけた方がいい点などを知る事ができました。

--

謎の宝島が印象に残り、一人、それぞれ役割をこなしだれしもがグループや集団になると役目ができる と知った。ビンゴが楽しかった。他の人のことをより知る事ができた。

--

コミュニケーションの大切さ

--

エゴグラムで半分以上の人が似ていることがわかって面白かったです。

--

今日の講話で印象に残った事はゲームでやった謎の宝島です。あまりかかわったことのないメンバーで情報を言ったり整理したり地図をかいったり大変だったけど、それぞれの役割をじかくしていたので、楽しかったし、タイムはおそかったけどけっこういけたほうだと思いました。

--

ビンゴとかエゴグラムをして、自分が思っていたよりもコミュカが高かったことを知れたから、これからはもっとコミュカを高められるように頑張りたいです。

--

自分の性格がわかるエゴグラムが印象にのこりました。

--

エゴグラムで自分のことが分かったのが特に印象に残った。

--

ごちゃまぜビンゴとエゴグラムなぞの宝島というゲームを通して、コミュニケーション能力を試したり、自分の自我を調べてみたり、相手と話し合ったり、一致団結をすることができました。

--

相手の話を聞くこともコミュニケーションだと知れました。また、自分は献身的なタイプだということもわかった。また、女性が点数が高いNPがけっこう点数取れていたことも初めて知りました。

--

①のごちゃまぜビンゴで友達だけど知らないことがあったりあまり話したことがない人とも話すことができたので良かったです。人とコミュニケーションを取るには自分の意見をいうだけでなくて人の話を聞くことも大事だと知ることができました。

--

私はごちゃまぜビンゴをしてクラスの人がどんな人か初めて知ることができました。また、自分のタイプなどをあらためて知れてとてもよかったし、印象に残りました。

--

エゴグラムをして自分は献身パターンと知れた。

質問 「本日の講話を聞いて、感じたことや思ったことを自由に書いてください。」

※生徒の書いた原文を忠実に表現するため、誤字や文章の訂正・修正を行っていない。また、句読点の位置も原文のままにしている。

今日の講話は友だちのことや自分のことをゲームなどでわかりやすく知れたので楽しかったです。最後のゲームはせいかいまではいけなかったけど、みんなと協力できてうれしかったです。

--

何かを解決する時は、ほとんどの事が一人ではできなくて、周りにいる人といまよりもっとコミュニケーションを取らないといけないと感じました。一人でもできることは少なくとも、人とやったらできることも楽しいことも増えるなと思いました。

--

いろんな性格タイプの人が出て、そこで、自分の性格と合うか合わないかが決まるとわかった。自己りかいができた。

--

ごちゃまぜビンゴでは自己開示かみんなとのコミュニケーションが取れて良かった。エゴグラムでは自分の性格がよくわかった。謎の宝島ではあまり話さないメンバーと話することができてうれしかった。

--

ごちゃまぜビンゴやエゴグラムでは他の人の情報を聞き取ることを目的としていたけど、謎の宝島では周りの人の情報を取り入れながら整理していくというゲームだったので、コミュニケーション以外の能力も必要でとても楽しかった。

--

相手とコミュニケーションを取るときにはしっかり話を聞くこと、必要なことや伝えたいことをまとめて話すことが大切だなと思いました。この授業を通して自分や相手の性格を理解する事ができた。

--

クラス内であまり話さない人とグループになったけどなぞ解きを通して少し仲良くなれた気がする。協力して一番最初になぞときができた。自分のコミュニケーションとか自分がどのタイプに当てはまるかがわかった。

--

今日の講話で私の知らないかった友だちを見つけられたり、自分を見つけられたりしてとても楽しかったです。ゲームではみんなで協力して答えをみつけたりしてコミュニケーションを取ることができてうれしかった。答えを見つけ出した時がとてもうれしかったです。

--

エゴグラムを見て、AC順応する私が一番高く、人の目を気にして生きているんだと感じました。

--

ビンゴでこの人バイトしてたんだとかいろいろ知れたし、エゴグラムでもみんなのせいかくをすることができた。宝島のやつはもうちょっとはやく情報きょうゆうすればよかったと思いました。

--

ゲームを通してコミュニケーションをとることができたとし、前よりもクラスの人たちのことを知ることができたので、よかったです。また、自分のことを相手に話したり相手に関心をもつことが大切だということがわかったので、周りに関心を持つようにしたいと思いました。

--

謎の宝島ではたくさんあった情報の中からみんなで文章を読みあって見つけていこうと思ったけど、なかなか難しく大変だった。やはり、こういうところではチームワークが大事だなと思った。だからみんなで協力して見つけることができた。

--

こんなにともだちの知らないことを知れたり、みんなときよりよくしあったのははじめてでした。ほんとうにたのしかったです。まえのこうわでは話し中心だったけどこんかいゲームをたくさんしたのでたのしかったです。

--

私はこの講話を聞いて、グループワークを通して人の意見を共有して自分の意思を伝えるのは難しいことだけど、コミュニケーションをとるっておもしろいなと感じた。また、自分から積極的に話すことでみんなといろんな意見を出し合え、それを考え合うことって楽しいなと思った。

--

講話を聞いて相手とコミュニケーションを取ることはとっても大事だし必要なんだなと思った。これから仕事や学校生活でもコミュニケーションをとることを意識する。

--

これからはもっとクラスの人と仲を深めれるよう、自分のことも知ってもらい、相手のことに興味をもっていこうと思いました。人との交流ってとても大切ということが分かりました。私ももう少し積極的になってみようと思いました。

--

ゲームとかがいっぱいあって楽しかった。また、自分の性格みたいなのもわかってよかった。色々な人としゃべれてよかった。

--

本日の講話で協力する大切さとコミュニケーションの大切さを再認識することができてよかったなと思いました。

--

この講話を通してコミュニケーションがどれだけ大切か知ることができました。人は必ず人と関わるのでこれから人と会話を大事にしていきたいと思いました。3つのゲームを通して協力したり、お互いのことを理解することができました。

--

自分の知らない一面や特徴を知る事ができて新鮮で楽しかったです。グループのみんなと協力してひとつの謎を答えにたどりついていくのは難しかったけど、その分、答えが分かったときはうれしかったです。

--

チェックシートを通して自分の性格や考え方について知る事ができました。最後のグループワークでは、自分の情報を伝えながら人の話をきき良いコミュニケーションが出来て楽しかったです。

--

やっぱり人と話したり話しを聞いたりすることはとても楽しくて人生をより豊かにするためにはコミュニケーションを取り合うことは人生においても自分や相手の成長にもとても大事なことなんだと思いました。

--

あまりしゃべったことのないメンバーだったけどみんなきちんと発言できたのでよかったと思います。前より仲良くなれた気がします。めっちゃ楽しかったです！

--

グループで自分の意見を言うときに少しきんちょうしたけど、みんながちゃんと聞いてくれて楽しかったし、みんなで問題を解決していくことが楽しかったのでまたやりたいです。

--

自分はあまり周りに対して関わらないことが多かったけど、ちゃんと自分の意思で行動し自分の考えや人の考えを聞いてから動いていこうと思った。

--

最後にやった謎の宝島で話しをしているとき、かぶせて話す人がいなくてやりやすかったです。高校に入ってから授業MBTI診断などで自分について知る事が増えて苦手と思う理由とか気をつけた方がいいことをしれてうれしいです。

--

コミュニケーションの大切さをゲームや講話をとおして理解することができた。

--

とても good

--

みんなのことがよくわかって楽しかったです。

--

講話を聞いて思ったことは、ふだん話さない子たちとあらためてちゃんと話すことで、自分のコミュニケーションのうりよくでなにがたりないのか、など知ることができました。今日学んだことをしょうらいいかしていきたいと思います。

--

宝島のゲームであまりなじみのないメンバーで最初はどううまくできるか心配だったけど進行してくれたり話をきいてくれる人ばかりで、最後までやりとげられてうれしかったし、楽しかったです。

--

みんなで協力して謎の宝島をとっている時に色々な情報をもとに宝島をあてることができてすごい達成感があることを感じました。

--

コミュニケーションがとても大事だと分かったからこれからがんばろうと思った。

--

みんなとコミュニケーションを通じて、相手のことを知れたり、仲を深めたりすることができたと思います。他にも、自分から積極的に行くのも良いけど、たまには相手に感心を持って話しかけてみたいと思います。

--

エゴグラムのFCとCPの分野の点数が低かったのでこれからの人生であげていくのと、自分の話ばかりするのではなくて、相手の話もきちんと聞いていくことを意識してコミュニケーションをはかる。ちゃんと自分の意見を伝えていきたいです。

--

皆でたのしめて良かったです。グループで集まるのはやったことあるけど、友達以外のクラスの人たちとやる機会があまりなかったのでできてよかったと思いました。

--

今日宝探しをしてコミュニケーションはめちゃくちゃよかったけど最後まで着けなかったのがなんでできなかったかを考えようと思いました。

--

ごちゃまぜビンゴをしてみて案外皆のことを知らないんだなと思いました。エゴグラムで出た診断結果が自分のしたい仕事と相性がよかったのでうれしかったです。宝島を当てるゲームは、情報を発言するタイミングがむずかしかったです。

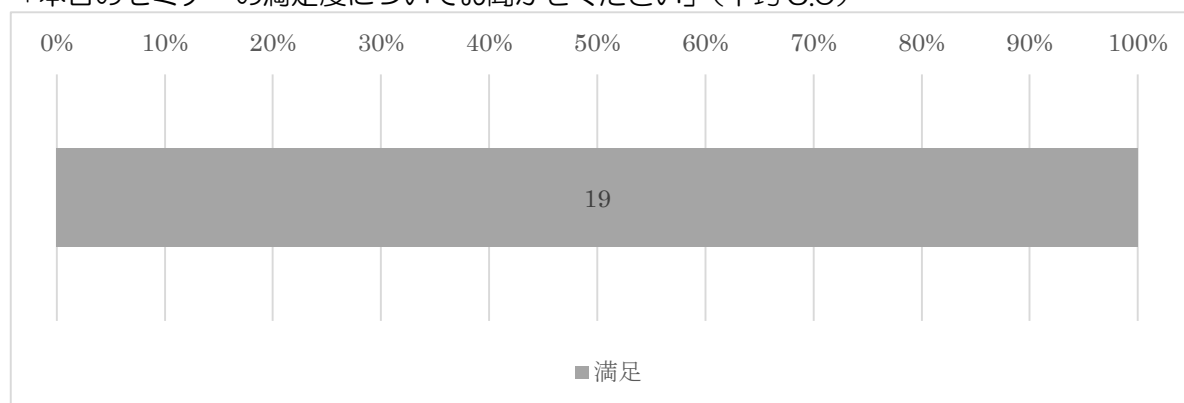
3.3 卒後セミナー

3.3.1 実施概要

日時 令和6年8月23日 19:30~21:30
 対象 愛玩動物看護師として動物病院に勤務している方
 人数 19名
 講師 福田 直也先生（琉球動物医療センター/RAMeC）
 内容 「愛玩動物看護師による採血・留置について」

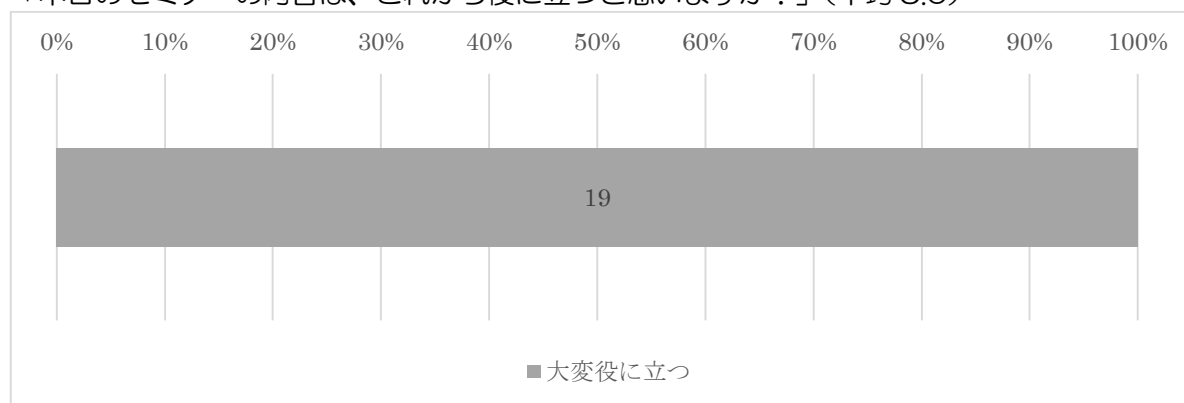
3.3.2 受講者アンケート結果

「本日のセミナーの満足度についてお聞かせください」（平均 5.0）



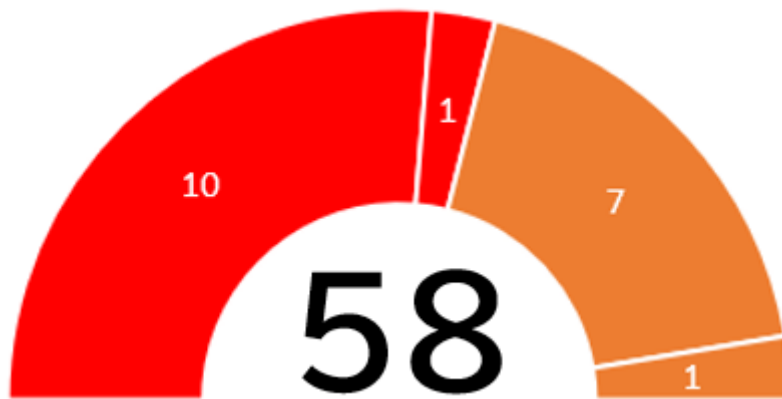
100%の受講者が「満足」と答えた。

「本日のセミナーの内容は、これから役に立つと思いますか？」（平均 5.0）



100%の受講者が「大変役に立つ」と答えた。

「本日のような Pet が開催するセミナー参加を、同僚や知人にどの程度薦めますか？」（NPS 58）



ネットプロモータースコアは58だった。
「推奨者割合（57.9%）」－「批判者割合（0%）」

ネットプロモータ（Net Promoter Score）は顧客ロイヤリティ（Loyalty：愛着）を測定する指標です。顧客満足度（Customer Satisfaction）を向上させても業績は向上しないことが明らかになったため、真のリピーター（業績）を予測するために開発された指標です。



「強く薦める」を10、「全く薦めない」を0とする11段階で、親しい友人や同僚に対する「お薦め度」を測ります。

10と9は「推奨者（ロイヤリティが高い層）」で、リピーターになるだけでなく、よい口コミを広げてくれるプロモーターになり得ます。8と7は「中立者」で、満足はしているがリピーターにはならない可能性が高い層です。6以下は「批判者」で、不満を持っている層で放置すると悪い口コミを広げる層です。

NPS は、「推奨者の割合」－「批判者の割合」で求めます。

「セミナーを受けて特に印象に残ったことを」を記入してください。

普段から採血・留置をやっていますが、いつもとは違うやり方を学びました！また練習用の模型をカントンに作れるのにビックリしました。模型を作ってみます！新人指導に良さそう！

今回、採血・留置セミナーに参加してみて、実際に実践してみるのがすごく良かったです。自分の苦手なところを発見しやすくて、説明を聞いたあとに実践の流れが良かったです。

とくにかくイメージ、実践してみる！失敗しても何がダメだったのか気づくことも大事

自分が今まで、採血を実践した際に、出来なかった時、なぜ出来なかったのかよく分らなかったけど、今回のセミナーで先生方のやり方や話しを聞いて、やっと理解できたような気がします。

留置針の内針の先から外筒の先までの長さは考えたことがなかったので、次から注意して挿し込むようにしようと思った。

採血をするにあたっての心構えや体のしくみ（血管の場所）を把握する事で、保定者や動物の事を考えて取り組む事を改めて感じさせられました。

血管の位置の把握が大事

採血の時、叩くのはNG！ということを知った。（なでる程度でOK!）

日頃、採血・留置はしているけど、今回のセミナーで採血・留置の仕方を改めて見直すことができました。

看護師として目標を立てて成し遂げられるようにこれから頑張っていきたいです。

針が細いと赤血球を壊してしまうこと。衝撃を与えると針をさしたのと同じく血管を縮めるため、血液がとりにくくなる。衝撃を与えるのではなく、もんであげる。血管が体の中でどう流れているのかが分った。

実践ができたことが良かったです。

座学で勉強するのと実践は大きく違うこと
針の太さで挿入する感覚が変わること

実際にやってみるという所。対面でやるという事が大切だなと感じました。

針先角度等、シリンジの持ち方
病院での練習方法（採血・留置）

初めての経験だったので本身体験できた事すべてが印象的なのですが、採血技術はもちろん、しっかり準備することが何事にも（採血以外でも）一番大事なんだと改めて確認することが出来て良かったです。また場所をしっかり把握する（血管がどこにあるか）ことも学べて良かったです。

実際に針を使って練習できること

何度も針を刺すのは虐待だという言葉が印象的でした。何度も採血をしているとどうしても作業化してしまっている部分もあったかなと振り返ってみて思ったので相手は動物でストレスの緩和や痛み（長時間）への考えを改めて直そうと思いました。

採血は病院で何回かやった事があったのですが、留置はやった事がなかったので、勉強になりました。
留置を刺す角度とか刺した後の手の動きなど

--

針を刺す時の手の位置や、留置針を実際に扱ってみて初めて気づけることがあって良かった（逆血が見える場所、外筒のすすめ方など）

次回のセミナーで取り上げて欲しいテーマ・内容があればお聞かせください。

後輩指導の方法
OPE 助手

--

猫の保定

--

シニアケア

--

デンタルケア、シニアケア、麻酔管理、緊急対応などなど

--

犬のしつけの基本、デンタルケア

--

麻酔管理、皮膚・シャンプー、猫の保定

--

猫の保定が苦手なので、他の病院さんではどんな工夫をしているのか知りたい。

--

栄養学、入院動物の管理・ケア、保定

--

シニアケア、薬の作用副作用について

--

猫の保定実践、栄養管理（特に経管管理）

--

猫の保定の実践、麻酔管理（モニターの見方等）

--

しつけ教室やデンタルケアの説明を実際にやっている病院さんがあれば、どのようにやっているのか話を聞いてみたい。今回のような実践で保定等のセミナーを受けてみたいです。

--

デンタルケア、しつけ指導（飼い主様に対して）

--

猫の保定、周術期の看護

--

例に挙げられているものすべて。オンラインセミナーでもやって欲しいです

--

周術期の看護、ごはん管理の飼い主指導の仕方、激怒犬へのアプローチ

--

救急対応、OPE の麻酔管理

--

麻酔管理（生体モニタ）、気管挿管

--

取り上げて欲しいテーマ まとめ

猫の保定	6
麻酔管理（生体モニタ）	5
シニアケア	3
デンタルケア	3
保定	2
飼い主しつけ指導	2
周術期看護	2
後輩指導の方法	1
OPE 助手	1
緊急対応	1
犬のしつけの基本	1
皮膚・シャンプー	1
栄養学	1
入院動物の管理・ケア	1
薬の作用副作用	1
経管栄養管理	1
飼い主デンタルケアの説明	1
飼い主栄養指導	1
激怒犬アプローチ	1
救急対応	1
気管挿管	1

日頃、動物看護師の仕事をする中で感じている、困りごと、悩みがあればお聞かせください。

後輩指導

--

獣医が一人なので、看護師が採血・留置が理想ではあるが、できていない状況。今回のセミナーで少しだけ自信がついた。早速行動に移したい。

--

飼い主さん対応が苦手です

--

後輩指導

--

愛玩動物看護師の資格を持った先輩がいないので、獣医師から習うしかない。

--

これからのキャリアアップ等、目標について具体的にみえてこない。模索中です。

--

獣医師との接し方

--

患者様への伝え方や言葉の選び方。

--

飼い主様に対して、しつけ相談を受けた時に話す内容（うまく伝わらない）

--

3.4 ボランティア実施（沖縄こどもの国）

日時 令和6年9月22日 10:00~15:00

場所 公益財団法人 沖縄こどもの国

対象 沖縄ペットワールド専門学校 飼育コース2年生

人数 19名

内容 動物クイズスタンプラリー

ヤクシマザル・マレーグマ・カバ・ゾウ・ライオンの5つの展示場の前で、10分程度のクイズを出題しスタンプラリーを行う。台紙・景品ともに300準備。人員配置は、本部4名、各展示場3～4名。

参加者 約 300 人

3.4.1 実施場所



3.4.2 活動の様子



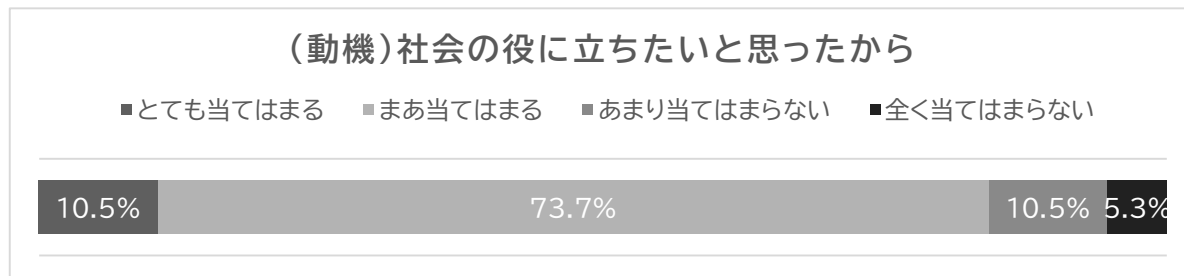
3.4.3 ボランティア「参加前の動機」と「参加後の感想」の比較

ボランティア前 「ボランティア活動に参加された理由は何ですか？」

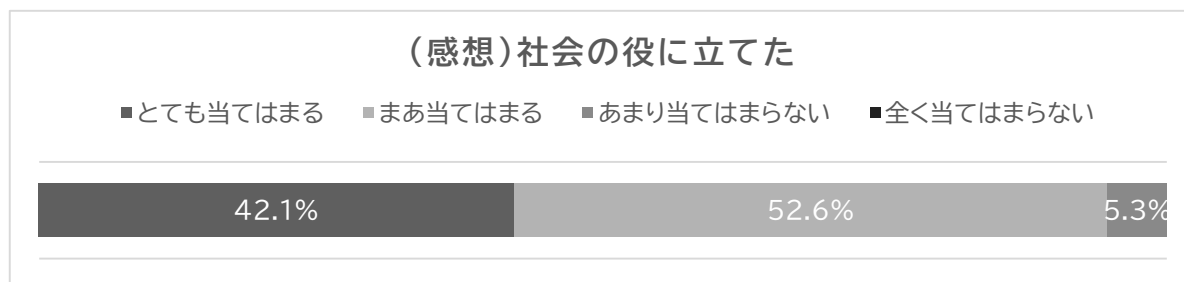
ボランティア後 「ボランティア活動に参加した感想を教えてください」

<社会の役に立ちたい>

前：「社会の役に立ちたいと思ったから」について11%の学生が「とても当てはまる」を選んだ。

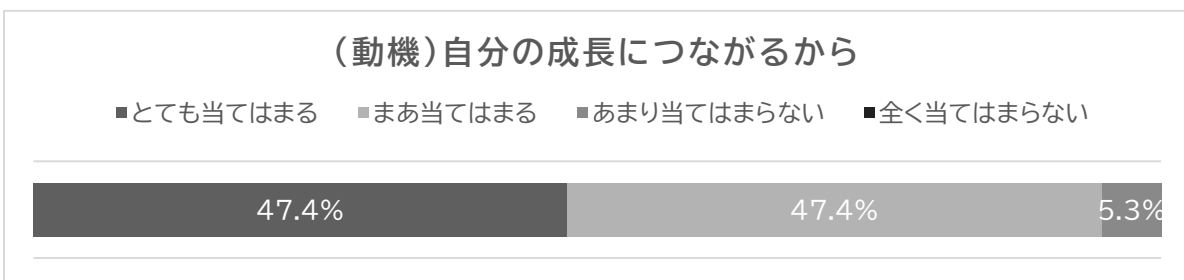


後：「社会の役に立てた」について42%の学生が「とても当てはまる」を選んだ。

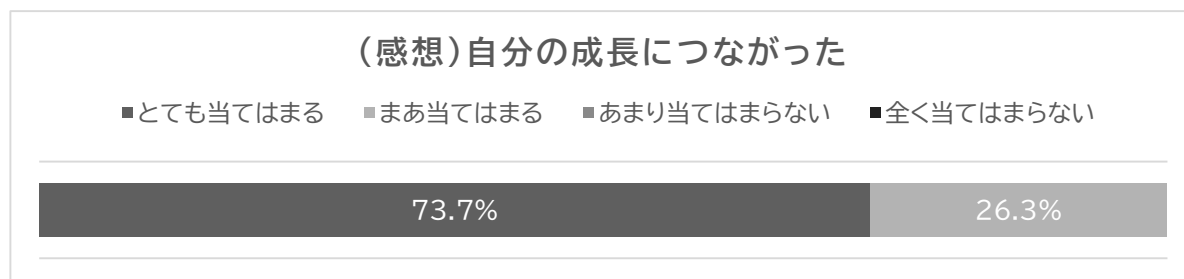


<自分の成長につながる>

前：「自分の成長につながるから」について47%の学生が「とても当てはまる」を選んだ。

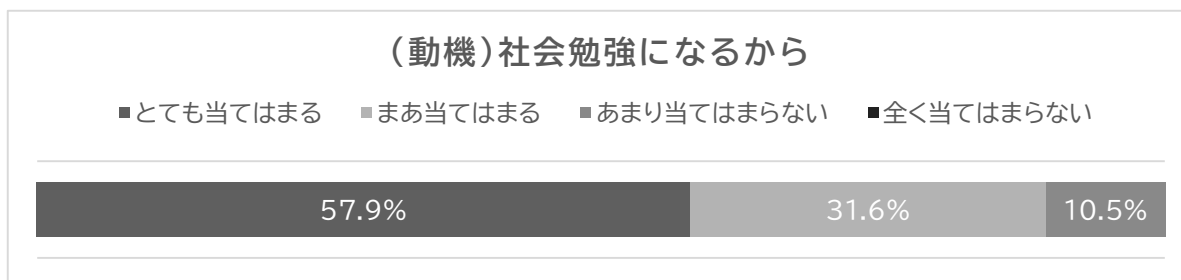


後：「自分の成長につながった」について74%の学生が「とても当てはまる」を選んだ。



＜社会勉強になる＞

前：「社会勉強になるから」について58%の学生が「とても当てはまる」を選んだ。

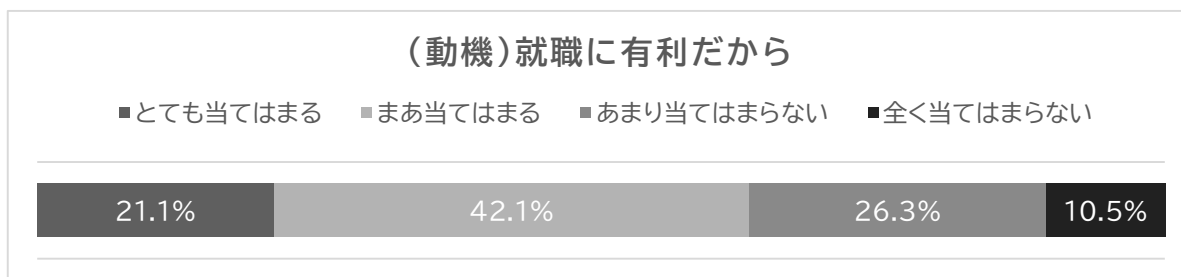


後：「社会勉強になるから」について74%の学生が「とても当てはまる」を選んだ。

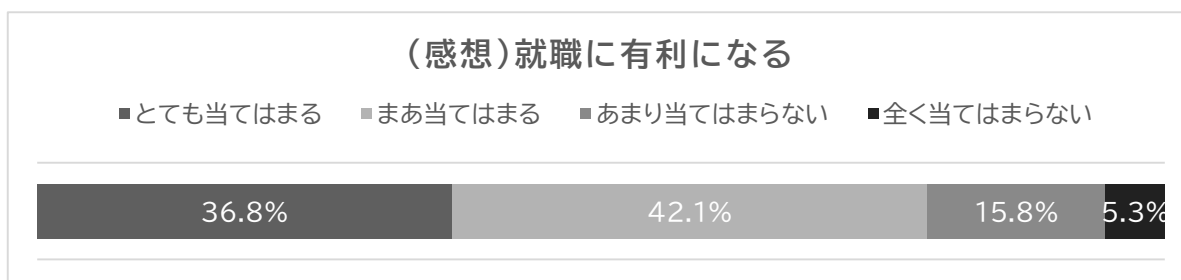


＜就職に有利＞

前：「就職に有利だから」について21%の学生が「とても当てはまる」を選んだ。



後：「就職に有利になる」について37%の学生が「とても当てはまる」を選んだ



<勧められた・勧めたい>

前：「友達や先生から勧められたから」について47%の学生が「とても当てはまる」を選んだ。



後：「後輩や友達にボランティア活動を勧めたい」について63%の学生が「とても当てはまる」を選んだ

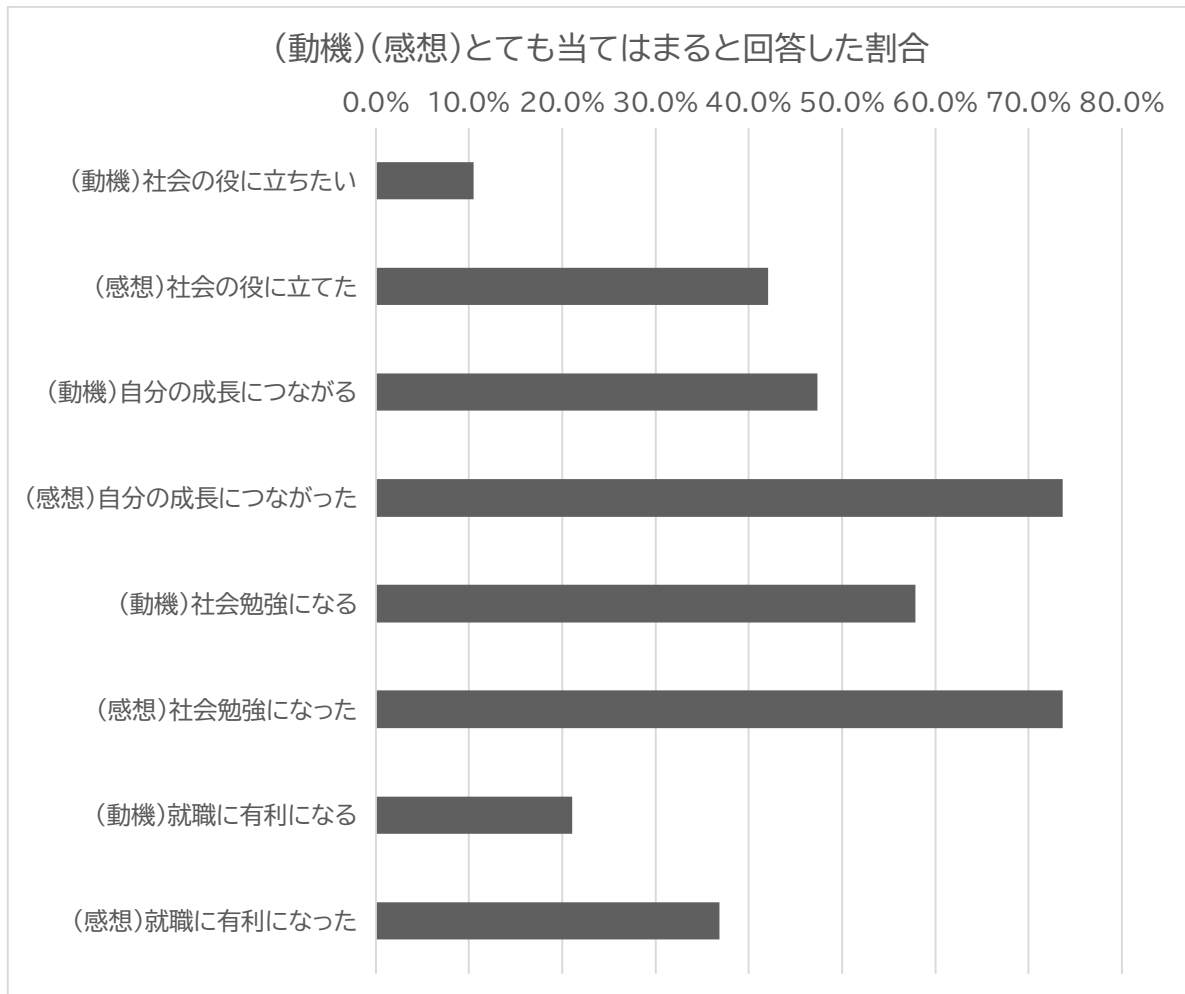


動機と感想について、とても当てはまると回答した割合

ボランティア活動を通じて、「自分の成長につながった」「社会勉強になった」と強く感じた学生は74%だった。

動機（期待）に対して結果が最も大きく変化したのは、「社会に役に立てた」という自己有用感だった。

※「自己有用感」は、他者や社会との関係性の中で、自分の存在を価値があるものとして認知する感覚で、自分に自信をもって他者との協同活動ができるとされている。



ボランティア「参加前の非認知能力自己評価」と「参加後の非認知能力自己評価」の比較

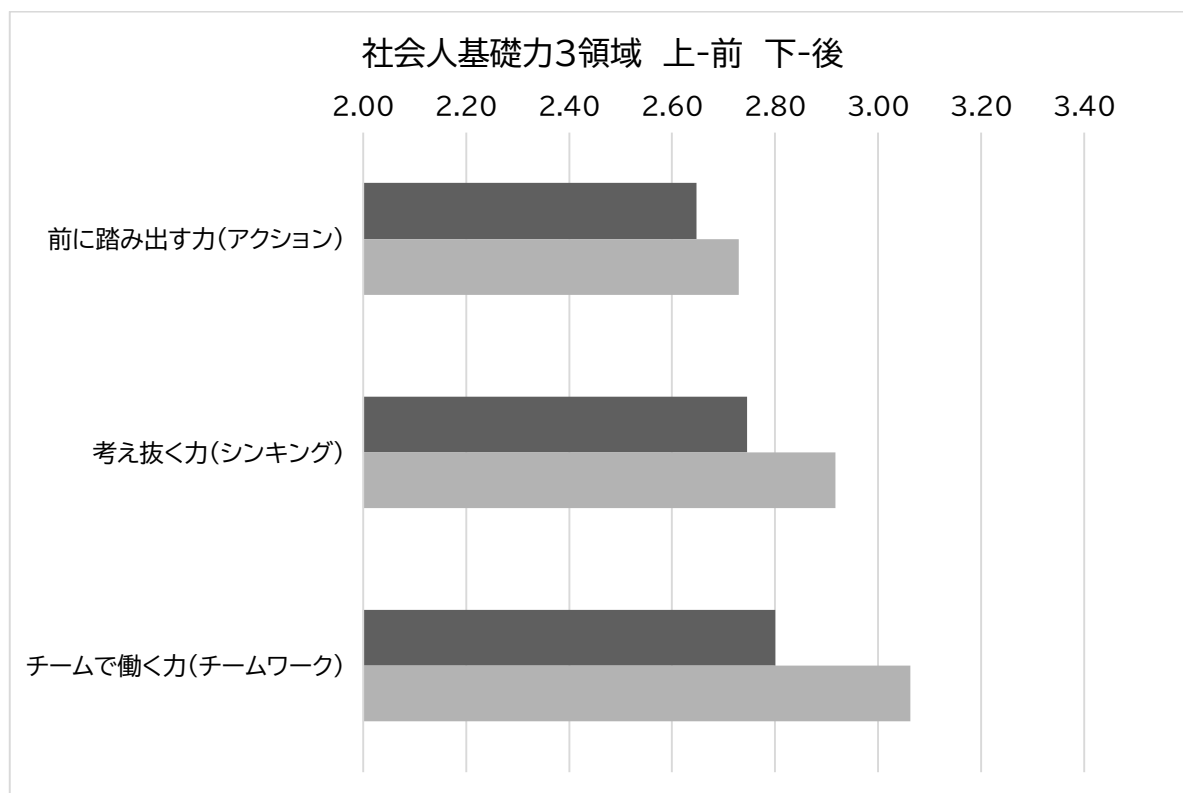
※1～11のアンケート項目は、経産省が2006年に発表した職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力である「社会人基礎力」を採用している。12～15のアンケート項目は、文科省が掲げるキャリア形成力のうち1～11の項目に含まれない能力を採用している。いずれも、学校等で行われる試験で数値化が困難な「非認知能力」である。

※能力の自己評価について「とてもある」に4点、「まあある」に3点、「あまりない」に2点、「全くない」に1点を掛け、全体の平均を自己評価指標としている。ただし、すべての項目が同じ回答は、妥当性に欠けるおそれがあるため集計から除外している。

社会人基礎力は、前に踏み出す力（アクション）、考え抜く力（シンキング）、チームで働く力（チームワーク）の3分野からなる。

学生の活動前の自己評価で高かったのが、「チームで働く力」だった。

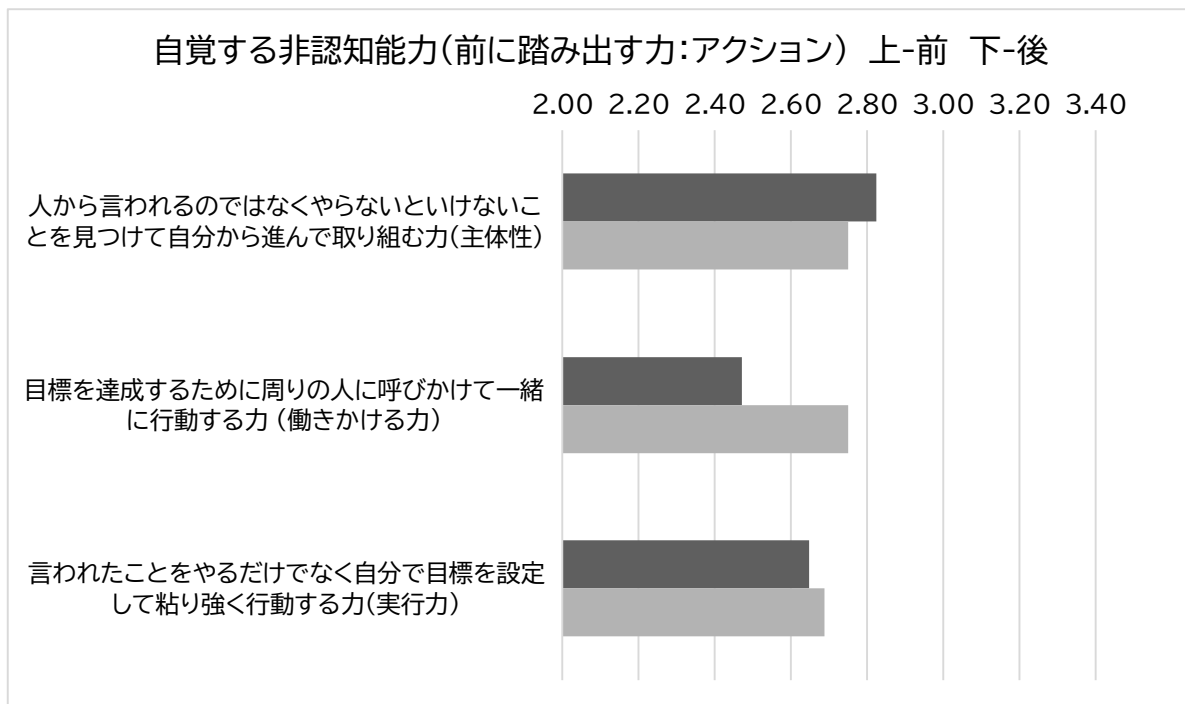
活動後の変化率が大きかったのは、「チームで働く力」、「考え抜く力」だった。「前に踏み出す力」は活動前後であまり変化がなかった。



＜前に踏み出す力（アクション）＞

活動前後で、目標を達成するために周りの人に呼びかけて一緒に「働きかける力」に変化があった。ボランティア活動担当教員は「働きかける力」が向上したと客観的評価をしており、一致している。

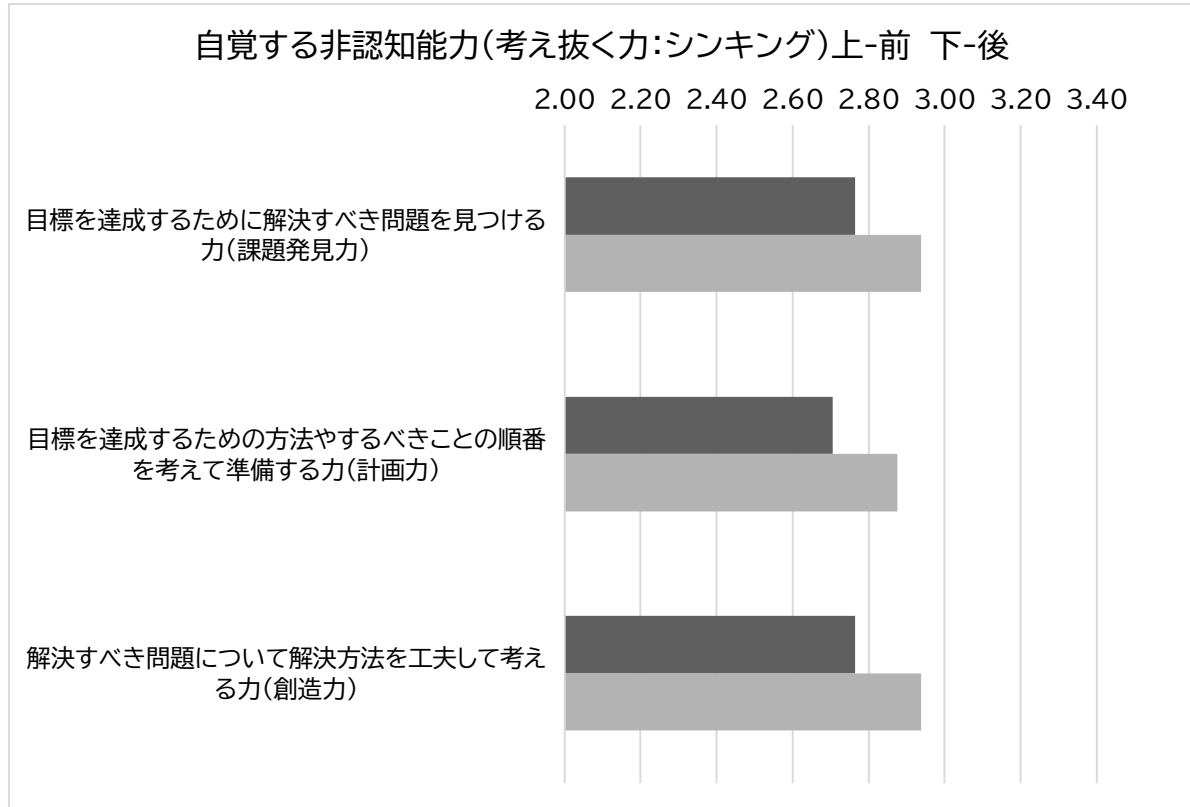
主体性、実行力に関しては活動前後で大きな変化はみられなかったが、主体性の数値が若干下がっており、ボランティア活動を通して主体性が不足していることに気づきがみられた。



＜考え抜く力（シンキング）＞

活動前後で、大きな変化はみられなかった。

ボランティア活動担当教員は、考え抜く力に変化はなかったと客観的評価をしている。

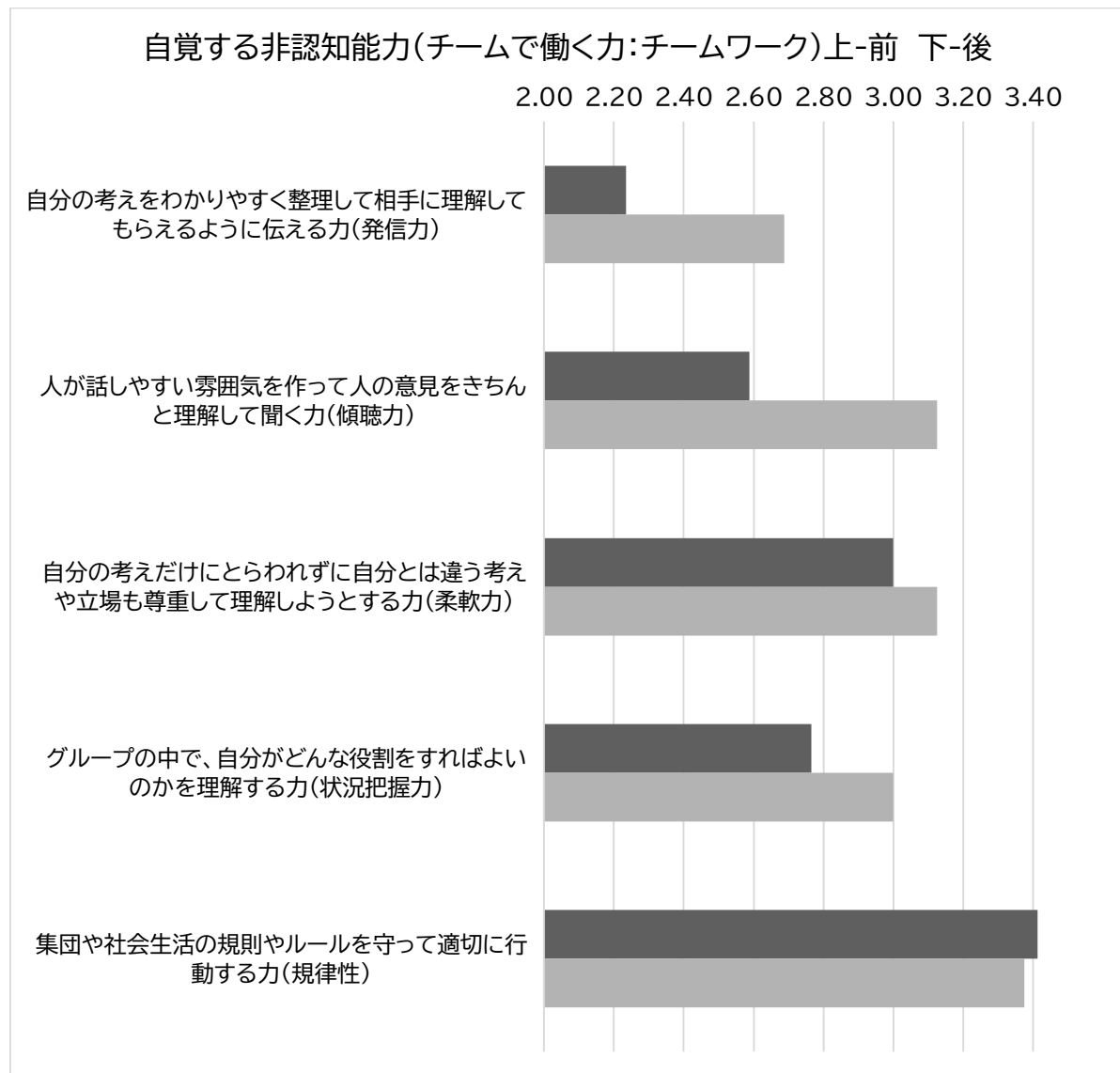


＜チームで働く力（チームワーク）＞

活動前後で、自分の考えをわかりやすく整理して相手に理解してもらえるように伝える「発信力」、人が話しやすい雰囲気を作って人の意見をきちんと理解して聞く「傾聴力」に大きな変化があった。また、グループの中で自分がどんな役割をすればよいのかを理解する「状況把握力」に変化があった。

柔軟力、規律性は活動前後で大きな変化はみられなかった。

ボランティア活動担当教員は、チームで働く力に変化はなかったと客観的評価をしている。

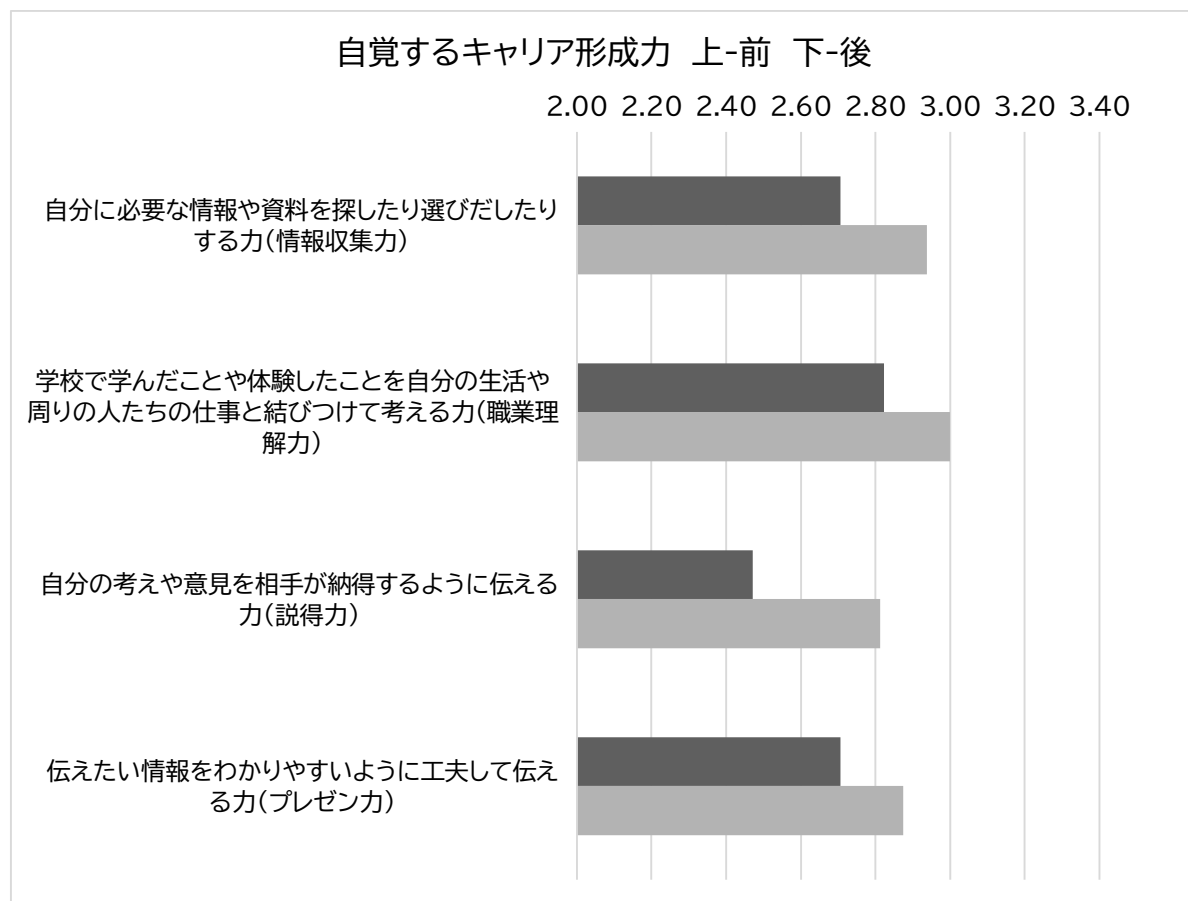


ボランティア参加前後の「キャリア形成力」の比較

※12～15のアンケート項目は、文科省が掲げるキャリア形成力のうち1～11の項目に含まれない能力を採用している。いずれも、学校等で行われる試験で数値化が困難な「非認知能力」である。

活動後の変化率が最も大きかったのは「説得力」で、活動を通じて34%上昇した。「情報収集力」は23%上昇した。

ボランティア活動担当教員は、「情報収集力」「職業理解力」が向上したと客観的評価をしている。



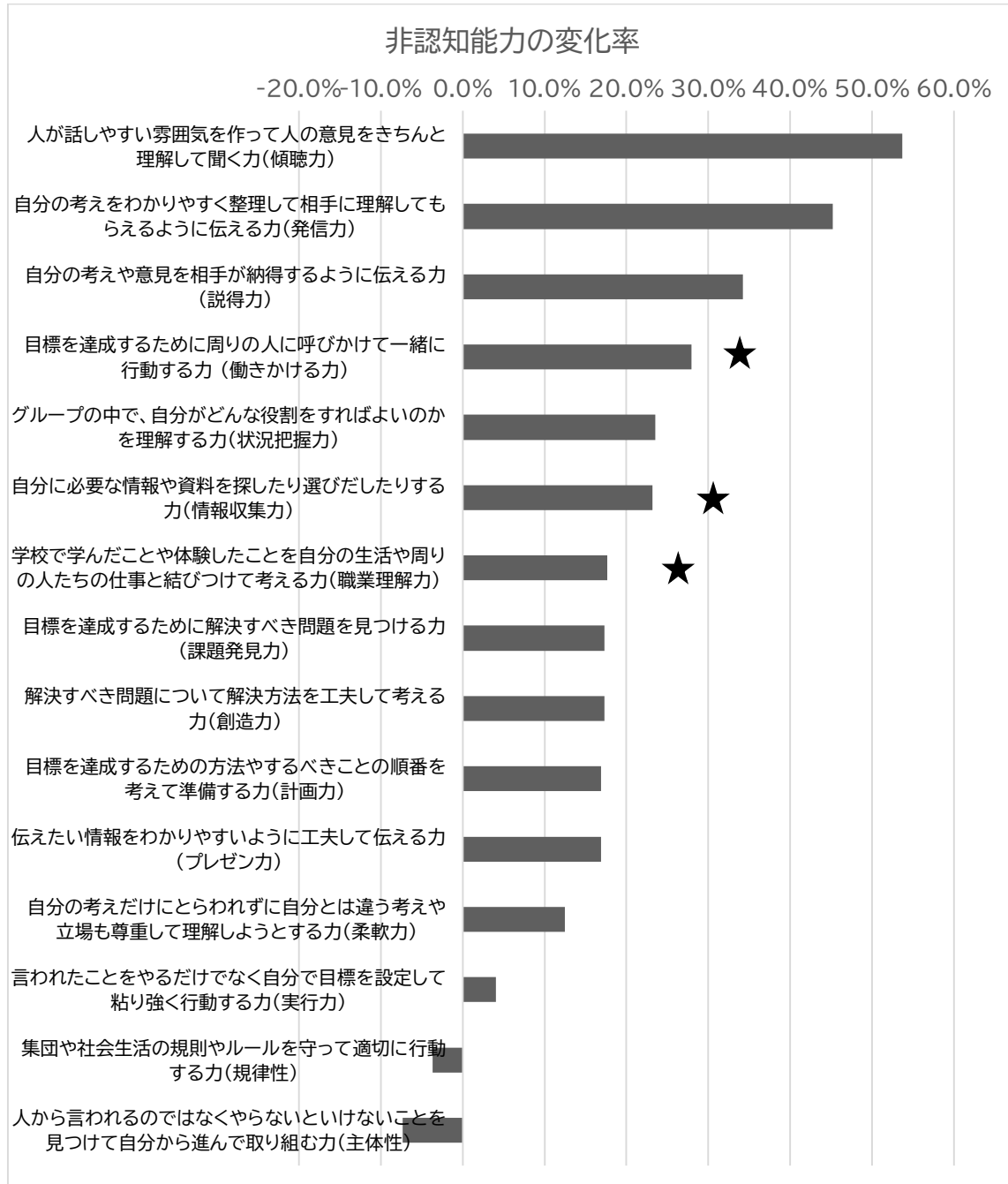
変化率の大きかった「非認知能力」

活動前後の変化率が40%を超えた「第一群」は、「傾聴力」と「発信力」だった。

活動前後の変化率が25%を超えた「第二群」は、「説得力」と「働きかける力」だった。

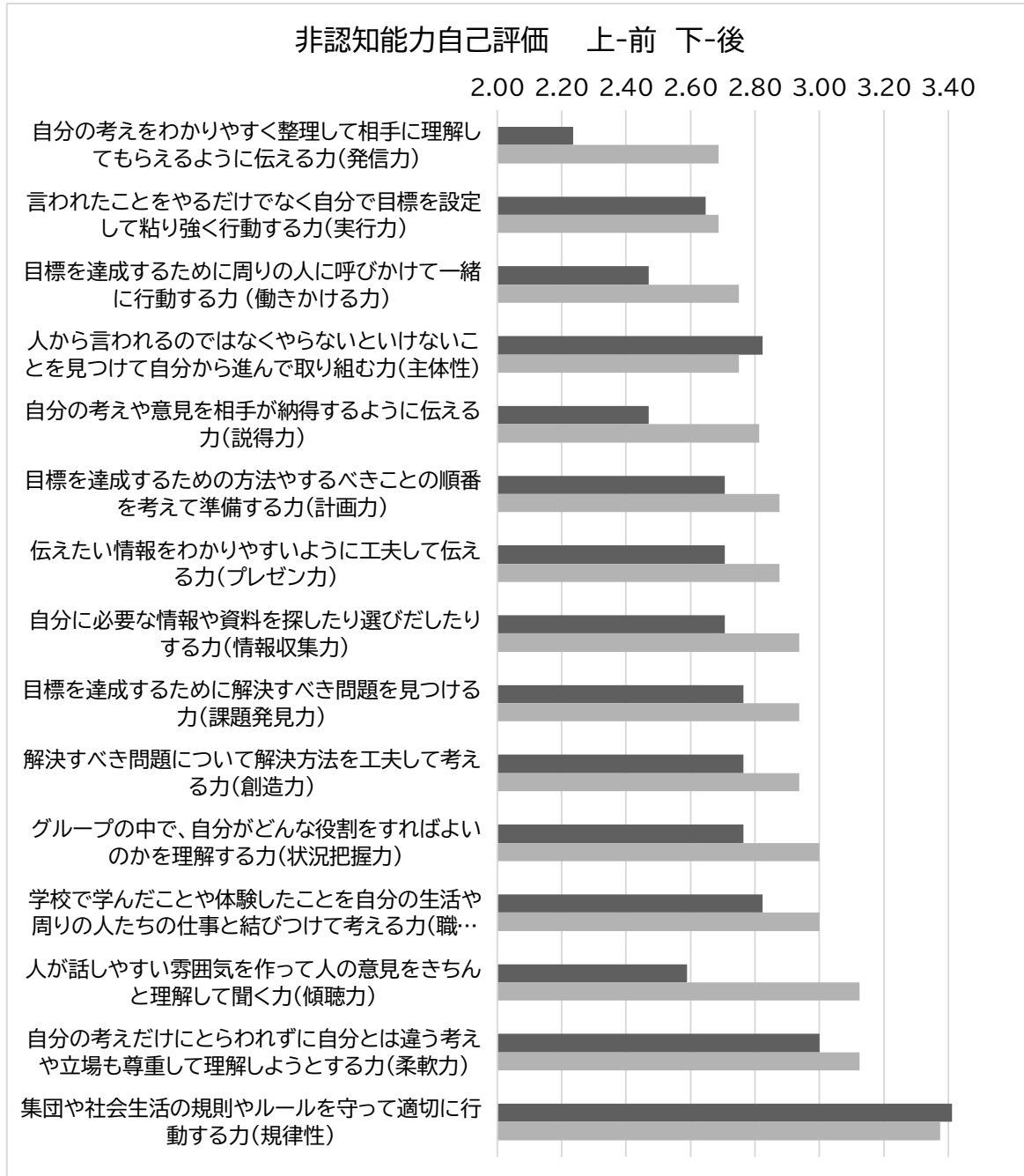
傾聴力、発信力、説得力は、客観的評価が難しいことを示唆しており、評価方法の工夫が必要である。

★は担当教員が向上評価をした項目



今後の活動課題としての「非認知能力」

ボランティア活動後の自己評価が低く、かつ、前後の変化が少なかったのは、「実行力」、「主体性」だった。この2つの能力向上は、今後のボランティア活動の重点課題になる。



3.5 ボランティア実施（県民環境フェア）

日時 令和6年11月10日 9:00~16:00
 場所 イオンモール沖縄ライカム
 対象 沖縄ペットワールド専門学校 トータルペットケアコース1年生
 人数 15名（4名インフルエンザにより欠席）
 内容 県民環境フェア in 北中城

【犬参加型イベント】

犬のおやつ当て
 おやつぐるぐるマシン（手作りの知育おもちゃ）

【こども・飼い主イベント】

クイズビンゴ
 わなげ
 クイズくじ引き
 射的
 ニオイ当てゲーム
 ボンボン作り体験

参加者 約80人

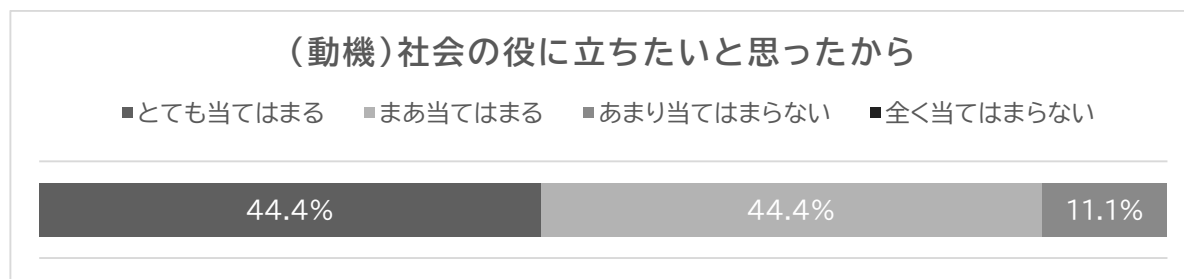
3.5.1 ボランティア「参加前の動機」と「参加後の感想」の比較

ボランティア前 「ボランティア活動に参加された理由は何ですか？」

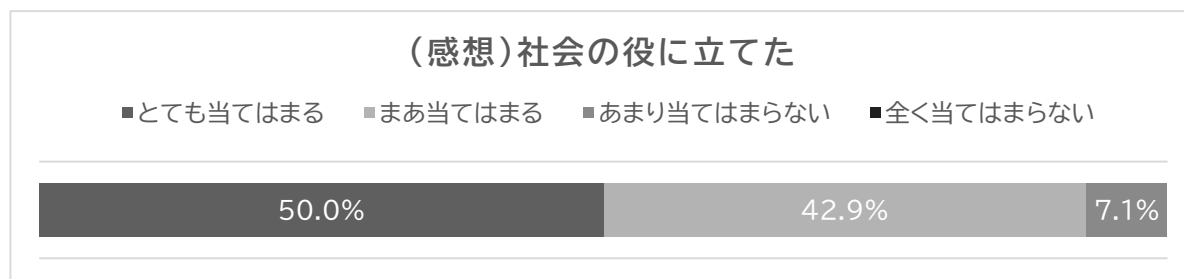
ボランティア後 「ボランティア活動に参加した感想を教えてください」

＜社会の役に立ちたい＞

前：「社会の役に立ちたいと思ったから」について44%の学生が「とても当てはまる」を選んだ。

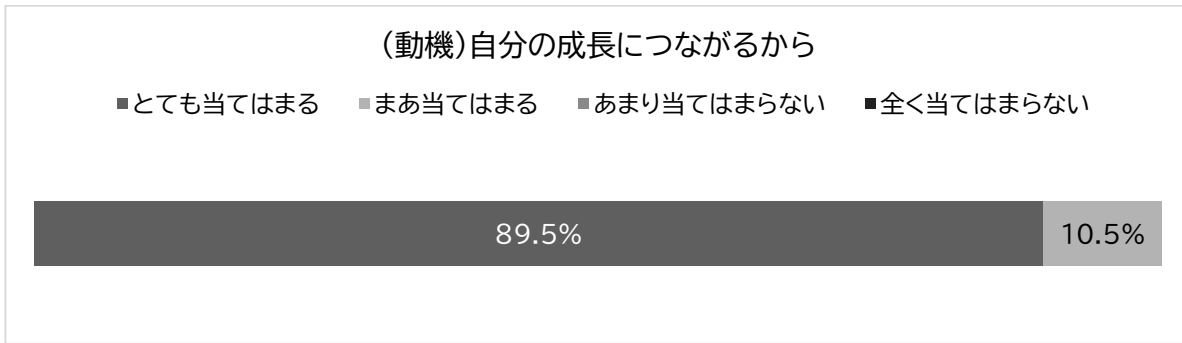


後：「社会の役に立てた」について50%の学生が「とても当てはまる」を選んだ。

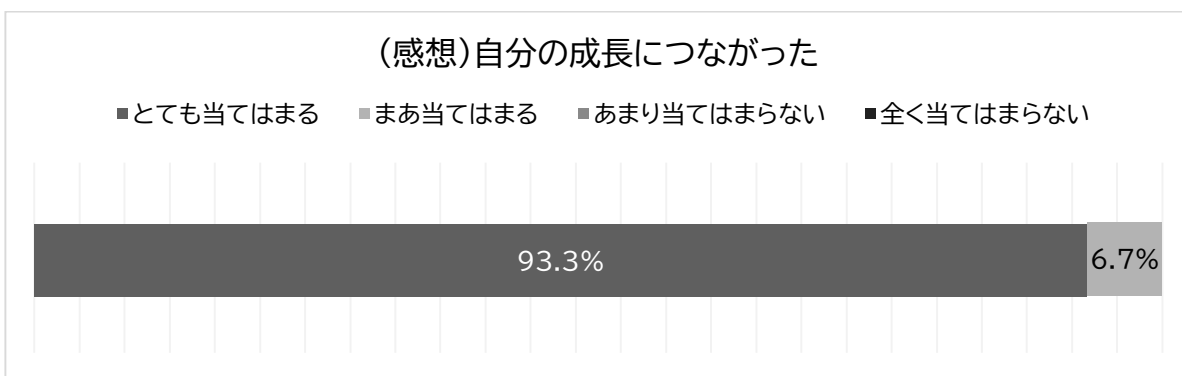


＜自分の成長につながる＞

前：「自分の成長につながるから」について90%の学生が「とても当てはまる」を選んだ。

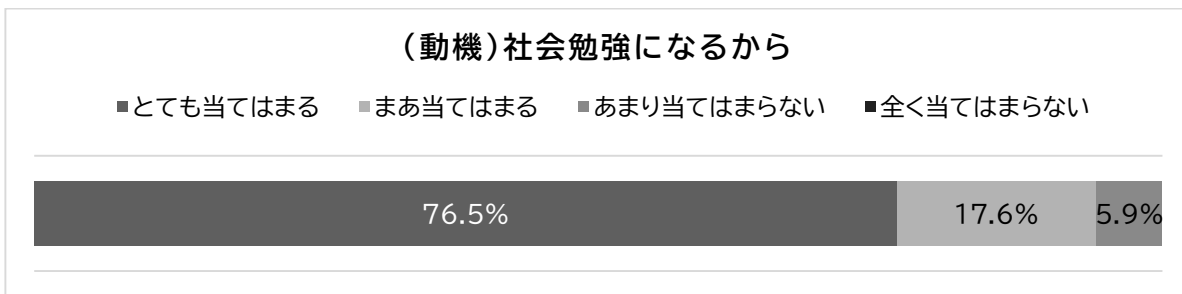


後：「自分の成長につながった」について93%の学生が「とても当てはまる」を選んだ。

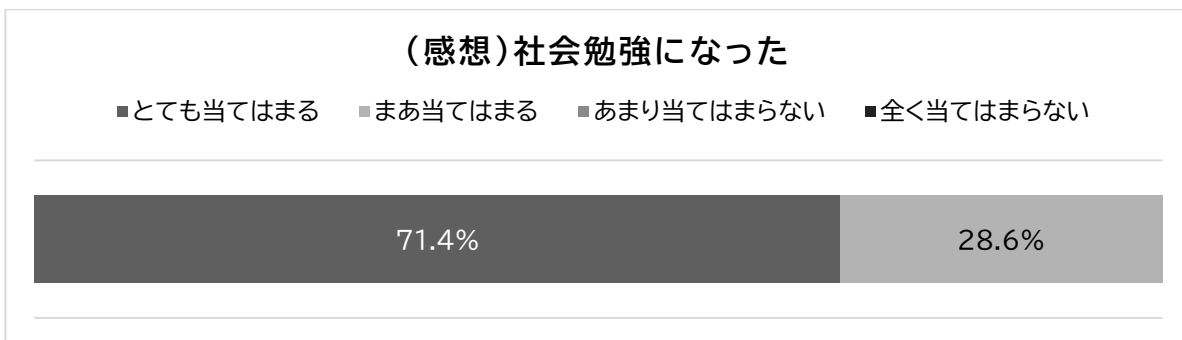


＜社会勉強になる＞

前：「社会勉強になるから」について77%の学生が「とても当てはまる」を選んだ。

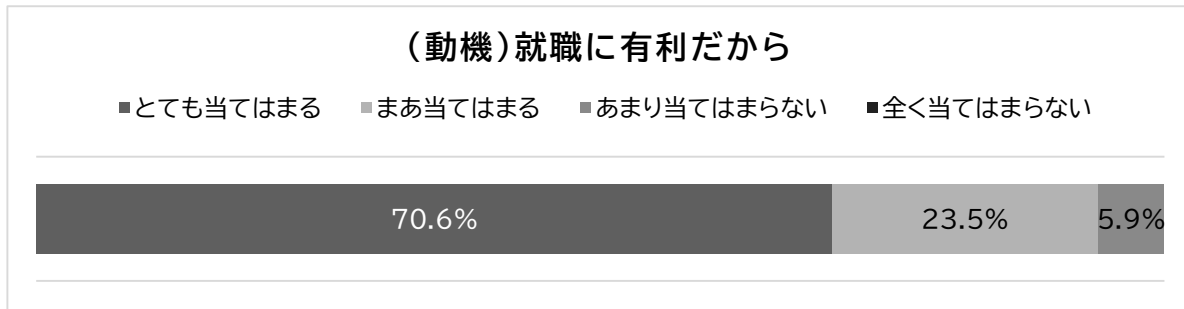


後：「社会勉強になるから」について71%の学生が「とても当てはまる」を選んだ。



<就職に有利>

前：「就職に有利だから」について71%の学生が「とても当てはまる」を選んだ。

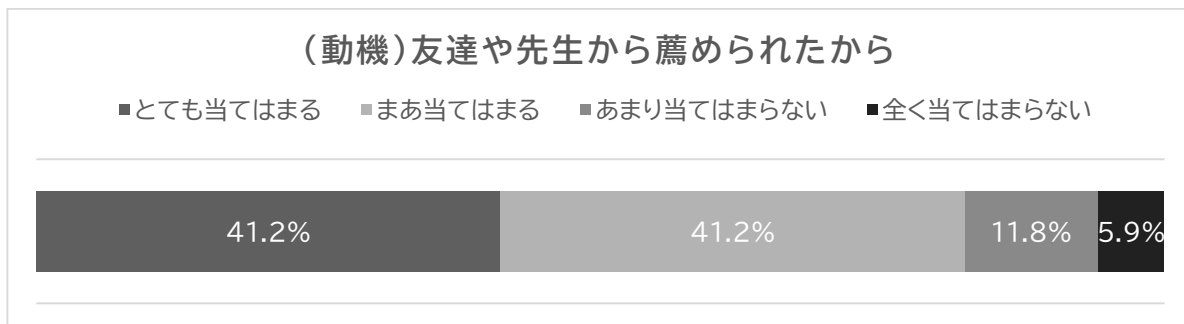


後：「就職に有利になる」について79%の学生が「とても当てはまる」を選んだ

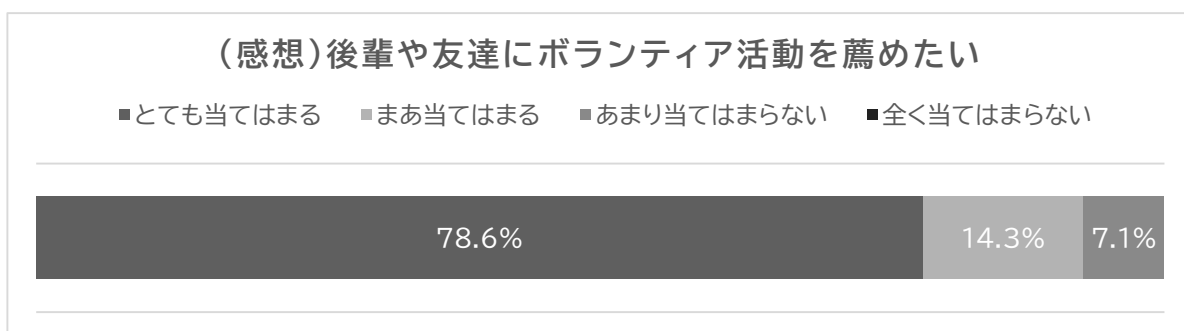


<薦められた・薦めたい>

前：「友達や先生から薦められたから」について41%の学生が「とても当てはまる」を選んだ。



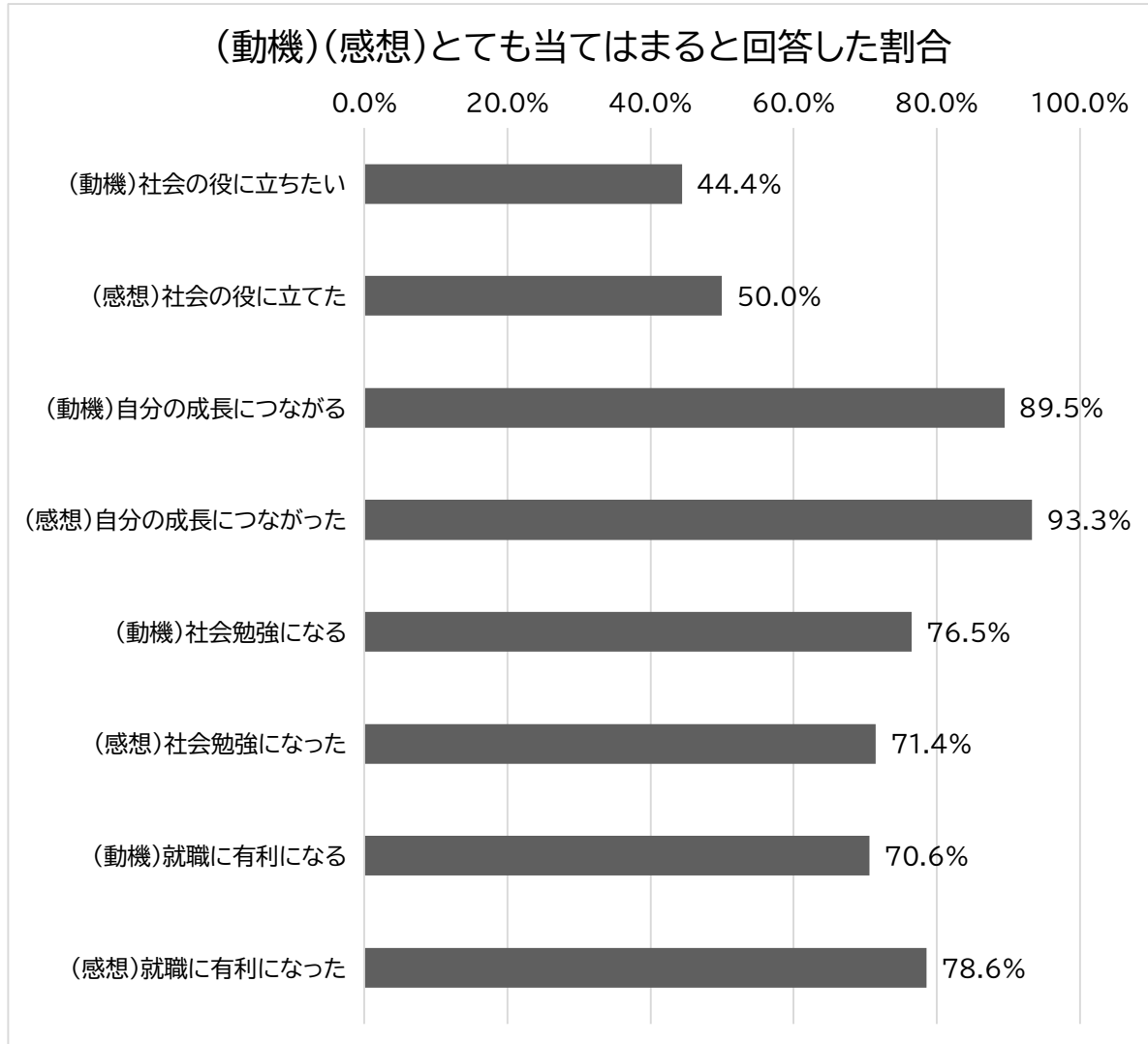
後：「後輩や友達にボランティア活動を薦めたい」について79%の学生が「とても当てはまる」を選んだ



動機と感想について、とても当てはまると回答した割合

ボランティア活動を通じて、「自分の成長につながった」と強く感じた学生は93%だった。

「社会勉強になる」は、動機（期待）に対して結果が下がった。



ボランティア「参加前の非認知能力自己評価」と「参加後の非認知能力自己評価」の比較

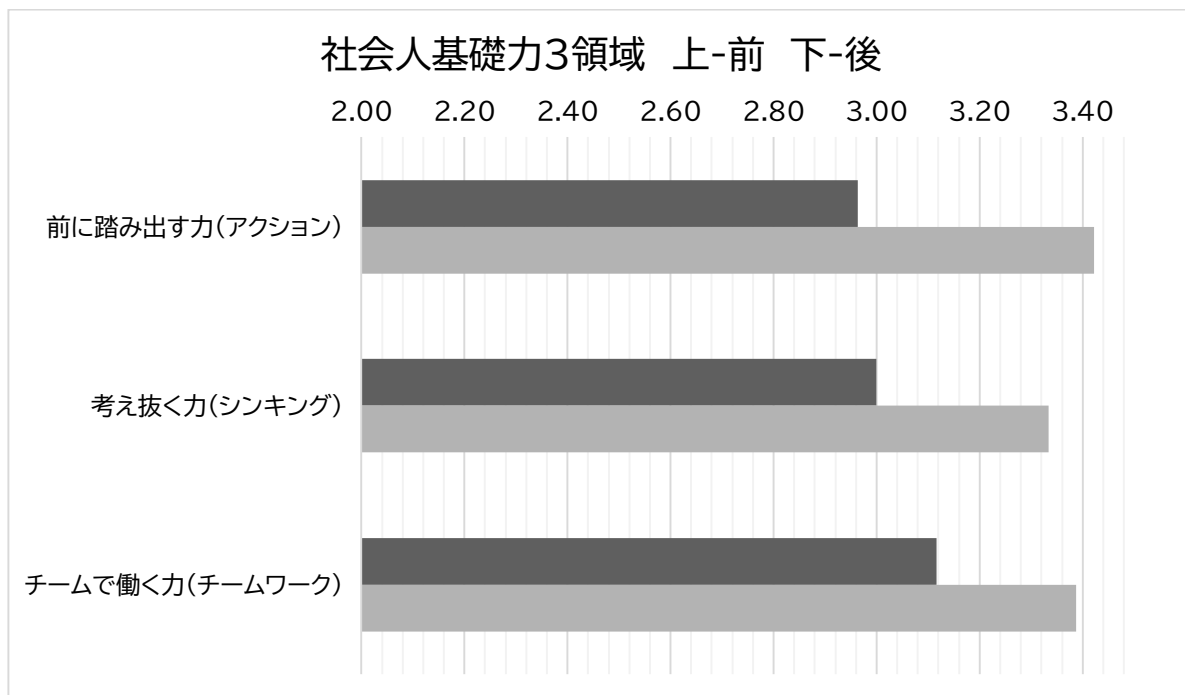
※1～11のアンケート項目は、経産省が2006年に発表した職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力である「社会人基礎力」を採用している。12～15のアンケート項目は、文科省が掲げるキャリア形成力のうち1～11の項目に含まれない能力を採用している。いずれも、学校等で行われる試験で数値化が困難な「非認知能力」である。

※能力の自己評価について「とてもある」に4点、「まあある」に3点、「あまりない」に2点、「全くない」に1点を掛け、全体の平均を自己評価指標としている。ただし、すべての項目が同じ回答は、妥当性に欠けるおそれがあるため集計から除外している。

社会人基礎力は、前に踏み出す力（アクション）、考え抜く力（シンキング）、チームで働く力（チームワーク）の3分野からなる。

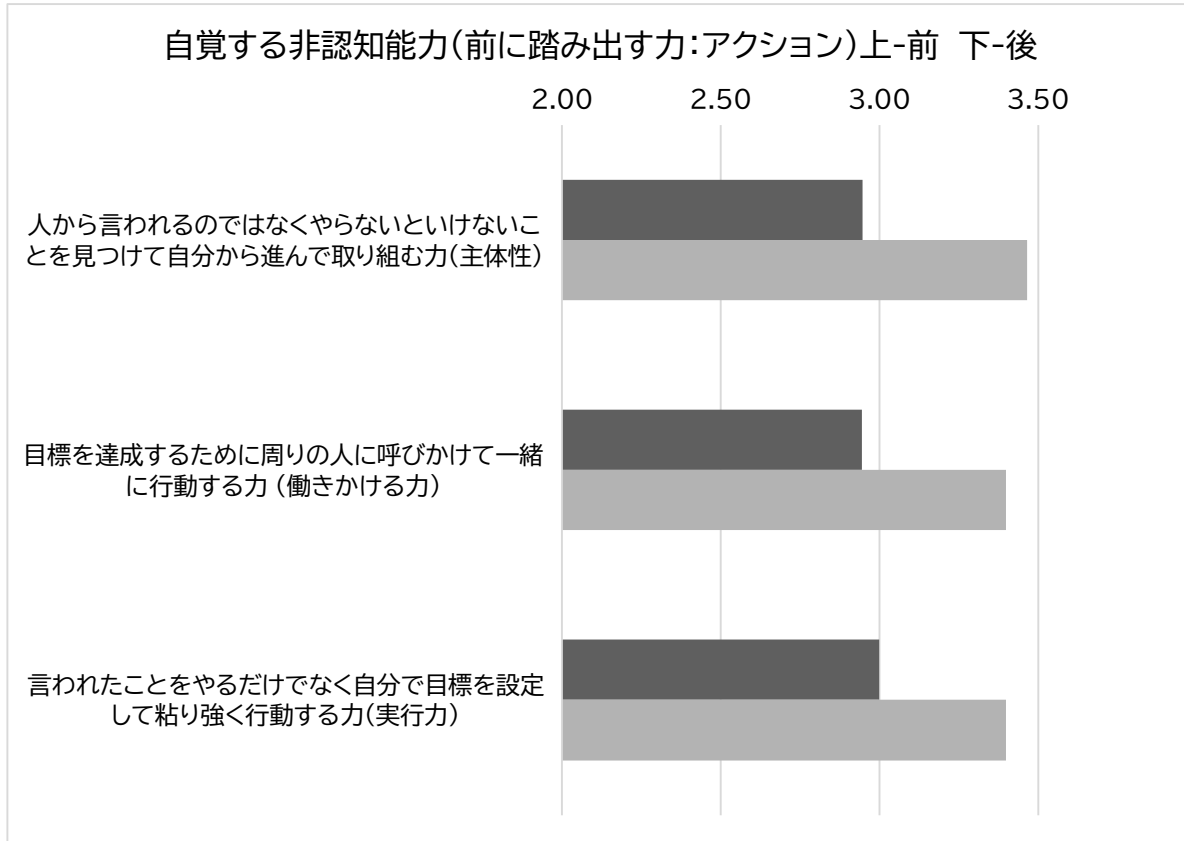
学生の活動前の自己評価で最も低かったのは「前に踏み出す力」、最も高かったのが「チームで働く力」だった。

活動後の自己評価で最も高かったのは「前に踏み出す力」で、変化率も最も大きかった。



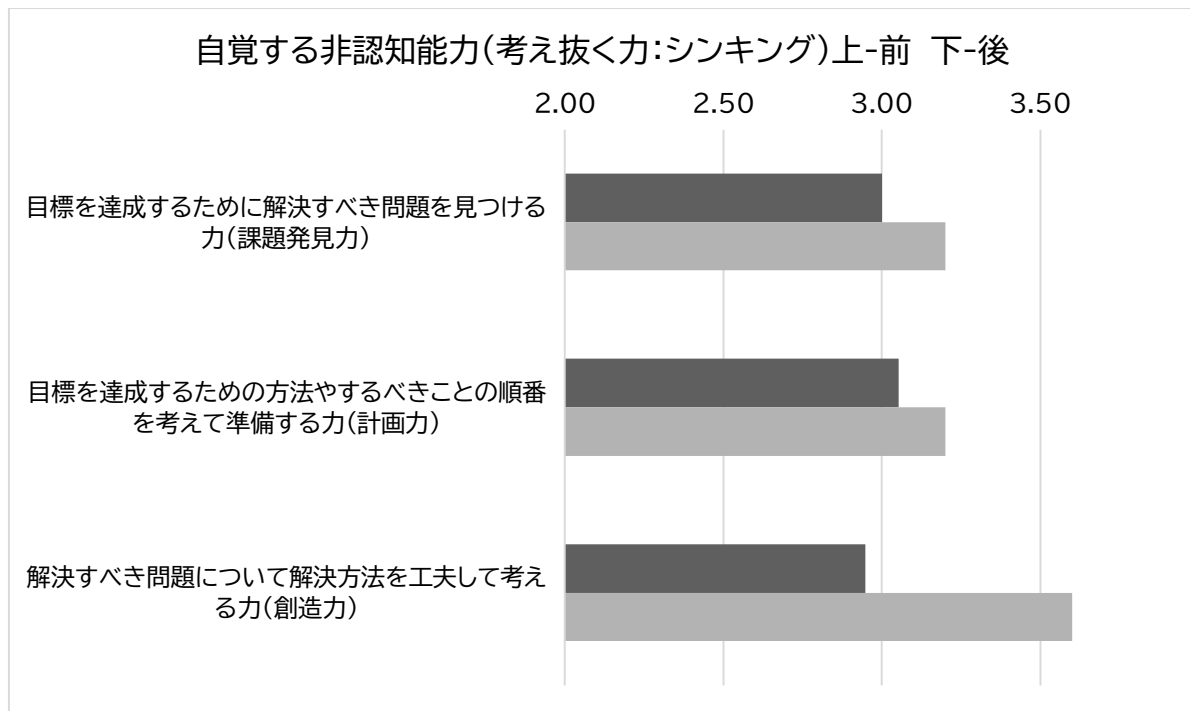
＜前に踏み出す力（アクション）＞

活動前後で、すべての項目に変化があった。ボランティア活動担当教員もすべての項目が向上したと客観的評価をしており、一致している。



＜考え抜く力（シンキング）＞

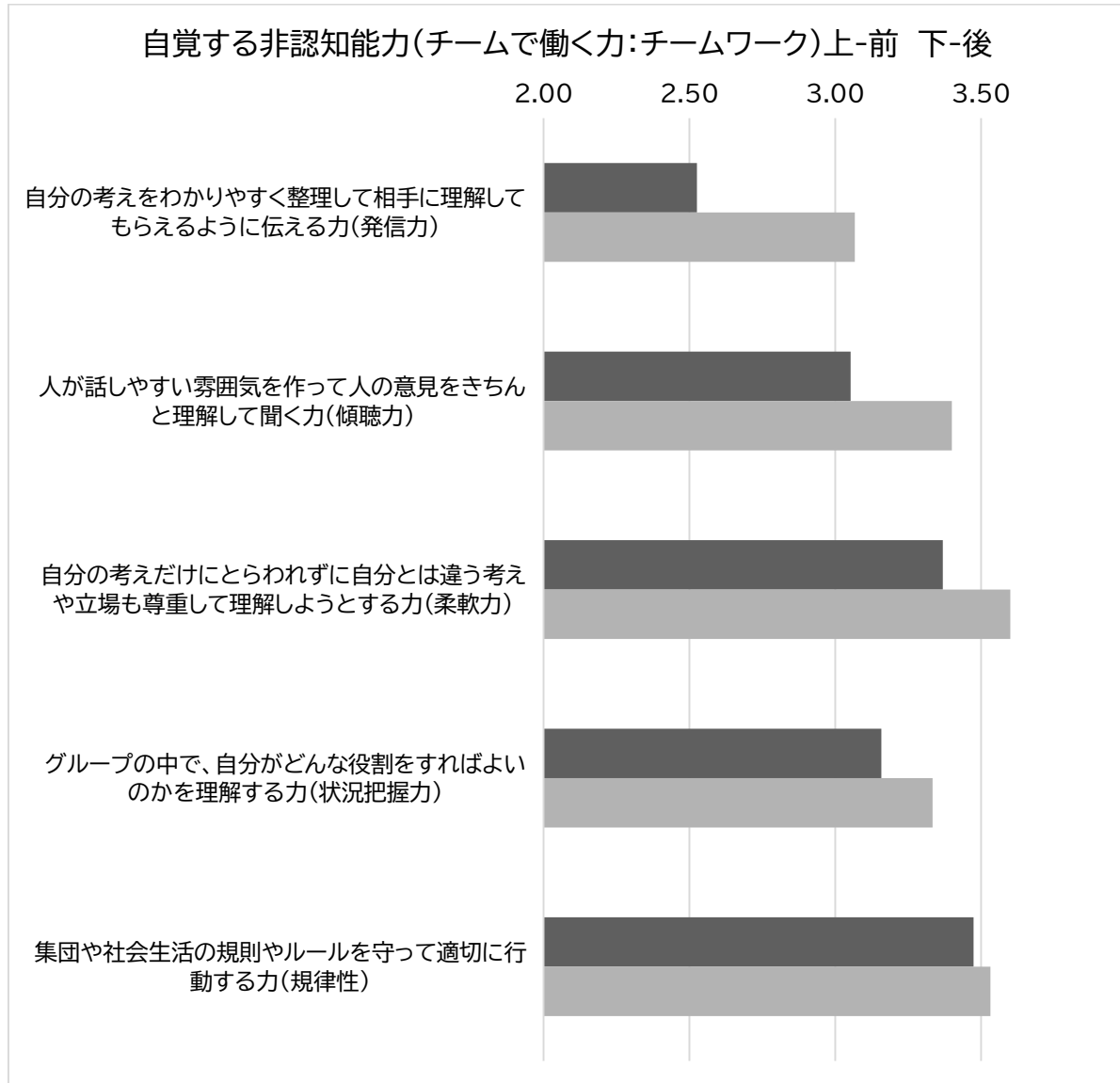
活動前後で、課題発見力と計画力に大きな変化はみられなかったが、創造力が大きく向上した。



＜チームで働く力（チームワーク）＞

活動前後で、自分の考えをわかりやすく整理して相手に理解してもらえるように伝える「発信力」、人が話しやすい雰囲気を作って人の意見をきちんと理解して聞く「傾聴力」に大きな変化があった。

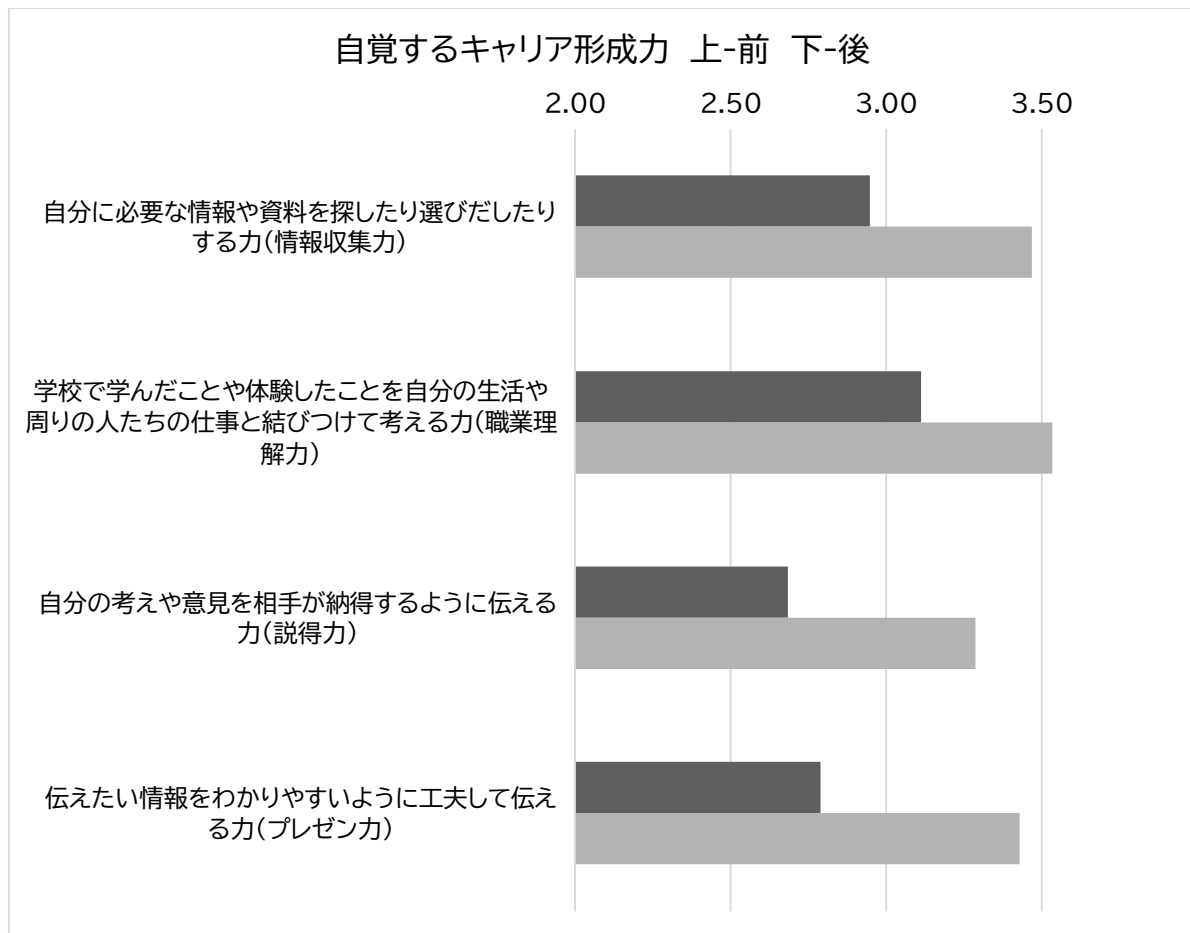
ボランティア活動担当教員は、発信力に変化はなかったと客観的評価をしている。



ボランティア参加前後の「キャリア形成力」の比較

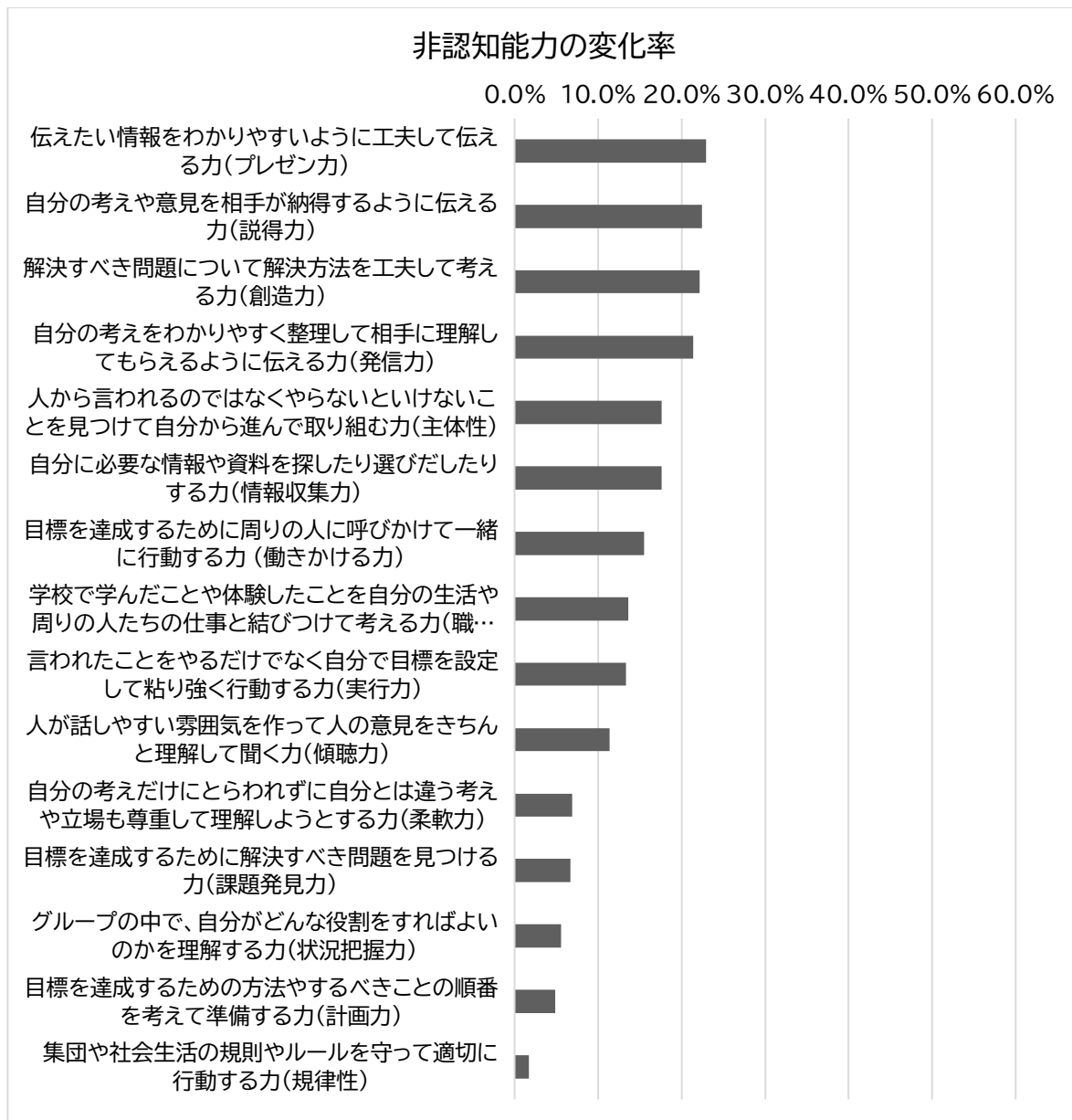
※12～15のアンケート項目は、文科省が掲げるキャリア形成力のうち1～11の項目に含まれない能力を採用している。いずれも、学校等で行われる試験で数値化が困難な「非認知能力」である。

活動前後で、すべての項目に変化があった。ボランティア活動担当教員もすべての項目が向上したと客観的評価をしており、一致している。



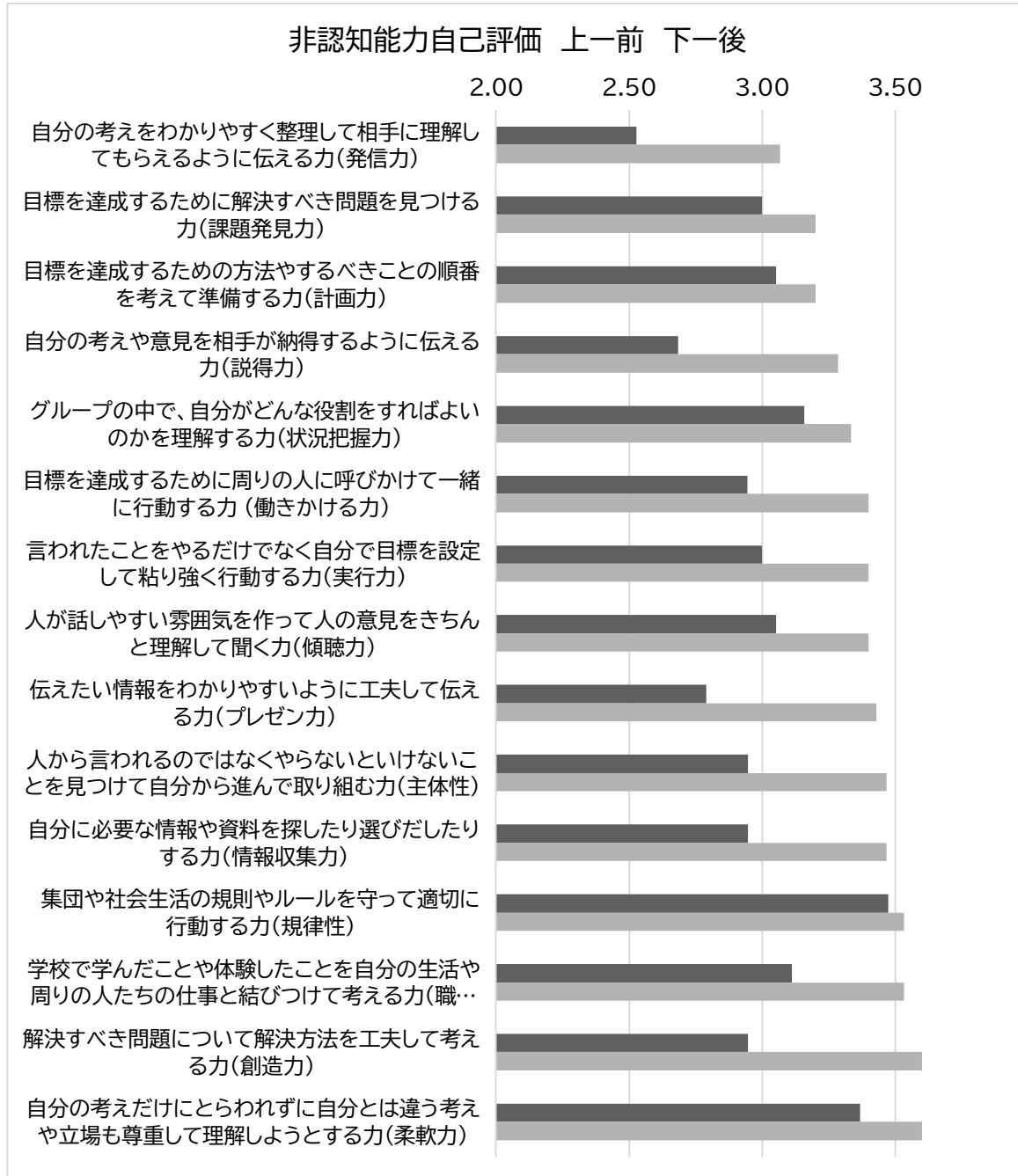
変化率の大きかった「非認知能力」

活動前後の変化率が20%を超えた項目は、「プレゼン力」「説得力」「創造力」「発信力」だった。



今後の活動課題としての「非認知能力」

ボランティア活動後の自己評価が低いのは、「発信力」、「課題発見力」「計画力」だった。この3つの能力向上は、今後のボランティア活動の重点課題になる。



3.6 中部農林高校職業意識プログラム前調査（2・1 年）

中部農林高校 1 年

日時 2024 年 9 月 5 日

対象 熱帯資源科 1 年生

人数 39 名（男 6 女 32 他 1）

（比較データ）

中部農林高校 2 年

日時 2024 年 9 月 6 日

対象 熱帯資源科動物コース 2 年生

人数 20 名（男 2 女 15 他 3）

3.6.1 将来の生き方や進路についての保護者との会話

将来の生き方や進路について保護者と「よく話し合っている」生徒が 20% だった。「ときどき話し合っている」と回答した割合を合わせると 72% で、2 年生（70%）ほぼ同じだった。

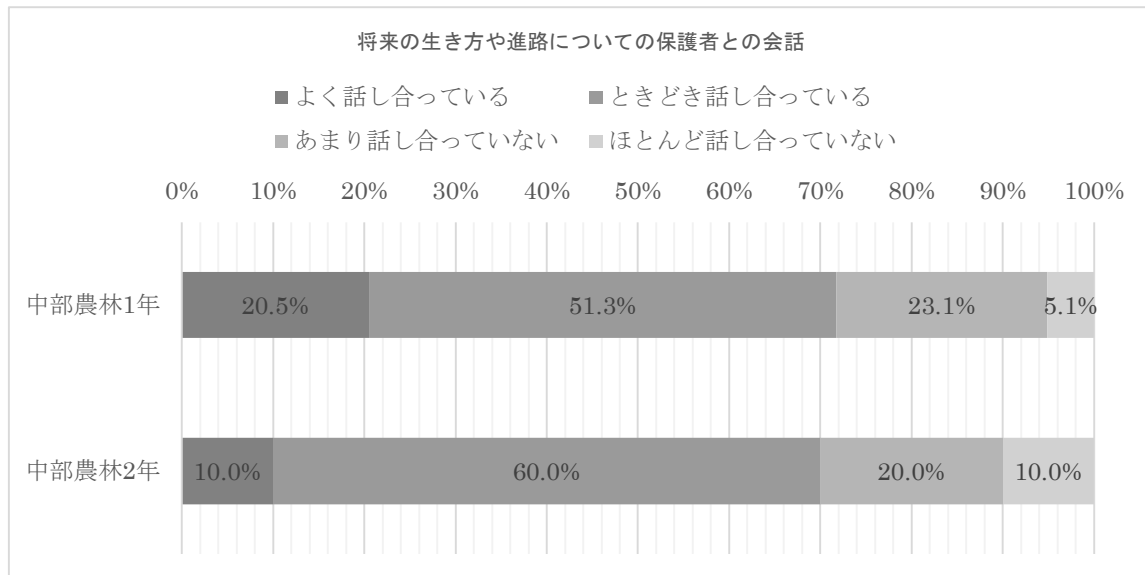


図 1 将来の生き方や進路についての保護者との会話

3.6.2 将来希望する職業を決めているか

将来希望する職業を、「はっきり決めている」「おおよそ決めている」と回答した割合は44%だった。

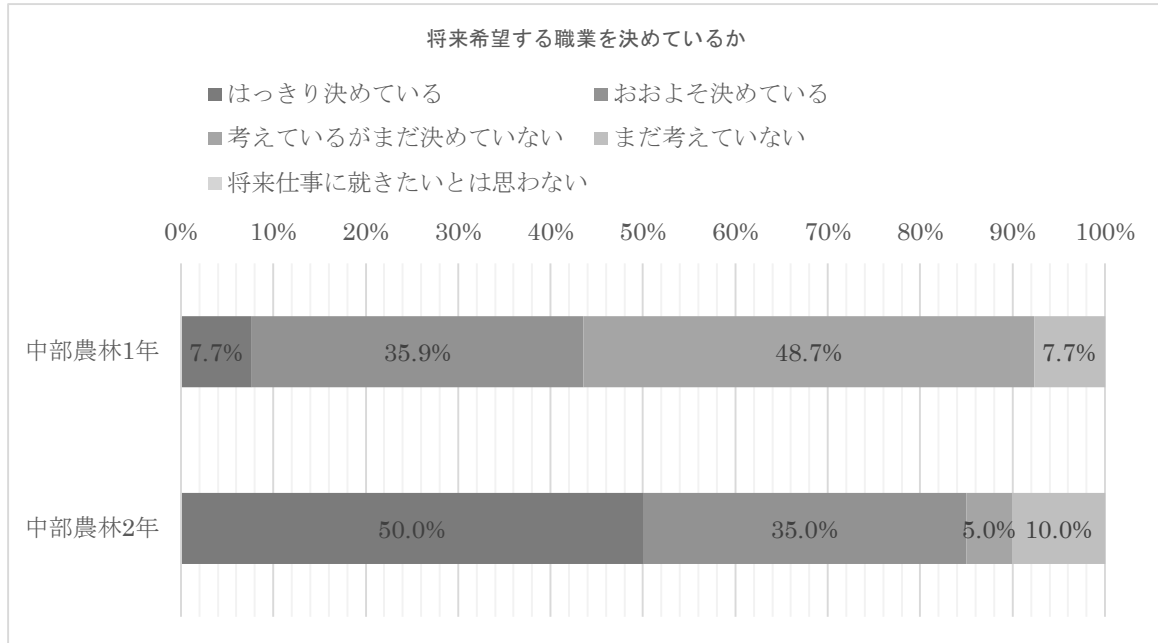


図2 将来希望する職業を決めているか

3.6.3 「仕事」「働くこと」のイメージ

1年生は、「楽しい」について、「とてもそう思う」「まあそう思う」が67%だった。
2年生は63%で、「全くそう思わない」生徒が16%いた。

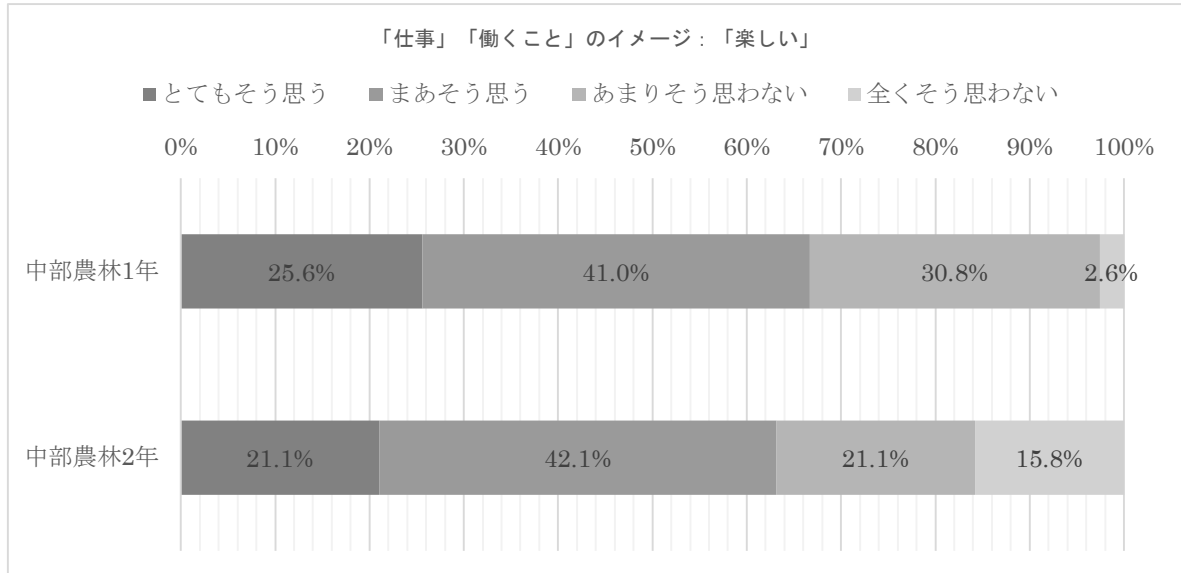


図3 「仕事」「働くこと」のイメージ：「楽しい」

1年生は、「苦しい」について、「とてもそう思う」「まあそう思う」が77%だった。
2年生は、100%だった。

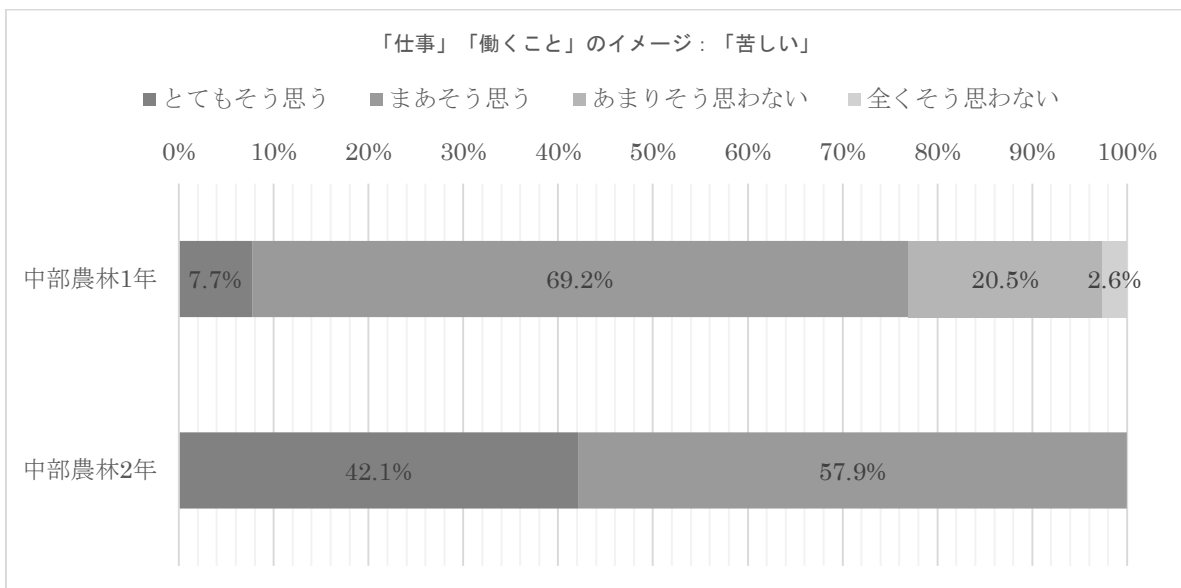


図4 「仕事」「働くこと」のイメージ：「苦しい」

1年生は、「やりがいがある」について「とてもそう思う」が41%だった。
2年生は、58%だった。

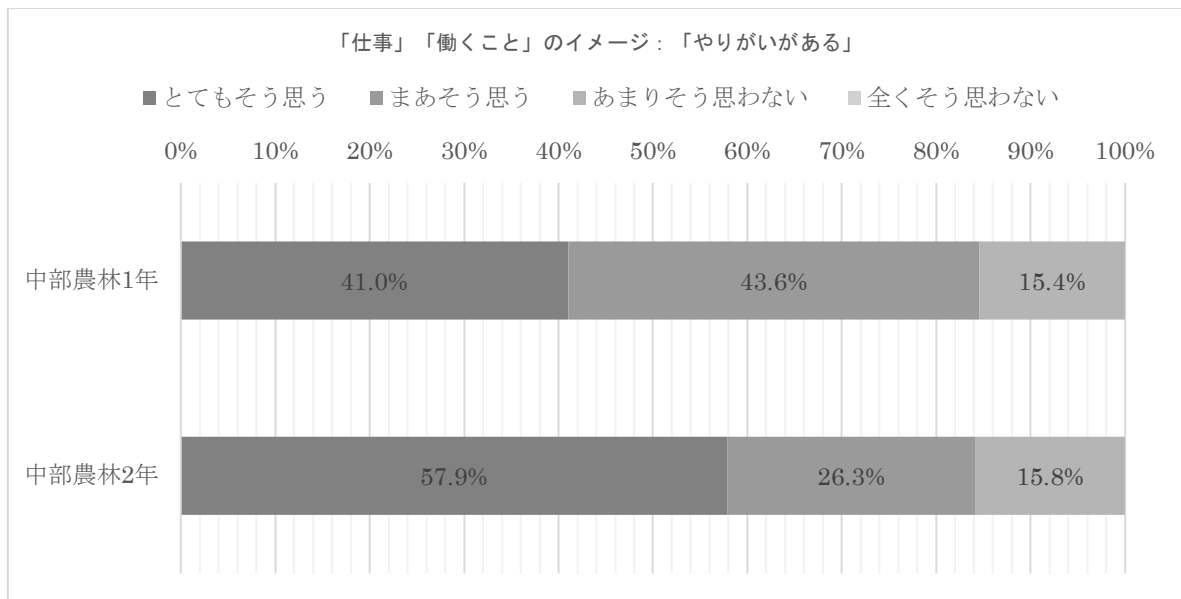


図5 「仕事」「働くこと」のイメージ：「やりがいがある」

1年生は、「つまらない」について、「とてもそう思う」「まあそう思う」が31%だった。
2年生は、47%だった。

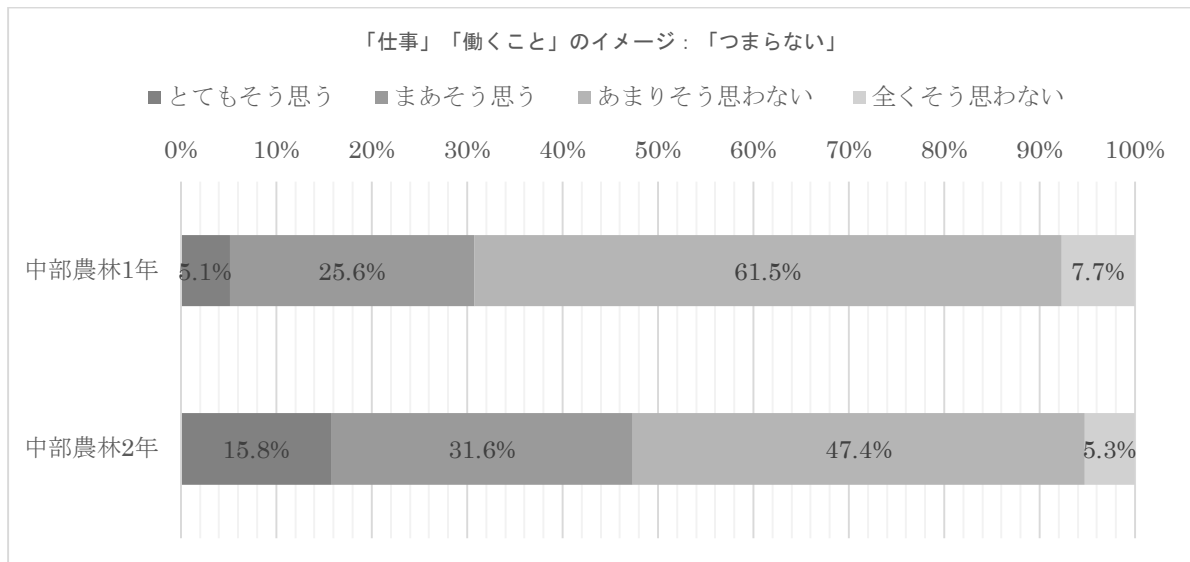


図6 「仕事」「働くこと」のイメージ：「つまらない」

1年生は、「生活のため」について、「とてもそう思う」が80%で「そう思う」と合わせると100%だった。

2年生は、「とてもそう思う」は26%だった。

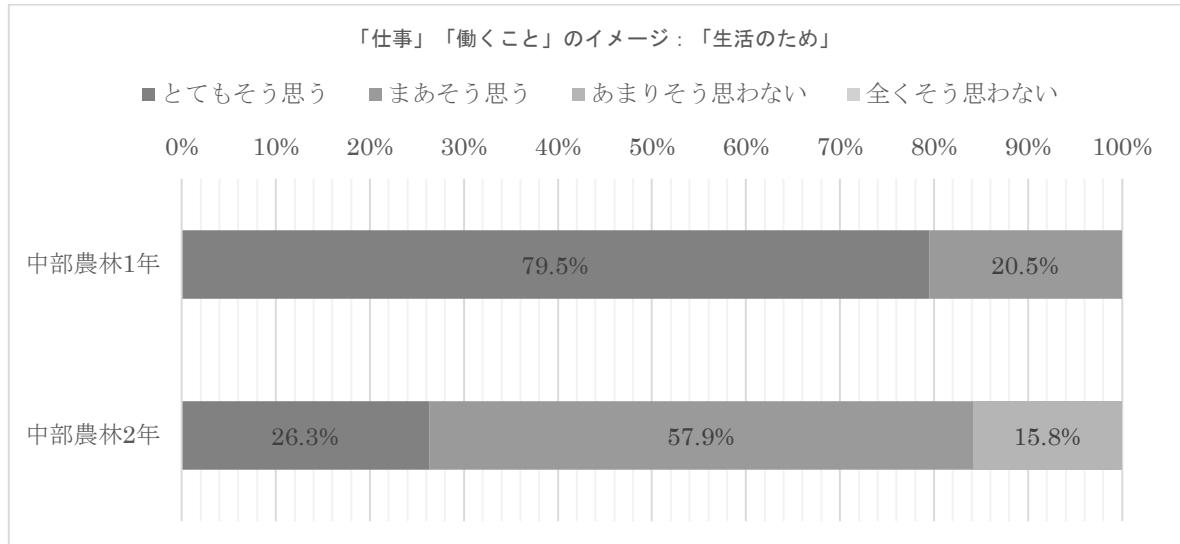


図7 「仕事」「働くこと」のイメージ：「生活のため」

1年生は、「社会人として当然なこと」について、「とてもそう思う」が26%だった。

2年生は42%だった。

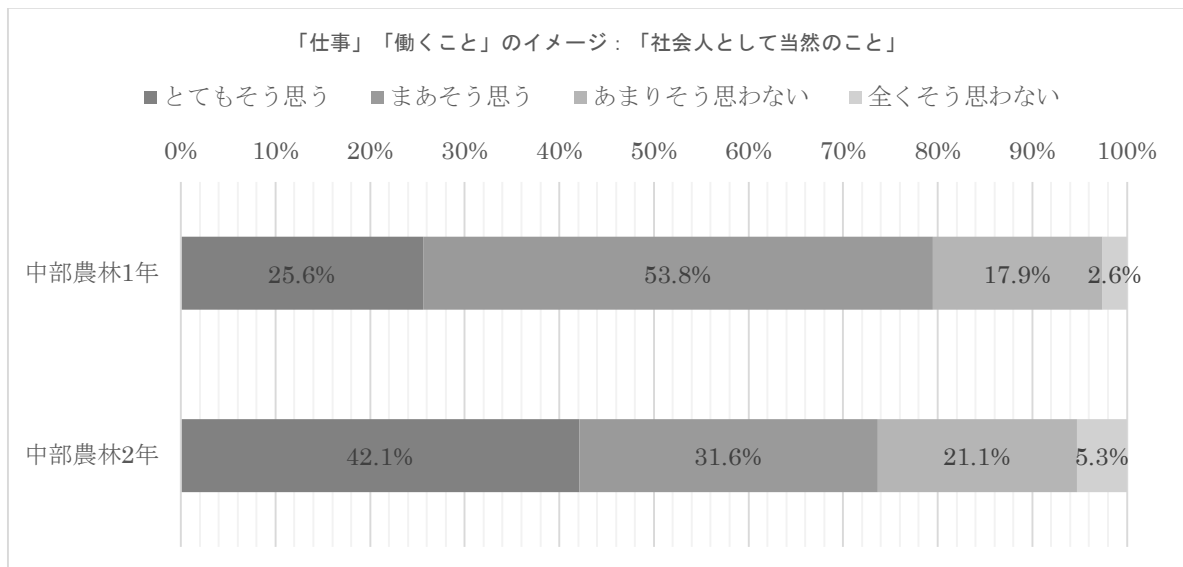


図8 「仕事」「働くこと」のイメージ：「社会人としての義務」

1年生は、「達成感がある」について、「とてもそう思う」が31%だった。
2年生は、47%だった。

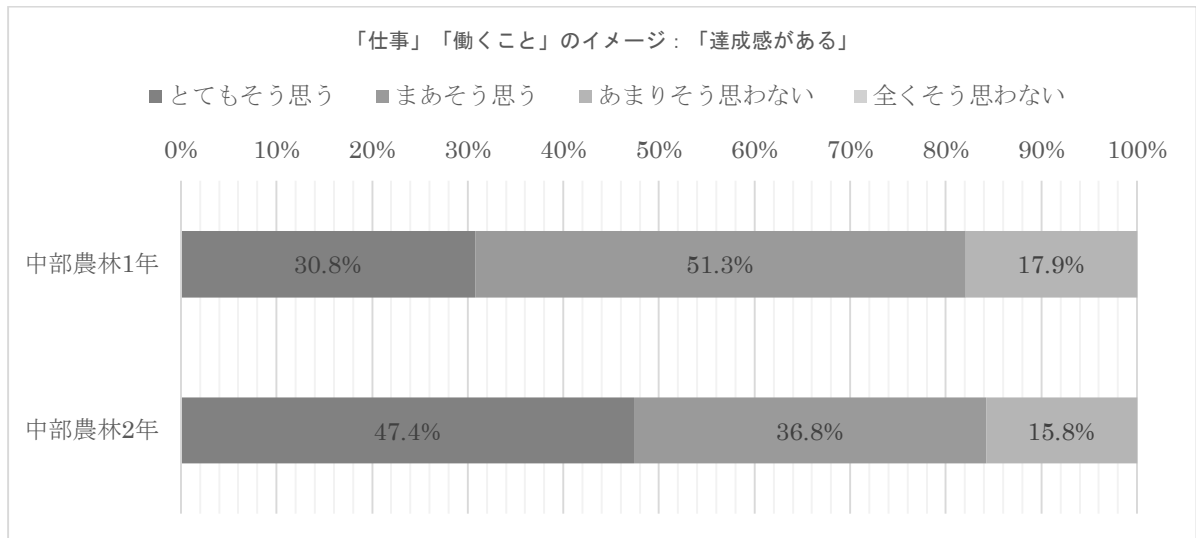


図9 「仕事」「働くこと」のイメージ：「達成感がある」

1年生は、「生きている充実感がある」について、「とてもそう思う」「まあそう思う」が64%だった。
2年生は、73%だった。

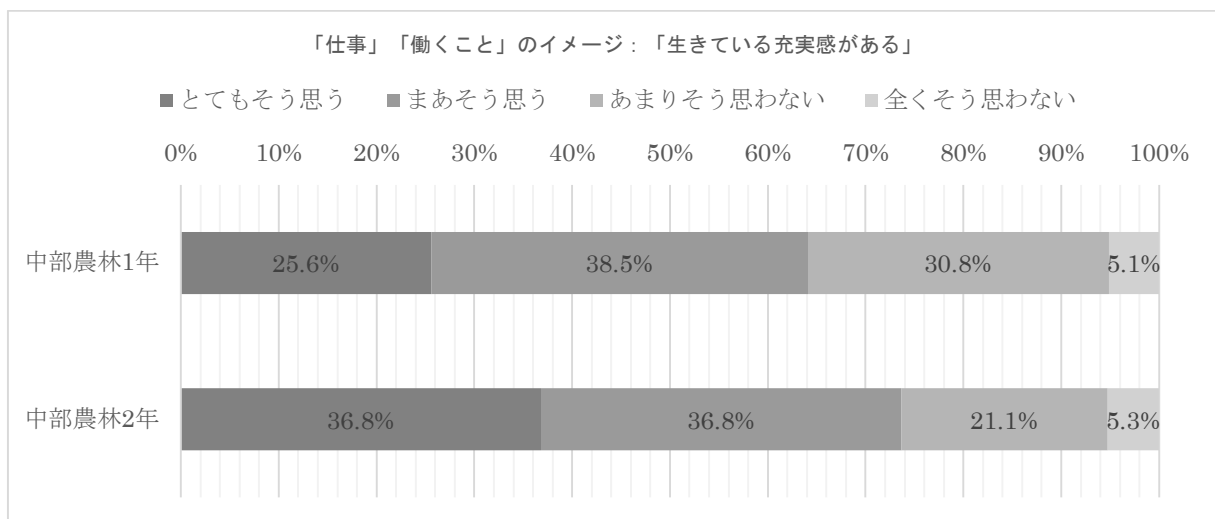


図10 「仕事」「働くこと」のイメージ：「生きている充実感がある」

1 年生は、「人や世の中のためになる」について、「とてもそう思う」「まあそう思う」が 85%だった。
2 年生は、68%だった。

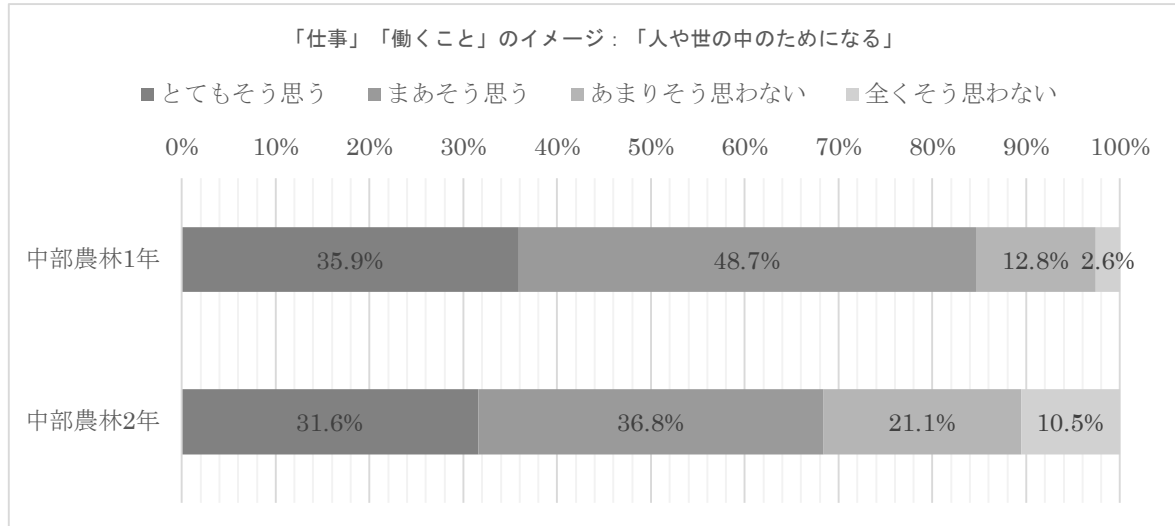


図 11 「仕事」「働くこと」のイメージ：「人や世の中のためになる」

働くことのイメージの6項目について、「とてもそう思う」と回答した割合をまとめた。

1年生は、「生活のため」が特に多かった。次いで「やりがいがある」だった。
 2年生は、「やりがいがある」が多く、次いで、「達成感がある」「苦しい」「社会人として当然」というイメージを持っている。
 「とてもそう思う」を集計しているので、1年生はまだ仕事に対するイメージが固まっていないことがうかがえる。

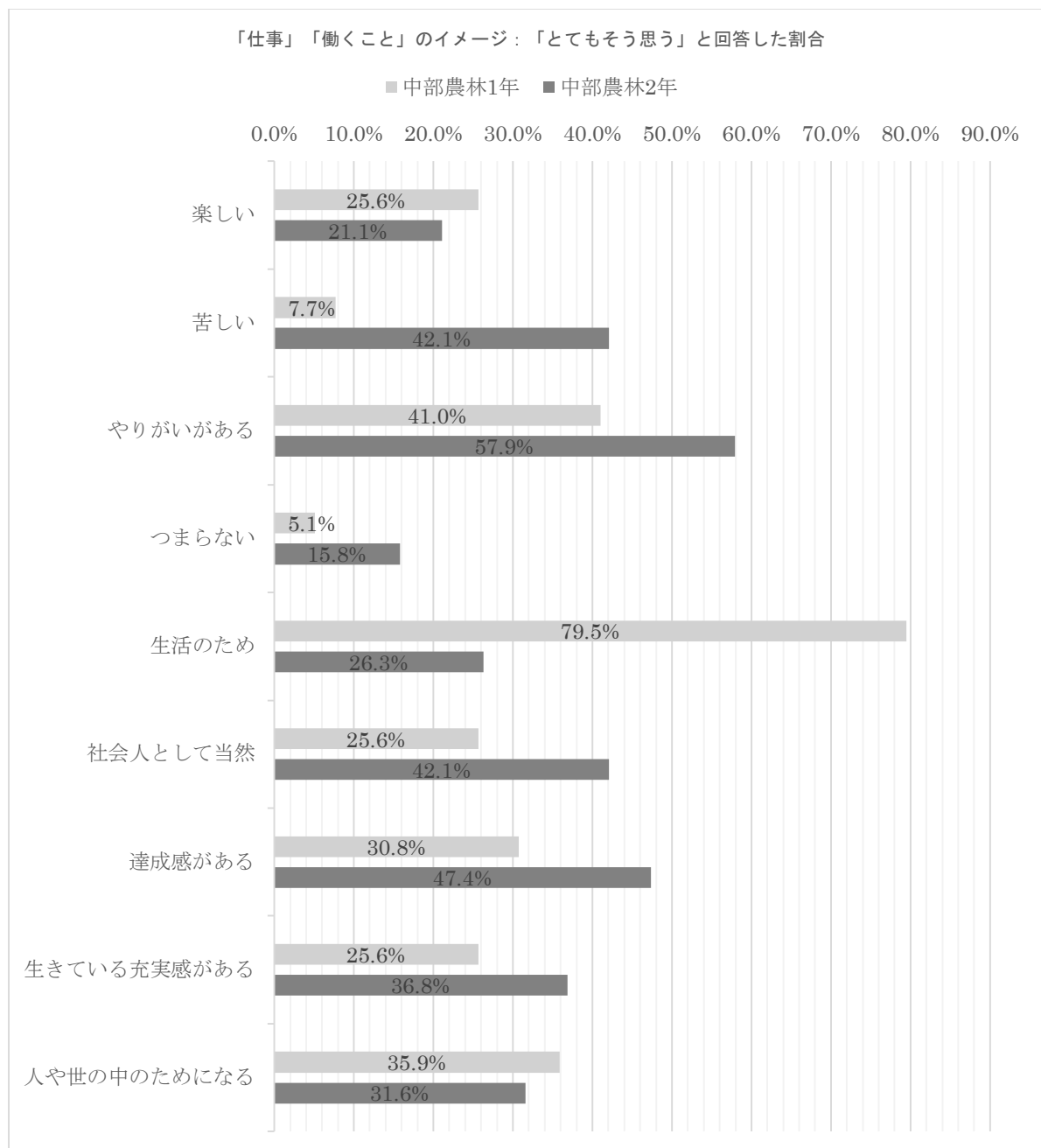


図 12 「仕事」「働くこと」のイメージで「とてもそう思う」と回答した割合

3.6.4 職業を選ぶにあたって重視すること

1年生は、「収入」について、「とても重要」が51%だった。
2年生は、65%だった。

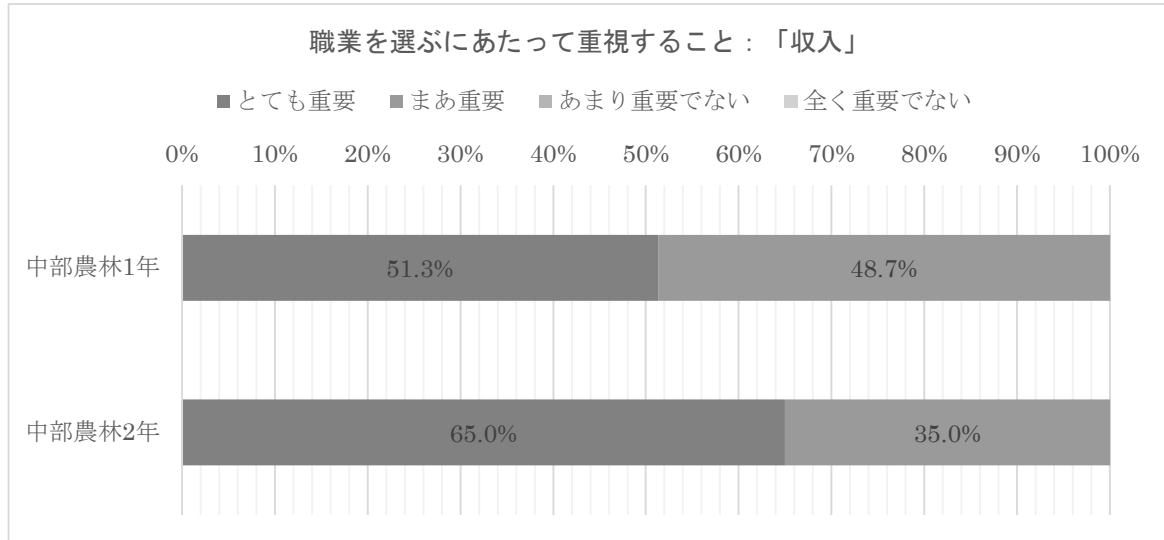


図 13 職業を選ぶにあたって重視すること：「収入」

1年生は、「社会的地位」について、「あまり重要でない」が59%だった。
2年生は、50%だった。

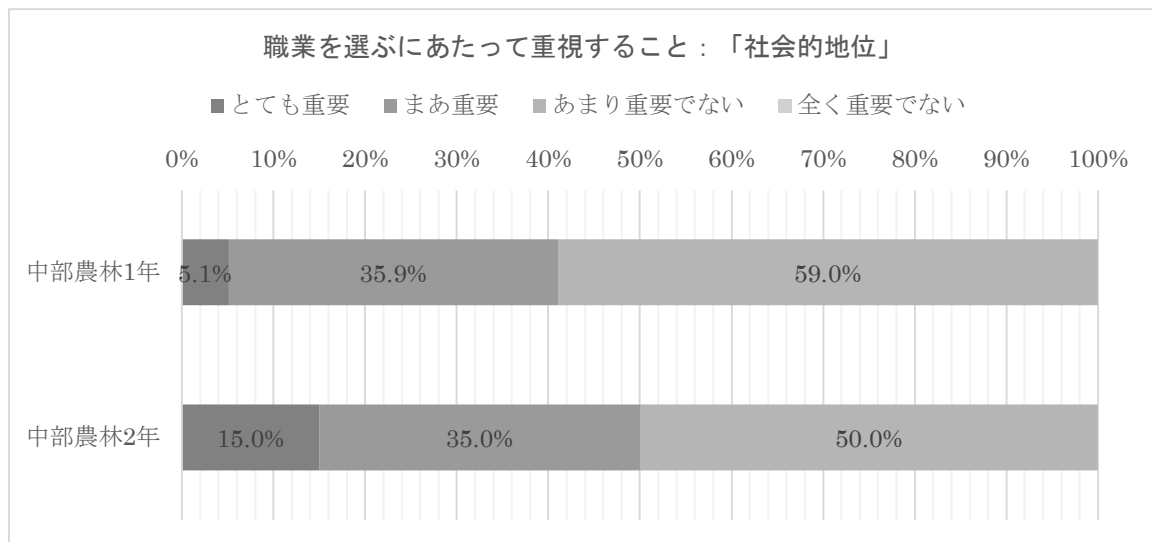


図 14 職業を選ぶにあたって重視すること：「社会的地位」

1年生は、「安定性」について、「とても重要」が49%だった。
2年生は、75%だった。

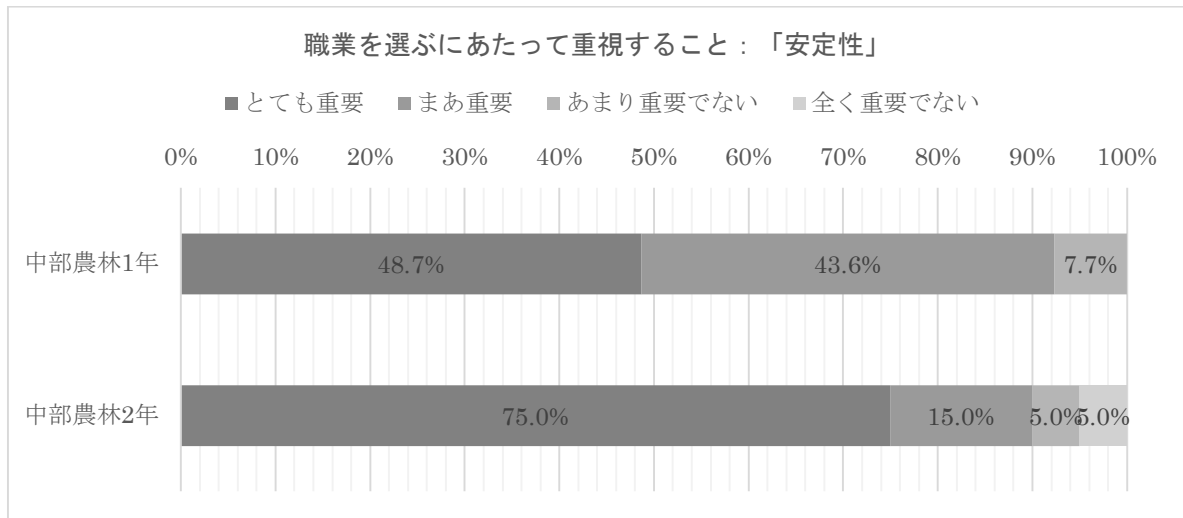


図 15 職業を選ぶにあたって重視すること：「安定性」

1年生は、「仕事の内容ややり方を自分で決められる」について、「とても重要」が26%だった。
2年生は、40%だった。

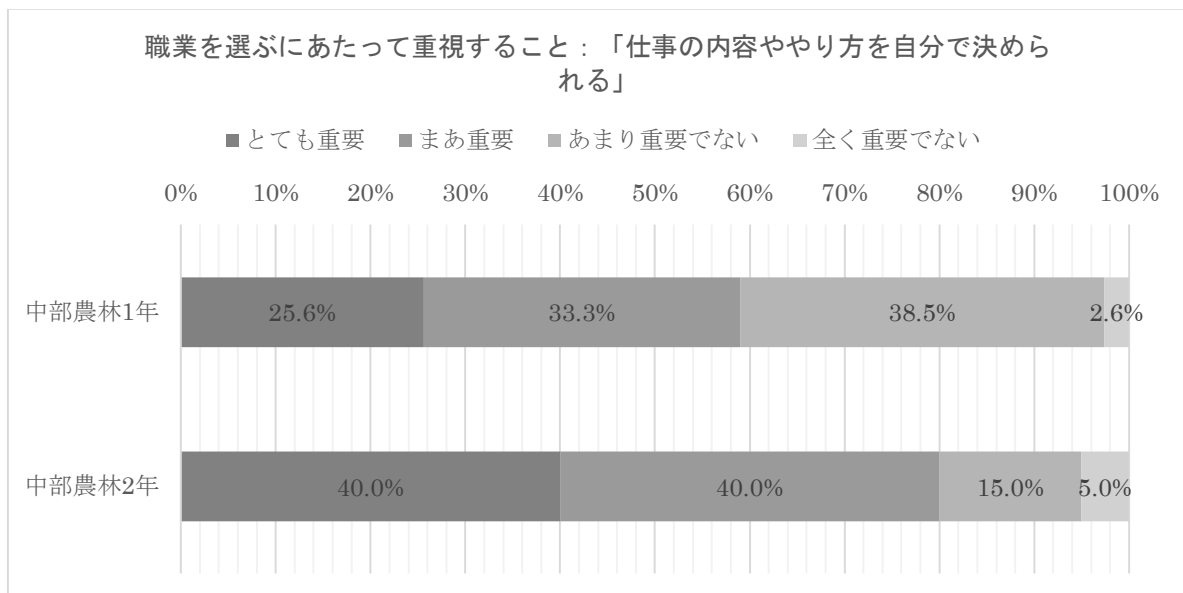


図 16 職業を選ぶにあたって重視すること：「仕事の内容ややり方を自分で決められる」

1年生は、「自分の興味や好みに合っていること」について、「とても重要」は54%だった。
2年生は、75%だった。

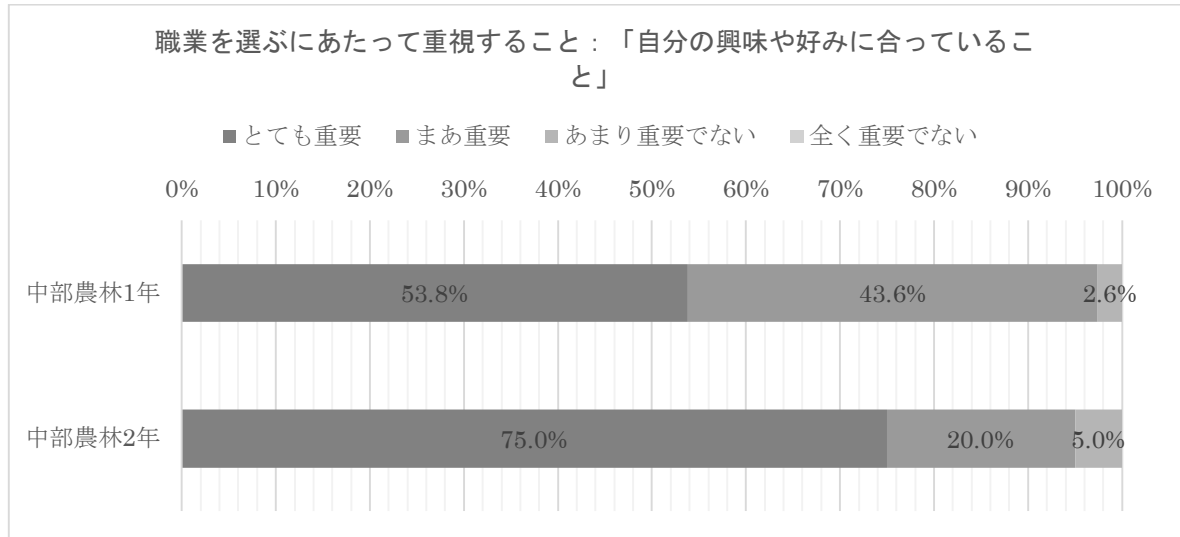


図 17 職業を選ぶにあたって重視すること：「自分の興味や好みに合っていること」

1年生は、「働く時間を自由に決めること」について、「とても重要」が15%だった。
2年生は、30%だった。

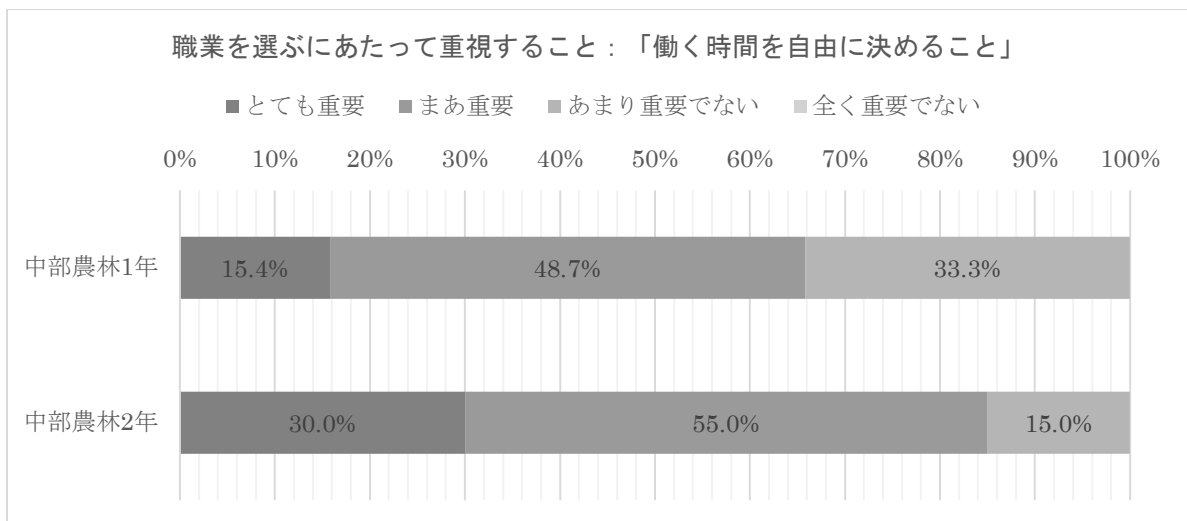


図 18 職業を選ぶにあたって重視すること：「働く時間を自由に決めること」

1年生は、「能力を発揮できること」について、「とても重要」が41%だった。
2年生は、55%だった。

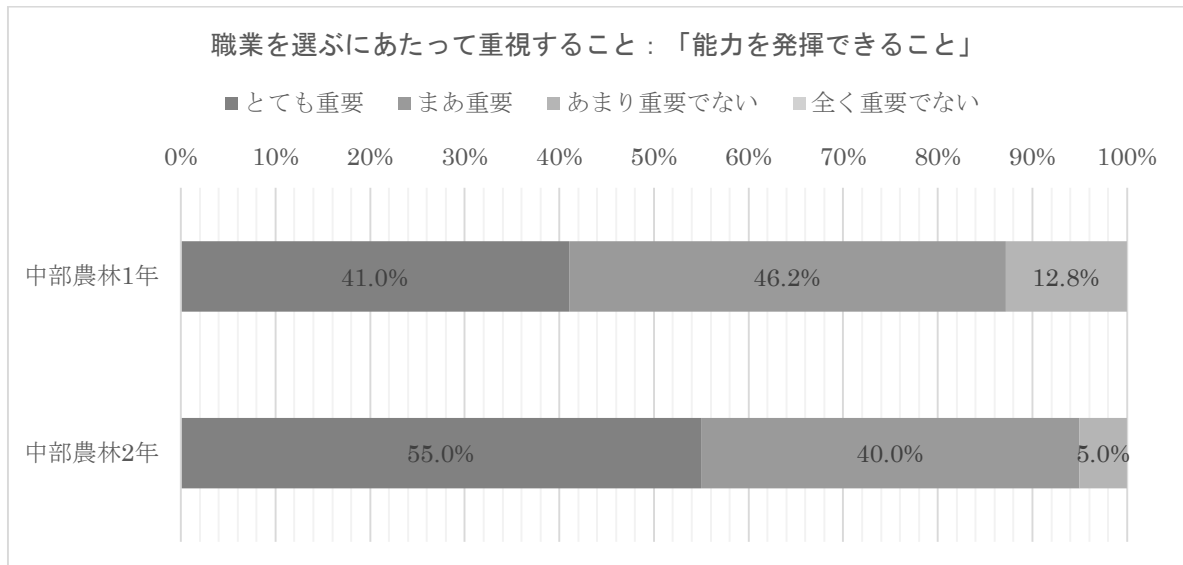


図 19 職業を選ぶにあたって重視すること：「能力を発揮できること」

1年生は、「社会や人のために役立ち貢献できること」について、「あまり重要でない」が23%だった。
2年生は、「全く重要でない」を加えた割合が30%だった。

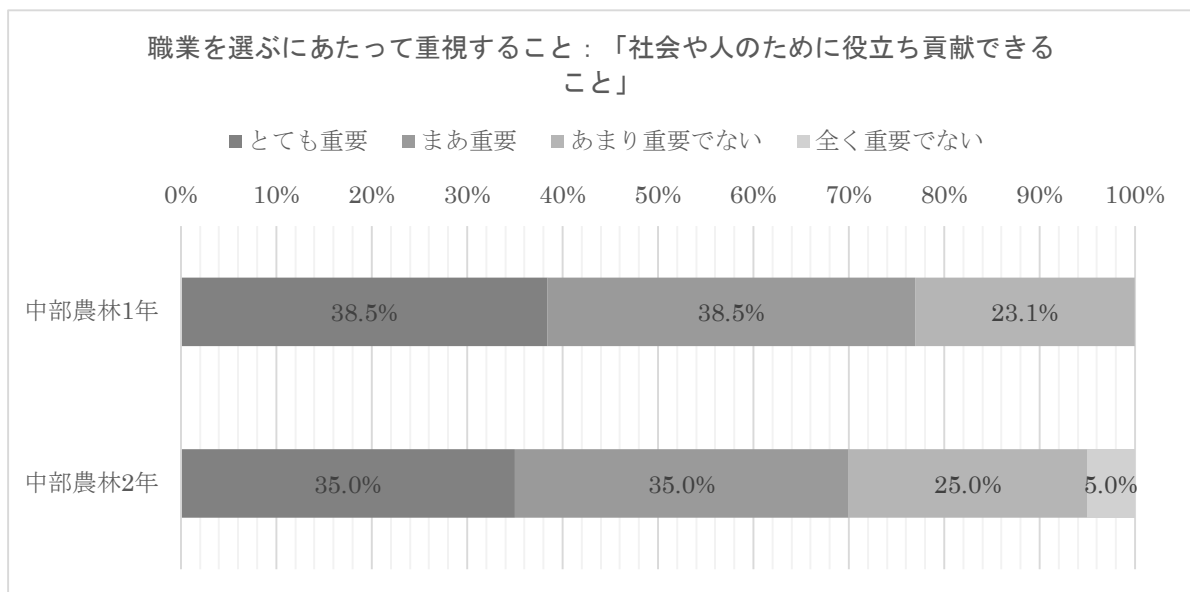


図 20 職業を選ぶにあたって重視すること：「社会や人のために役立ち貢献できること」

1年生は、「働きやすいこと（仕事の環境）」について、「とても重要」が77%だった。
2年生は、85%だった。

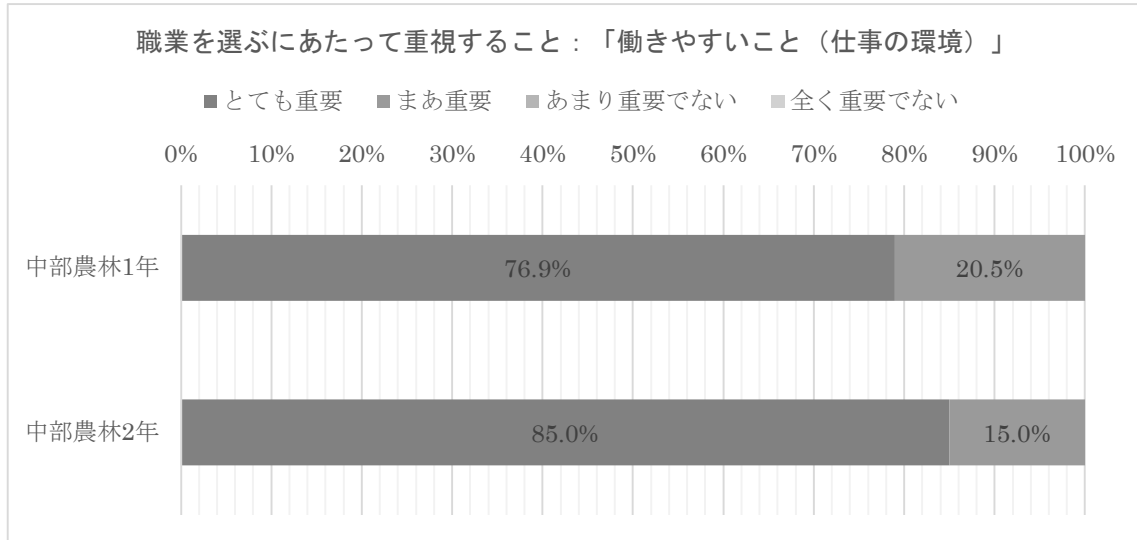


図 21 職業を選ぶにあたって重視すること：「働きやすいこと（仕事の環境）」

1年生は、「新しいことにチャレンジできること」について、「とても重要」「まあ重要」が64%だった。
2年生は、55%だった。

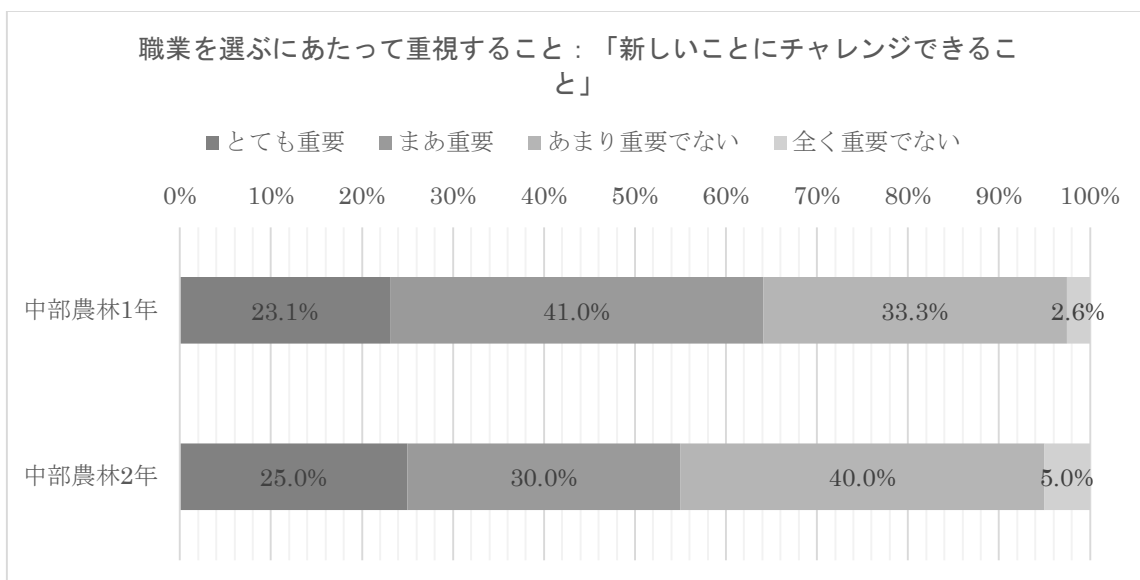


図 22 職業を選ぶにあたって重視すること：「新しいことにチャレンジできること」

1 年生は、「勤務地の場所」について、「とても重要」が 26%だった。
2 年生は 55%だった。

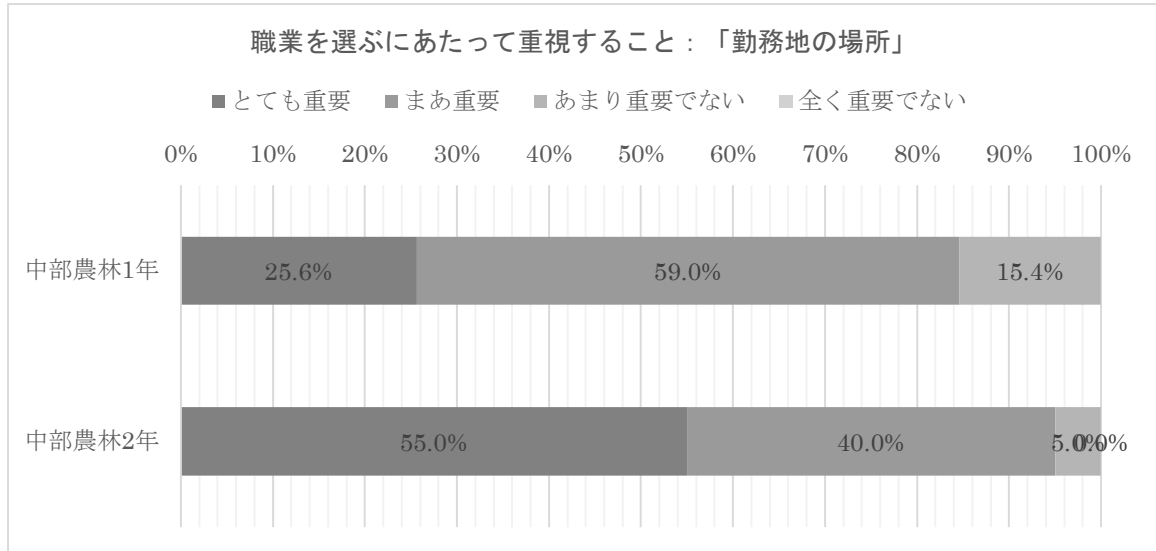


図 23 職業を選ぶにあたって重視すること：「勤務地の場所」

職業を選ぶ際に重視することの 11 項目について、「とても重要」と回答した割合をまとめた。

1 年生、2 年生ともに、「働きやすく」、「安定」した「収入」を得ることができる「自分の興味や好みに合う」職業を選ぶ傾向がうかがえる。

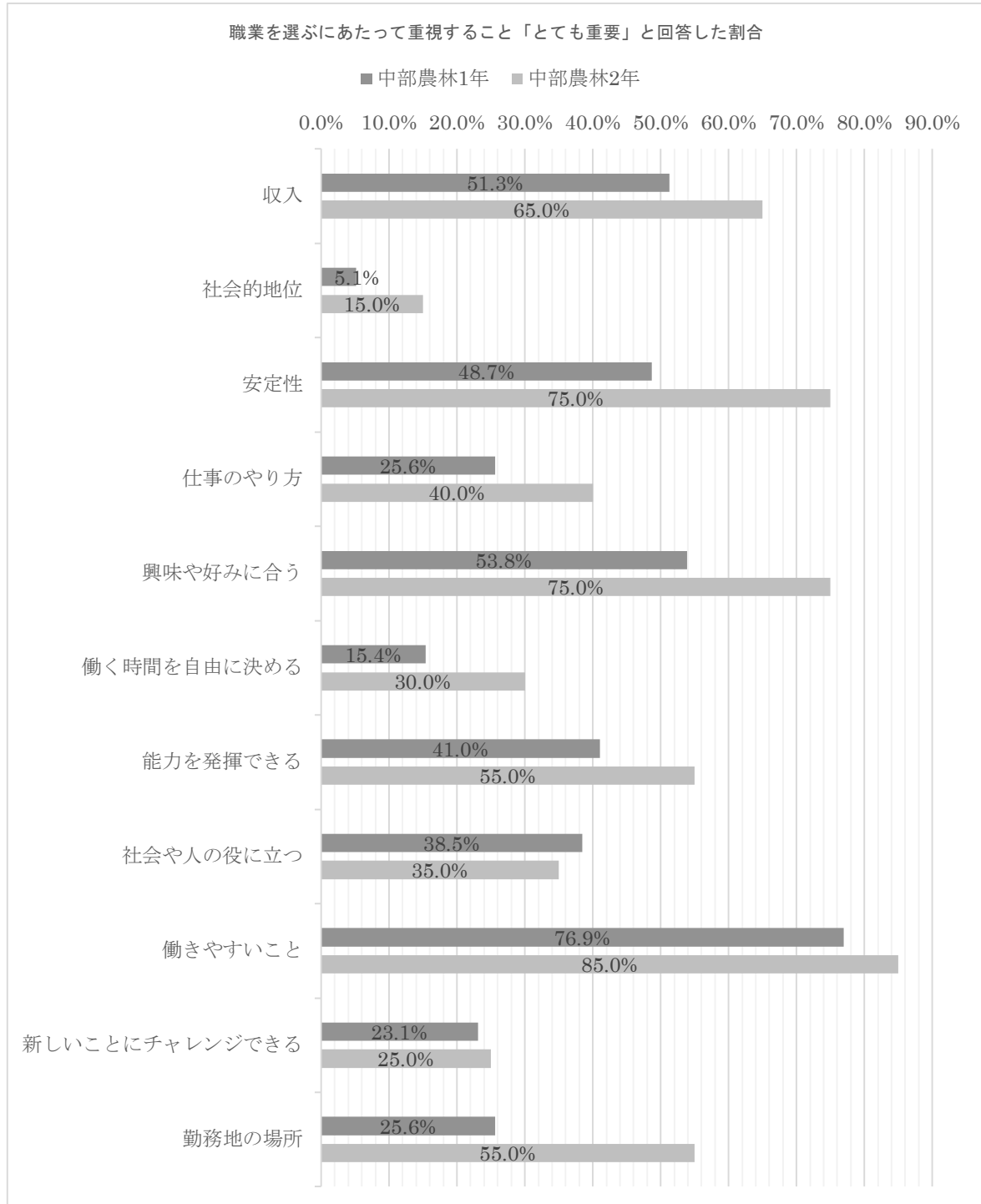


図 24 職業を選ぶにあたって重視することで「とても重要」と回答した割合

3.6.5 希望する勤務地

1 年生は、「希望する勤務地」について、県内に希望する生徒は 58%だった。
2 年生は、70%だった。

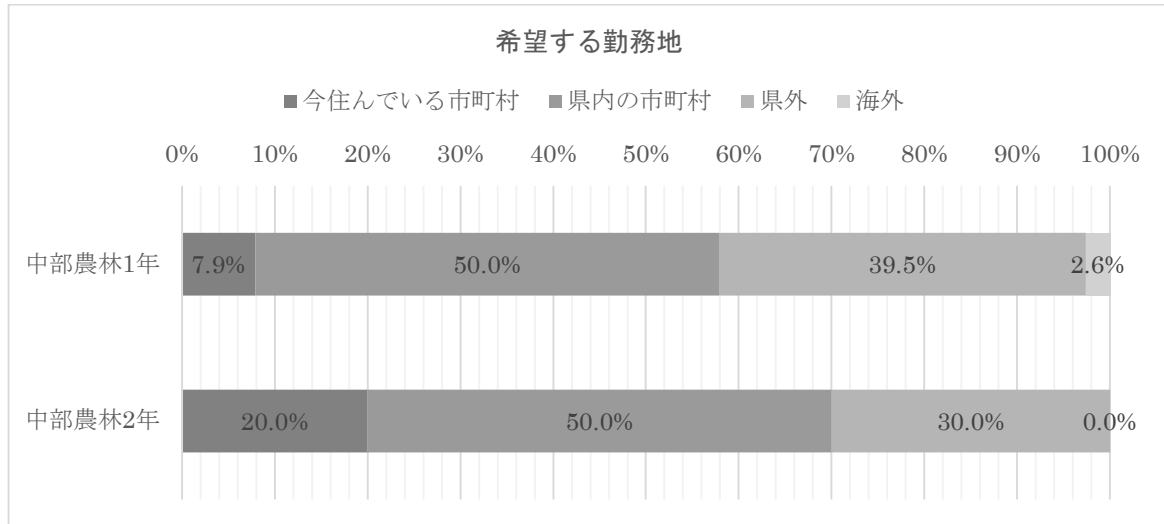


図 25 希望する勤務地

3.6.6 仕事に関する意識・考え

1 年生は、「やりたいことに困難があっても挑戦したい」について、「とてもそう思う」「まあそう思う」が82%だった。
2 年生は、65%だった。

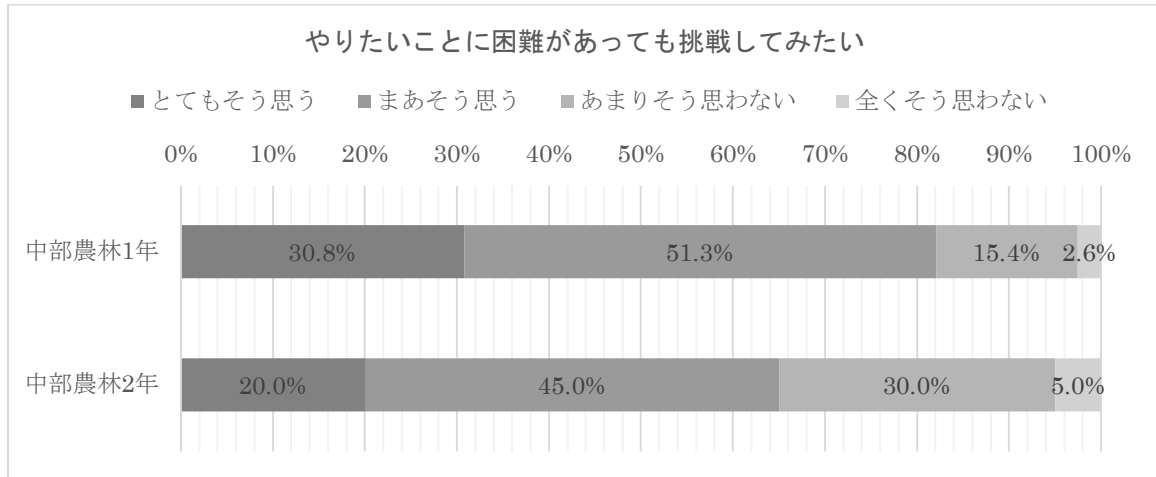


図 26 やりたいことに困難があっても挑戦したい

1 年生は、「若いうちはいろいろな仕事を体験したい」について、「とてもそう思う」「まあそう思う」が82%だった。
2 年生も 1 年生とほぼ同じ傾向になった。

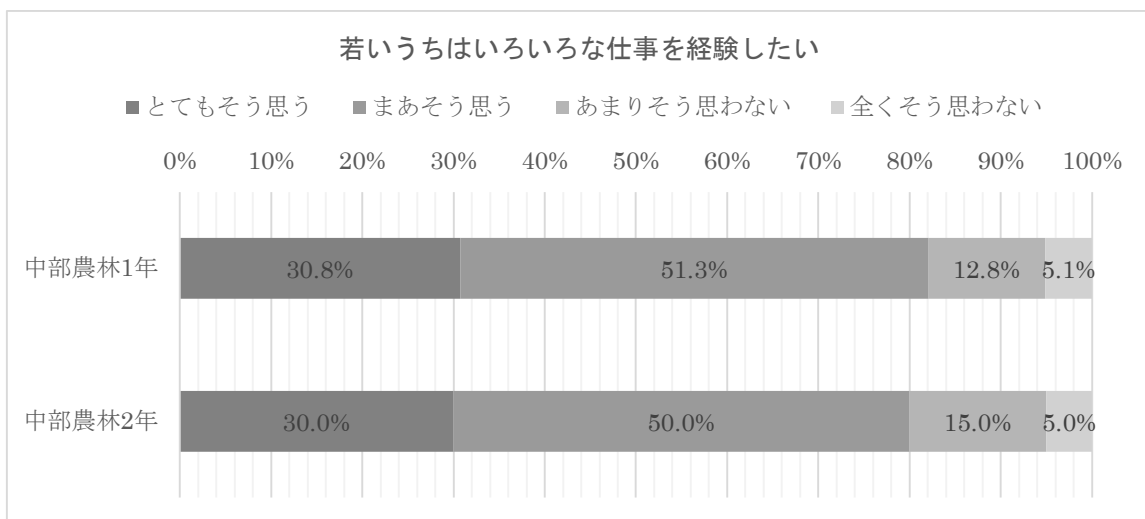


図 27 若いうちはいろいろな仕事を体験したい

1年生は、「暮らしていける収入があればのんびり暮らしたい」について、「とてもそう思う」が72%だった。
2年生は、80%だった。

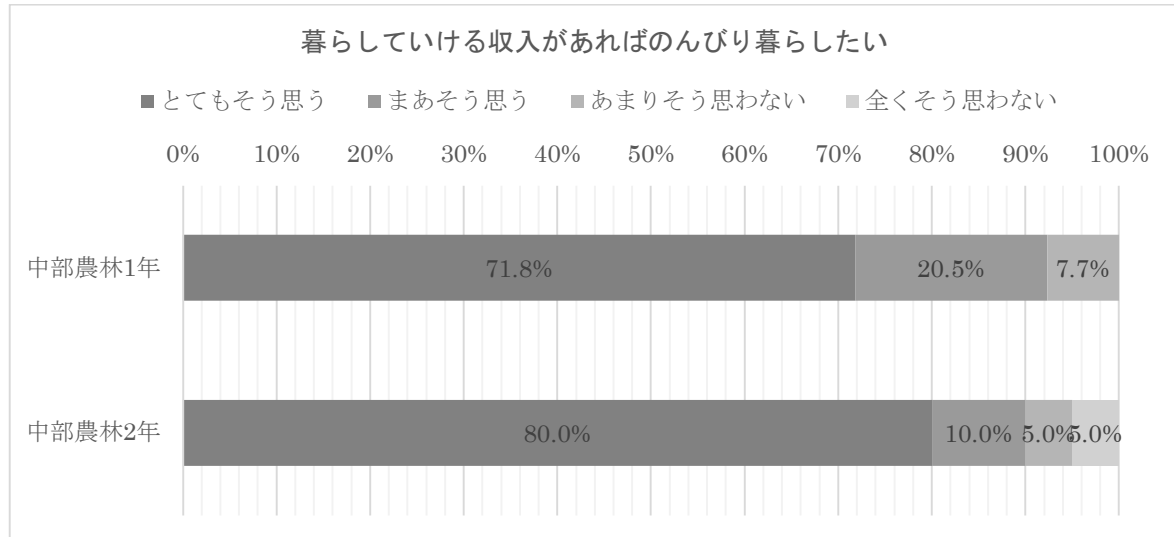


図 28 暮らしていける収入があればのんびり暮らしたい

1年生は、「仕事よりも自分の趣味や自由な時間を大切にしたい」について、「とてもそう思う」が41%だった。
2年生は、50%だった。

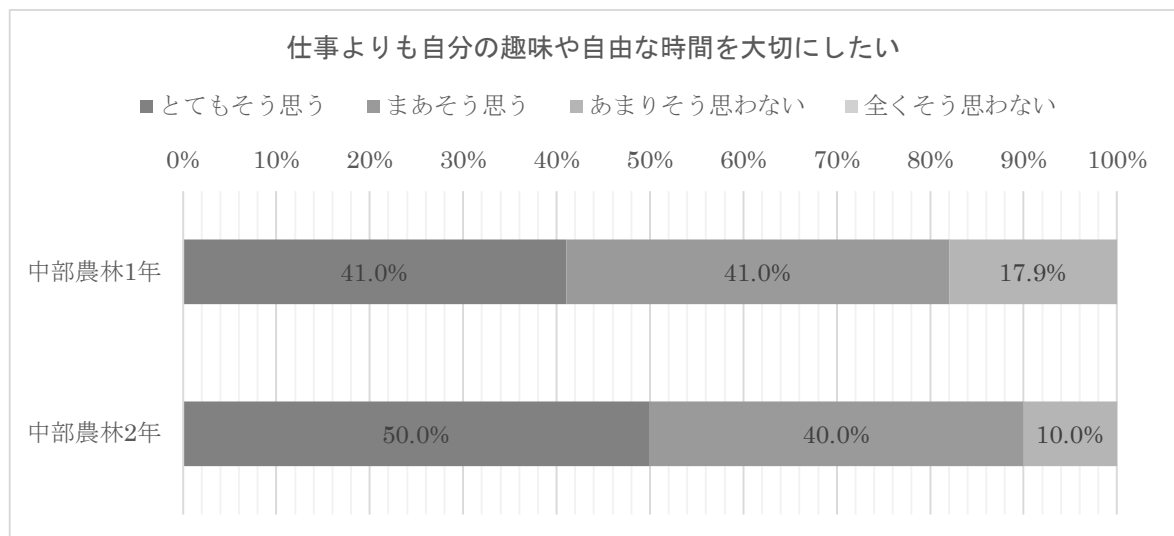


図 29 仕事よりも自分の趣味や自由な時間を大切にしたい

1 年生は、「自分の会社や店を作りたい」について、「とてもそう思う」が 15%だった。
2 年生は、10%だったがほぼ同じ傾向だった。

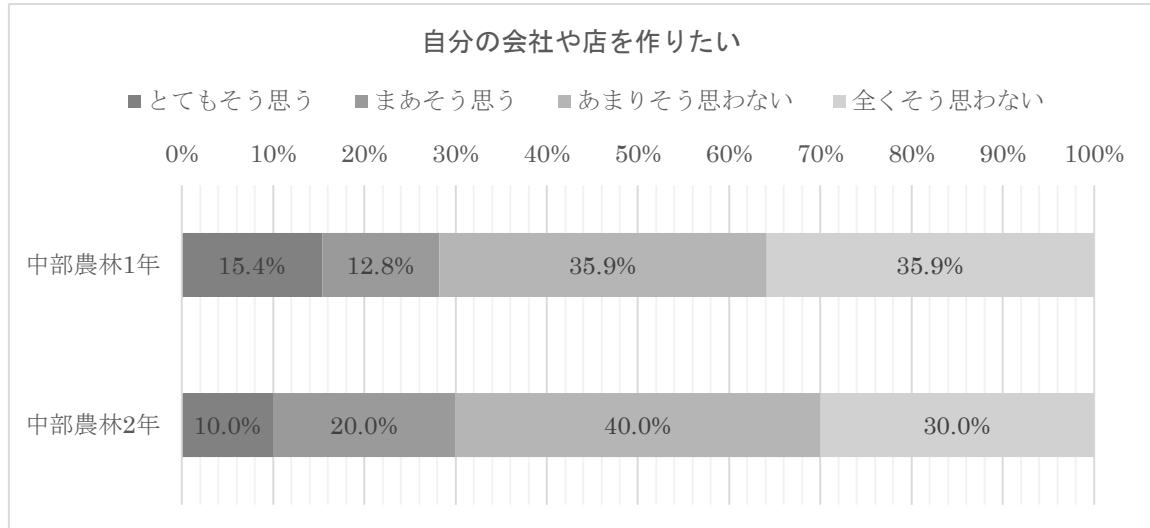


図 30 自分の会社や店を作りたい

1 年生は、「学歴より技術や技能を身につけることが大事だ」について、「とてもそう思う」が 23%だった。
2 年生は、55%だった。

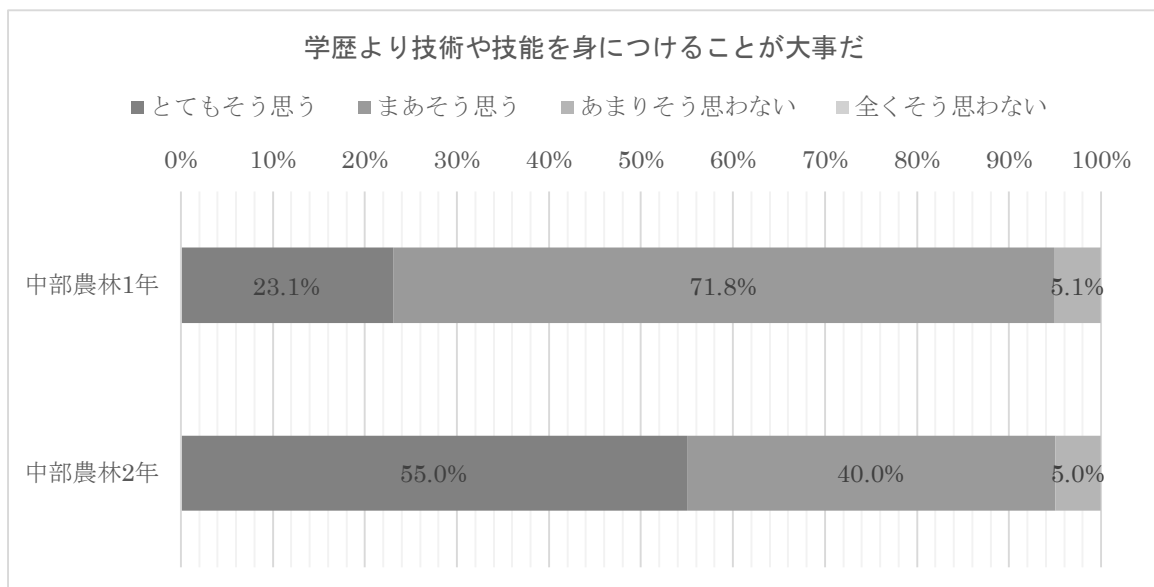


図 31 学歴より技術や技能を身につけることが大事だ

1年生は、「周りに反対されても自分がやりたいことをしたい」について、「とても思う」が49%だった。
2年生は、40%だった。

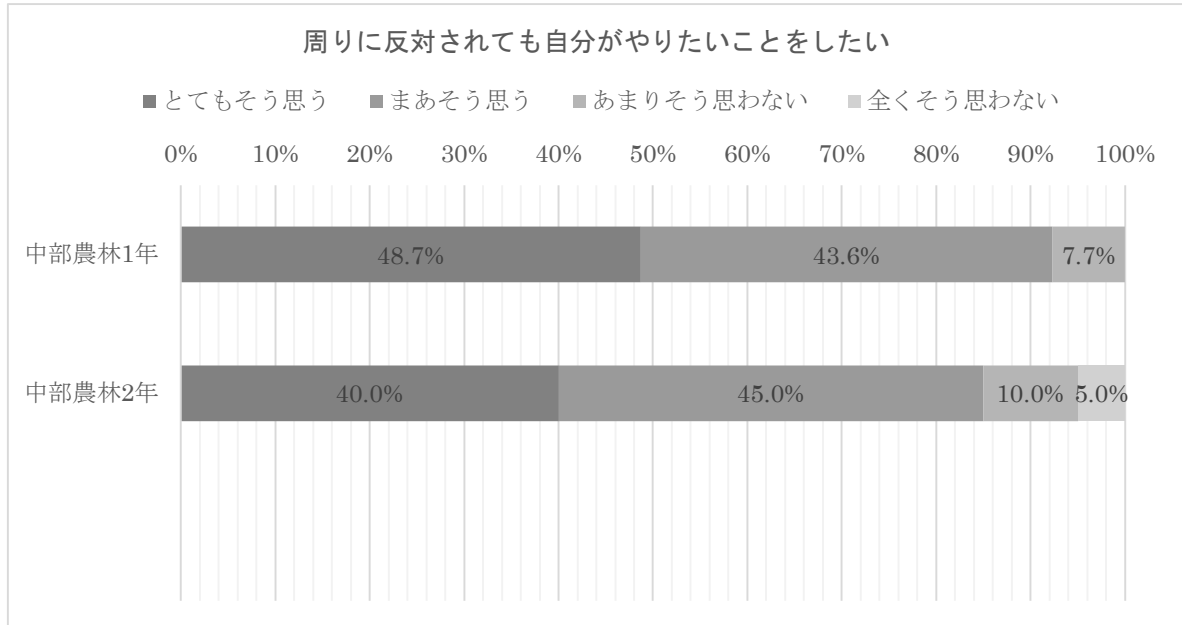


図 32 周りに反対されても自分がやりたいことをしたい

1年生は、「地元で仕事や生活をしたい」について、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」が44%だった。
2年生は、25%だった。

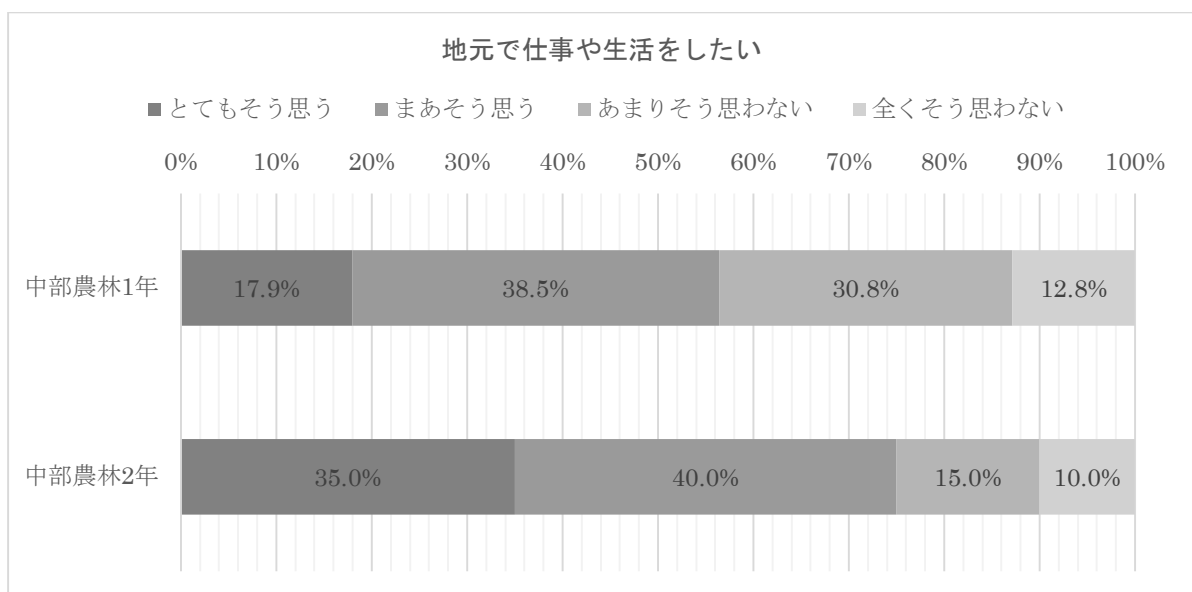


図 33 地元で仕事や生活をしたい

1年生は、「社会に役立つ仕事をしたい」について、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」が15%だった。
2年生は、50%だった。

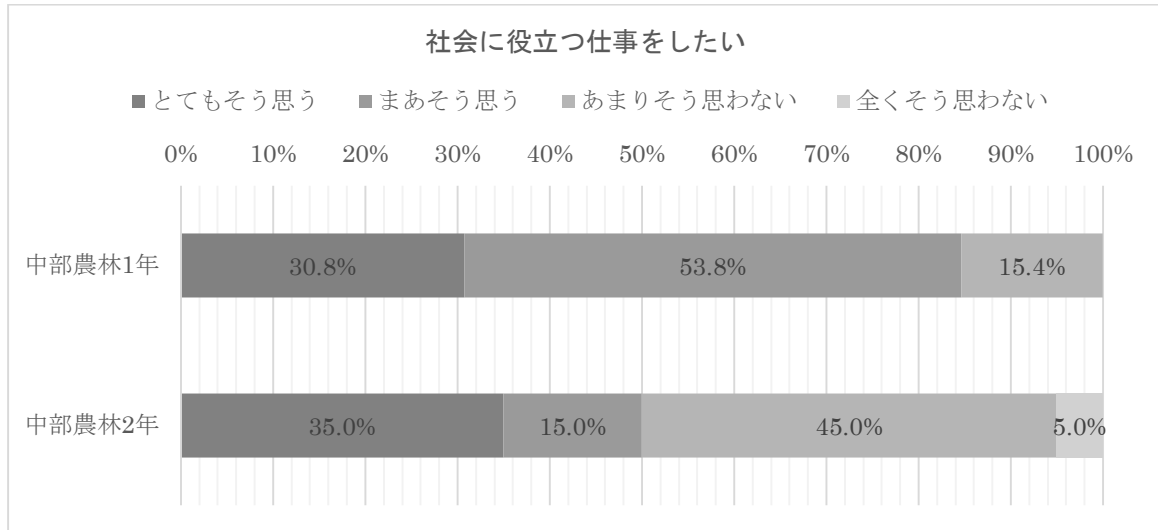


図 34 社会に役立つ仕事をしたい

1年生は、「できるだけ高い地位につきたい」について、「とてもそう思う」「まあそう思う」が23%だった。
2年生は30%だった。

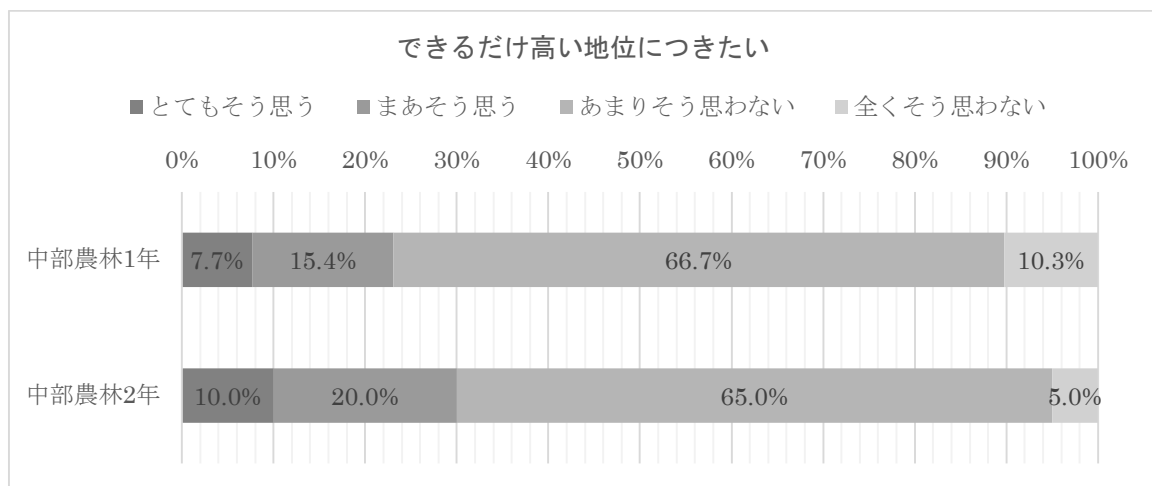


図 35 できるだけ高い地位につきたい

1 年生は、「よりよい職場があれば積極的に転職した方がよい」について、「とてもそう思う」「まあそう思う」が79%だった。
2 年生は、70%だった。

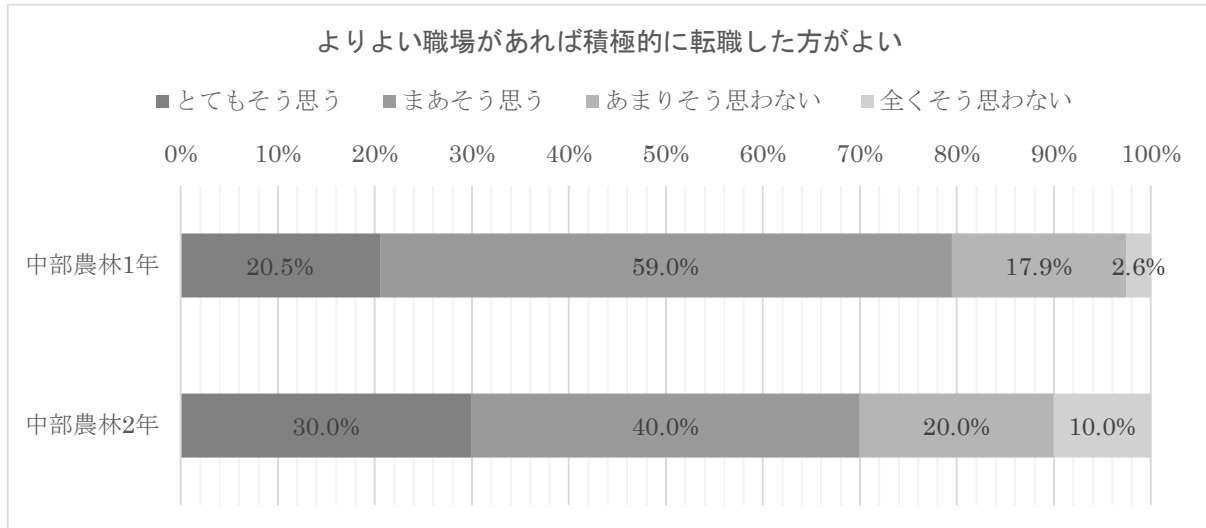


図 36 よりよい職場があれば積極的に転職した方がよい

「望む仕事につけなくてもがまんして働くべきだ」について、「とてもそう思う」「まあそう思う」が26%だった。
2 年生は、40%だった。

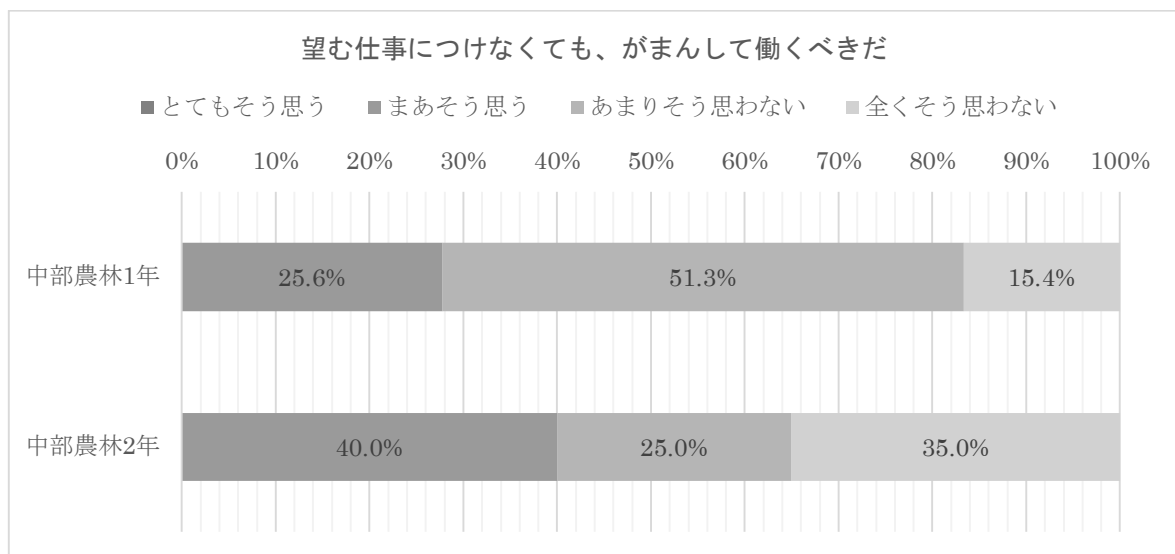


図 37 望む仕事につけなくても、がまんして働くべきだ

仕事に関する意識・考えの12項目について、「とてもそう思う」と回答した割合をまとめた。

1年生・2年生ともに「暮らしていける収入があればのんびり暮らしたい」と思い、「仕事よりも自分の趣味や自由な時間を大切にしたい」「周りに反対されても自分がやりたいことをしたい」という大きな傾向があった。

特に相違がみられた項目は、「地元で仕事や生活をしたい」が1年生で低かった。また、「やりたいことに困難があっても挑戦したい」「若いうちはいろいろな仕事を体験したい」が、1年生が高かった。

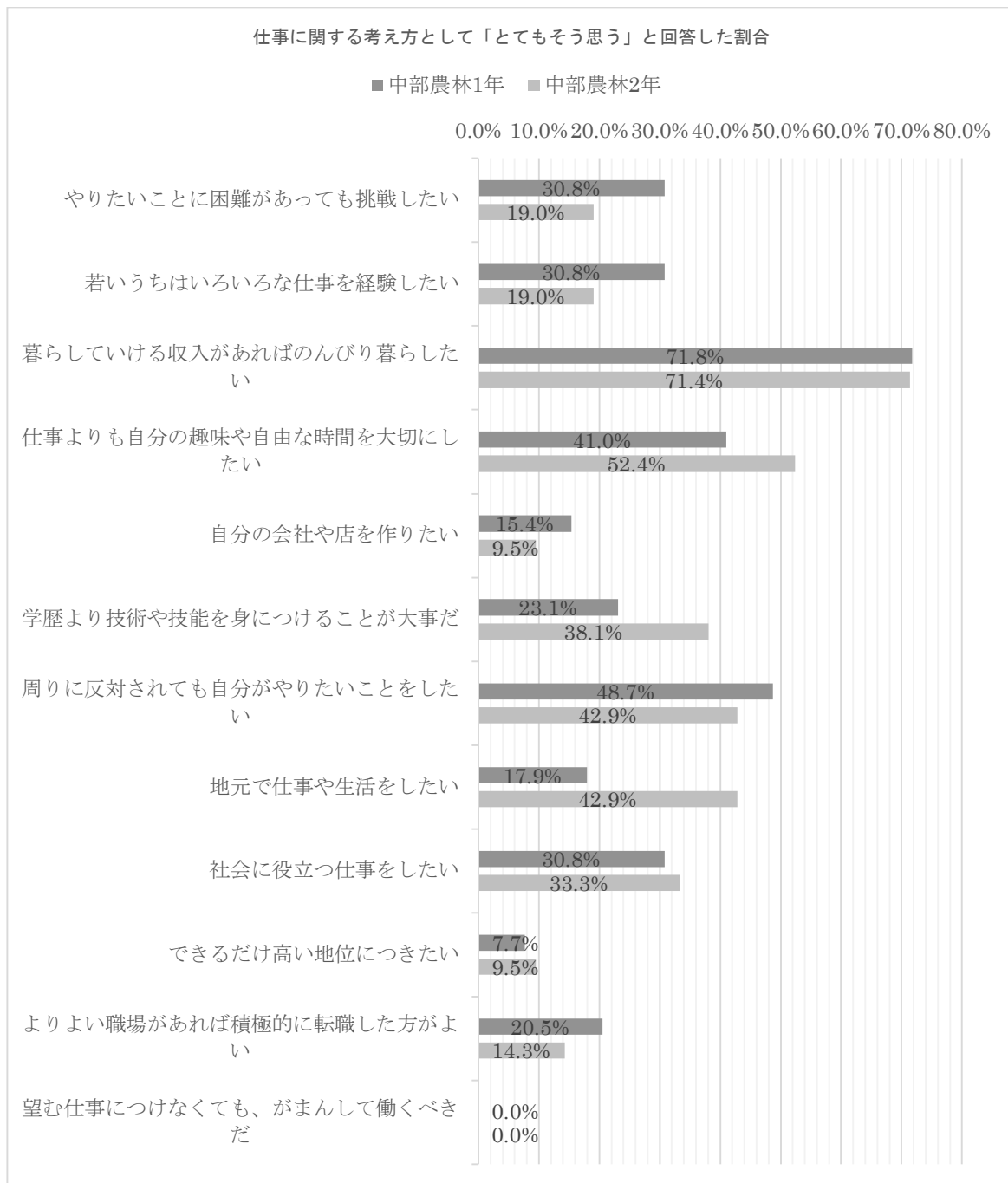


図 38 仕事に関する意識・考えで「とてもそう思う」と回答した割合

3.7 委員意見

<動物専門連携授業・職業講話について>

高校教員は専門学校教員に比べて、分厚い教科書を期間内に学んで試験に臨ませることを最優先に考えてしまう。授業の時間数もあり、ざっと「広く浅く」やってしまいがち。1つの単位について時間をかけて詳しく説明してもらえて非常に良い学びとなった。

職業に関する講話を受けた1年生は、動物が好きという理由で中部農林高校の熱帯資源科に入学したが自分が思っていた以上に動物に関係する職業が多く「やりたい」「好き」という気持ちだけではできないこと、知識・技術・資格、県や国の許可が必要なものがあるということを再認識した。

どのような仕事でもコミュニケーション能力が必要であり、大切であることに気づいた。自分に足りない部分を知れたという意見もあった。専門の教員による授業で認知することができたことは、生徒にとってとても良い刺激、学習になった。

動物看護専攻の専門学生たちと内容は異なる。高校生はまだ飼い主の目線で、これから動物を相手にしていく。自身の担当が病気に関する理解を深める分野であった。

愛玩動物飼養管理士1級のテキスト内容は非常に簡易。自分と動物の生活に結び付けられるよう意識して膨らませている。

<卒後セミナーについて>

ネットプロモータースコアの目安は20でマイナスになる事もある。今回の58という結果は非常に高い。

採血に関する内容だったため従事して1～2年目の方が多いと考えていたが、意外と10年目といった方もいた。

周知の方法は病院へのFAX。参加の有無はメールで返信してもらった。県内でリアルなセミナーや学会はあまりない。ネットでの有料セミナーを含めても今回のような企画は近年なかったと思う。学びたい人は多いと思うので、そういった方々のきっかけになった。

<ボランティア活動について>

イオンモールライカムでは、学生たちが要望した爪切りや耳そうじといったボランティア活動を施設に希望したが、施設内にペットショップがあるため急遽実施できなくなった。

明確に中学生以下をターゲットにしたクイズを考えていた。言葉使いなど小さな子どもにも「伝えること」を考慮していたと感じた。当日も笑顔で子どもたちに接している学生の姿が見られた。自身の成長を感じた学生も7割強という結果で非常にうれしい。

＜職業意識調査について＞

中部農林高校の教員として気になった部分は、将来の生き方や進路について全国平均より高い 70% が保護者と話しているとの結果ではあるが、逆に 30%が出来ていないことである。生徒たちへ職業観や勤労観を伝え、できるだけゼロに近づけるようにしたい。

生活できる収入があればのんびり暮らしたい、仕事より自身の趣味や自由を大切にしたいなど今どきの傾向が出ている。反対に自分の会社や店を持ちたい、高い地位に就きたいといった回答が少ないのが生徒の傾向なのかと強く感じる。

＜サービスラーニングについて＞

サービスラーニングとは、「学校における学び」と「社会・企業における諸課題の解決」を具体的な実践活動を通して結合させていく学びの手法。この学びを通して様々な社会・企業貢献活動によって、双方向の人間関係を育み、学生が社会人としての資質や社会性を高め、課題解決力、チームとしての実践力などを高めていくことを目的としている。

「地域課題」「企業課題」を学生が地域や企業・団体の方々と協働して活動することにより、地域、企業、学生が成長を実感する状況を実現する。

プログラム構築の期間が残り2年ある。このサービスラーニングのプログラムができれば、地域と沖縄ペットワールドのつながりが強くなれると考えている。ボランティア活動も実施前後の報告だけではなくタイアップ先からの評価もあれば、今より学生たちの社会的評価が上がると思う。

学生たちには事前にレクチャーする時間を設け、考える「仕掛けづくり」を行い取り組んでみたい。構築に向けてインターンシップや実習、ボランティアを受け入れてくれている企業へヒアリングに伺わせてほしい。ご協力よろしくお願いします。

4 第三回連携プログラム開発検討委員会

実証授業報告と検討、令和6年度事業の振り返りと令和7年度の事業計画に関する意見交換を行った。

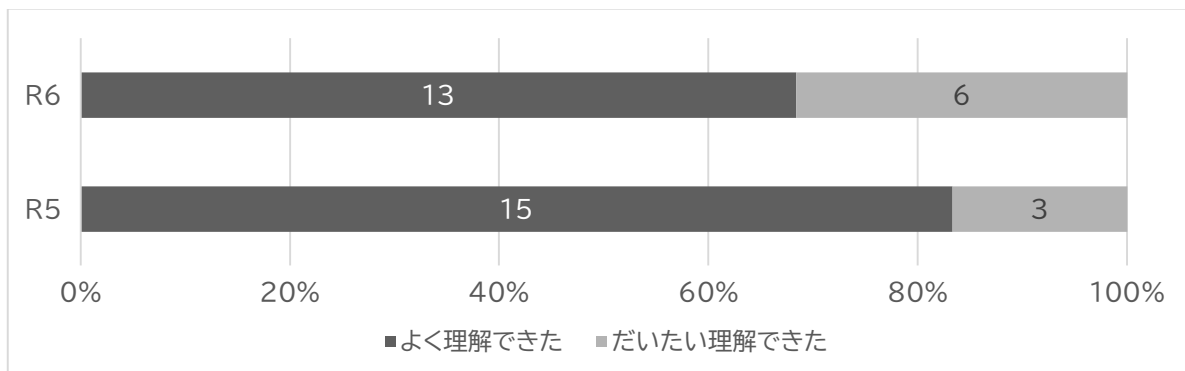
4.1 中部農林高等学校 職業講話（情報の取り方生かし方：メモの活用）

4.1.1 実施概要

日時 令和6年12月06日 11:10~12:50
 対象 沖縄県立中部農林高等学校 熱帯資源科動物コース2年生
 人数 19名
 講師 広原敬幸講師
 内容 情報の取り方生かし方

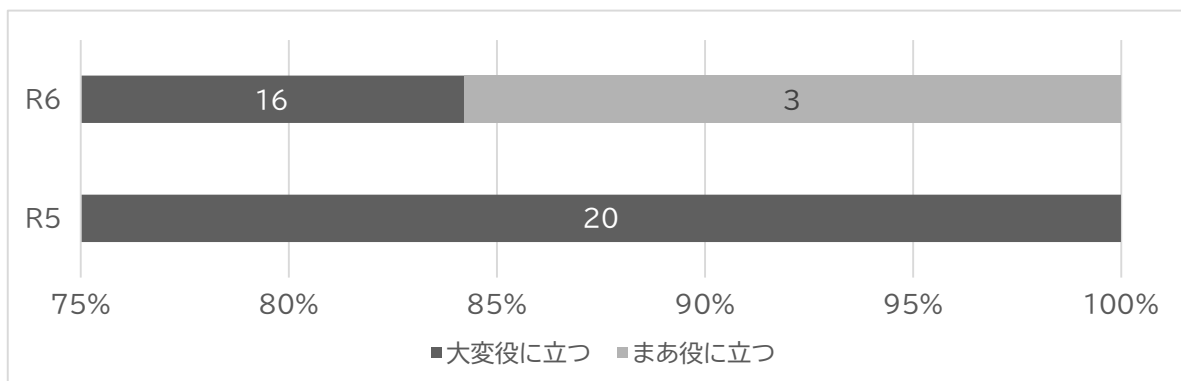
4.1.2 生徒アンケート結果

質問「授業の内容は理解できましたか？」（平均4.7）



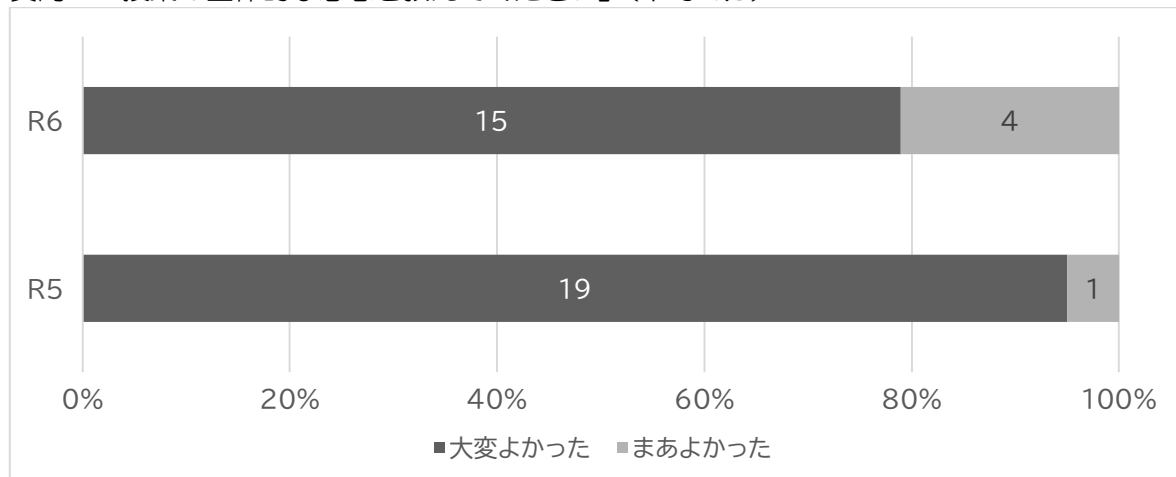
100%の生徒が、「よく理解できた」「だいたい理解できた」と答えた。

質問「授業の内容はこれから役に立つと思いますか？」（平均4.8）



100%の生徒が、「大変役に立つ」「まあ役に立つ」と答えた。

質問 「授業の全体的な感想を教えてください」（平均 4.8）



100%の生徒が、「大変よかった」「まあよかった」と答えた。

質問 「はじめて知ったことを記入してください。」

※生徒の書いた原文を忠実に表現するため、誤字や文章の訂正・修正を行っていない。また、句読点の位置も原文のままにしている。

メモをとらないよりメモをとるほうが頭に入ってきた。メモをとるときは全てをとるのではなくて大事なフレーズだけメモをして相手に伝える。話すときはできるだけ大きな声ではなしたらよいことが分かった。

--

伝言ゲームでメモを取りながら伝えられて、そしたら、メモをとっていない時ととっている時では伝わり方が違っていった。メモをとる時はボールペンより鉛筆のほうが良い。理由は水にぬれても消えないからだということです。

--

メモはポイントだけ。同じ話を聞いても人それぞれ重要だと思うところが違う。

--

メモは思い出すために簡単に書いておくこと。人に何かを伝えるときは覚えやすいように簡単にまた手ぶりもいれるとよい。

--

人に向けて何かを説明する時やそれを受け取る時のコツ。相手に対してどのようにしゃべれば理解しやすい、聞き取りやすいか。

--

メモをとる時は文章で書くのではなく重要な単語だけで書く。人は数字やカタカナが覚えにくいから数字は言い方を工夫して伝えて、カタカナのものはしっかりメモを取ったりする。

--

メモを取る時は、文章を書くんじゃなくて単語を書くことよいことを知りました。相手に伝える時は簡潔に伝えるとよいことを知りました。メモをとる時はえんぴつで書いた方がよいことを初めて聞きました。

--

大事なことを聞き取るには意識して相手の話を聞く。とても重要な部分は字を濃くかいたり四角で囲む。

--

はじめて知ったことは、はじめて聞く言葉、とくにカタカナが覚えにくいことを知りました。また、メモをとる時はなるべくえんぴつがよいとわかりました。ボールペンだと上にするとインクがつかないからです。

--

伝言ゲームのときに長い文章だと後半の文がほとんど伝わっていなかったり、カタカナや聞いた個々の名前などは伝わりづらいと知った。

--

メモをすることによって、内容がよく入り集中できて自分なりのまとめ方で繰り返し見ることで必要な時に思い出すことができる。知らない単語や難しい単語はすぐにメモして調べるなりして、自分で理解していくことが大切だなと考えた。人は未来の行動のために考えているということがわかりました。

--

メモの大事さがわかりました。メモには単語だけでも十分伝えることができた。あと、メモを取るときにはボールペンが不向きだということを知れた。

--

メモは見返さなければただのごみ。メモは文章を書かないで大事なところだけ書く。動物が好きだけじゃ仕事はつとまらない。

--

メモを取る事は情報を自分のものにする事や、いい言葉、後で調べようと思ったこと、大事なことをききとることがメモをとりやすいなと思いました。

--

メモをとると頭に残りやすい。単語でまとめたりするといい。話す時は頭にはいえる。話をしっかり聞いているを伝える。はっきりと相手に伝わりやすいように話す。

--

メモを書くことで話の内容が頭にはいりやすくなったり、自分でまとめることができたりすると知った。人に伝えることはとても難しく伝わってほしいことが伝わっていなかったりすると知った。話すときに必要なことは相手に聞こえる声ではっきりハキハキと話すことだと知った。

--

社会人になると思いましたではなく考えましたを使って自分の考えを伝えるということを知りました。メモをするときもただメモするのではなく、要点をまとめ見返したときにわかりやすくするように工夫することが大事だということを知りました。

--

今までもメモをとったりはしていたけど、確かにメモをとった方がわかりやすく理解しやすくなり、伝える時も少し自信をもって伝えられるようになることが知れました。ほかには考えることは未来への行動にうつすためのものであること、話す時は最初にハイといれたり、ハキハキしゃべる方がとても印象がいいこと、動画でも失敗も苦労も自分のためになるなどいろんなことを聞いて知ることができました。

質問 「特に印象に残ったことを記入してください。」

※生徒の書いた原文を忠実に表現するため、誤字や文章の訂正・修正を行っていない。また、句読点の位置も原文のままにしている。

メモするときの書き方、大事な部分は濃く、絵をつけたり後からみてもわかるように書くなどいろいろなことが印象に残りました。これを生かしていきたいです。

--

話を聞くときや誰かに伝える時は、メモを取るということ。話すときははいと必ず返事する。話す時はきはきと大きな声で話す。

--

人は聞き間違えたりするから似ている言葉にちがいをつける。人が考えるのは未来の行動のため。大きな声で発表する。

--

言葉や文章だけでは相手にちゃんと伝わらないこともあるから簡単にメモをしたり言いかたを変えてわかりやすくすることが話をするのに大事だと考えることができました。

--

相手に対してどのようにして説明すると理解し聞き取りやすいか。そしてそれを受け取る時にどうすればそれを記憶し理解できるかということが印象に残った。

--

メモは記憶を思い出させるものだから大事な単語などのみを書く。失敗や苦労も自分のため、後輩に伝えていくため大事なこと。やってきたことでためにならなかったことはない。

--

伝言ゲームや働く人の話をきいてメモした内容は、皆それぞれ違っているということが印象に残りました。また、メモして自分が印象に残った部分、大事だと思った部分も人によってそれぞれ違うことも印象的だった。伝言ゲームは伝える人が多くなると、内容がだんだん変わっていき、伝言にもなっていないところがおもしろかった。

--

メモは忘れないようにするためだけでなく、新しく知った言葉や後で調べる言葉も書くためだと知った。伝言ゲームを通してメモがあるのとないのでは内容の正確度が全く異なることを知って、メモをすることの大切さを知ることができました。

--

特に印象に残ったことは、伝言ゲームです。数人でやったゲームだけど人が多くなることで伝わる情報は変わっていくことに気づかされました。

--

伝言ゲームと伝言メモゲームです。伝言ゲームでは最初の人から5人目の人までに内容が全然違っていて、伝言メモゲームでは内容をすべて5人目まで伝えることができました。このゲームからメモが大事という事がわかりました。(時間を伝える時も午前、午後、1時を13時など)

--

文章全部をおぼえようとするんじゃなくて、大切だと思う事、単語を覚えたりメモを取る事が大切。働くことの意義は常に変化していく。

--

特に印象に残ったことは水族館で働いている人のインタビュー動画で、自分が失敗したことは後輩に伝えられる一番大切なことと言って失敗が一番大切と思ったことがなかったので、印象に残った。自分の経験したことすべてが自分の成長につながっていてむだなものはないというところ。

--

伝言ゲームでメモをしているのとしていないのでは伝わる量が全く違って、メモをしていなかった場合、わからない言葉、聞き取りづらい言葉は相手に伝える際、わからなくなったりしてうまく伝えることが難しいがメモに単語だけでもかいておく伝える際に自分の頭の中で文章が作りやすく伝えたいことを伝えられるのが印象に残った。

--

メモを取りながら聞くのと取らないで聞いた時の違いに驚きました。メモを取らないといけないかったらしっかり聞かないといけないし、頭に入りやすかった。

--

伝言ゲームで後ろに行くほど自分が伝えた内容と違っていておもしろかった。みんな一人ひとり意見が違ったこと。若い時しか失敗できない。コミュニケーション能力はどの仕事にも必要。

--

伝言ゲームをしてメモを取る場合とメモを取らなかった場合で伝える文章が違ってくることがわかりました。メモを取るだけで集中力が増したり、覚えようとする力がついた。

--

伝言ゲームではメモの大切さを知った。わかりやすく見てわかるようにメモをとるのは大事。頭に入りやすくなったり集中してきける。大事な部分がわかりやすいし、頭の中で整理もできる。

--

ゲームをとおして相手にどう伝えればわかるのか。文字の表し方をみんなで考えて発表したことです。

--

伝言するときはどう相手にわかりやすく伝えるか、メモのしかたや言葉の言い換えなどを工夫する必要があるということを伝言ゲームを通して身に染みて感じ印象に残りました。

--

伝言ゲームのとき、たった5人しかいないのに伝わる内容が全く違っていき、こんなにも伝えたいことは相手に伝わっていないかったのかと驚き、どうしたら次の人にできるだけわかりやすく伝えていくことができるんだろうかと考えさせられたことが今日の授業で特に印象に残ったことです。

質問 「今後授業で取り上げてほしい仕事内容やキャリアを考える上で体験してみたいことがあれば自由に書いてください。」

※生徒の書いた原文を忠実に表現するため、誤字や文章の訂正・修正を行っていない。また、句読点の位置も原文のままにしている。

トリマーの平均年収が知りたい。

--

ペットショップの本当の仕事内容が知りたい。ブリーダーの仕事内容など。

--

仕事の内容について実際に働いているところを動画でみれたらいいなと考えました。

--

ペットショップなど動物関係についての職業についての説明など

--

アニマルカフェの仕事について知りたい。保護カフェの仕事についても知りたい。どんな活動をするのかなど。

--

ペットショップの仕事について知りたいです。

--

トリマーや看護師の仕事について知りたいです。

--

自分は動物の保護から譲渡までにすごく興味があるので実際にどういう状態で保護されているのか保健所をみたり話をきいてみたいです。

--

今回は動物看護師や水族館で働く人のことを学んだけど、動物と仕事をするわけじゃない、動物の命を救うわけでもない畜産業についての授業を受けてみたい。動物看護師などと仕事の向き合い方の違いを知りたい。

--

獣医師や看護師の方の一番の違いを知りたい。仕事内容が違うのは知っているが、何を中心に何を行っているのかがあまりよくわかっていなくて知りたいなと思った。

--

ペットトレーナーや動物のカフェの仕事について知りたい。動物関係の仕事を年収順に知りたい。ネイルしながらできる動物関係の仕事があるのか知りたい。

--

動物看護師の仕事内容ややりがいについて知りたい。動物園の仕事内容を体験してみたい。

--

動物看護師、トリマーについて知りたい。

--

いろんな仕事の体験をして自分に合った仕事をみつきたい。動物にかかわる仕事をいろんなことを教えてほしい。

--

もっとトリマーのことについて知りたい。コミュニケーション能力をつけるために言葉の意味や使い方などを知りたい。

--

ドッグトレーナーや訓練士系の職業の話を聴いたり体験したい。

--

動物の飼育士、獣医師、ほかにも動物にかかわる仕事です。

質問 「授業を受けて感じたことや今日から実行することなど自由に書いてください。」

メモはとれるかわからないが、話しているときや聞いているときは頭の中で大事なことを切り抜いて聞いたことを忘れないようにしようと思う。自分の将来の生き方について考えることができた。

誰かとコミュニケーションをとる時はハキハキと話すことを心がけたいなと思いました。バイトとかでお客さんと話す時などにちゃんと相手に伝わるようにぼそぼそじゃなく、大きな声で話すことをしたいなと思いました。そして返事をするのを心がけていきたいなと思いました。

人が話している事をメモするとその時にどんな事を言っていたかを後から見直すこともできるし、頭に入るといことが実際に伝言ゲームを通してわかり日頃の生活でも取り入れます。失敗の話を聞いて自分がした失敗を振り返ってみると自分が失敗したのに先生が別の先生に注意されているのを思い出して、確かに守られているんだなって実感しました。

感想は思うだけでなく考えて次の行動へ移していけるとよい。

メモを取る事の大切さや大事な単語だけを書くなどのコツがわかったので今後の生活の中でメモを取る際はそのことを意識しながらやろうと思った。また、話をする時はハキハキ話す、大きい声で話すなど日頃から意識してやっていく。

授業をうけて考えること、思うこと、感じることは人それぞれだと知ることができ、いろんな人がいろんな価値観をもっているということを実感することができた。メモを書くことを実行していきたい。

インタビューを受けていたイルカの飼育員さんははきはきと話していてとても聞きやすかったので、私もハキハキ話せるように頑張りたいです。メモをとる際は文章を書くんじゃなくて単語をかいて相手に伝える、相手に伝える時は簡けつに伝えることを心がけようと思いました。

授業を受けて情報をすべて取り入れるためにはメモが大事な部分を意識して聞くことが大事だとわかりました。看護師やトリマー、飼育員の人たちはコミュニケーションが大事なことやきちんと伝えるという共通している部分がありました。今日からコミュニケーションや相手に伝える時はわかりやすくハキハキ伝えるようにします。

授業を受けてみてちょっとしたゲームをしたり立ったりすることで頭をつかった授業に取り組むことができたと思うし楽しかったです。バイトの時に声がききづらいと言われるので大きな声でハキハキしゃべれるようにしていきたいです。

伝言ゲームで人に言葉で情報を伝えると伝わらないことがわかったので、これからは人に伝えるときは相手の目をみて話すことやメモをしてわたすなどの工夫が必要になってくる。自分の経験したことは自分の成長につながると知ったので、これからの経験やいままでの経験を大切にしていきたい。

人に話す際は大きな声でハキハキと聞く側はあいづちをうち、きちんと聞いていますという意味を示すこと。メモをすることで頭で考えること、知識、集中力の向上につながると思いました。これからは、もう少し聞き取りやすい大きな声やことば使い、わかりやすさを考え、メモの大切さを今日知ったため授業にも活かしていけたらなと思った。

私はなんとなくできるでしよって感じでメモをとらずにいるけど、それではいけないなと思いました。今日からは大事だと思ったことをしっかりメモしていこうと思いました。

メモをとるときは大事なところだけ短くできるだけ一文で書くこと。インタビューをみてハイと言った後に大きな声でハキハキとしゃべっていてすごく聞きやすかった。これからは自分の思ったことをメモして見返し質問は大きな声で答えみんなに伝わりやすいようにしたい。

--

授業を受けて改めて人の話に耳を傾けてメモを取るということは大事だと思いました。ゲームでも学んだように耳だけ傾けるんじゃなく、ポイントをしっかりとつかんでメモをし相手に伝えることを今日学ぶことができました。今後も日頃からメモを取って重要なことを忘れないようにしていきたいなと思いました。

--

どんな仕事でも人の話を聞いたり伝えたりする機会はあるから、コミュニケーション能力を高めたり、メモをとって人の話を聞きのがさないようにしようと思った。人とはなすときは相手にわかりやすいようはっきり話して、相手のはなしをしっかり聞く。

--

次の授業からわかったことや調べたいことなどをメモしていきたいと思いました。自分の考えを相手に伝えること、違う意見を知る事、それをできるようにしたいです。

--

言葉遣いや返事を意識するだけで、印象がよくなったりするので普段から気をつけたいと感じました。大事だと思ったことや思えないといけないものはメモをするようにして、その際も見返したときにわかりやすいようにメモをするようにしたいです。

--

伝言を伝えるときはわかりやすく簡潔にいう。話す時はハキハキと大きな声で話すなどを行いたいです。

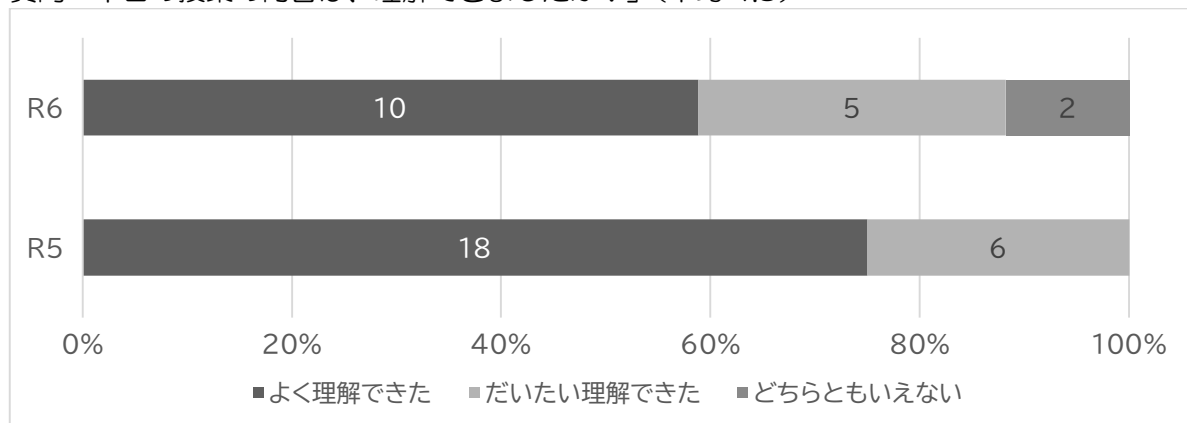
4.2 北部農林高等学校 職業講話

4.2.1 実施概要

日時 令和5年12月18日 3～4校時
 対象 沖縄県立北部農林高等学校 熱帯農業科 1年生
 人数 17名
 講師 當間律子講師
 内容 マナー研修

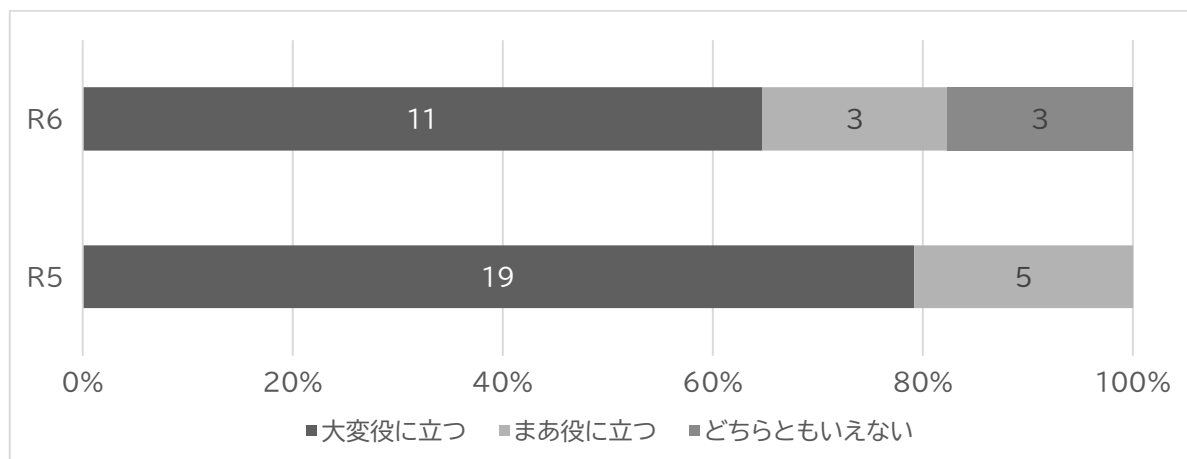
4.2.2 生徒アンケート結果

質問「本日の授業の内容は、理解できましたか？」（平均 4.5）



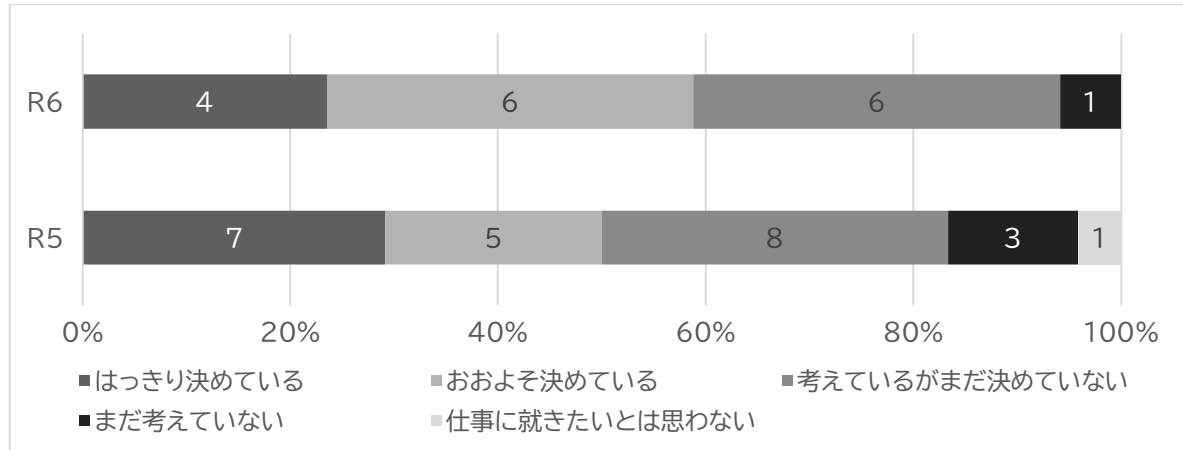
88%の生徒が、「理解できた」「どちらかといえば理解できた」と答えた。

質問「今日の授業の内容は、これから役に立つと思いますか？」（平均 4.5）



82%の生徒が、「大変役に立つ」「まあ役に立つ」と答えた。

質問 「あなたは将来希望する職業を決めていますか？」



59%の生徒が、「はっきり決めている」「おおよそ決めている」と答えた。

質問 「授業を受けて初めて知ったこと、初めて聞いたことを記入してください。」

※生徒の書いた原文を忠実に表現するため、誤字や文章の訂正・修正を行っていない。また、ひらがな表記や句読点の位置も原文のままにしている。

--
人の見た目は大事だと分かった。3～5秒でその人のことが分かるということが分かった。

--
姿勢しだいで見方がかわる。

--
第一印象が3秒から5秒で決まることを初めて知った。普段からみだしなみに気をつけていきたい。

--
良い印象は笑顔も入る。

--
やーなれー、ふかなれーということばをはじめて聞いた。

--
人の印象は始めの3秒～5秒

--
やーなれー、ふかなれーをはじめて聞いた。

--
人や面接官の前では礼儀を正しく。そして相手や自分のやった行動がいつか自分に全てかえってくるからです。

--
どんな場面でも礼儀正しくいる。あいさつや身だしなみがで第一印象が変わる。

--
マナーで一番大切な思いやり気配りについて。最敬礼や印象を決定付ける要素について。

--
自分たちがいろいろなことをできているのはいろんな人の助けがあるということをよくわかった。なので自分も人を支えたり助けれるばめんがあれば助けていきたい。

--
相手に良い印象をあたえるには第一印象が重要で3～5秒の間に第一印象をあたえられるとした。

--
ひょうじょうとしせいで相手にいんしょうをあたえるとわかった。あいさつをしてからおじぎするとわかった。

--
人の外見は身だしなみ、姿勢、表情でわかるということがわかりました。

--
表情は相手に安心感などの良いこうかが多くあり相手の気分がなごむ。相手のことを考えればしぜんマナーが自分に身につく

--

質問 「授業を受けて特に印象に残ったこと、授業を受けてよかったことを記入してください。」

コミュカを高くしたいので人の話をよく聞こうと思った。

座り方や歩き方、語先後礼が印象に残った。お辞儀もその場にあったお辞儀をできるように意識したい。座り方もいい状態をキープできるようになりたい。

「い」を協調して言葉をはっきりする事で笑顔で言っているように見える。

座り方をしれてよかった。

よいしせい、よいお辞儀、笑顔と良い姿勢で立つ、笑声、良いお辞儀、面接の時にやくだつようなことがいっぱいを受けてよかったと思いました。

3〜5で人の印象が決まる。視覚 55%聴覚 38%話の内容 7%、みだしなみが大事だと分かった。

私も最初は人前に立つだけでもはずかしかったのですが、今日の授業を受けて人前に立つ事がうれしくなりそうです。そして礼儀の大切さを学びました。

笑顔でわらいごえで話すと印象が良くなる。コミュカがある人はいろんな人と話すんじゃなくて、相手を思いやって会話ができる人。

働くために大切なことや身だしなみ、基本的なあいさつ例、マナーについてを知れた。

れいぎのことにかんしては小学校のころからまなんできたけれど、こんなくわしくはおしえてもらってなかったから、これからのめんせつなどでかつようできるからおしえてもらえてよかったとおもう。

笑顔で人の印象は180° 変わってコミュニケーションの大切さをまなべてよかったなと思いました。

ひょうじょうとしせいで相手にいんしょうをあたえることが一番いんしょうにのこった。正しいしせいがわかったからよかった。

良い人間関係を築く必要がある。それはコミュニケーション。挨拶。お辞儀ができるといんしょうがよくなることがわかりました。

しせい、表情、歩き方、立ち方でいんしょうがとてもさゆうされる。

人と人とかかわらないと生きていけない。

質問 「今後、授業で取り上げて欲しい仕事内容や職業に必要なことなどがあれば自由に書いてください。」

自分に向いている仕事が知りたい。

--

動物の飼育員について知りたい。

--

自分がどんな仕事にむいてるかしりたい。

--

世界中の現在の森林のじょうたいを知りたい。そして次の森林復活にがんばっている人達の日常生活をみたい。

--

医療系や栄養士、管理栄養士の仕事についてしりたい。

--

自分はどんな仕事にむいているかしりたい。

--

どうすれば仕事がうまくできるのか。

--

相手の感情をわかるようになりたい。相手の心をよめるようになりたい。

--

4.3 ボランティア活動実施概要

日時 令和6年12月21日 11:00～16:00
 場所 サンエーメインシティ 3・4階中央エントランス
 対象 沖縄ペットワールド専門学校 動物看護専攻1年
 人数 32名
 内容 なは動物愛護フェスタ
 ペットの災害対策
 VMATの紹介
 健康相談
 子ども向け体験コーナー
 クイズ
 犬猫の適正・終生飼養に関するパネル展
 犬猫の飼い方相談
 なはねこサポーター制度の紹介
 参加者 約40人

4.3.1 活動の過程

①「第一回ボランティアミーティング」(6月)

那覇市動物愛護イベントについて学生実行委員を募り、実行員会を開催した。
 ボランティアを行うにあたり、場所、実施方法、告知方法、企画のアイデアを話しあった。

<希望開催場所>

環境の杜より商業施設の方が、集客力がある
 ・ライカムの下に動物を入れる場所があるので、そこで開催可能か。→那覇市開催のため厳しい
 ・メインかやむを得ない場合は環境の杜

<実施方法(参加方法)>

・作成はみんなで行い、当日はシフトでの参加(2日開催か1日開催か)

<告知の方法>

・パンフレット作製
 ・ホームページやポスターを作成、病院やショップに掲示

<希望時期>

10月2週目、3週目、12月1週目、11月1週目?

<当日の内容>※那覇市に提案する

動物あり

- ・動物との写真撮影会、クイズ大会
- ・犬のしつけの仕方(基本)、実際に体験、アースとのふれあい
- ・投薬の方法(動画やポスターで掲示)
- ・猫のリードの付け方(大切さ)
- ・長毛種の手入れ

動物なし

- ・着ぐるみとの写真撮影会
- ・プロジェクター上映で犬や猫の飼育方法を投影
- ・トレーニング説明(道具の説明)
- ・狂犬病予防の大切さ
- ・マイクロチップの推奨(動画でみせる、実物も)
- ・ワクチン接種推奨(沖縄の現状も伝える)
- ・ストラップ作り(動物関係)
- ・動物の首輪にストラップ 売上の一部寄付
- ・動物のおやつ作り
- ・栄養について、中毒などの説明
- ・動物の行動について

②「第二回ボランティアミーティング」(7月)

前回のミーティングででた企画等の具体化を行った。

<目的>犬の適正飼育を伝える。～犬について理解を深めよう～

<企画>

- ・動物との写真撮影会(映えスポット)※着ぐるみとの写真撮影会
- ・クイズ大会(検定形式にし、初級・中級・上級でPet認定賞状を授与)
- ・スタンプラリー形式でスタンプを集めると景品get
- ・犬の飼育方法(しつけ、狂犬病予防の大切さなど)※ポスター掲示→実際に体験(アースとのふれあい)
- ・投薬の方法などのパンフレット作製
- ・ストラップ作り(動物飼育している方へ) 動物の首輪にストラップ 売上の一部寄付
- ・シュシュやトートバック作成(動物を飼っていない方へ) ※料金¥500 → 募金へ

<希望開催場所>

小祿ジャスコ前の芝生※人が集まる場所であり尚且つ動物も同伴可のため

<実施方法(参加方法)>

- ・役割を分担しポスターを作成、当日はシフトでの参加(2日開催か1日開催か)

<告知の方法>

- ・ホームページやポスターを作成、病院やショップに掲示

<希望開催場所>11月1週目

③「第三回ボランティアミーティング」(10月)

主催の那覇市の担当者と企画ミーティングを行った。

ミーティング参加者:那覇市担当者2名、学生実行委員9名(場所502教室)

<当日場所>那覇市サンエーメインシティ、3階と4階の通路

<日程>12月21日(土)、開催時間:11時～16時

那覇市からのお願い:子供が興味をもてるような内容・企画にしてほしい。そこから親にも話をきいてほしい。

生体の持ち込み禁止、物品の販売、飲食販売禁止、

ぬいぐるみは借りることはできるがクリーニングが必須(予算確保できていない)

ブース内容決定期限は、告知の関係で11月中に。

学生からの提案

スタンプラリー実施(用紙とスタンプは那覇市が準備)

風船やぬりえコーナーを設ける。クリスマス仕様も検討する。

④那覇市担当者とのやりとり

那覇市(10.31):イベントで必要な物品のリスト作成依頼(物品購入ができる店舗:メイクマン、ヤマダ電機)

Pet(11.14):動物臓器パズル(景品は折り紙犬猫)、マジックバルーンをスタンプラリーの景品。物品リスト作成。

那覇市(11.28):物品リスト中のクーピーが高価で予算を超えるため色鉛筆に変更する。

12.4:メインプレイスの下見を那覇市担当者と学生で行う。

那覇市(12.11):天井への飾りつけはできない旨の連絡がサンエーからあった。

那覇市(12.18):スタンプラリー台紙、写真添付用台紙、塗り絵印刷データの送付依頼。



4.3.2 活動の様子

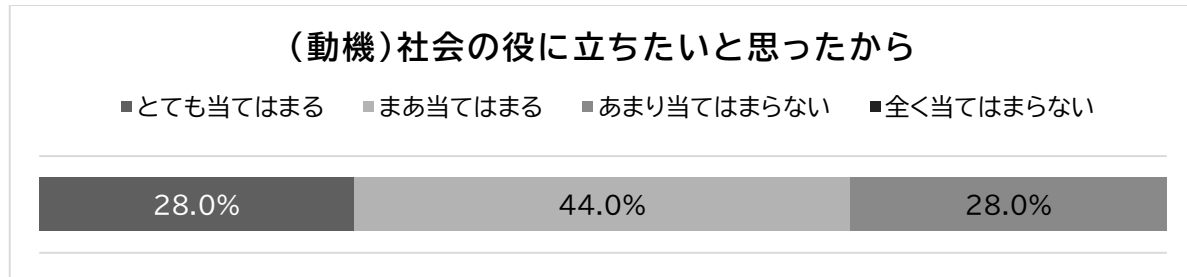


4.3.3 ボランティア「参加前の動機」と「参加後の感想」の比較

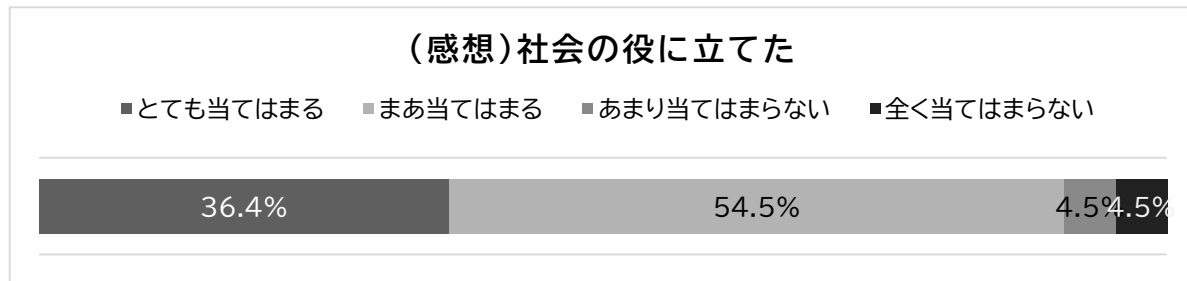
ボランティア前 「ボランティア活動に参加された理由は何ですか？」

ボランティア後 「ボランティア活動に参加した感想を教えてください」

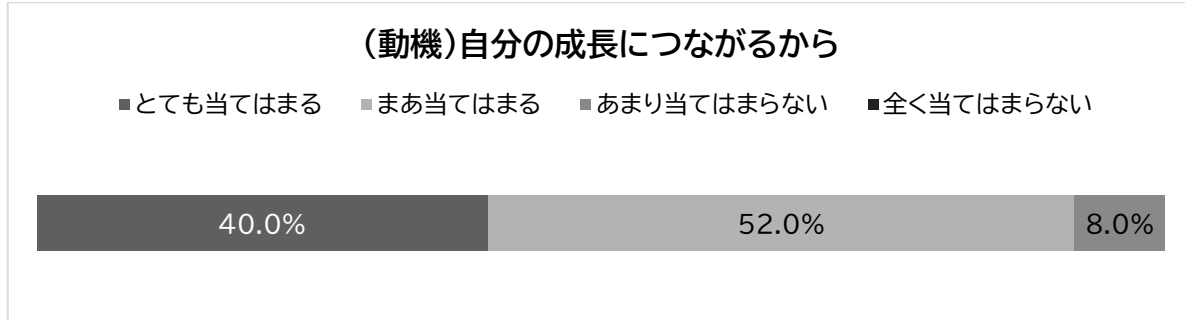
前：「社会の役に立ちたいと思ったから」について28%の学生が「とても当てはまる」を選んだ。



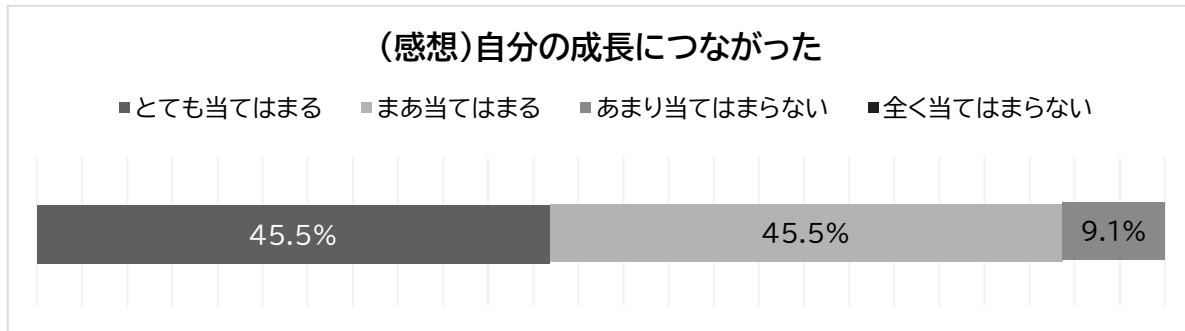
後：「社会の役に立てた」について36%の学生が「とても当てはまる」を選んだ。



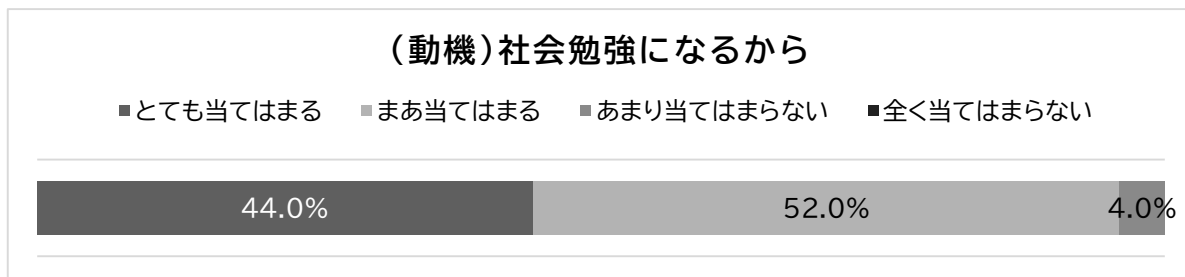
前：「自分の成長につながるから」について40%の学生が「とても当てはまる」を選んだ。



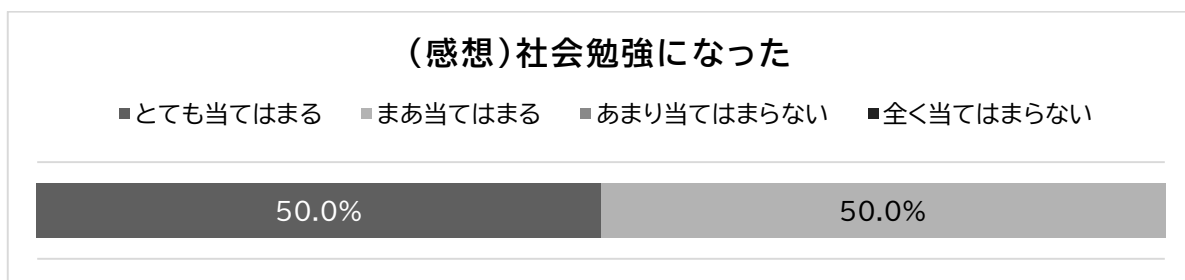
後：「自分の成長につながった」について46%の学生が「とても当てはまる」を選んだ。



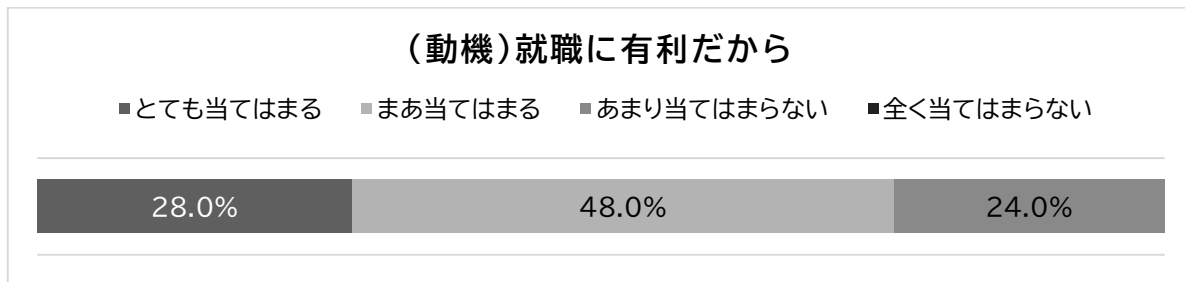
前：「社会勉強になるから」について44%の学生が「とても当てはまる」を選んだ。



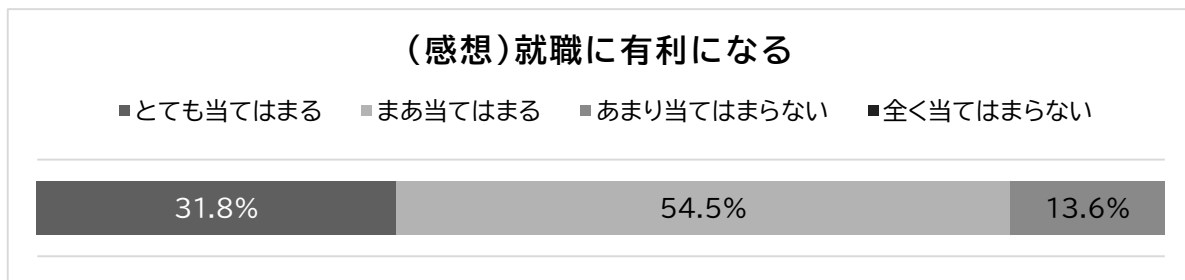
後：「社会勉強になるから」について50%の学生が「とても当てはまる」を選んだ。



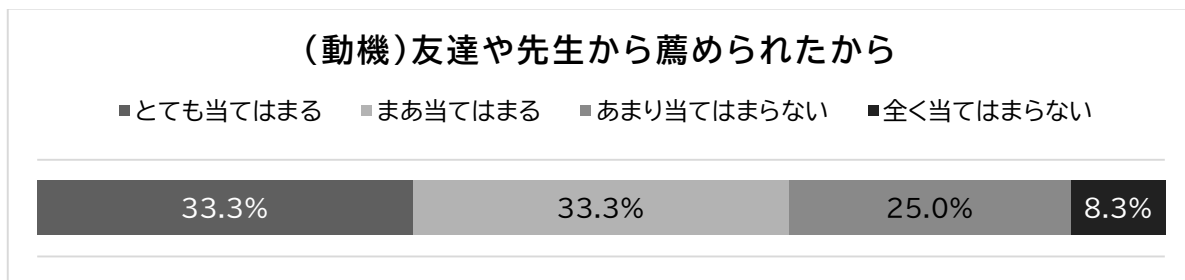
前：「就職に有利だから」について28%の学生が「とても当てはまる」を選んだ。



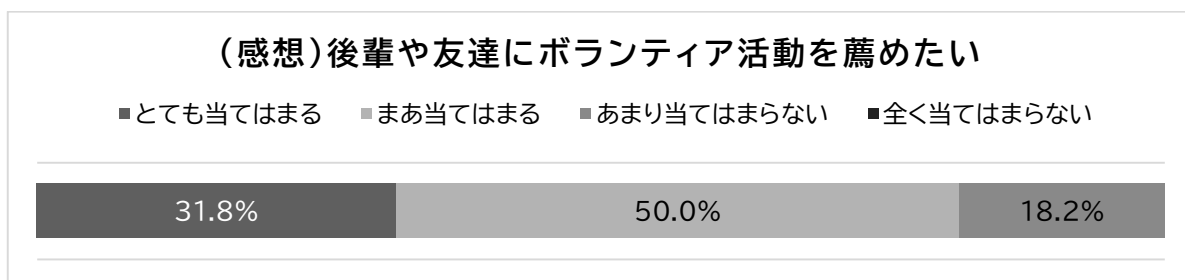
後：「就職に有利になる」について32%の学生が「とても当てはまる」を選んだ



前：「友達や先生から薦められたから」について33%の学生が「とても当てはまる」を選んだ。

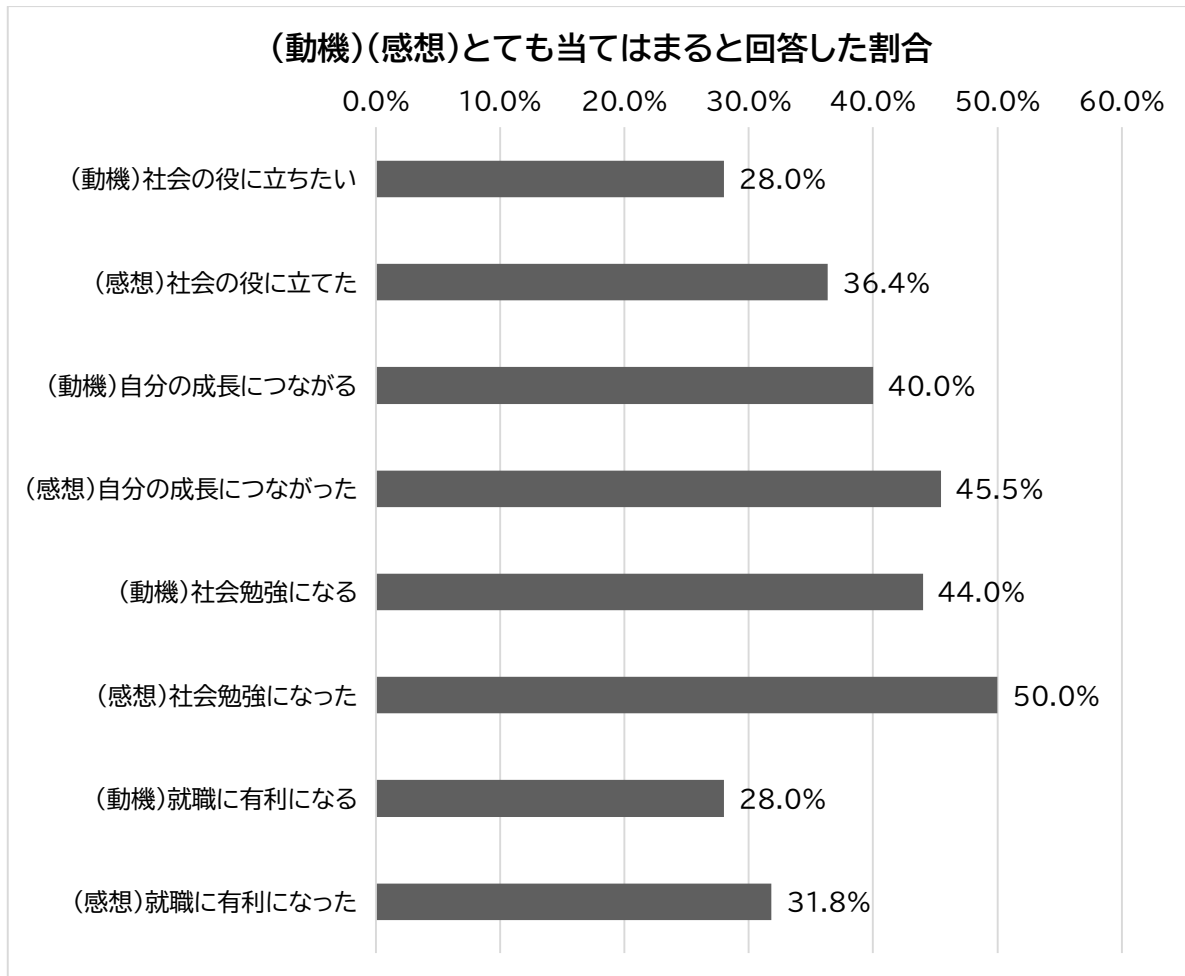


後：「後輩や友達にボランティア活動を薦めたい」について32%の学生が「とても当てはまる」を選んだ



動機と感想について、とても当てはまると回答した割合

ボランティア活動を通じて、「社会勉強になる」と強く感じた学生は50%だった。



ボランティア「参加前の非認知能力自己評価」と「参加後の非認知能力自己評価」の比較

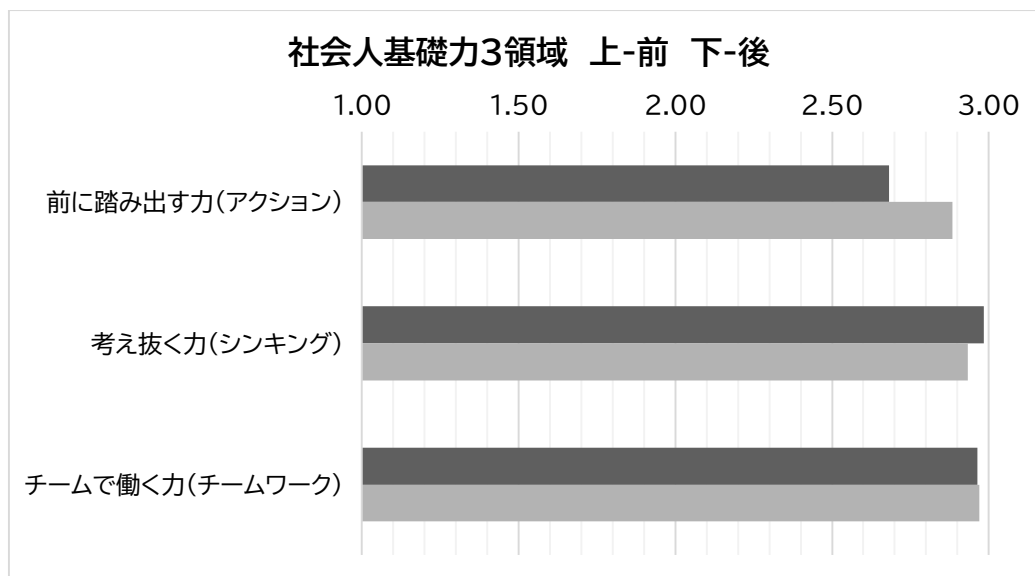
※1～11のアンケート項目は、経産省が2006年に発表した職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力である「社会人基礎力」を採用している。12～15のアンケート項目は、文科省が掲げるキャリア形成力のうち1～11の項目に含まれない能力を採用している。いずれも、学校等で行われる試験で数値化が困難な「非認知能力」である。

※能力の自己評価について「とてもある」に4点、「まあある」に3点、「あまりない」に2点、「全くない」に1点を掛け、全体の平均を自己評価指標としている。ただし、すべての項目が同じ回答は、妥当性に欠けるおそれがあるため集計から除外している。

社会人基礎力は、前に踏み出す力（アクション）、考え抜く力（シンキング）、チームで働く力（チームワーク）の3分野からなる。

学生の活動前の自己評価で最も低かったのは「前に踏み出す力」、最も高かったのが「考え抜く力」だった。

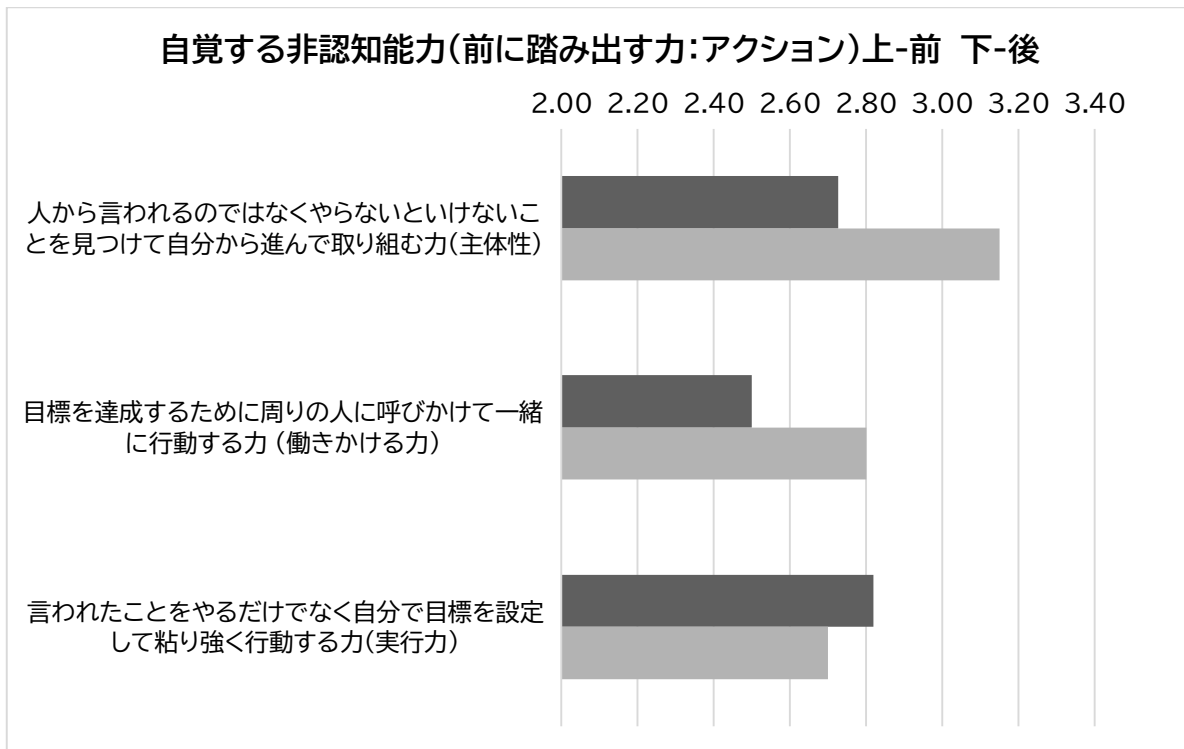
活動後の自己評価で最も高かったのは「チームで働く力」だった。変化率が最も大きかったのは「前に踏み出す力」だった。



＜前に踏み出す力（アクション）＞

活動前は、実行力が最も高かったが、活動後は主体性が最も高くなり大きく変化した。実行力は低下した。

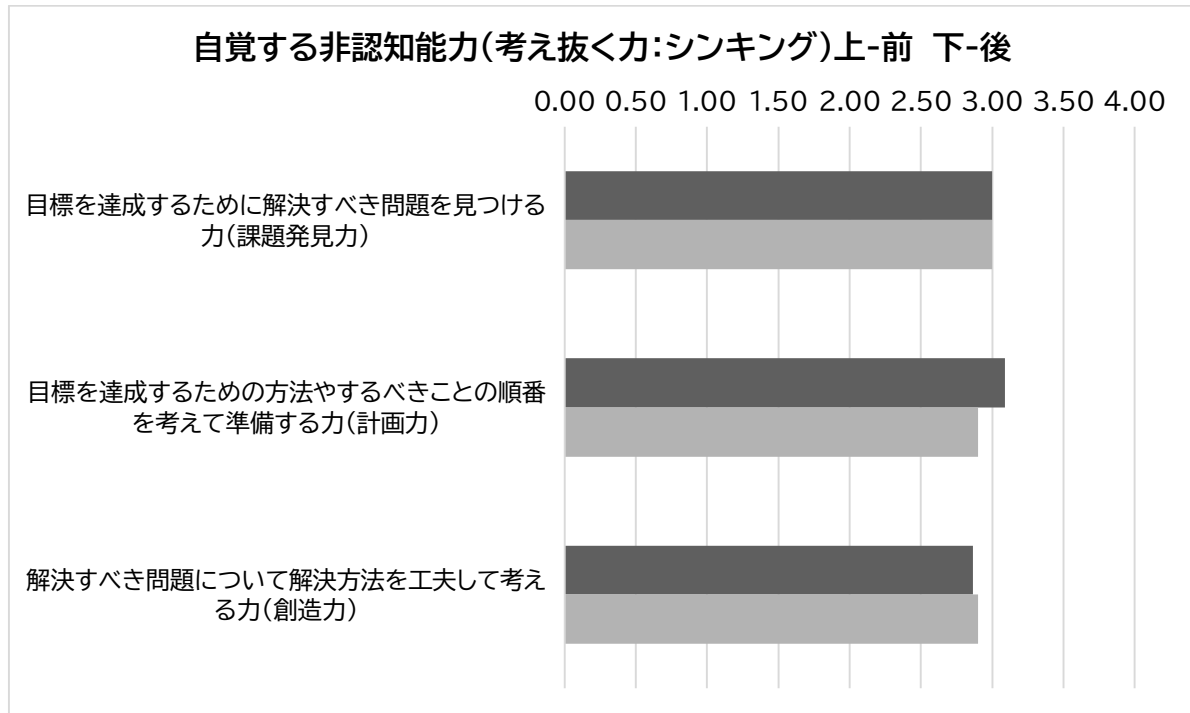
ボランティア活動担当教員は、活動前と比較すると主体性は－１ポイント、働きかける力は－２ポイント、実行力は変化なしの客観的評価をしており、グループ活動を通してアクション能力が低いことを認知できている。



＜考え抜く力（シンキング）＞

活動前後で、シンキング能力に変化はみられなかった。

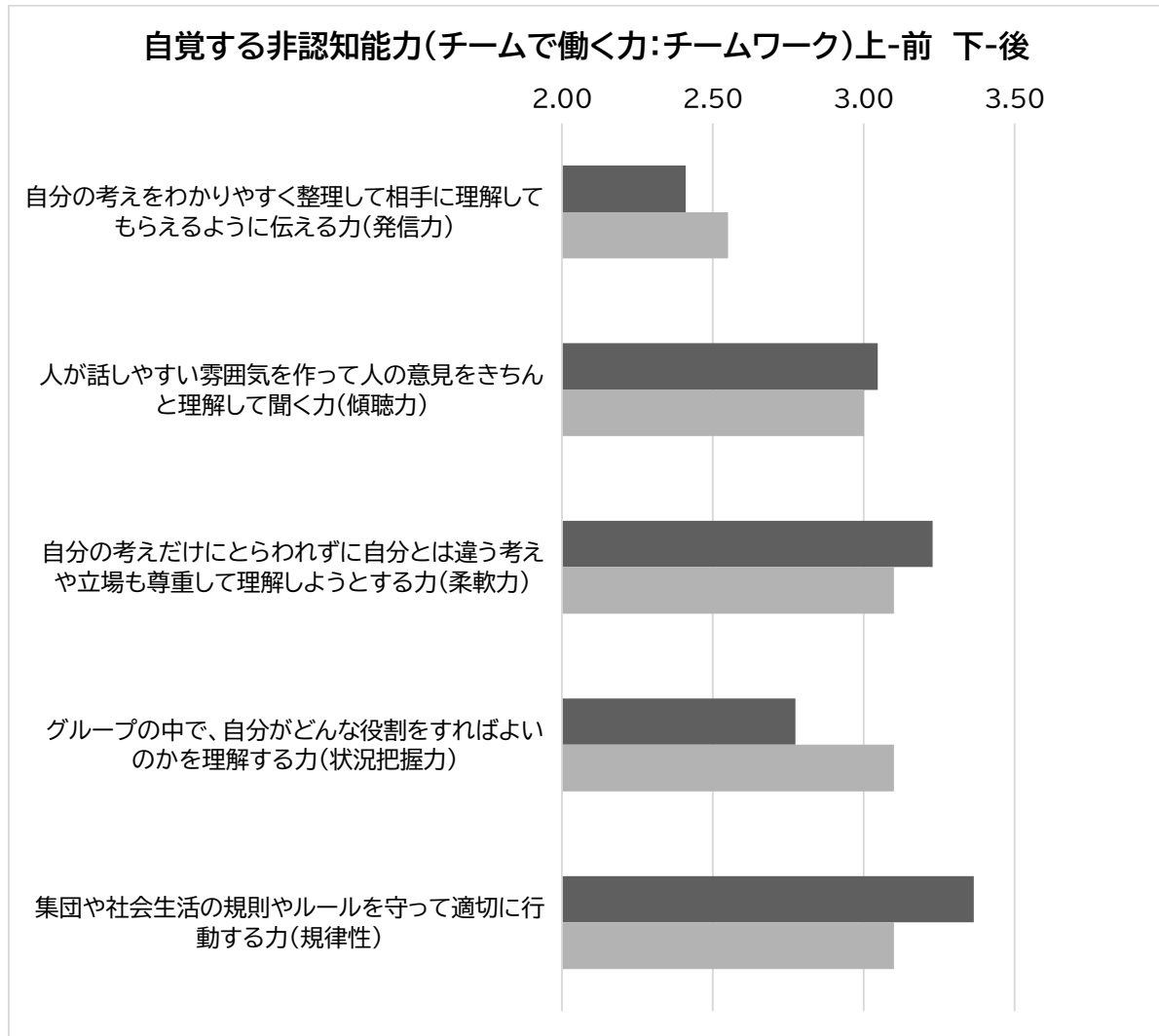
ボランティア活動担当教員は、活動前と比較すると、課題発見力、計画力は変化なし、創造力が－1ポイントと客観的評価をしている。



＜チームで働く力（チームワーク）＞

活動前後で、状況把握力が大きくプラスに変化した。逆に、規律性はマイナスになった。

ボランティア活動担当教員は、活動前後で傾聴力はプラス1の評価、その他はマイナス1の客観的評価をしている。

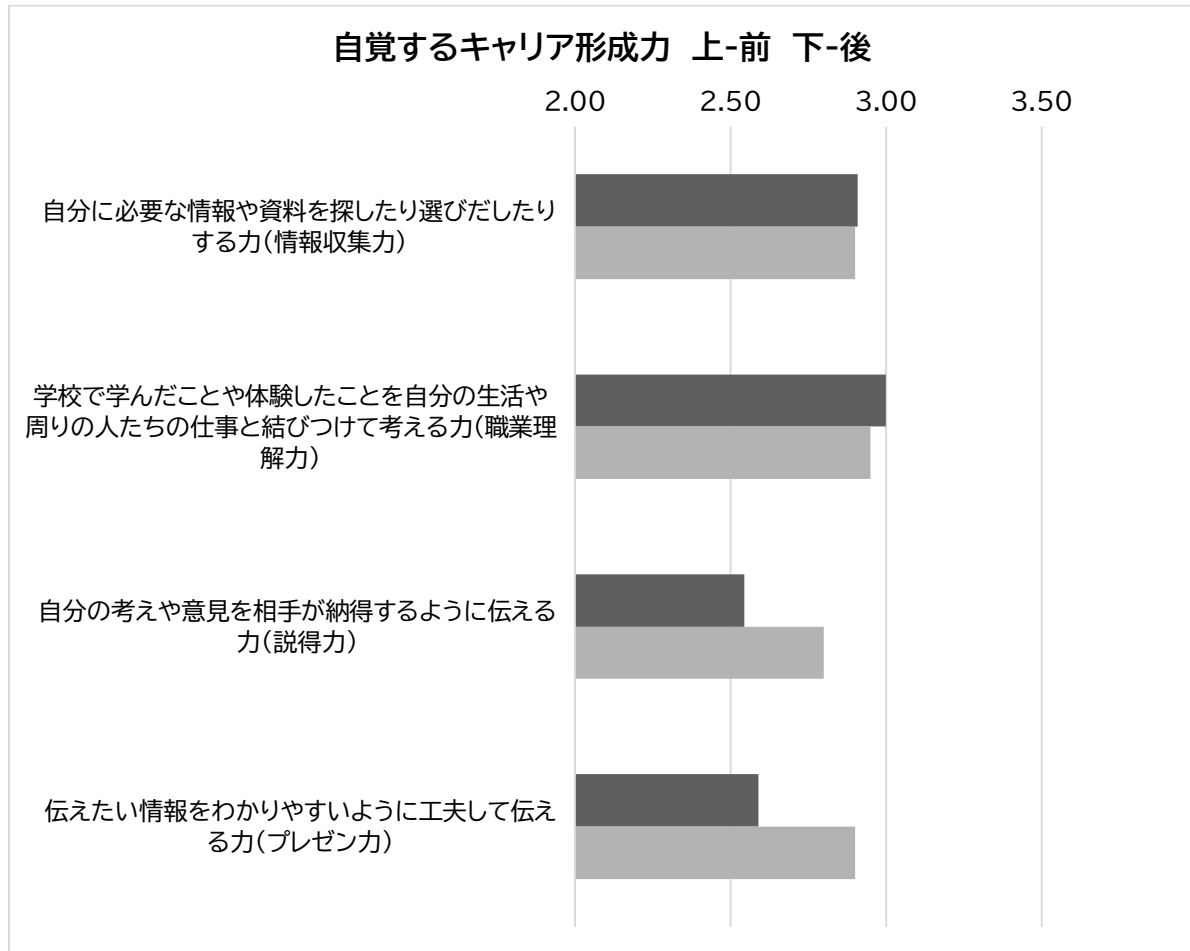


ボランティア参加前後の「キャリア形成力」の比較

※12～15のアンケート項目は、文科省が掲げるキャリア形成力のうち1～11の項目に含まれない能力を採用している。いずれも、学校等で行われる試験で数値化が困難な「非認知能力」である。

活動前後で、説得力、プレゼン力が大きく変化した。

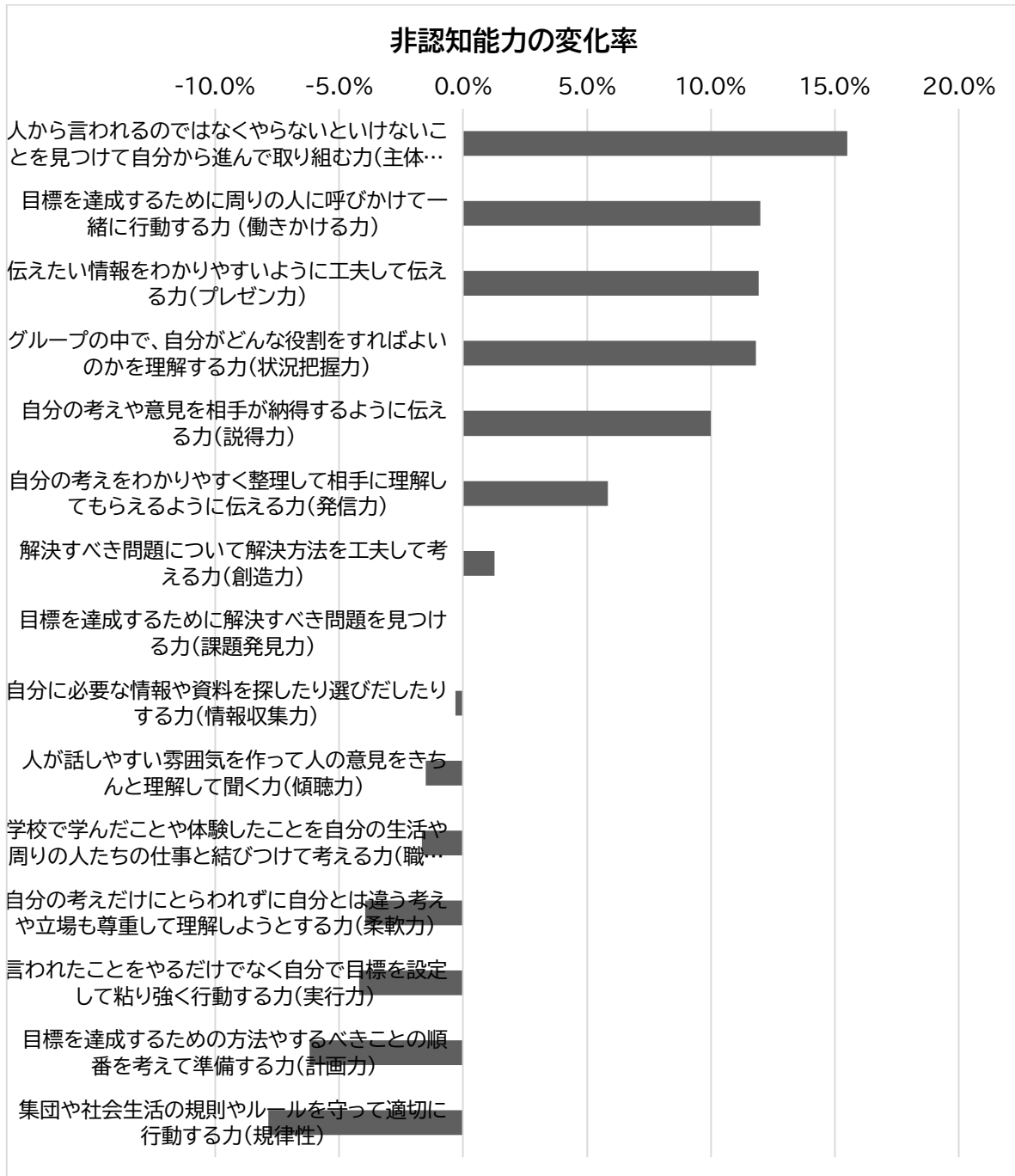
ボランティア活動担当教員もすべての項目で変化なしと客観的評価をしている。



変化率の大きかった「非認知能力」

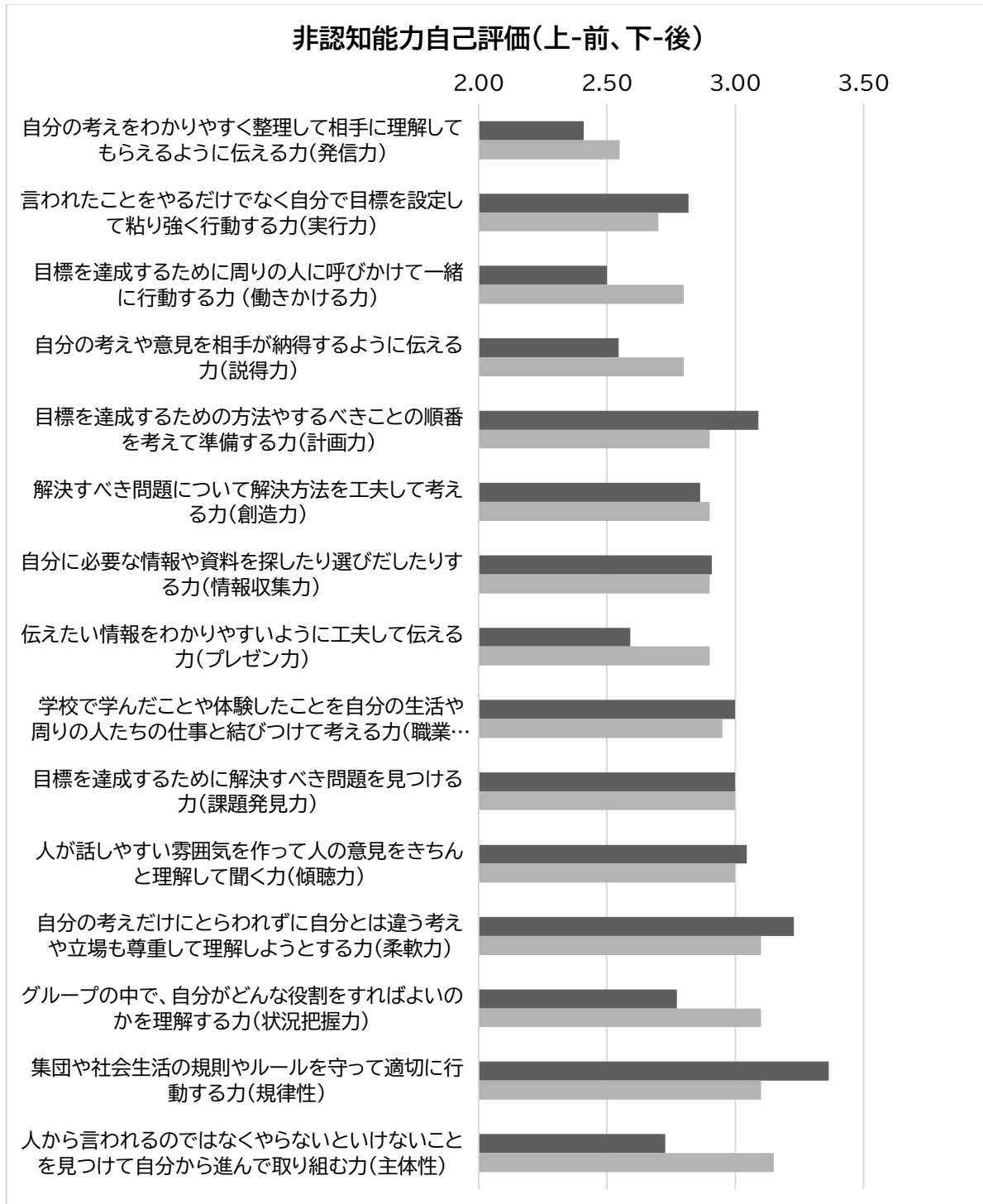
活動前後で特に主体性が大きく変化した。

逆に、規律性、計画力、実行力、柔軟力が低くなり、気づきが得られたことを示している。



今後の活動課題としての「非認知能力」

ボランティア活動後の自己評価が低いのは、「発信力」、「実行力」「働きかける力」「説得力」だった。この4つの能力向上は、今後のボランティア活動の重点課題になる。



4.4 中部農林高校プログラム前後調査（2年）

プログラム前

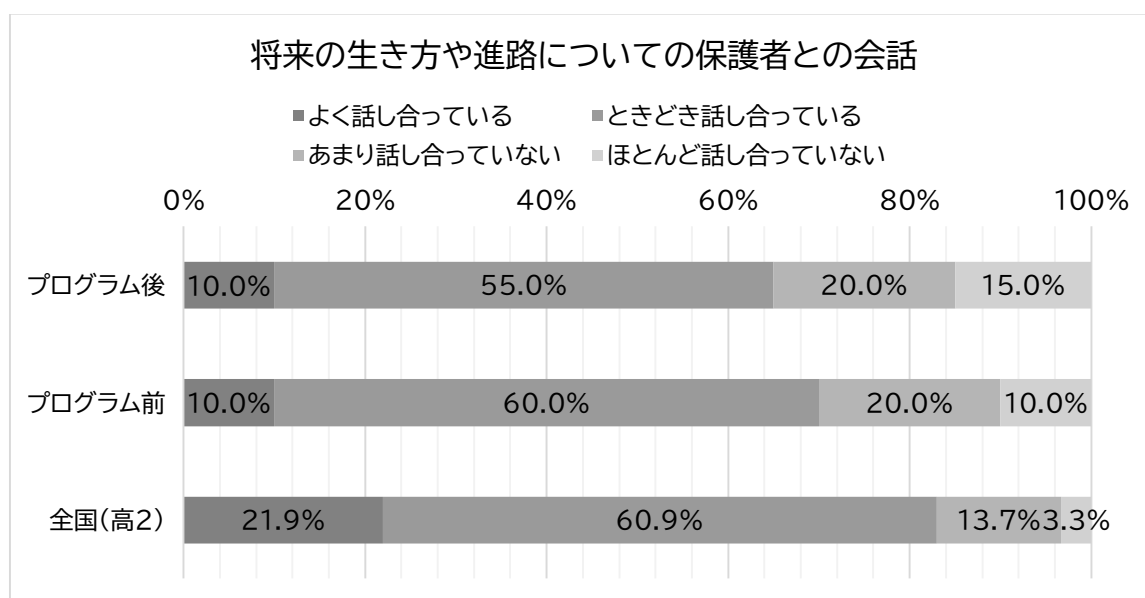
日時 2024 年 9 月 6 日
対象 熱帯資源科動物コース 2 年生
人数 20 名（男 2 女 15 他 3）

プログラム後

日時 2025 年 1 月 11 日
対象 熱帯資源科動物コース 2 年生
人数 20 名（男 2 女 15 他 3）

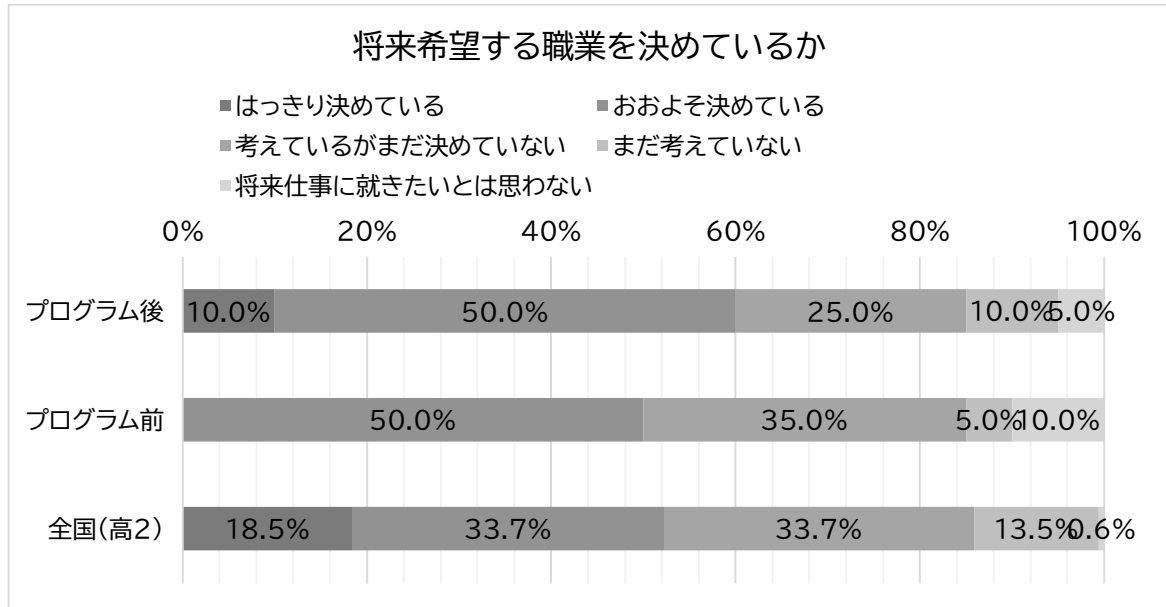
4.4.1 将来の生き方や進路についての保護者との会話

プログラム前後で、大きな変化はなかった。
プログラム後に「よく話し合っている」「ときどき話し合っている」と回答した割合は 65% で、全国（83%）と比較すると低かった。



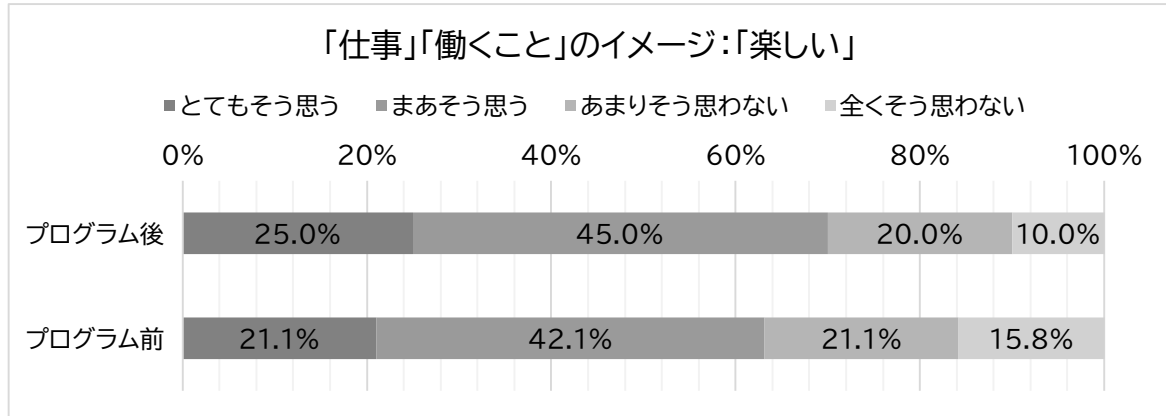
4.4.2 将来希望する職業を決めているか

「はっきり決めている」「おおよそ決めている」と回答した割合について、プログラム前は50%だったが、プログラム後は60%に上昇し、全国（52%）よりも高かった。

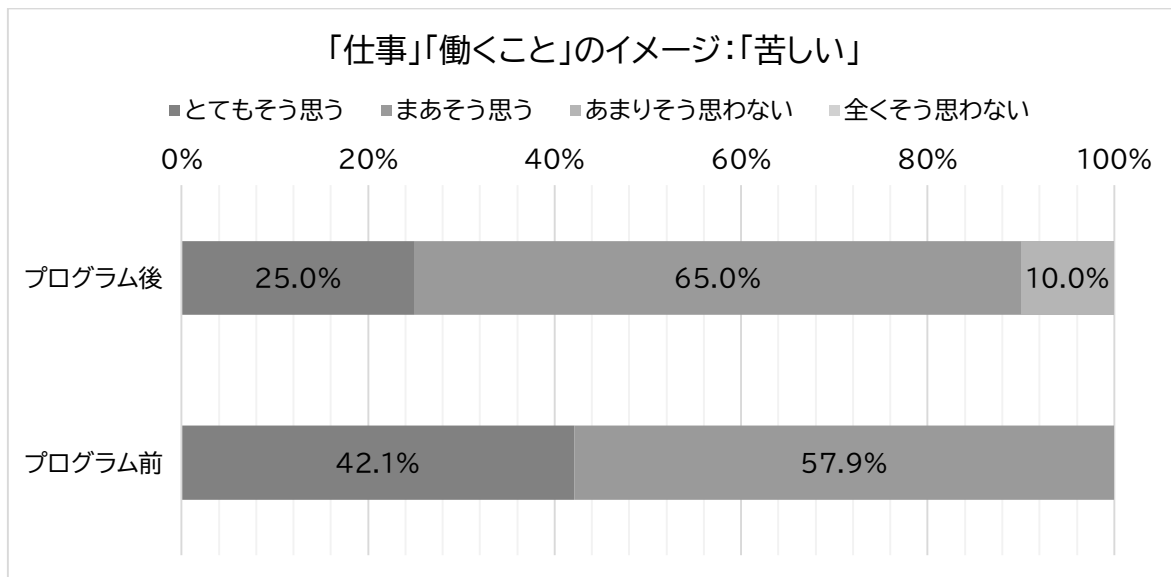


4.4.3 「仕事」「働くこと」のイメージ

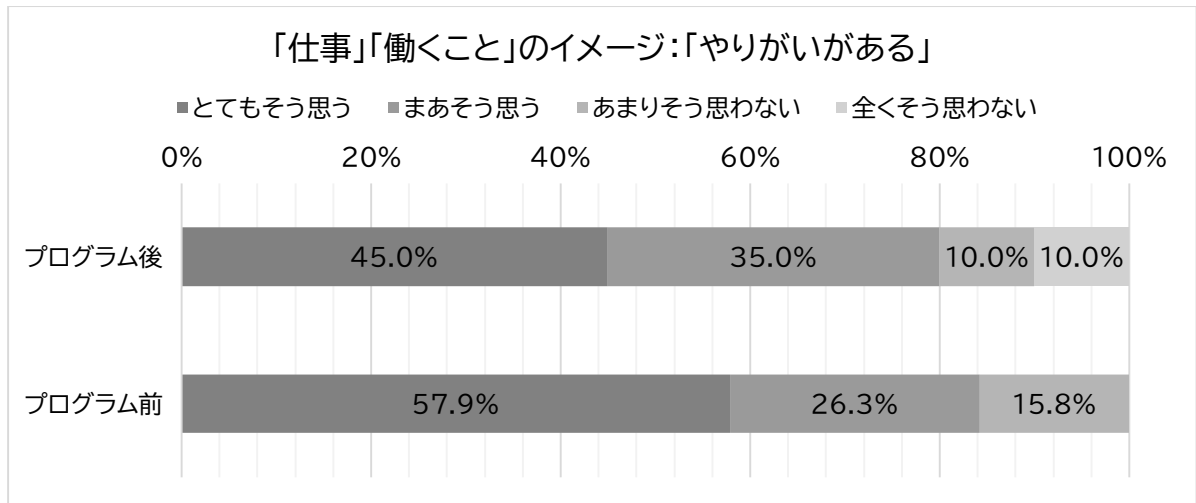
「楽しい」について、「とてもそう思う」「まあそう思う」がプログラム前は63%だったが、プログラム後は70%になった。※プログラム前は無回答1（有効回答数19）あり



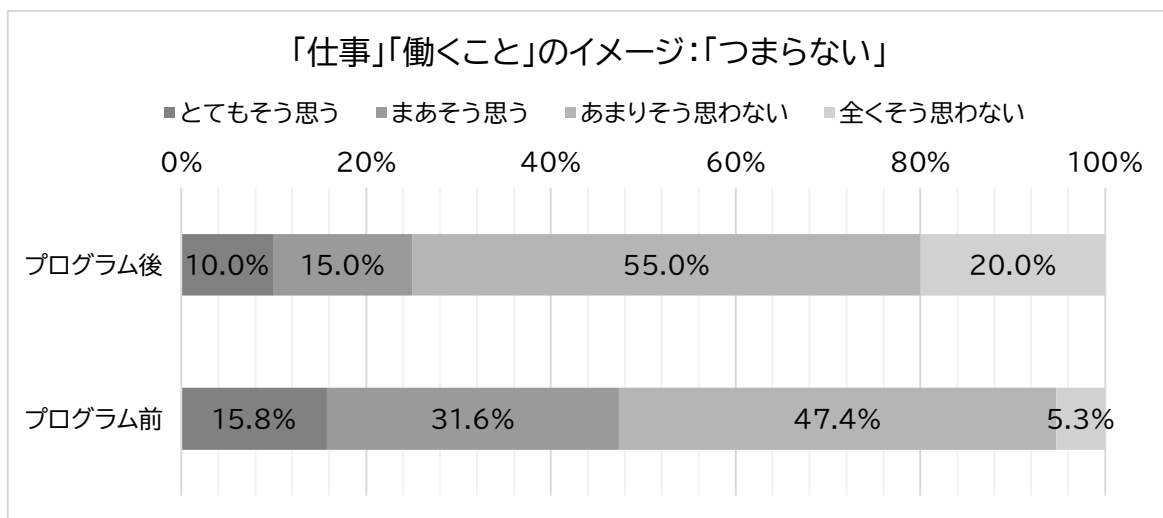
「苦しい」について、「とてもそう思う」がプログラム前は42%だったが、プログラム後は25%だった。※プログラム前は無回答1（有効回答数19）あり



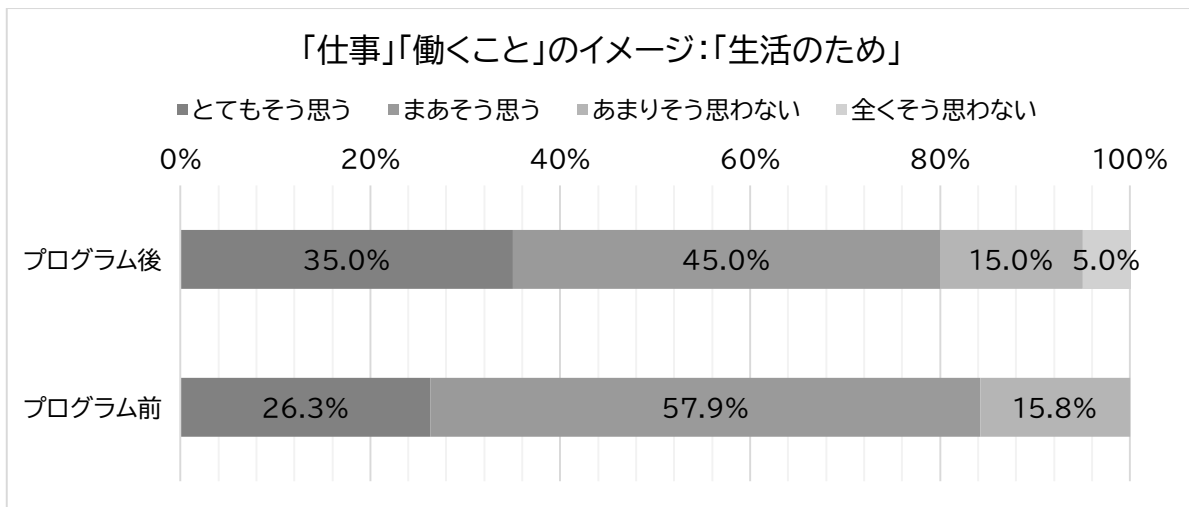
「やりがいがある」について、「とてもそう思う」「まあそう思う」がプログラム前は84%だったが、プログラム後は80%だった。



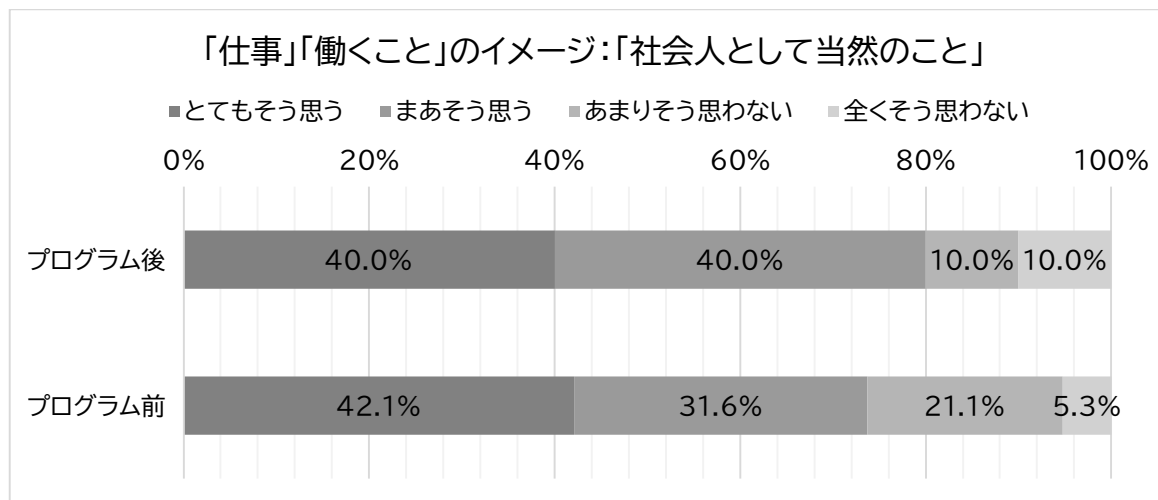
「つまらない」について、「とてもそう思う」「まあそう思う」がプログラム前は47%だったが、プログラム後は25%だった。



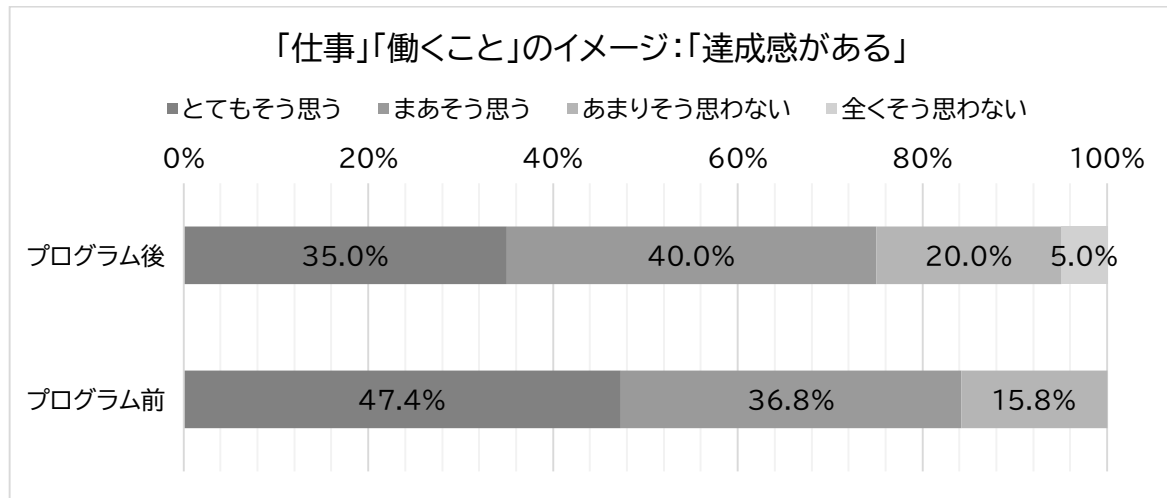
「生活のため」について、「とてもそう思う」がプログラム前は26%だったが、プログラム後は35%だった。



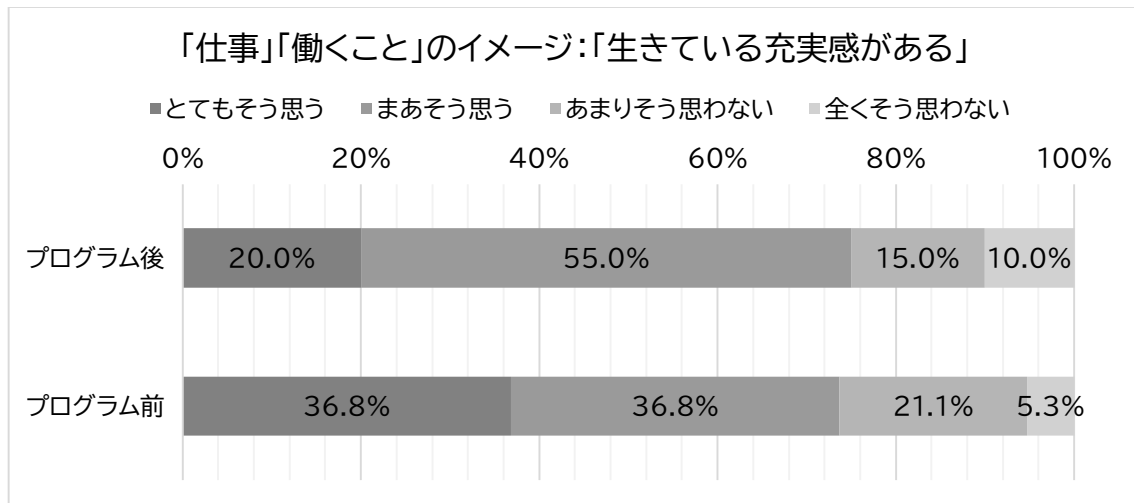
「社会人として当然なこと」について、「とてもそう思う」「まあそう思う」がプログラム前は74%だったが、プログラム後は80%だった。



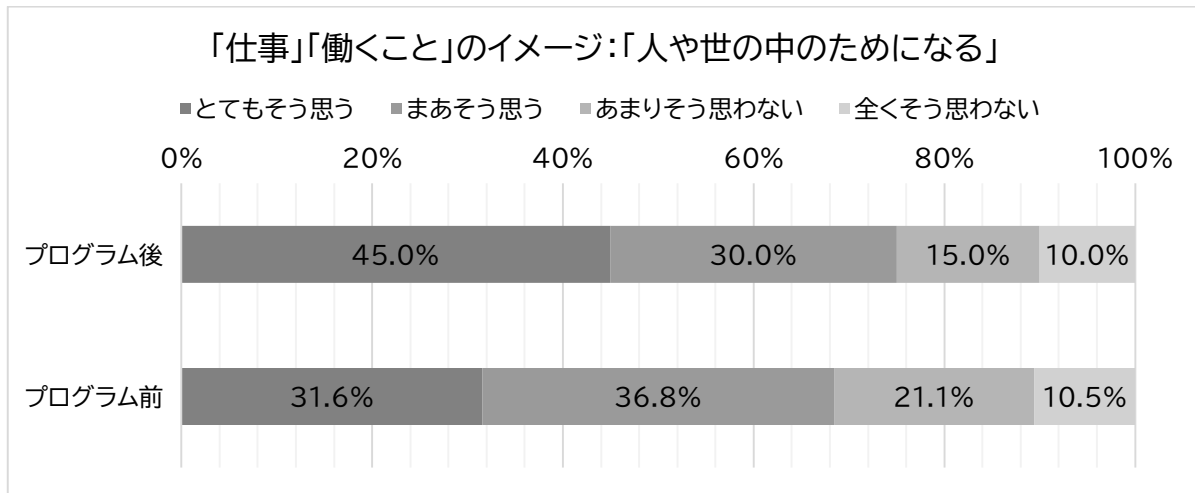
「達成感がある」について、「とてもそう思う」「まあそう思う」がプログラム前は84%だったが、プログラム後は75%だった。



「生きている充実感がある」について、「とてもそう思う」がプログラム前は37%だったが、プログラム後は20%だった。



「人や世の中のためになる」について、「とてもそう思う」がプログラム前は32%だったが、プログラム後は45%だった。



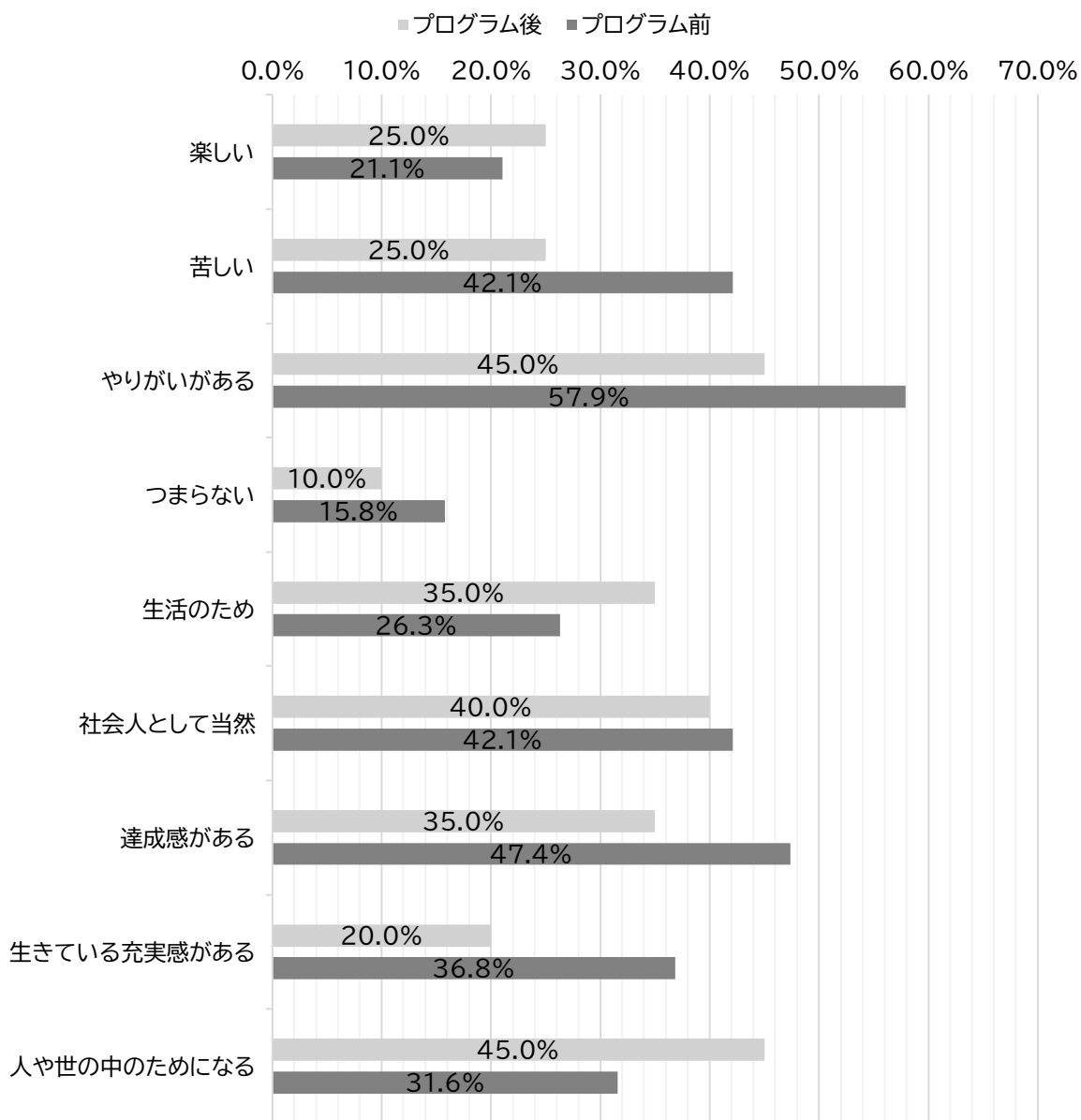
働くことのイメージの6項目について、「とてもそう思う」と回答した割合をまとめた。

プログラム前後で変化率が最も大きかったのは、「生きている充実感がある」で37%から20%に減少した（変化率-46%）。次いで、「人や世の中のためになる」で32%から45%に増加した（変化率+42%）。「苦しい」は42%から25%に減少した（変化率-41%）。

「つまらない」は16%から10%に減少（変化率-37%）、「生活のため」は26%から35%に増加した（変化率+33%）。

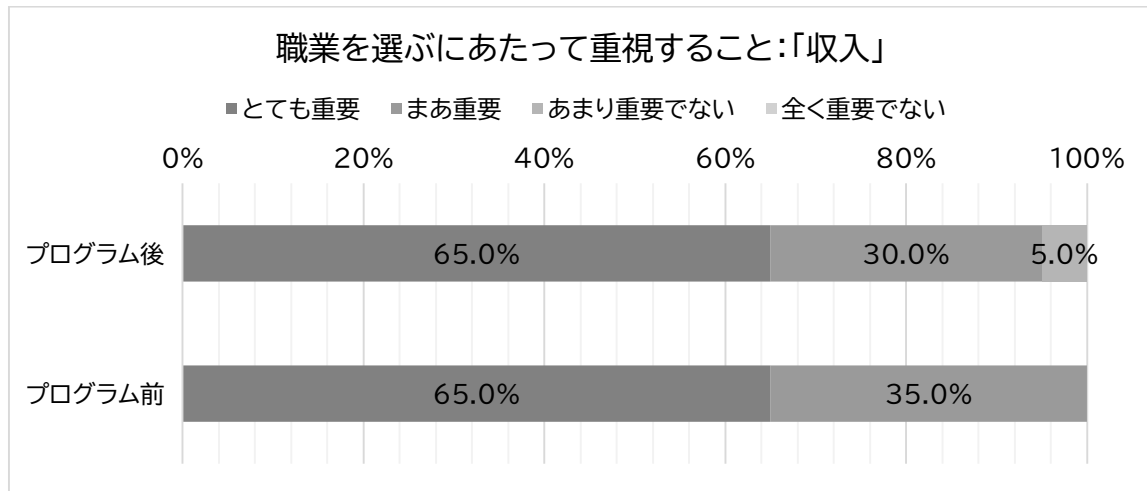
イメージの強さをみると、プログラム前は「やりがいがある」「達成感がある」「苦しい」「社会人として当然」が強かったが、プログラム後は「やりがいがある」「人や世の中のためになる」「社会人として当然」が挙げた。

「仕事」「働くこと」のイメージ:「とてもそう思う」と回答した割合

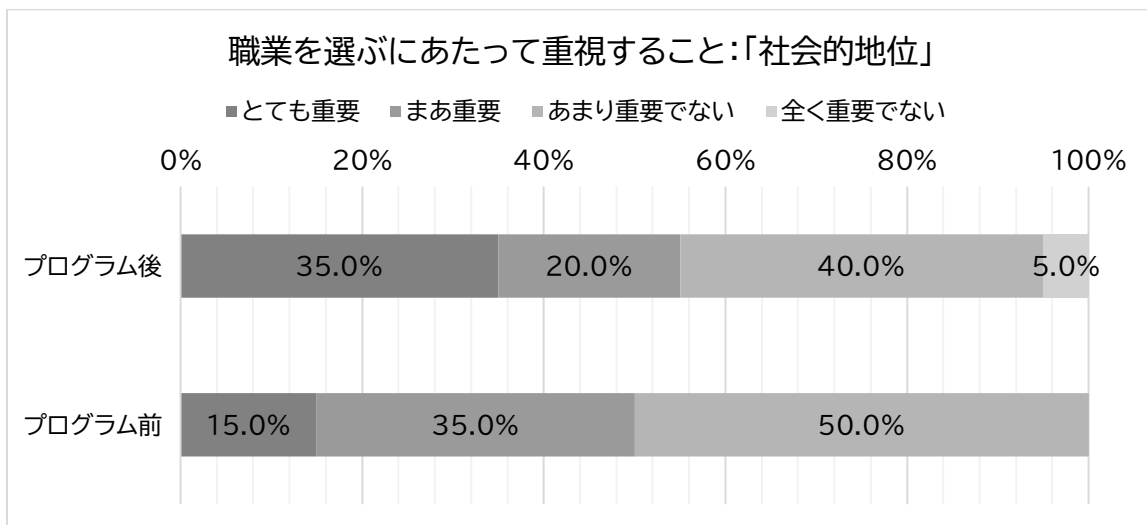


4.4..4 職業を選ぶにあたって重視すること

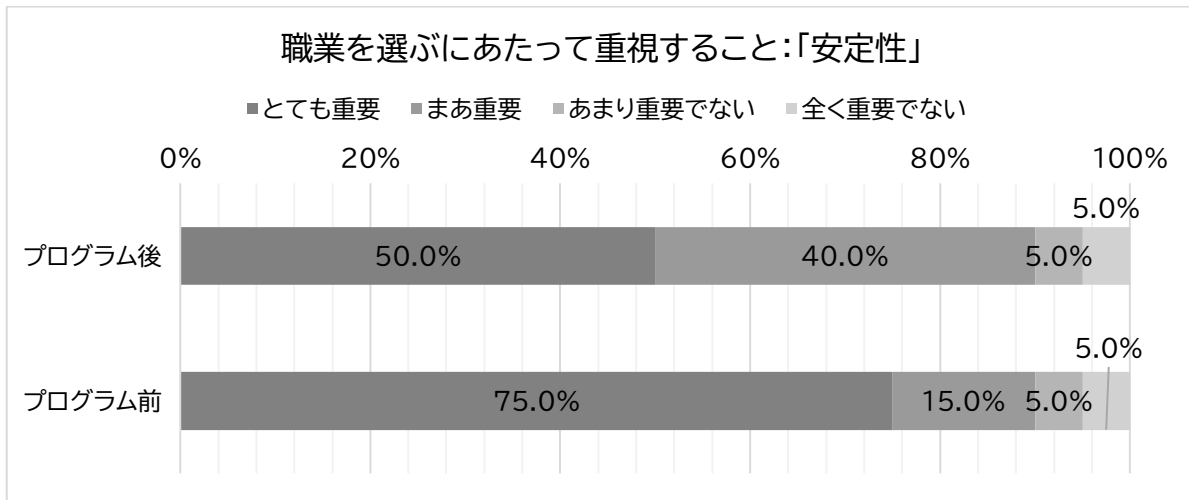
「収入」についてはプログラム前後で特に変化はなかった。



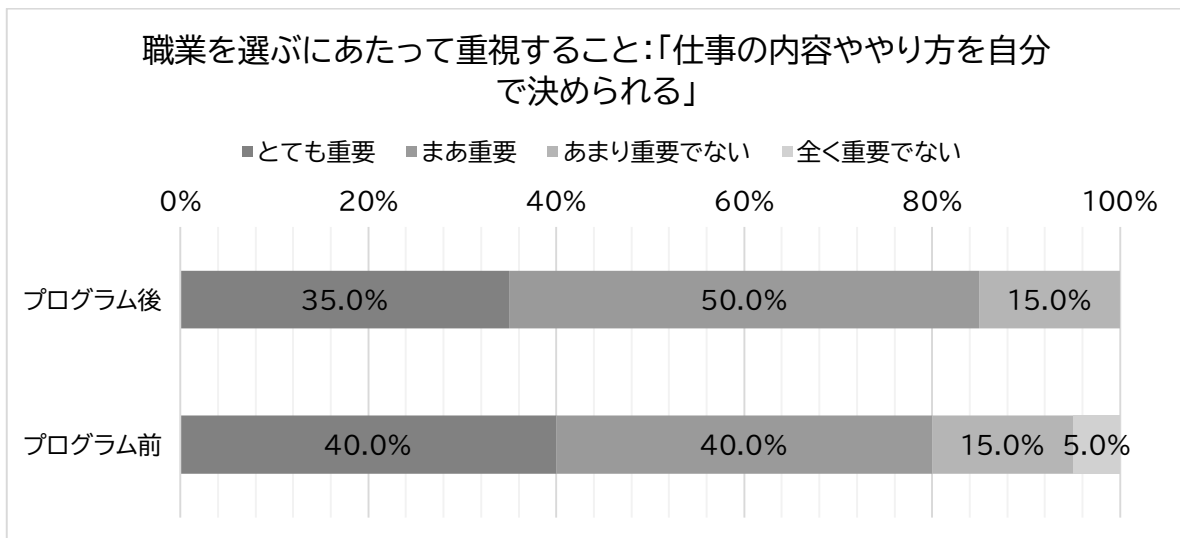
「社会的地位」について、「とても重要」がプログラム前は15%だったが、プログラム後は35%だった。



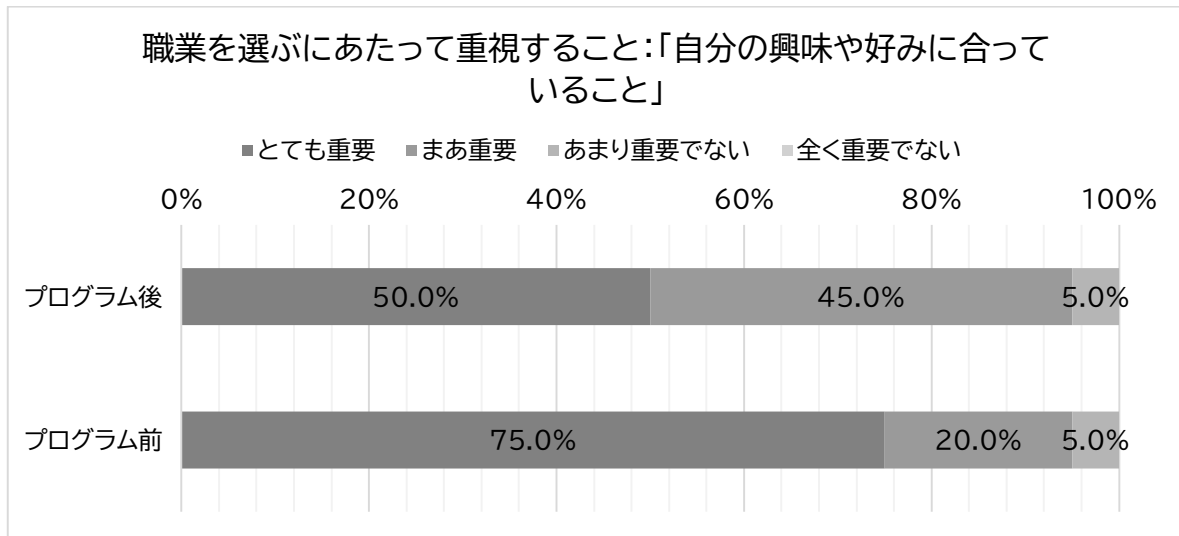
「安定性」について、「とても重要」がプログラム前は75%だったが、プログラム後は50%だった。



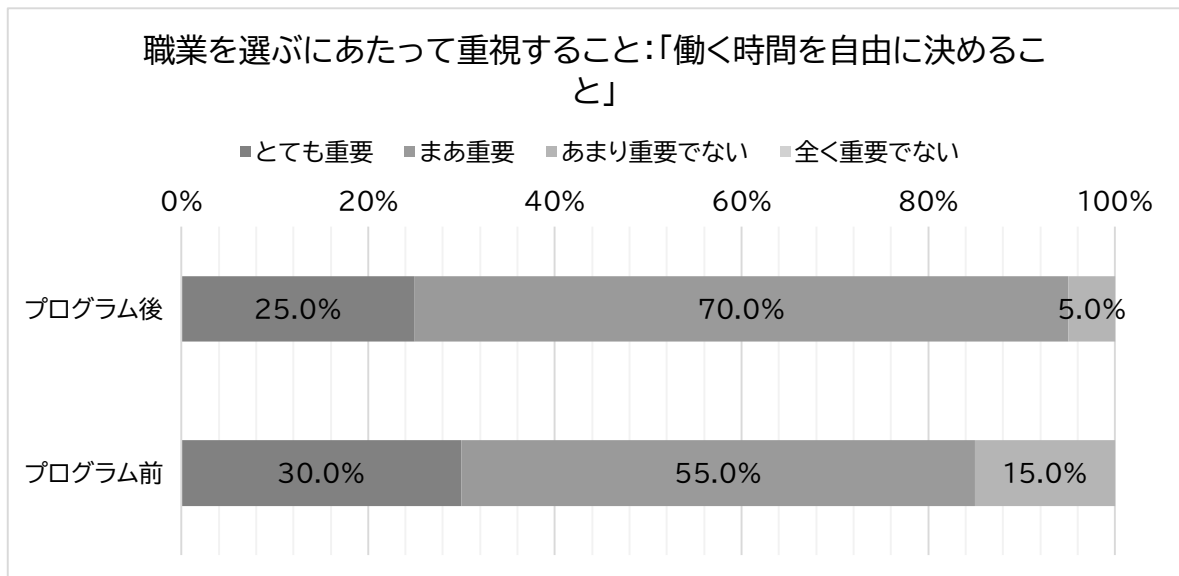
「仕事の内容ややり方を自分で決められる」について、プログラム前後で大きな変化はなかった。



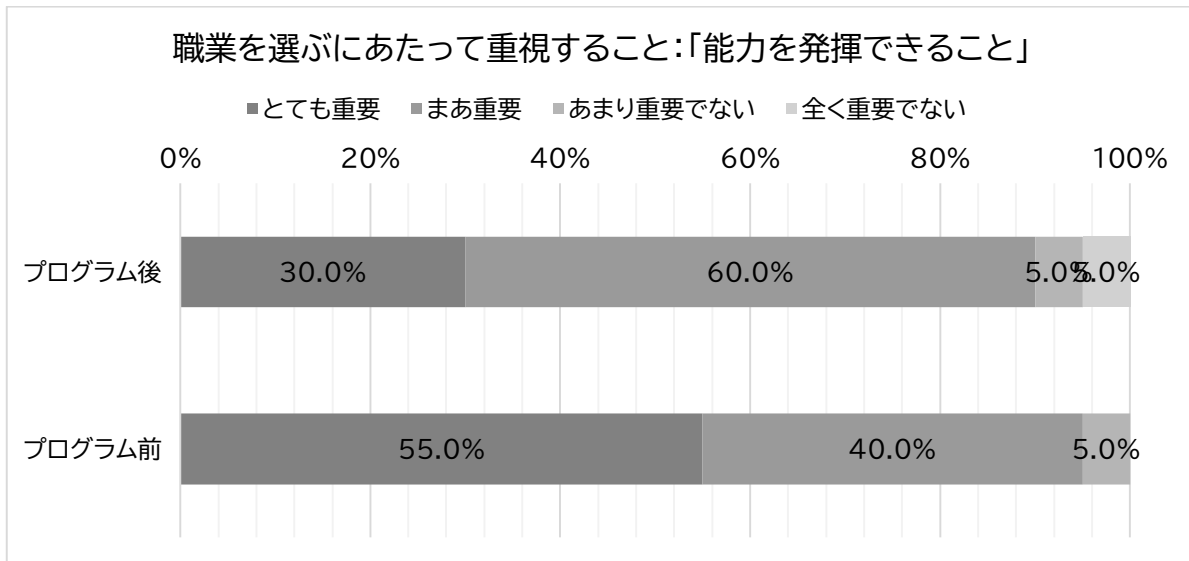
「自分の興味や好みに合っていること」について、「とても重要」がプログラム前は75%だったが、プログラム後は50%だった。



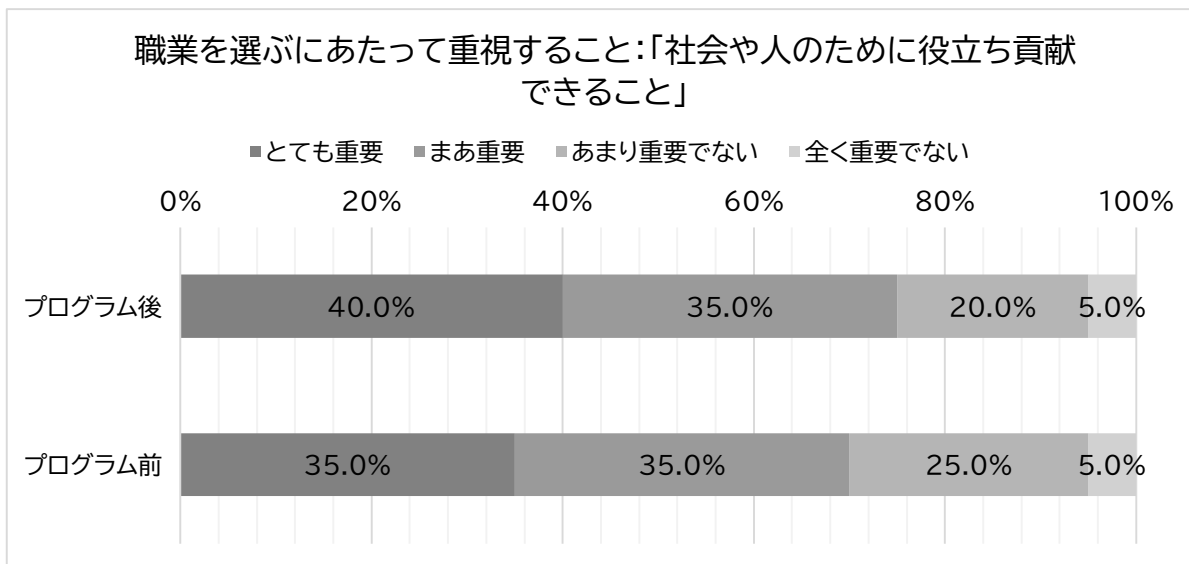
「働く時間を自由に決めること」について、プログラム前後で大きな変化はなかった。



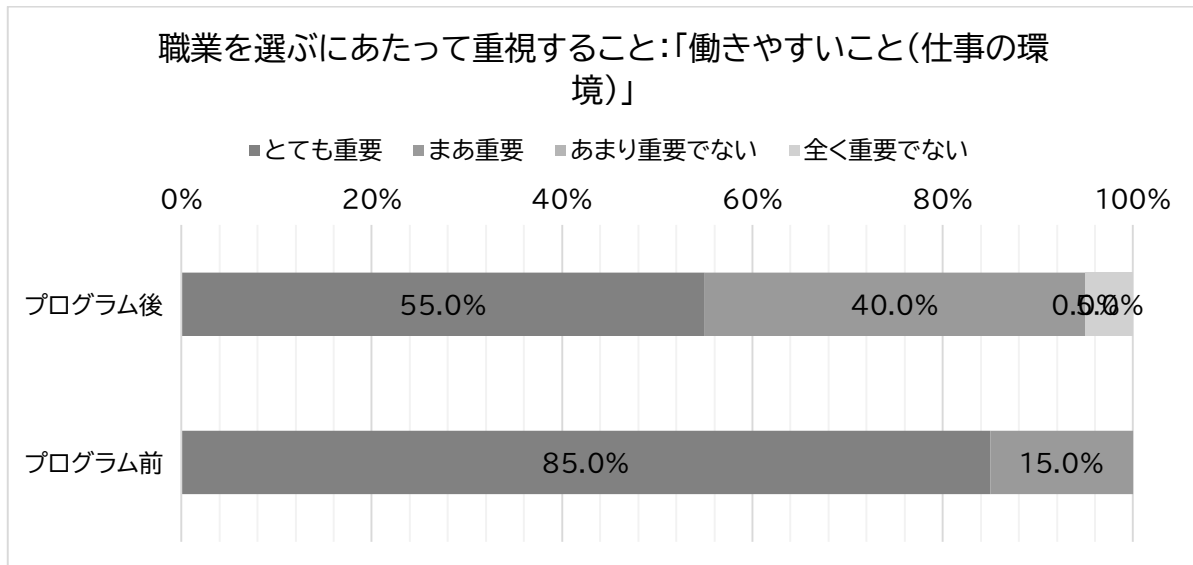
「能力を発揮できること」について、「とても重要」がプログラム前は55%だったが、プログラム後は30%だった。



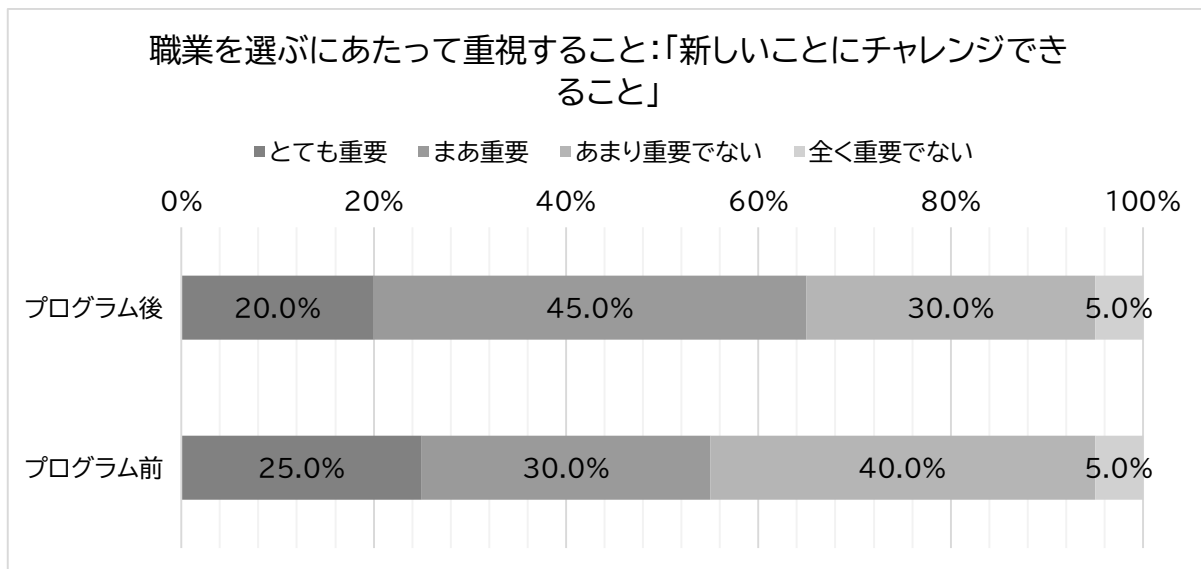
「社会や人のために役立ち貢献できること」について、プログラム前後で大きな変化はなかった。



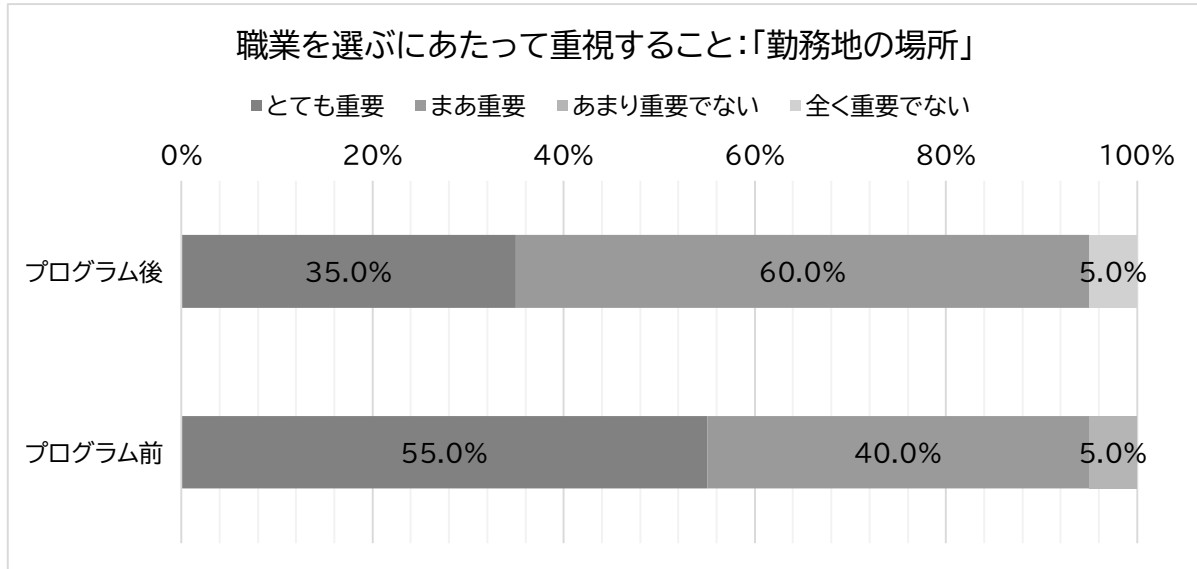
「働きやすいこと（仕事の環境）」について、「とても重要」がプログラム前は85%だったが、プログラム後は55%だった。



「新しいことにチャレンジできること」について、「とても重要」「まあ重要」がプログラム前は55%だったが、プログラム後は65%だった。



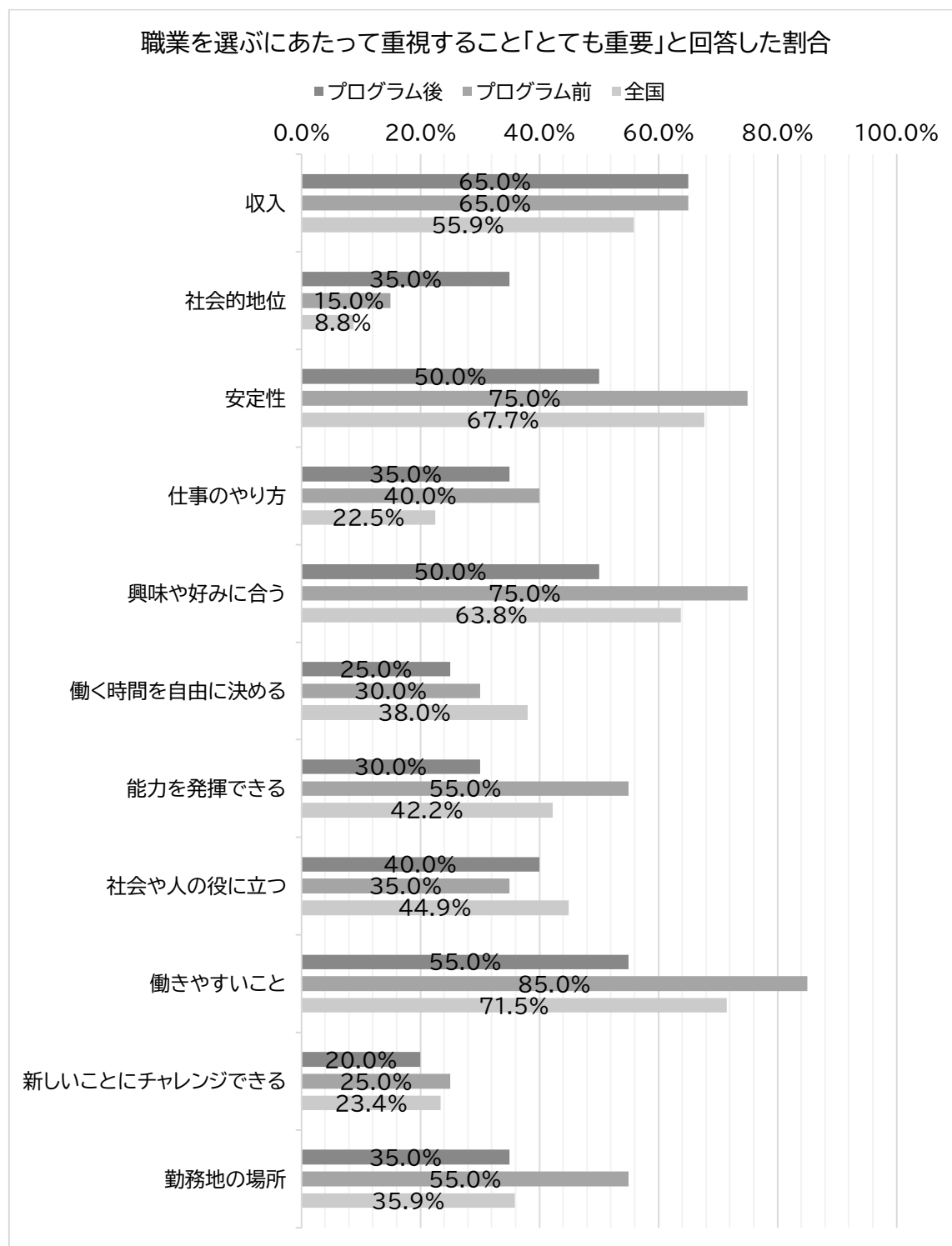
「勤務地の場所」について、「とても重要」がプログラム前は55%だったが、プログラム後は35%だった。



職業を選ぶ際に重視することの 11 項目について、「とても重要」と回答した割合をまとめた。

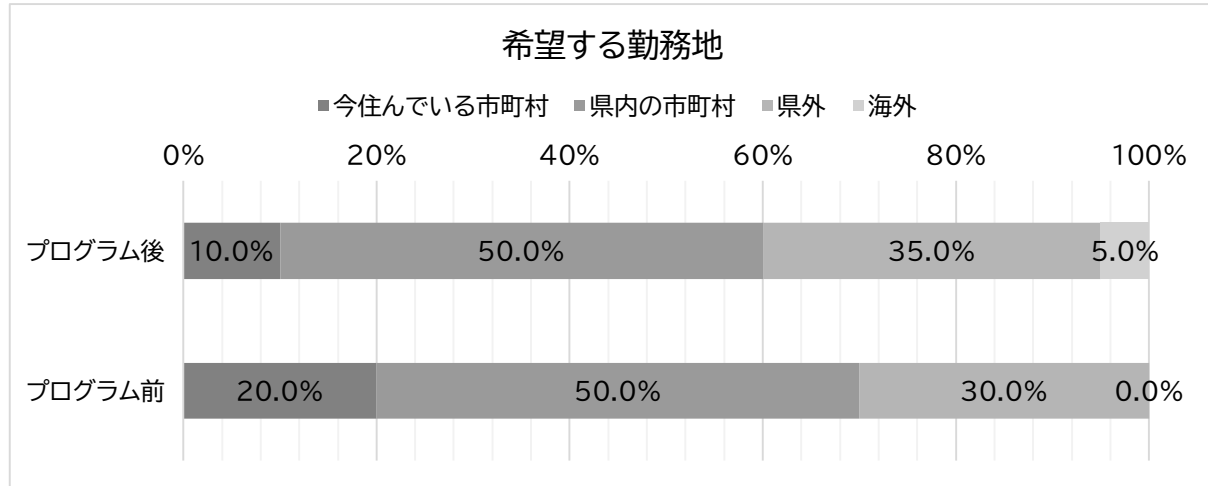
プログラム前後で大きく変化したのは、変化率+133%の「社会的地位」、変化率-45%の「能力を発揮できる」だった。

重要度の強さをみると、プログラム前は「働きやすいこと」「安定性」「自分の興味や好みに合う」の順に高かったが、プログラム後は「収入」が一番高くなった。



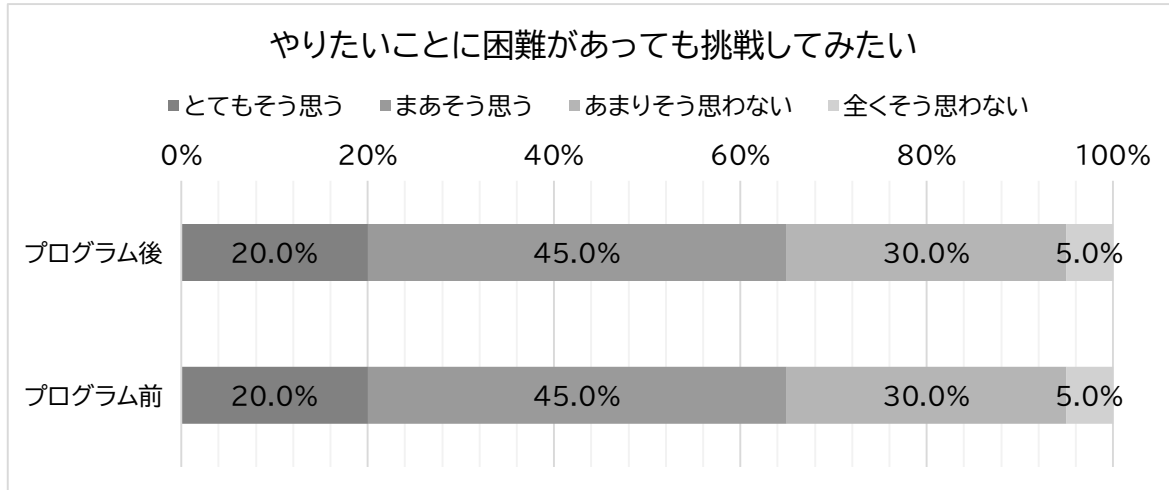
4.4..5 希望する勤務地

「希望する勤務地」について、「今住んでいる市町村」「県内の市町村」を希望する生徒がプログラム前は70%だったが、プログラム後は60%だった。

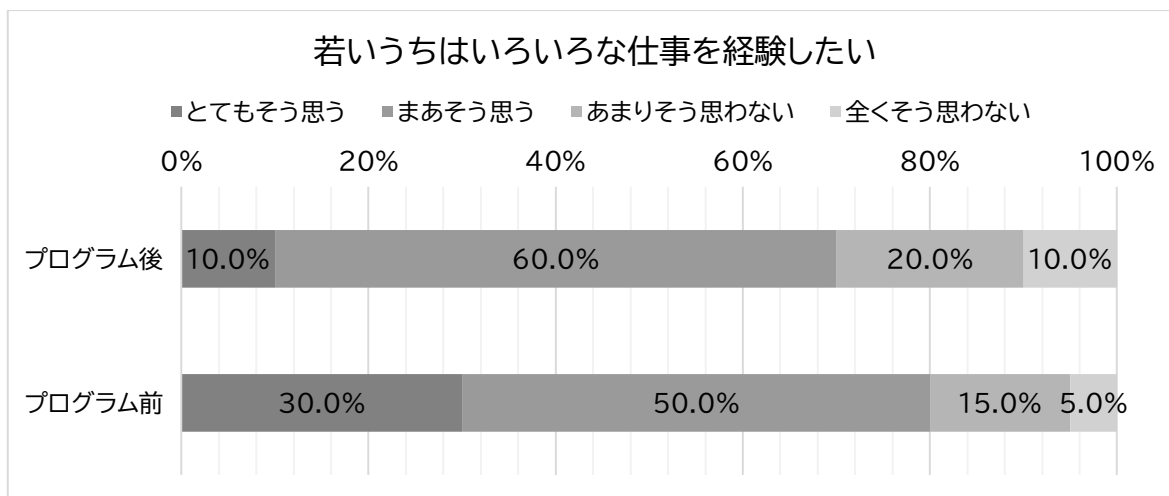


4.4..6 仕事に関する意識・考え

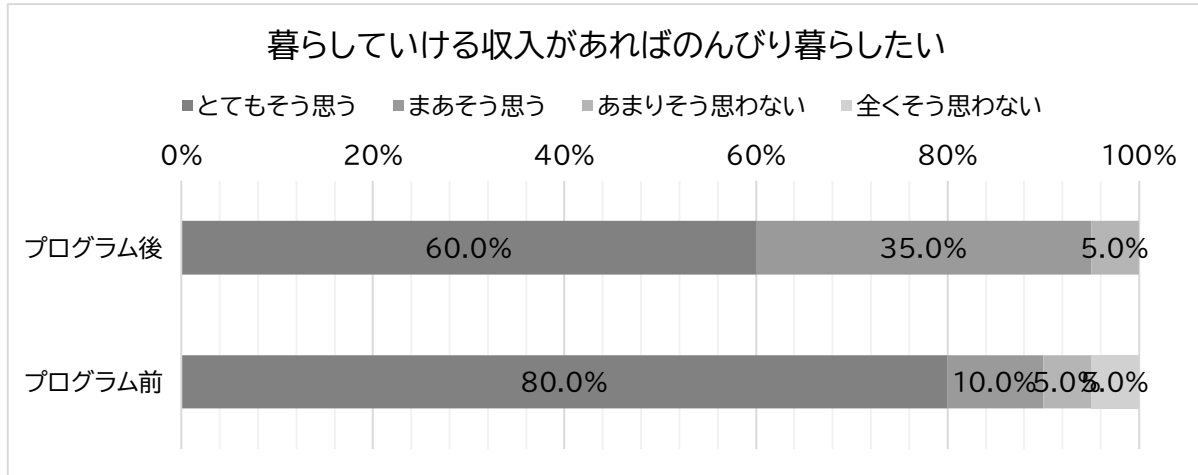
「やりたいことに困難があっても挑戦したい」について、プログラム前後で変化がなかった。



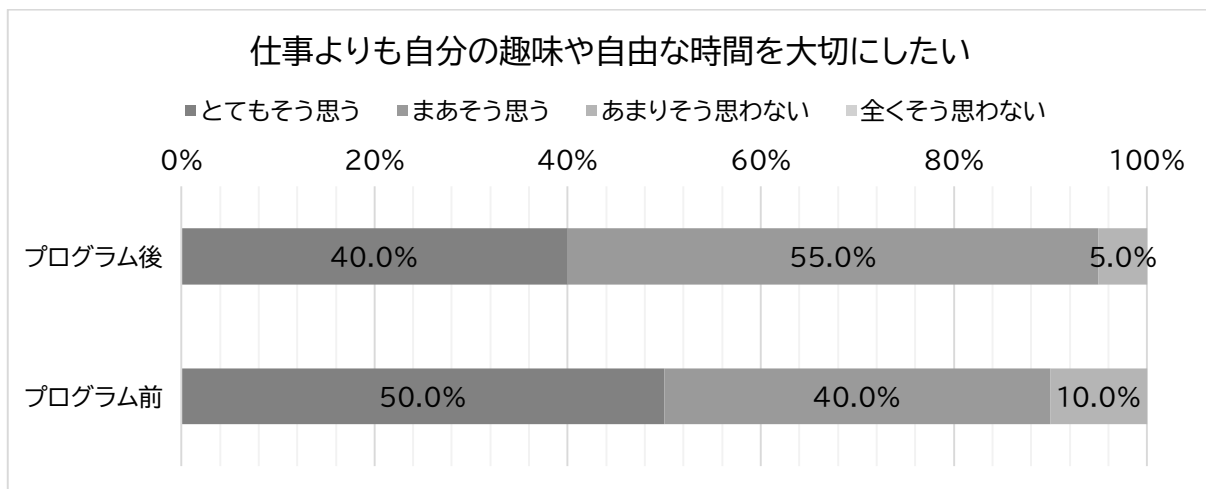
「若いうちはいろいろな仕事を経験したい」について、「とてもそう思う」がプログラム前は30%だったが、プログラム後は10%だった。



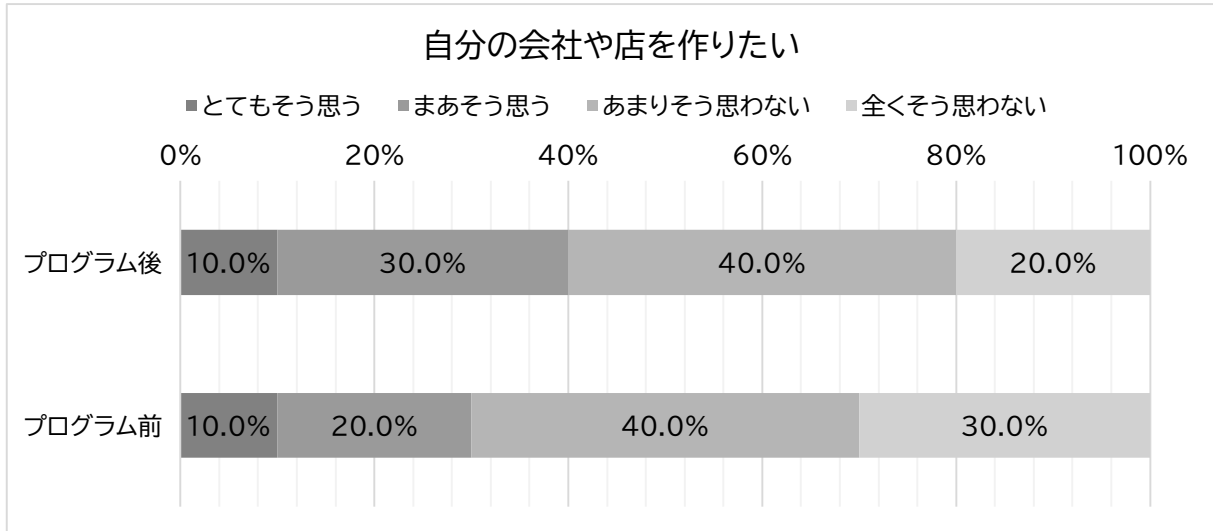
「暮らしていける収入があればのんびり暮らしたい」について、「とてもそう思う」がプログラム前は80%だったが、プログラム後は60%だった。



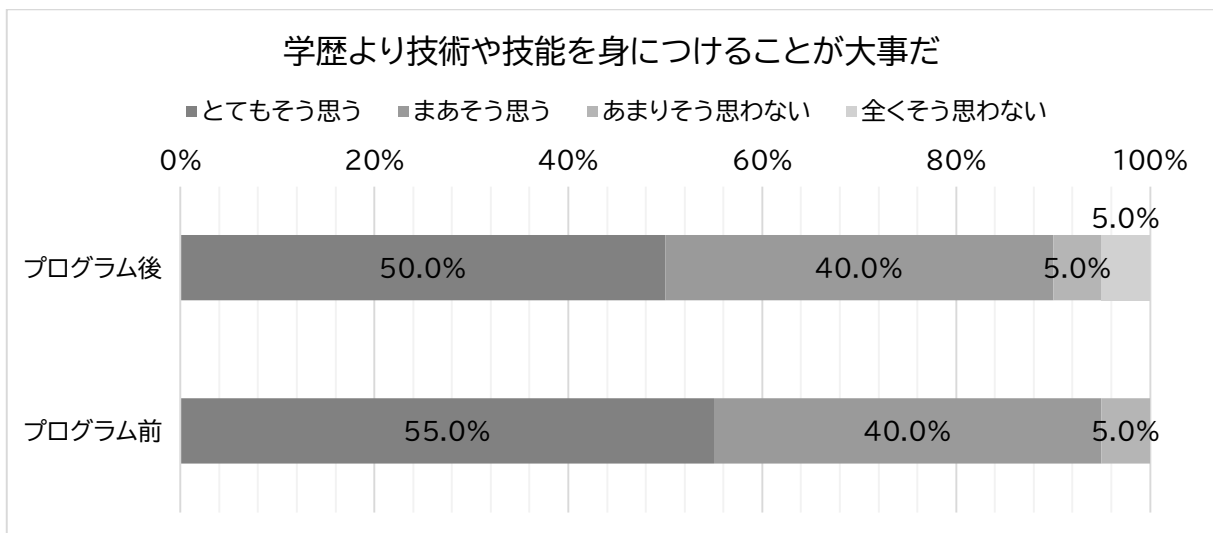
「仕事よりも自分の趣味や自由な時間を大切にしたい」について、「とてもそう思う」がプログラム前は50%だったが、プログラム後は40%だった。



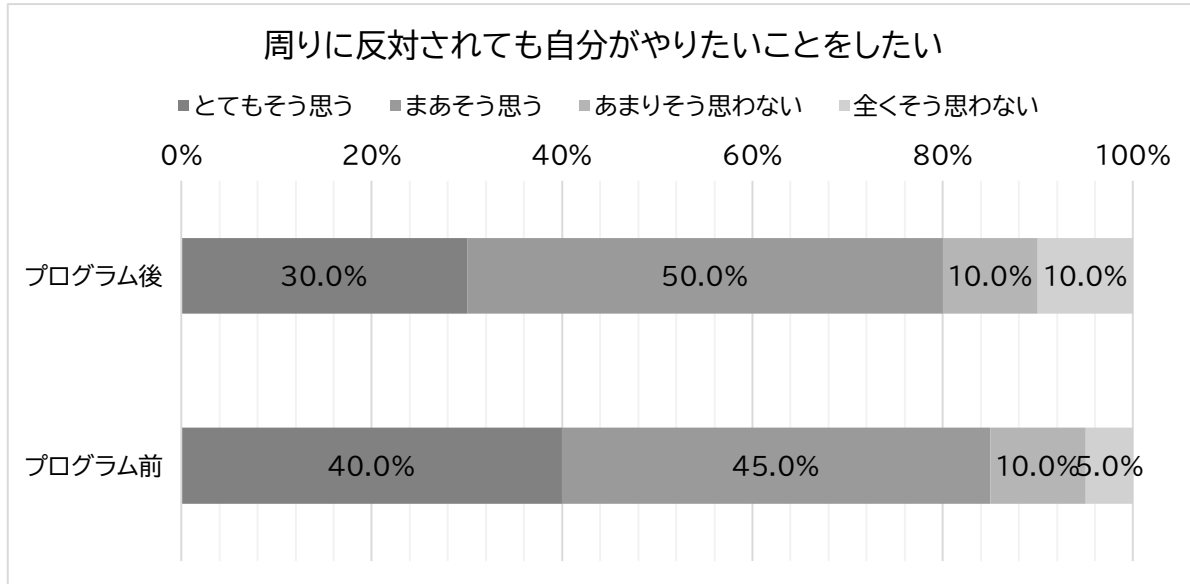
「自分の会社や店を作りたい」について、「とてもそう思う」「まあそう思う」がプログラム前は30%だったが、プログラム後は40%だった。



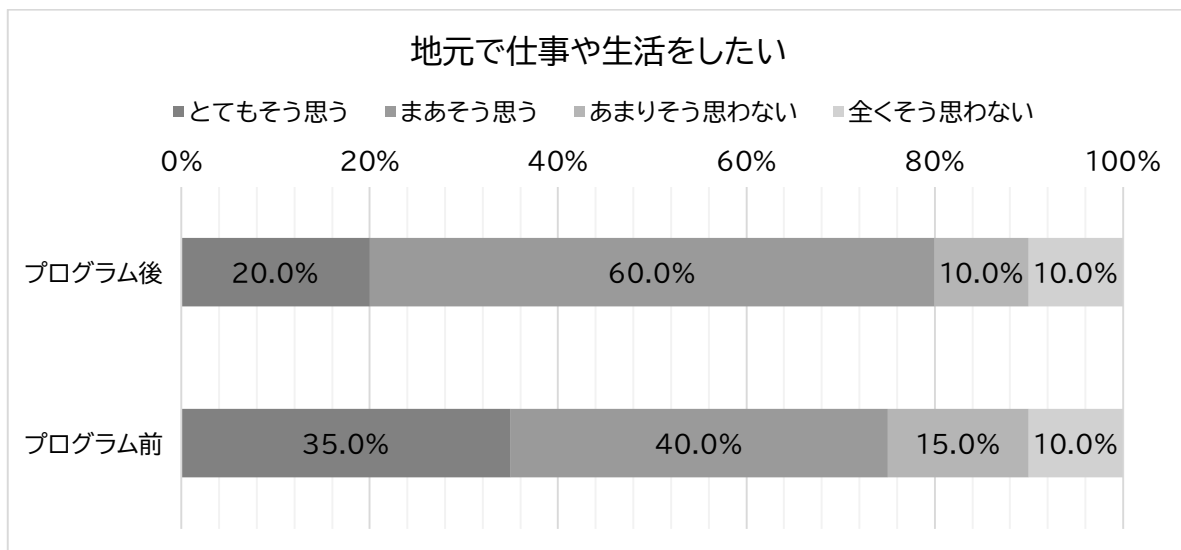
「学歴より技術や技能を身につけることが大事だ」について、プログラム前後で大きな変化はなかった。



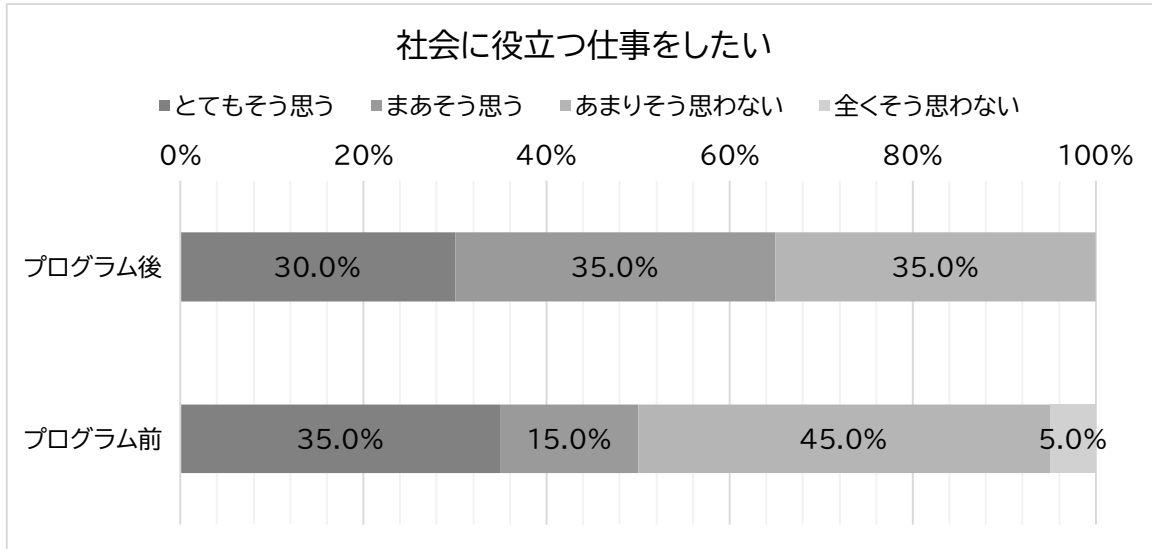
「周りに反対されても自分がやりたいことをしたい」について、「とてもそう思う」がプログラム前は40%だったが、プログラム後は30%だった。



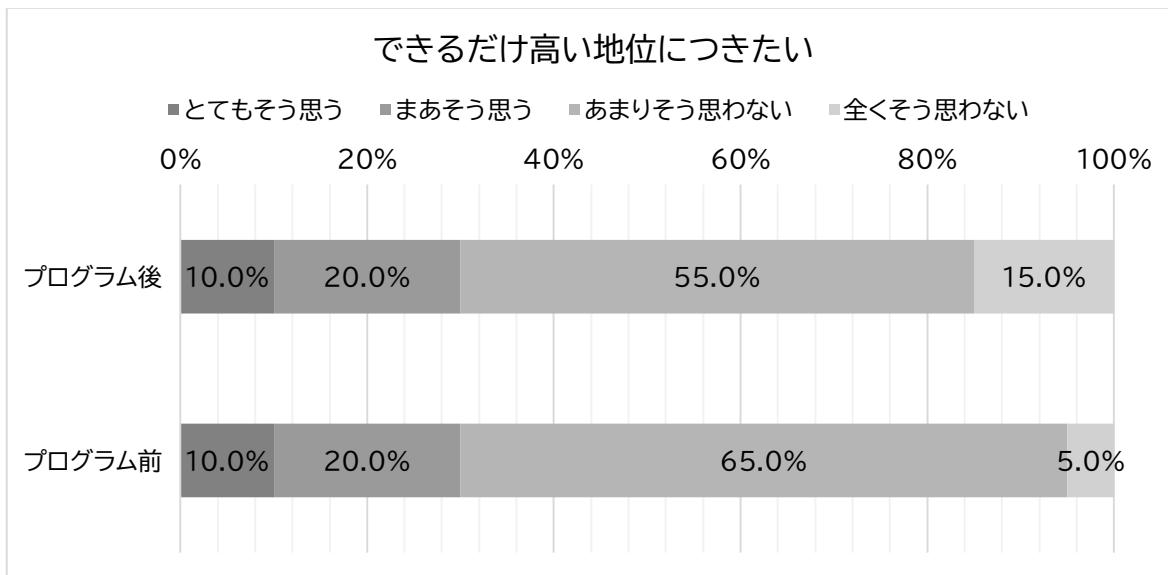
「地元で仕事や生活をしたい」について、「とてもそう思う」がプログラム前は35%だったが、プログラム後は20%だった。



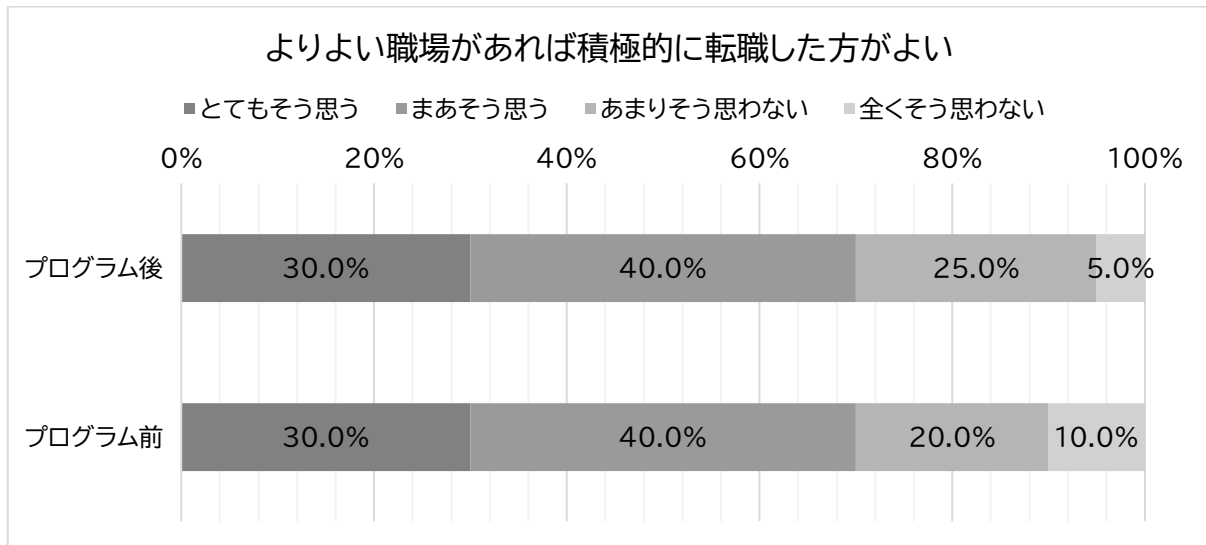
「社会に役立つ仕事をしたい」について、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」がプログラム前は50%だったが、プログラム後は75%だった。



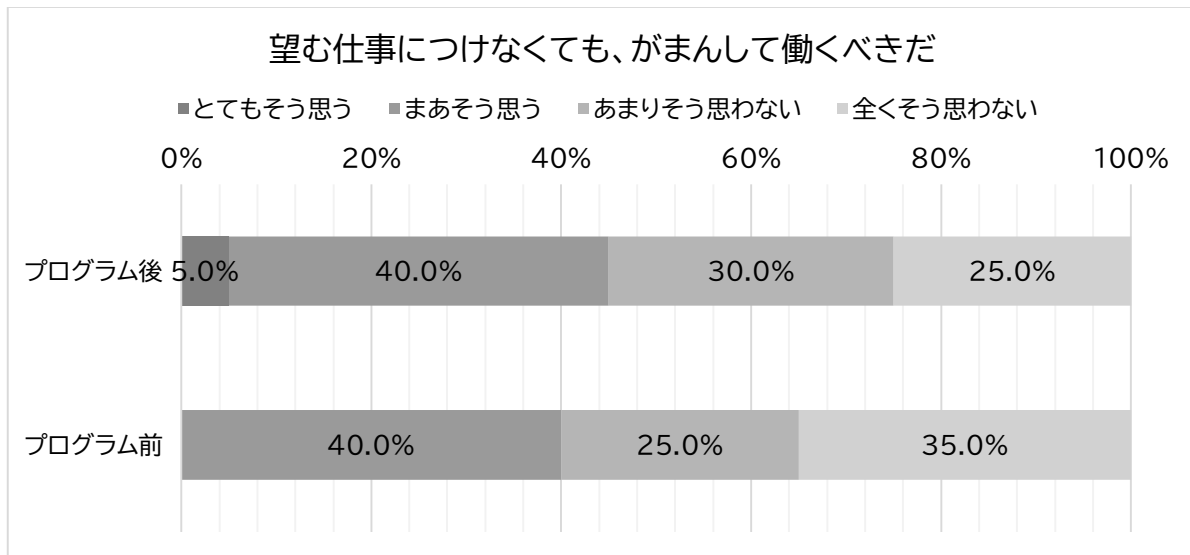
「できるだけ高い地位につきたい」について、「全くそう思わない」がプログラム前は5%だったが、プログラム後は15%だった。



「よりよい職場があれば積極的に転職した方がよい」について、プログラム前後で大きな変化はなかった。



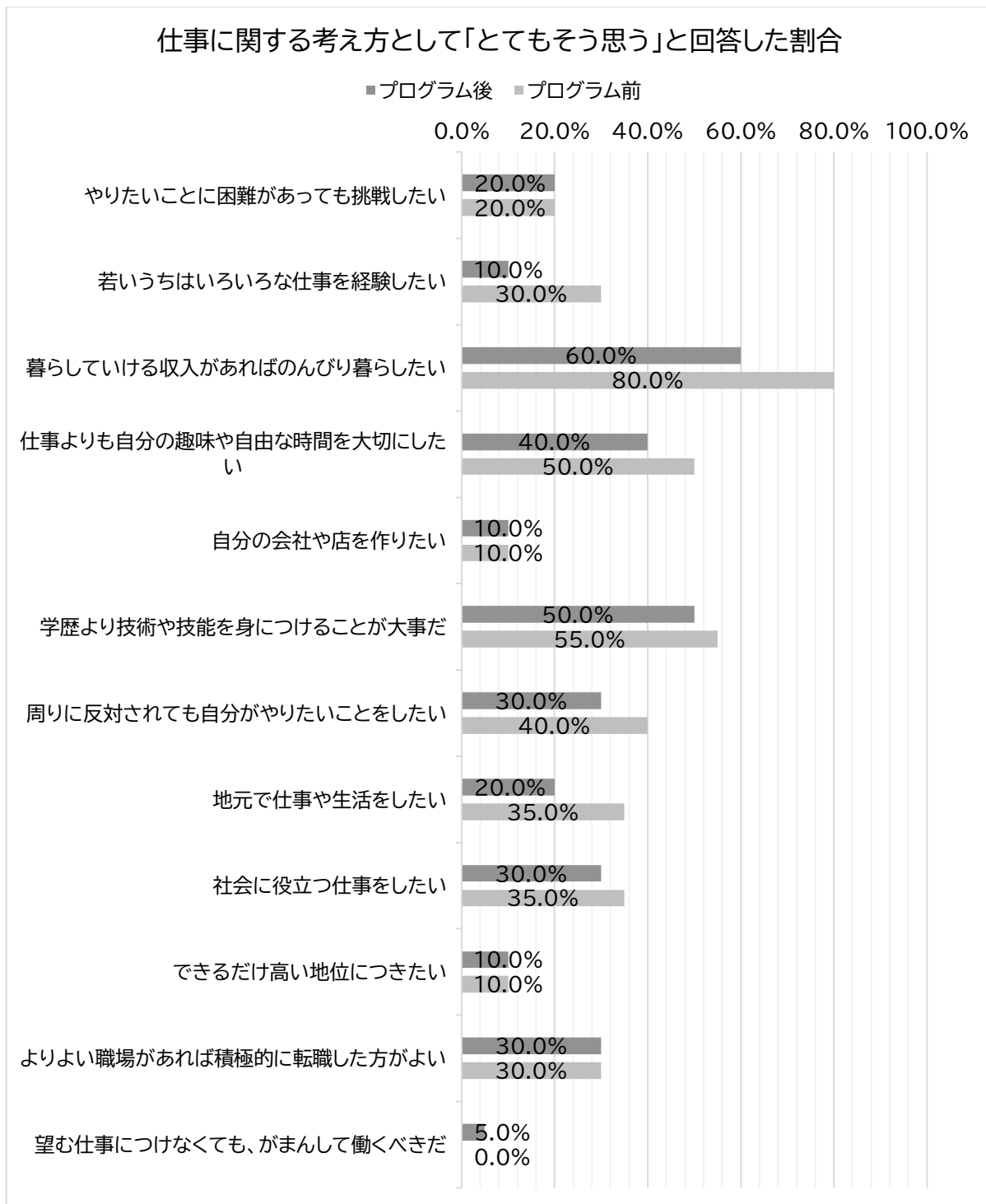
「望む仕事につけなくてもがまんして働くべきだ」について、「全くそう思わない」がプログラム前は 35% だったが、プログラム後は 25% だった。



仕事に関する意識・考えの12項目について、「とてもそう思う」と回答した割合をまとめた。

プログラム前後の変化率が高かったものは、「若いうちはいろいろな仕事を体験したい」が変化率－67%、「地元で仕事や生活がしたい」が変化率－43%だった。

意識・考えの大きいものは、「暮らしていける収入があればのんびり暮らしたい」、「学歴より技術や技能を身に付けることが大事だ」「仕事よりも自分の趣味や自由な時間を大切にしたい」だった。



4.5 ジョブシャドウイング・インターンシップ受入企業調査

4.5.1 ペットクラブオーシャン

日時：12/10（火）11：00～12：00

場所：沖縄県北中城村 有限会社 ペットクラブオーシャン

お伺いした方：代表取締役金城高治様

九州ケネル事業協同組合専務理事、元北中城村村会議員

①職場見学や職場体験、インターンシップの受け入れ状況と内容について

Q：インターンシップを受入れている学校を教えてください。

小学生や中学生、高校生を受入れています。専門学校生は実習ということで受入れています。

Q：小学生はどんなことをされていますか。

小学生は、店舗に入ってもらっています。普通のお客様もいらっしゃるので商品や動物には触らず、カウンター内や店先であいさつをしてもらっています。

Q：時間はどのくらいされていますか

午前中のみです。だいたい2～3時間でお店の雰囲気を感じてもらっています。

Q：中学生も店舗見学のような感じで受入れをされているのでしょうか。

いいえ。中学生は、店舗見学ではなく職場体験をおこなっています。内容は、陳列商品の拭き掃除や陳列をしてもらったり、店内を清掃したり、カウンターの中に入ってもらって接客などをやってもらっています。

Q：高校生はどうでしょうか。

高校生は中部農林高校の熱帯資源科の動物コースから職場体験を行っています。彼らは、動物の勉強もしていますし扱いにも慣れているので、動物の世話や飼育を手伝ってもらうこともあります。

トリマー希望で経済的な理由で専門学校に通えない生徒がいたことがあったので、アルバイトとしてトリマーの手伝いをしてもらい基本的な技術を身に付けてもらったこともあります。

もちろん、本人の希望によってショップ中心の職場体験を行うなどなるべく本人の希望に添うような形で行っています。

Q：受入れの期間はどのくらいでしょうか。

中学生の職場体験は、3日間行っています。

私が議員をやっていた時に中学校の発表会に呼ばれたことがあり、そこでたまたま中学生が職場体験のパネル発表をやっていて、中学生が一生懸命真剣に発表している姿に大変感動しました。このような会を中学校では外部に公開しておらず大変残念に思いましたので、職場体験に協力していただいた企業全員に声をかけて発表会に参加してもらうよう進言をしたこともあります。

中学生の目線から見た我々企業の姿を知ることでもでき、私たちも勉強させていただけることも多いと思います。

Q：専門学校の実習についてはどうでしょうか。

専門学校は、1日6時間で6日間の実習を行っています。内容は、トリミングやシャンプーなど専門学校で学んでいることを実習してもらっています。

なるべく実際の現場に近い形で実習を行い、教科書や学校では学べないことをやるようにしています。

Q：例えばどのようなことでしょうか。

例えば、お客様からお預かりした犬を抱くときでもただの移動ではなく、その子が太っているか痩せているか、皮膚に異常はないか、体にしこりはないかなど、抱くことの意味（健康管理を兼ねる）を知ってもらうようにしています。

②職場見学や職場体験、インターンシップの受け入れ評価について

Q：様々な学校から職場見学や職場体験、実習を受入れておられる中で、インターンシップが終わったあとの評価はどのようにされていますか。

小学生の場合はお店の雰囲気を知ってもらえればよいので、特に成績をつけるような評価はしていません。

中学生は、実習日誌のようなものがあるので、それに評価をしますが、やはりあまり厳しい評価はせずにはげますような書き方をしています。

専門学校の実習評価は、将来プロフェッショナルになろうとしているわけですから、従業員基準で厳しい評価をしてもよいのではないかと思います。

基本的に実習日誌での評価になるので、そういう意味でいうと評価基準が特に明確になっているわけではないですね。

③職場見学や職場体験、インターンシップの問題点や課題について

Q：職場見学や職場体験、インターンシップの課題として挙げられる点を教えてください。

小学生の職場見学についてはまだ子どもなので仕方がないところもあると思いますが、中学生については、職場体験の目的を先生方に明確にいただけるとこちらとしてもやりやすくなります。

最低でもあいさつなど基本的なことが出来るようになって来ていただけると助かります。

専門学校の実習については、学校である程度技術を習得しているの、今どのくらいの技術を持っているのか、どのような人物（性格）なのか、本人の将来の希望は何なのか事前にわかるとありがたいです。

それを見て、こちらの実習をしてもらうことを変えたり本人のためになるような内容に変えたりして対応も変えることができます。今は、実際に実習にきていただいてから対応するスタイルを取っています。

Q：具体的にどのような評価があればよいでしょうか。

そうですね。例えばトリマーならば、トリマーとしての技術評価や、本人がどのようなトリマーを目指しているのか、ショップ希望なのか。技術だけでなく、本人がどんな長所がありどこが短所なのか、何ができて何ができないのか、などです。

特に、本人が実習で何を学びたいかははっきりしてきてもらうと協力の仕方も変わってきます。

④ペット業界の課題について

Q：これからのペット業界の課題は何でしょうか。

業界全体の課題としては人手不足と後継者不足につきますと思います。

この業界は、普通のビジネスとは違うところが多くあります。扱うもの（動物）の特殊性や法律に左右されることもありますし、商品自体が高価であることも確かです。仕事として考えるとそのノウハウを蓄積するにもそれなりに時間がかかります。なかなか大変なことも多く、この仕事をずっと続けられる人が少なくなっています。そのため、やっと一人前に成長した頃に辞めてしまう人が多いのが現実です。ですので、需要はあってもビジネスを展開できていないのが現状です。

もうひとつの課題、後継者不足に関しては、特にブリーダーが深刻です。今、沖縄にはブリーダーが500名程度いると思いますが、ほとんどの方が60歳以上の方です。30代40代は非常に少ない。ブリーダーの方は個人でされていて皆さんギリギリのところで仕事をされています。悪質なブリーダーが社会問題にもなり法も厳しくなったため、ビジネスとしての可能性がないので若い人も取り組みにくいのだと思います。今のままでは2、30年後のこの業界はどうなるのか不安になる飼い主さんもいらっしゃいます。

Q：人手不足にはどう対応されているのでしょうか。

人手不足にはパートアルバイト採用で対応しています。トリマーとしての技術を持っていて子育てで一時仕事から離れている方も多いので、そのような方に（基地内にある2つのグルーミングショップも）手伝っていただいています。最近では、他の仕事と兼業するWワークをされる方も増えています。

Q：今後、我々は学生ボランティア活動を一步進めたサービslラーニングの展開を考えていますが、よいテーマはあるでしょうか。

サービslラーニングのテーマとして「譲渡会」が考えられます。繁殖犬は6歳になるとその役割が終わるので、ブリーダーからすると繁殖犬の譲渡需要が発生します。譲渡される犬は子犬ではありませんが、血統のよい犬です。そのため飼いたいという一般の方もいらっしゃいます。

当社では、月2回譲渡会を開催しています。その際にトリミングやシャンプー、飼い方講習などで専門学校生に協力していただけるとこちらとしても助かります。

2019年改正された動物愛護管理法で、ブリーダー業者に対し動物の健康や安全を保つことを強く求め、適正飼育のための細かい数値基準が設けられました。

スタッフ1人あたりが飼育できる繁殖犬の頭数は15頭に制限されました。さらに出産の回数は生涯6回までで、交配時の年齢も原則6歳以下と決められました。

Q：譲渡会の告知はどうされているのでしょうか。

あまり多くの方が来場されても対応しきれないので、譲渡会の告知はホームページで掲載するだけです。それでも何十人の方が口コミで集まってきます。今後譲渡会の規模が大きくなれば告知方法も学生さんの知恵をお借りすることもあるかもしれませんね。

⑤その他

Q：今年度は高専連携の一環として、卒後研修を行いました。

とてもよい試みだと思います。トリミングの仕事をはじめると日々の仕事に追われ勉強する機会や社外の人々の技術を学ぶ機会が少なくなります。お互いに切磋琢磨できる環境をつくる意味でもよいことだと思います。

よい技術者を育てるのも大切ですが、何より大切なのは教える先生の教育だと思います。一定のレベルに達した人だからこそ、より多くの人から学ぶ吸収力も理解力もあります。ぜひ、教える立場の技術者に参加していただきたいと思います。

もちろん、内地から先生を呼ぶのもいいとは思いますが、沖縄には米国のトリミング技術とハンドリング技術を日本に広めた第一人者の原順造先生がいらっしゃいます。トリマー指導を全国各地の専門学校で行われ、ジャパンケネルクラブ主催ドッグショーの審査員も務められています。ぜひ、一度講演をお願いされてはいかがでしょうか。

4.5.2 ペットメディカルセンター エイル

日時：12/11（水）10：00～10：30

場所：沖縄県沖縄市 ペットメディカルセンター エイル

お伺いした方：喜納様

①インターンシップについて

Q：インターンシップを受入れている学校を教えてください。

中学生と、高校生、専門学校生を受入れています。

Q：どのような内容でしょうか。

中学生と高校生はいわゆる職場見学です。ロビーなどの掃除や、カウンターの中に入って職員の動きを見てもらったり、診察の様子を見てもらったりしています。場所によっては診察を見学してもらったりもします。

Q：専門学校のインターンシップはどのような内容でしょうか。

専門学校生は期間が長く、基本的に月曜から金曜の5日間行っています。インターンシップの流れとしては、まず、学生とインターンシップ前に十分な聴き取り面談を行います。

面談は2回程度行い、そこで、学生の考え方や取組姿勢を詳しく聞きます。その後、適性などを見極めたあと、グループ内施設にマッチングをしています。当社の施設は7か所あり、それぞれ設備やその地域や飼い主様、犬種や年齢などが異なり、特徴がある程度ははっきりしているので一番合っているところの責任者と調整して決めています。

Q：具体的にはどのような特徴があるのでしょうか。

CTやMRIなど先端医療機器を備えた施設、地域の人とふれあいが多い施設、小型犬の患者が多い施設、比較的若い年代のお客が多い施設、飼い主さんとゆっくり対応できる施設などがあります。

学生さんの要望や適性をみて決めて、もしうまくいかなければ、途中で移動することもあります。

Q：インターンシップを通じて学生に伝えたいことは何でしょうか。

インターンシップを通じて現場を肌感覚で理解していただき、自身のキャリア目標をしっかりと持って就職していただけることがベストだと考えています。

3年次の実習（インターンシップ）は特に「就職」を意識していますので、当院の看護師とペアで診療補助をしてもらい、評価シートでチェックをしています。

Q：1・2年のインターンシップはどうでしょうか。

1年・2年次の実習（インターンシップ）は、まだ勉強の途中なので専門的な実習は行っていません。しかし、実習を通して学生さんとお話しをする中で、学生さんの考え方や学生の感じた素直なイメージを聞かせてもらい、そういう考え方もあるんだとか、そういうイメージを持たれているのかと、こちらもいろいろ勉強させてもらっています。

学年が上がるに従って、実習中に質問される内容が深い内容になってきます。また、最初は何気なく見ていたことがしっかり観察できるようになってきます。そのような変化を感じたときは成長したなと思います。

Q：インターンシップの決められたプログラムはあるのでしょうか。

インターンシップのプログラムはきちんとしたものを作りたいとは思っていますができていないのが現状です。現場の状況も日によって違いますので、状況にあわせその時のベストな環境で行っています。

Q：状況対応というのは具体的には何をされていらっしゃるのでしょうか。

基本的には、学生の日誌を見せてもらって、日誌で質問があったことや希望を確認します。体験してみて初めてわかることや疑問に思うことを大切にしているからです。

チェックした質問や疑問点は、実習期間内に答えていきます。また、体験しないとわからないことなどは、それに応える形で実習内容を変えることもあります。

②インターンシップの課題

Q：インターンシップの課題としてどんなことがあるのでしょうか。

先ほど説明させていただいた通り、学生さんが書く日誌の内容がその後の実習の方向性を決めることもあるので、気が付いたこと、要望、質問などなるべく感じたことを多く書いてくれると助かります。

Q：日誌が非常に重要であることがわかりました。学生が書く質問や要望の内容に関しては何かあるでしょうか。

どんな些細なことでもよいので感じたことを素直にそのまま書いてくれると助かります。我々が気づかないことの勉強にもなります。

それと、実習で学びたい内容をはっきり、明確に持って参加していただくと対応しやすくなります。ただ、学校の実習の一環としてきていただくのと、目的を持ってきていただくのでは全く違うものになると思います。

また、特に3年次には自分自身のキャリアアップの目標と計画を立てて参加していただくとより有意義な実習になると思います。

Q：キャリアアップの目標と計画とは？

例えば、「私は将来トリマーとして独立開業したい。そのために、3年間ここで基本を身に付けさせていただいて、その後アメリカで数年間修行する。コミュニケーションが取れる英語とトリマーの腕を磨き再び沖縄に戻り開業する。」などです。このような目標と計画を持った人は本当にうちに来て欲しい人材です。

このようなキャリアプランを持っていらっしゃる方だと、我々もその内容と施設のマッチングがしやすく、ミスマッチが起こりにくくなりますし、応援したくなります。

Q：ところで、今の学生は昔と比べて変わったと感ずることがありますか？

そうですね。最近の学生は、昔と比べて積極的に話しかける学生が増えている印象をもっています。我々としてもそのような学生の要望をかなえてあげたいと思っています。

そのような学生さんのおかげで、今のところインターンシップに関してはうまく回っているように思います。欲をいえばもう少し多くの人数を受け入れたいと思っていますところ。

③業界の課題

Q：現在、御社の課題や業界の課題はありますか？

会社としては、中間層の人材がなかなか育っていないのが大きな課題だと思っています。

例えば、様々な経験を積み病院全体を調整できるような中堅看護師の層が薄いことが挙げられます。その中堅看護師が出産育児をするとき、抜けた穴を埋める人材がいなくなるということが起こりえます。これでは、安心して働きやすい環境とはいえません。

対策として、現在、看護部のキャリアパスの見直しと組織化を行って、組織として機能する部門にしていこうとしています。安心して働きやすい職場環境の整備が最優先課題だと思っています。

Q：人を多く採用すると経営を圧迫するのではないのでしょうか。

人材を多く雇用するリスクより、マンパワーが足りないことによるリスクの方が大きいのが現状です。

マンパワーに余裕がないと労働環境の改善もできません。労働環境の改善ができないと人も集まりません。

そういった意味ではまだまだ人材不足が続いていると考えています。

現に平日はなんとか予約制で業務を回していますが、土日は回っていません。確かにマンパワー不足は職員に負担はかかりますが、それ以上に負担をかけてしまうのが飼い主様です。さらに、飼い主様以上に動物に負担をかけてしまうことになります。動物や飼い主様のために、何としてもマンパワー不足を解消したいと思っています。

④サービ斯拉ーニングについて

Q：今後、我々は学生ボランティア活動を一步進めたサービ斯拉ーニングの展開を考えていますが、よいテーマはあるでしょうか。

そうですね。我が社は先ほど申し上げた通り、7施設それぞれに特徴がありそこでのイベントや講習会が考えられます。

例えば、シニア犬が多い施設では「ターミナルケア」「シニア介護」の講習会やイベントが可能だし、パピー犬が多い施設では「しつけ教室」、中型犬が多い施設では「日常ケア」など、施設によってテーマを決めて講習会やイベントなどが開催できる可能性があります。

今はやりたくてもなかなかできない状況なので、学生さんの力をお借りすることができれば、学生さんの学んできた技術や知識が生かせ、集まってくださった飼い主様のためにもなるイベントができるのではないのでしょうか。

4.5.4 DMM かりゆし水族館

12/11（水）15：00～16：00

沖縄県豊見城市 DMM かりゆし水族館

お伺いした方 百田様

①インターンシップについて

Q：インターンシップの受入はされていますでしょうか。

中学生、高校生、専門学校生、大学生を受け入れています。

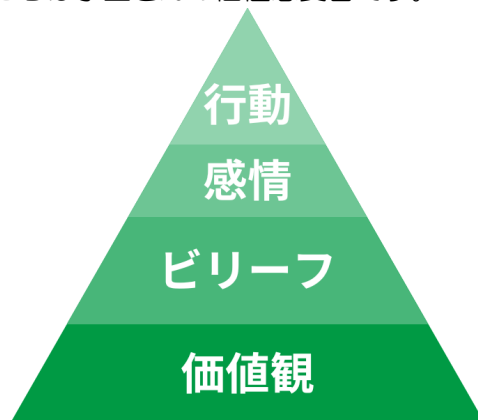
動物や水生生物の勉強をされている高校生や学生さんには、水族館の展示生物の飼育や水質管理など専門業務を体験していただいています。

その他の中学生、高校生、大学生は、バックヤードの見学や店舗など様々な部署を体験していただいています。

Q：インターンシップを通して学生に伝えたいことは何でしょうか。

参加された学生さんの職業観の変容や職業観の形成のきっかけになることを目指しています。

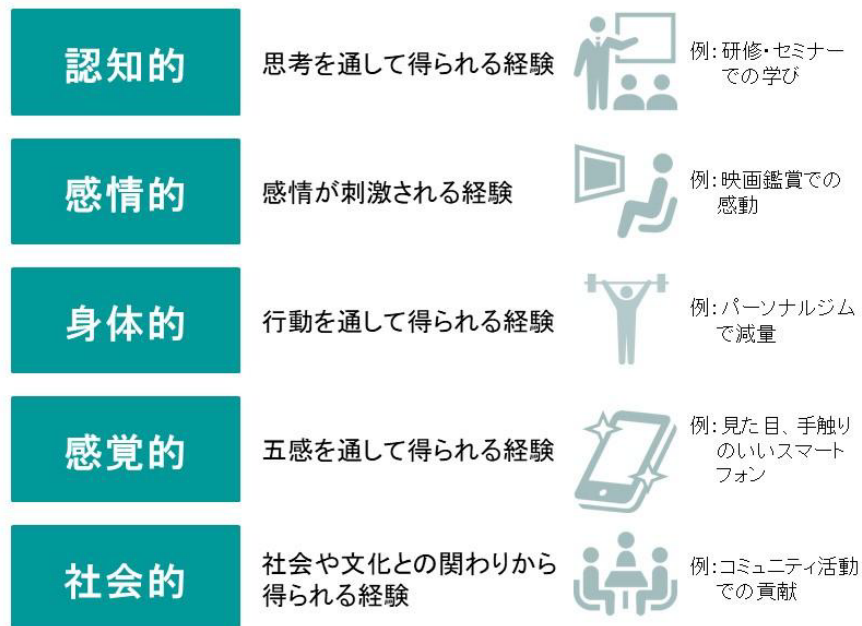
我々人事部では、人の行動はその人の価値感に基づいて行われると考えています。そして、人の行動変容もその人の価値感変容に基づくと考えています。この意味では私たちの目指すところは学生さんの価値感変容です。



価値感変容のプロセスを簡単にいうと、「体験」→「体感」→「理解（価値観変容）」のプロセスを通して行われると考えています。

インターンシップで現場を「体験」することで、それを自分自身の感覚に落とし込み「体感」してもらいます。体感がすぐに既存の価値感を変容することもありますし、そうでない場合感覚は「感情」として記憶され良い感情であれ悪い感情であれ、それが飽和したとき（閾値を超えたとき）に価値感の変容が起こると考えています。

「経験価値」における5つの経験領域



ただ単に体験するのではなく、感覚や感情に落とし込んでもらえるようなインターンシップを目指しています。

Q：インターンシップを受入れるときに気をつけていることは何でしょうか。

学生さんにインパクトのある体感をしていただくために、動物の勉強をされている学生さん、具体的には沖縄水産高校の生徒さんや専門学校の学生さんは、「お客様扱い」をしないようにとスタッフに指導しています。

Q：従業員目線でということでしょうか。

はい。同じスタッフとして指導するつもりで接してもらっています。とはいうものの、従業員ではないので重大な責任が伴わない作業などをやってもらっています。その代わり作業の仕上がりはプロとして通用するレベルのものを求めています。

②インターシッププログラムについて

Q：インターシッププログラムは独自に作られていますか？

インターンシップに来られる学生さんの要望に応じたプログラムを用意させていただいております。

Q：具体的にはどのようなプログラムがあるのでしょうか？

そうですね。基本的なテーマとしては、「働くことの意義（価値観）の形成」、「体感したことの言語化・可視化」、「多様な価値観の受容」などをテーマにしたプログラムを用意しています。

インターンシップに来られる学生さんの目的に応じて、それらの重みを変えてプログラムにしています。

Q：例えば、「体感したことの言語化・可視化」プログラムはどのようなものでしょうか。

職場体験や職場実習後に、

- ①「学んだこと」
- ②「私の働き方観」
- ③「水族館への提言」

など決められたテーマにしたがって、10 分間のプレゼンテーションをしてもらいます。

Q：その評価はどのようにされていますか？

10 分間のプレゼンテーションは職員の前で行います。発表後、職員から質疑応答をしてもらい、職員から評価を受けます。質疑応答と評価で 20 分使いますので、だいたい一人当たり 30 分になります。

評価は、基本的にはよかった点を挙げていきますが、改善点などもはっきり伝えるようにしています。

Q：沖縄水産高校のインターンシップはどのようなことをされているのでしょうか。

沖縄水産高校とは、学校と連携を取っており、授業の一環として見学実習を行っています。

③海洋教育プログラムの開発実施

Q：インターンシッププログラムの他に教育プログラム化されているものはありますか？

海洋教育プログラムを開発・拡充しているところです。県内外の小中学生・高校生のための海洋環境学習が学べるプログラムです。

授業の一環として導入していただけるように、学習指導要領に沿って作られています。プログラムは、名護にある国際海洋環境情報センター（GODAC）に協力をいただきながら開発しました。

現在、沖縄県内8市町村の小中学校で実施していただいています。今年で、参加数者のべ約2000名になりました。

Q：どのようなプログラムでしょうか？

アクションラーニングを基本とし、事前・事後プログラムを含むプログラムになっています。

例えばサンゴをテーマとしたものでは、「サンゴと沖縄のかかわり」、「サンゴと生活とのかかわり」などがあります。

校外活動で利用しやすいように、3時間程度の半日プログラム中心に活用いただいています。

プログラムとしては、理科や社会、総合の時間を利用して来ていただくことが多いです。

④業界や組織の課題

Q：業界や組織の課題としてはどのようなものがあるのでしょうか？

業界ではないのですが、我が社では現在従業員の働き方を見直しています。というのは、従業員が行っている仕事の中にはアルバイトでもできる仕事があるため、アルバイトでできる仕事はアルバイトに任せ、従業員がより働きやすい労働環境をつくったり、人的パワーを別な展開にもってきたいと思っています。

ご承知のとおり、沖縄県は観光業やサービス業が多く県全体が慢性的な人手不足の状態なのでなかなか厳しいのが現状です。

⑤サービ斯拉ーニングについて

Q：今後、我々は学生ボランティア活動を一步進めたサービ斯拉ーニングの展開を考えていますが、よいテーマはあるでしょうか。

持っている知識や技術を地域で活用する、という点で私たちが取り組んでいるインターンシッププログラムや海洋教育プログラムは同じ方向性だと思います。とてもよい試みだと思います。

実習やアルバイトで来ていただく中で、新しい業界課題や地域課題が明らかになることもあると思います。学生さんの力をお借りするとスムーズに進むこともあるかも知れませんね。

4.5.5 こどもの国

12/13（金）10：00～11：00

沖縄県沖縄市 こどもの国

お伺いした方 翁長様

①インターンシップについて

Q：インターンシップはされているでしょうか？

小学生から大学、専門学校まで行っています。

コロナ禍の時はやはり少なかったですが、コロナ以降は増えており、2023 年は年間 24 校合計 248 名ほど受け入れています。

Q：インターンシップの具体的な内容を教えてください。

小学生と中学生は、売店や受付などの見学や体験してもらっています。高校生になると、バックヤードの見学や飼育体験も行っています。

専門学校生は、専門的な知識と技術があるので、飼育を体験してもらっています。沖縄ペットワールド専門学校さんは、5月から定期的に月2回、3名ずつ受け入れています。

園では飼育班が3つあります。その3つの飼育班にそれぞれ1名入ってもらって実習を行っています。

学芸員資格を取る大学は、学芸員専門プログラムがあります。最終的に展示や動物ガイドを行ってもらいます。

Q：インターンシップや実習の評価はどのようにされていますか。

基本的に、実習の評価は学生の書いた日誌をもとに行っています。特に 評価シートなどは準備していません。

②今年行ったペットワールド専門学校の学生ボランティアについて

Q：今年も学生がボランティアでお世話になりました。ボランティア活動で何か気づいた点などがあるでしょうか？

300 人のこどもたちを対象にスタンプラリーをやってもらいました。参加したこどもたちがとても楽しそうにしていました。

学生もこどもたちにやさしく接していてとてもよかったと思います。やはり学生たちはこどもたちと年齢が近いので、私たち職員が対応するのとは違い、こどもたちも受入れやすいのかなと思います。

③サービラーニングについて

Q：今後、我々は学生ボランティア活動を一步進めたサービラーニングの展開を考えていますが、よいテーマはあるでしょうか。

そうですね。動物ひろばの企画・運営がテーマとしてあるのではないかと思います。
動物にふれあうことが確かに大切ですが、それは虐待につながるということから最近ではただ単にふれあうことは否定的な見方が主流です。

これからは、アニマルウェルフェアに基づいた、新しい「ふれあい」のストーリー（正しい接し方と観察からの学び、生息環境の学び）を展開したいと考えています。
是非、学生さんの力をお借りできればと思っています。

ショッピングセンターや住宅展示場、幼稚園のイベントなどで、全国的にふれあい移動動物園が開催されていた時に、動物への虐待ではないかという非難が多く出ました。

イベントなどの大音量の音、気温管理、湿度管理、カメラやスマホのフラッシュなどの環境要因だけでなく、人に触られるストレスが動物に生じます。しかも、一日中休みなしに展示されています。うさぎ、モルモット、ハムスターなどの小動物は子どもに強く握られたり押さえつけられたりすることもあります。

それ以上に動物たちのストレスになるのは、イベント会場への移動だといわれています。

Q：ありがとうございます。他には何かよいテーマはあるでしょうか。

はい。その他、園では本当にたくさんの動物イベントを行い、こどもたちにメッセージを伝えています。

さまざまなテーマを持ったプログラムをこれからも揃えていきたいと思っています。

調査総括

①実習、インターンシップについて

様々な職種や職場の環境にあわせた実習、インターンシップが行われていた。
動物関連の仕事に特徴的なことは、インターンシップの要素より実習要素が強く感じられた。

本来、インターンシップの目的は様々な社会体験や多くの仕事体験を通じ職業観を確立したり、社内の雰囲気を感じたりすることである。一方、実習は特定の資格や特定の職種に就くための実習である。

今回面接調査を行った団体のほとんどが、専門学校生は「実習」、一般の大学は「インターンシップ」、小学生は「職場見学」、中高生は「職場体験」と、内容を明確にされていた。

小中学校、高等学校については企業と教育目的の連携を持つ必要があり、専門学校生は、学校に個人の技術や性格に関する情報提供を望んでいた。専門学校生本人には自分自身のキャリア目標や計画を明確に持つことを望んでいた。

②実習、インターンシッププログラムについて

プログラムとしてマニュアル化されたもの（言語化されたもの）に従ってすすめている団体は少なかった。多くは、学生を受け入れて面談や日誌を見て指導をしていく形をとっていた。

学生に対する評価も明確なものはなく日誌や実習簿に評価を書くものが多かった。

そのような中でDMMかりゆし水族館では、しっかりとしたインターンシッププログラムを整備されているのが印象に残っている。

③業界の課題について

人手不足が多く挙がっていた。特に中堅クラスの不足が深刻で、仕事を覚え技術が身についたところで退職する従業員が多いことの現われである。

学生に対する評価も明確なものはなく日誌や実習簿に評価を書くものが多かった。

④サービラーニングについて

多くの団体から賛同を得られた。特に、繁殖犬の譲渡会、動物ひろばの企画は実現可能性が非常に高く、来年度実施のよいテーマになる。

今回の調査で企業や団体にはマンパワー不足からやりたくてもできない地域貢献テーマがあることがわかった。引き続き、地域の企業団体にサービラーニングの説明と協力を要請しつづけることが大切である。

4.6 委員意見

＜実証授業について＞

休みの生徒がいたため代役で生徒として参加した。生徒たちにとって刺激のある授業であり意識して人の話を聞く点は、日々の生活態度に応用している生徒もいる。

日々の授業と違い、外部講師による実証授業は生徒にとって刺激となっている。我々も学年をまたいで職業や資格の授業を行っているが、生徒たちへのインプットが違う。アンケートの報告も分かりやすく、データから生徒の変化や伝わり方を知ることが出来る。

＜フィールドワーク（ボランティア）活動について＞

主催者である那覇市の目的が動物に興味がない方にも告知できることであった。以前まで実施していた場所は郊外でドックランなど広いスペースがあったが、動物に興味のある方しか参加しなかった。

そういった方はすでに動物に関する知識も持ち合わせていた。今回は子ども連れのファミリー層が多い場所だったので、目的に合った告知が果たせた。学生にとっては知識の学びを活かすことよりコミュニケーションスキルを身につける結果となった。

他の団体が計画したボランティア活動では制約が多く、学生たちが希望する企画ができないことが多い。希望を最大限に実現するためには自分たちで企画するか、スタートの段階から一緒に進めていけると良いと感じる。障壁も多く不安もあるが自分から手を挙げて参加した学生たちなので、職員の想像を超えた結果を生む期待もある。

＜令和7年度の活動計画について＞

次年度も中部農林高、北部農林高との実証授業は継続的に実施。

新たな取り組みとして中学生向けの職業体験、卒業生向けの卒後セミナーを実施したいと考えている。

職業体験では早期から動物業界に興味を持つ人材を増やしたい。また卒後セミナーでは現場の職員が求める知識やスキルの向上、卒業生の働く姿を知ることができる。文科省からも「小・中・高校、専門学校、企業」が一貫して繋がると良いという意見があった。

＜サービスマーケティングについて＞

サービスマーケティングは一緒にやっていきたい。本施設の「どうぶつ広場」ではモルモットやウサギなど小動物がいる。以前は団体の子ども達が来ると無秩序になり、動物はグッタリしていたこともあった。子どもたちが動物に触れることは大切なことで、利用者からの要望もあり令和4年度より施設をリニューアルして完全予約制で再開。動物福祉に考慮し、観察方法や触り方を学ぶ教室スタイルにした。

担当職員が学生たちにレクチャーして、プログラムを企画してもらえば良い実践の場になると思った。ぜひ次年度実現したい。

＜職業意識調査について＞

アンケートでは「職業について知りたい」という結果が高かった。中部農林高校や沖縄ペットワールド専門学校出身の飼育員が多く働いている。先輩たちの声を生徒や学生に伝えられる場がさらに設けられるとプログラムに参加する意義や貢献に繋がると思う。

生きている充実感が下がっているアンケートの結果について考えてしまった。このプログラムを通して今後も考えていきたい。

＜キャリア教育について＞

キャリア教育は県の重要施策。沖縄県の生徒は、進学・就職の活動が遅く、とりあえず決めてしまう傾向がある。自己肯定感や職業観をきちんと形成しないとこれからの社会では通用しない。これらの内容がしっかりと組み込まれており、素晴らしいと感じる。

フィールドワークでも学生たちをやる気にさせ、しっかりと引っ張っていている。これを高校生と一緒に取り組んでもおもしろいと思った。お互いにとって学びになると思う。同様に実証授業でも専門学生と高校生が関われないか。高校生にとって少し年上の学生たちから話を聞けると良い学びになると思う。

5 第三回連携プログラム開発検討委員会以降に実施した事業（卒後セミナー）

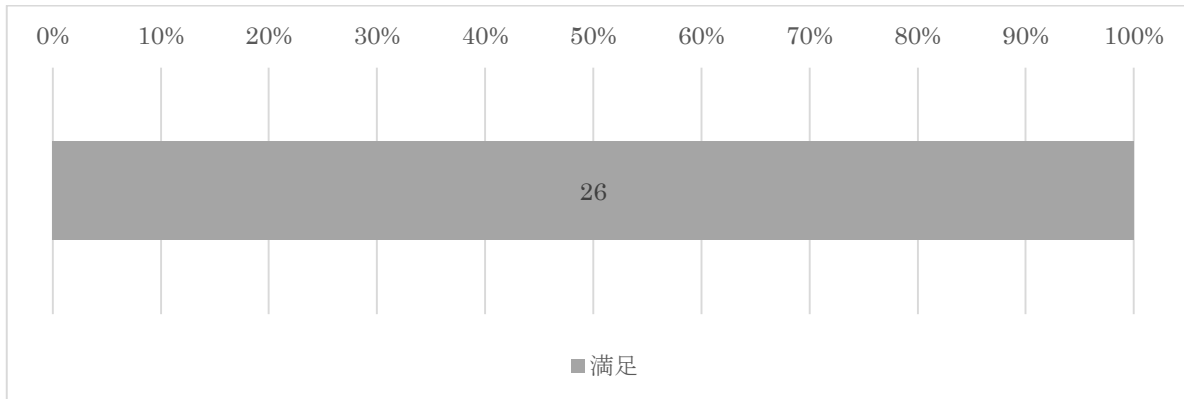
5.1 実施概要

日時 令和7年2月19日 19:30~21:30
対象 沖縄ペットワールド専門学校卒業生、トリマー職員、在校生（希望者）
人数 26名
講師 吉本 真紀先生（SEA SIDE DOG PARK RINKA オーナー、
穴吹動物看護カレッジ非常勤講師）
内容 「ビション・フリーゼのカットセミナー」



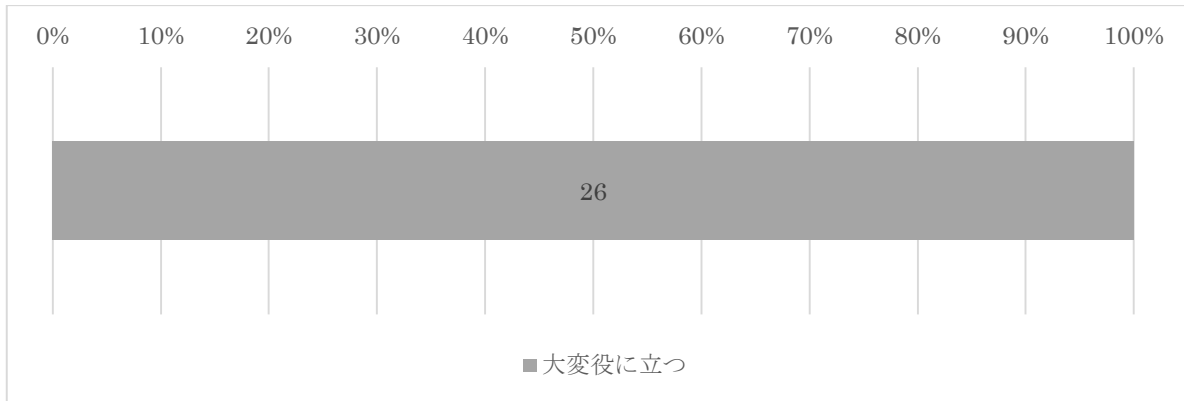
5.1.2 受講者アンケート結果

「本日のセミナーの満足度についてお聞かせください」（平均 5.0）



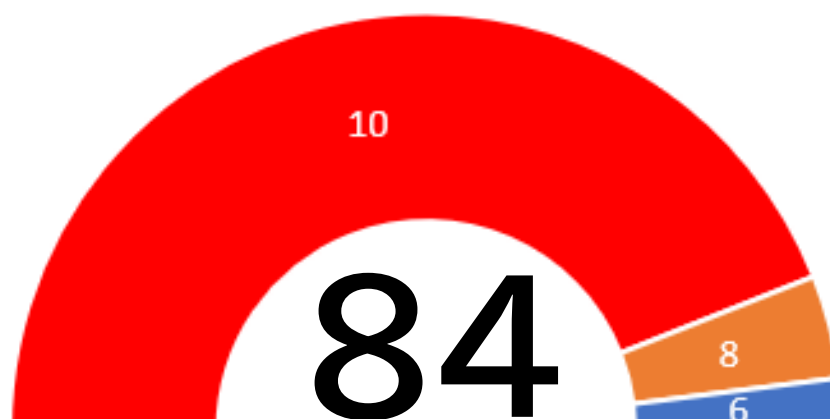
100%の受講者が「満足」と答えた。

「本日のセミナーの内容は、これから役に立つと思いますか？」（平均 5.0）



100%の受講者が「大変役に立つ」と答えた。

「本日のような Pet が開催するセミナー参加を、同僚や知人にどの程度薦めますか？」（NPS 84）



ネットプロモータースコアは84だった。
「推奨者割合（88.0%）」－「批判者割合（4.0%）」

ネットプロモータ（Net Promoter Score）は顧客ロイヤリティ（Loyalty：愛着）を測定する指標です。顧客満足度（Customer Satisfaction）を向上させても業績は向上しないことが明らかになったため、真のリピーター（業績）を予測するために開発された指標です。



「強く薦める」を10、「全く薦めない」を0とする11段階で、親しい友人や同僚に対する「お薦め度」を測ります。

10と9は「推奨者（ロイヤリティが高い層）」で、リピーターになるだけでなく、よい口コミを広げてくれるプロモーターになり得ます。8と7は「中立者」で、満足はしているがリピーターにはならない可能性が高い層です。6以下は「批判者」で、不満を持っている層で放置すると悪い口コミを広げる層です。

NPS は、「推奨者の割合」－「批判者の割合」で求めます。

「セミナーを受けて特に印象に残ったことを」を記入してください。

--
ビションの顔のカットについて不明だった点を確認できとても勉強になりました。

--
一つ一つのポイントを教えていただけるのでとても分かりやすかったです。顔周りのカット特に、目まわりのカットがとても印象に残りました。

--
ビションに限らずワンちゃんの毛はトリマー自分たちで作っていくということ。お客さんにお手入れさせない環境を作っていくこと。お客さんと協力していくこと。

--
すべて。特に顔カット、ネック部分。

--
体、顔、頭部、全部です。勉強になりました。

--
10日に1度の子がこんな高頻度でやっていいのかと驚いた。毛がたっぷりのビションのカットで地肌ギリのところがあると知った。

--
ベーシックの大事さに改めて気付かされました。
尾はスリッカーを使わない
飼い主さんにブラッシングをしてもらわない方がいい。
シャンプーを10に1回入れている。
顔カットにブレンダーを使うと毛が柔らかくなる。
バツッと決めた方がいい。

--
ビションのカットのあいまいなところが丁寧に説明して下さったので良かった。
シャンプーの仕方で毛の質が変わるのが勉強になった。もっと細かく泡立てたりベーシックを1から見直そうと思った。

--
ものすごく細かく教えてくれてとても参加して良かったです。作業に慣れてしまっていて根本的なベーシックが大事ということも思い出しました。すべてベーシック！

--
どんなに短い毛に切れてしまった子でも爆毛にできるという事がビックリしました。伸びないとあきらめたりしてた事もありましたが、今後もっとシャンプー（バイジング）をもう一度見直して理想の毛に育毛していく努力をしたいと思います。

--
ビションのカットにはシャンプーでしっかり汚れを落として毛を育てることが大事だということ！

--
オーナーさんに手入れをさせないという事が印象に残りました。

--
シャンプーの回数をとても増やす事や日頃のお手入れをあまりしない事が衝撃的でした。

ビションとブードルのカットの違いを細かく分かりやすく説明していただいたことが印象に残りました。普段、仕事では聞けないような内容が多くて、ビションは明確に決まりがないことや、ビションっぽく見せるカットのポイントなど経験を生かした説明がたくさんあってとても勉強になった。

--

お客様にブラシがんばってねって伝えていましたが、逆効果だったのも分かりました。色々な方法でトリミングする事も勉強になりました。さっそく取り入れてみます。

--

どんなにダメージを受けた（短くてかたくなった）毛もシャンプーとチッピングだけで育毛する事ができるという話を聞いて驚きました。自分のわんちゃんでもやってみようと思います。

--

シャンプーのやりすぎはダメって聞いてたけど、今はやればやるほど良いとの事でびっくりしました。私も毎日ブラッシングしてたけど 10 日に 1 回のシャンプーにしようと思います。

--

ショップとは考え方（お客さんにさわらせない）がちがくておどろきました。

--

先生のはさみの使い方。顔カットのラインの作り方がすごい勉強になりました。特に頭おでこの作り方。

--

カットも大事だけどシャンプーがすごく大事ということ。あと、尾をあまり重視してなかったけど、一番大事にして欲しいということを知りました。

--

カット方法。シャンプーの仕方、大切さ。

--

スタンダードを知れてよかったです。

--

シャンプー（炭酸泉）の手順は明日以降すぐにでも先輩方に共有して取り入れていこうと思っています。泡を使っのシャンプーは今後時短のために有意義な情報なので少しの手間でドライローの最短化を目指していけたらと思っています。オプションメニューの方も商品について見直し、使い方を模索していきます。

--

日頃、どうしたらいいんだろうと悩んでいたことを的確に教えて下さったので、すごく勉強になりました。ビションのカットを学ぶ機会がなかったので、全体的に流れを知る事ができて良かったです。

--

今までの職場ではオーナーさんにブラッシング、日々のケアをお願いしてましたが、その逆でオーナーさんにブラッシングは頼まないと聞いて凄いなと思いました。なによりもシャンプー、日々のケアがいかに大事かを改めて学びました。

--

シャンプーの重要さの再確認

--

次回のセミナーで取り上げて欲しいテーマ・内容があればお聞かせください。

プードルのはやりのカットについて学びたい

--

独立開業準備、多くのカットスタイル

--

色んなカットスタイルを勉強したい。トリミングに来るお肌が悪い子をどういったやり方で（シャンプー、保湿、カット内容、バリカンを使わない方がいいかなど）トリミングをすすめていったらいいか。

カット犬種：トイプ、シーズー、ヨーキー、シエナなど

カットスタイル：ベア、ニャンスベアなど

--

スキンケアなど

カット犬種：流行っている犬種

カットスタイル：流行っているカットスタイル

--

カット犬種：テリア系、シュナウザー

カットスタイル：スタンダード、バリカン

--

スキンケア、シニアケア、独立開業準備、マズルの丸め方、トリミング中のトレーニング

カット犬種：

カットスタイル：ペットカット

--

トイプードルのカットみたいです。マッサージ

カット犬種：トイプードル

カットスタイル：ラムクリップ、ベアカット

--

シニアケア、足腰の悪い子へのトリミング

カット犬種：シュナウザー

カットスタイル：スタンダード、シュナベア

--

皮膚トラブルの子が多い気がするので、フードやシャンプーなどもすごく興味あります。涙やけかフケをどうお客さんに説明して解決してあげれるか。

カット犬種：マルチーズ、トイプードル

カットスタイル：

--

カット犬種：シュナウザー

カットスタイル：スタンダード、ペットカット

--

いやがってしまう子の保定

カット犬種：プードル

カットスタイル：ニュアンススタイル

--

独立開業準備

カット犬種：プードル、シーズー、マルチーズ

カットスタイル：人気なスタイル（流行）

--

カットの講座

カット犬種：プードル

カットスタイル：ペットカットやおぱんつカット（人気なカット）

--

シャンプーの種類や種類の特徴や洗い方。

独立までの計画など

カット犬種：プードル

カットスタイル：ペットカット

--

シニアカットにどのくらい時間をかけていいのか。

カット犬種：プードル、マルチーズ、ヨーキー

カットスタイル：ベアカット、ペットスタイル

--

皮膚が悪い子のケア（スキンケア）の仕方など詳しく知りたいです。後、嫌がる子の保定の仕方
やトレーニングなども知りたいです。

カット犬種：プードル、マル、シュナ

カットスタイル：全犬種に使えるようなバリカンを使った短くかわいいカットなどが知りたいで
す。

--

カット犬種：ポメラニアン

カットスタイル：オールシザー

--

独立について知りたいです。

--

独立開業準備。シャンプー講習。

カット犬種：トイプードル

カットスタイル：様々なデディベア

--

シニアケア。高齢の子の受け入れとやり方。手早くきれいに出来る方法。

クリッパーでのカット（はさみをあまり使わずに仕上げる方法）

--

噛む子について

カット犬種：マルプーなどの毛が柔らかく綿毛な子

カットスタイル：デザインカット（ハート・おぱんつ）

--

スキンケアについてやって欲しいです。

カット犬種：トイプードル

カットスタイル：コンチがみたいです。

--

デンタルケア。歯みがきを嫌がる子への対策を教えて欲しい。

シニアの対応。シニアに対する（嫌々が増えた子）のトリミング手順の応用

カット犬種：プードル

カットスタイル：デディベア

スキンケア、シャンプーの選別の仕方、成分の善し悪しなど、脱毛の時や脂ろうの時などのシャンプーの仕方を知りたい

カット犬種：プードル

カットスタイル：いろいろな形のスタイル

--

シニアセミナー、猫セミナー

--

シニアケア、シャンプー類、ベーシック、独立準備と進め方

--

取り上げて欲しい内容 まとめ

独立開業準備	7
スキンケア	7
シニアケア・カット	7
嫌がる子・噛む子の対応（保定・トレーニング）	4
シャンプー	4
多くのカットスタイル	2
マズル	1
足腰の悪い子の対応	1
デンタルケア	1
猫セミナー	1
マッサージ	1

取り上げて欲しい犬種 まとめ

プードル	9
トイプードル	5
マルチーズ	5
シュナウザー	3
ヨーキー	3
シーズー	2
シエナ	2
ポメラニアン	1

日頃、動物看護師の仕事をする中で感じている、困りごと、悩みがあればお聞かせください。

カットでの効率化

いつも同じカットをしているので（ベア）、たまに違うカット（アフロ、マッシュ）を頼まれたが、なんとなくでしかお返しができず、カット方法を覚えたりどこまで切っているのか分からないときがある。

なかなか上達せず悔しい。犬への接し方がどのくらい甘やかせばいいのか悩む。自分のクセがあるように見えるけど、どこかわからない。

時間に追われすぎてます。接客の仕方。

基本一人で試行錯誤しているのでちゃんとできてるか不安なことがある。

お客さんがあまりわんちゃんにお金をかけたくないで丸刈りで。がほとんどだけど、しっかり向き合って自分が楽しめるようもっといろんなカットを楽しめるようにしたいと思いました。

犬の保定や扱いが苦手なので、うまく犬にストレスを与えずに保定したいです。

お迎え待ちにすごく吠える

病気・しつけなどの知識が少なくてお客様に質問された時に困る。
シーザー、マルチーズとかの手足カット（はさみ）が苦手なのが悩みです。
暴れる子の扱い方。

お客様に対する言葉の使い方（接客）、わんちゃんとのコミュニケーション

頻繁にトリミングを薦めてますが、なかなか思うように行かなかったり、料金の問題なのか色々考える事が多いです。噛む子に対しての対応等も悩みです。

お手入れを嫌がる子、問題がある子がよく来るので（かみつきなど）、その対応の仕方。

今はまだあまりトリミングはいれてないので、これから頑張ります。

人間関係、技術、自信・・・

ドライのやり方

何回も何回もコームで立てて揃えるのに終わった後には崩れることがよくあります。たまに良い感じの時はあるけど、犬種によって変わってくるからそれに対応できるようになりたい。

お客様への説明の仕方が難しい。

--

カットのためのシャンプーとスキンケアのためのシャンプーのどちらを優先するか決めることに悩んでいます。

--

時間がかかってしまう事が多いので時短をする方法

噛み犬の対処方法

しつけの仕方（テーブルマナー）

パピーの時のトリミングの導入の仕方

--

文部科学省事業 令和6年度「専修学校による地域産業中核人材養成事業」 第1回 プログラム検討委員会 議事録	
開催日時	2024年7月26日(金) 15:00~17:00
会場並びに 開催方法	沖縄ペットワールド専門学校 7階ホール (一部、ZOOM 利用によるリモート方式)
出席者	(プログラム検討委員) ・沖縄県教育庁 県立学校教育課 産業教育班 指導主事 平良 一朗 ・沖縄県立中部農林高等学校 教諭 徳田 佐 ・学校法人シモソノ学園 国際動物専門学校・大宮国際動物専門学校 募集広報部 部長 吉川 鉄平 ・学校法人KBC学園 沖縄ペットワールド専門学校 副校長 吉田 剛 事務局長 仲松 謙 教務課長 儀間 秀人 教務主任 山城 正仁 教務 永井 洋美 就職課 崎山 孝司 ・ペットメディカルセンター・エイル 取締役 喜納 保 (事務スタッフ) ・学校法人KBC学園 地域創生室 伊禮 嘉本 當間 律子 東 知範 (教材制作) ・株式会社 グローバル専門人材開発ラボ 開発マネージャー 広原 敬幸 (議事録作成) ・学校法人KBC学園 地域創生室 當間 律子
議題	議 事 議題1 令和6年度 事業計画説明 議題2 令和6年度 実証授業について 議題3 ボランティア活動について
配布資料	配布資料 プログラム検討委員会名簿 令和6年度 事業計画書 資料① 【令和6年度 実証授業】予定 資料② 実証授業シラバス(小禄高校) 資料③ 実証授業報告(小禄高校) 資料④ ボランティア活動評価 資料⑤ 学生の社会貢献活動の方向性
会議概要	伊禮よりスケジュール、配布資料を確認。吉田の挨拶後、各委員より挨拶を承る。議題1にて伊禮より令和6年度の事業計画を説明。議題2にて伊禮より令和6年度の実証授業、小禄高校での授業報告を広原氏より行った。議題3では広原氏よりボランティア活動について評価、方向

	性等を説明し、各コース担当者より進捗について話をしてもらった。その後、委員と意見等を交換して最後に伊禮より今後の予定を確認し終了。
目次	議題 1：令和 6 年度 事業計画説明 ・伊禮より令和 6 年度 事業計画書を使い説明 質疑・応答等 (平良委員) ・3年後の定着率について、追跡調査した卒業生は何人か？ (儀間委員) ・2020 年度の卒業生は飼育 25 名、看護 30 名、トータル・トリマー 25 名程度。毎年 8 割～9 割の就職者がいるので 65～70 名。その中で約 80%が離職せず働いている。 議題 2：令和 6 年度 実証授業について ・伊禮より資料①～②、広原氏より資料③を使い説明 議題 3：ボランティア活動について ・広原氏より資料④～⑤を使い説明 質疑・応答等 (伊禮) ・各コースの進捗状況を報告してほしい (儀間委員) ・動物看護専攻は 1 年生 32 名を対象に那覇市主催のボランティアに参画する趣旨を説明。実行委員に 11 名が集まり、まずボランティアについてどのように取り組んでいけるかを話し合った。授業もあり、放課後に全員が集まる時間が多く取れなかったためミーティングは 2 回しかできていないが、学生たちで目的は何を持ってやるか決めてきた。 ・これまでも多くのボランティアを行ってきたが、情報を多く与えずにどうしても傾いてしまうので最小限の情報だけで学生たちにどうするか話し合ってもらった。今回は犬猫の適正飼育を伝えることが私たちの役割で、理解を深めてもらうことを目的にしているという挙げてもらったところ、ワクチンや狂犬病、飼育方法を PC やポスターを使って伝えることとなった。 ・意識がある人より、そこまで無い方にも正しい飼い方や動物がいることによる環境の変化を伝えたい。動物を使って商業施設の芝生などで実施を希望している。また自分たちで作ったものを販売して、売上を動物団体やボランティア活動をしているところへ寄付したいという意見も出た。 (儀間委員) ・トータル専攻科は愛玩動物使用管理士を取得している 4 名の中部農林高校出身の学生を中心に 5 回ほどミーティングを持った。自分たちの持つ技術を使い、爪切りや耳掃除を提供したい。こちらでもグッズ等を販売してチャリティー募金活動をしたいという意見が出た。すでに沖縄県主催の「愛護の集いボランティア」に参加が決まっているので、その場所ですることを詰めている。 (山城委員)

- ・飼育専攻はコロナ禍に入るまで毎年沖縄子どもの国と連携して、9月20日～26日の動物愛護週間内の基本日曜日にボランティア活動をしていた。5種類ほどの動物に分かれ、動物の特徴を子ども向けに紙芝居を作成。説明を聞いてくれたらスタンプを押すスタンプラリーを行い、最後におやつをプレゼントしていた。日程や内容等について昨日、委員長と打ち合わせをする予定だったが、体調不良のため出来なかった。
- ・担当となる1年生には日程や内容、先方からの依頼などが決まったら話す予定。実行委員を立ち上げて、何が出来るか話をしていくと思う。

卒業生向けのセミナーについて

- ・進捗状況を各専攻より報告してもらった

(儀間)

- ・看護専攻では毎年、卒後セミナーを実施。講師を学校に呼び、その内容をFAXで県内の動物病院へ情報提供して勉強会に参加してもらった。コロナ禍前には年に2～3回実施。今年から復活させ、8月と12月に実施予定。8月は日程も決まっており、愛玩動物看護師に来てもらい、国家資格となり採血等できることが増えた独占業務を対面で実習する内容。特に採血は病院によっては獣医師しかやらない。実際に行っている看護師もいるが、1～2年目はまだできていないと思うのでそういった方や、その指導者を対象にした。
- ・12月は県外から講師を呼び実施の予定である。本日、看護専攻の職員が学会に参加している。卒業生だけでなく、県内の動物病院へ可能な限り勉強会を提供し貢献していきたい。

(儀間)

- ・トータル専攻の卒後セミナーも8月に実施していたが、資格試験が重なるため個々の卒業生を対象にやっていた。今年は12月に県外専門学校のトリマー講師に声をかけているが未確定。こちらも実習になると思う。

(伊禮)

- ・これまで単独で行っていたが、予算的に県外から講師を招くことが難しく限られてしまっていた。今回は文科省事業の一環として予算化し、広く県内の業界関係者に対して提供できる取り組みを行いたいと考えている。

(吉川委員)

- ・4年目に入り、愛玩動物飼養管理士の教育に関する高校との連携、その生徒たちが沖縄ペットワールドに入学し今後の事業に膨らみが出てきたと説明を聞いて感じた。可能性の広がりやボランティアの部分は「大きなチャレンジ」だと感じる。私たちもボランティアの捉え方は難しいと感じており、広原氏の説明は目からうろこであった。
- ・「ボランティアをしなさい」というのはおかしいし、したくても出来ない人、評価してもらいたくない人もいっぱいいる。ボランティアをやっている学生も多いと思う。シモソノ学園でも議論した時期があった。
- ・授業のようにA B C、優良可といった評価はできないと思う。「ソノポイント」というボランティアマイル制度を作り、プラスの評価だけをしている。蓄積されたポイントで自分の成果を可視化されるところで、評価を求める学生は評価するところで止まってしまっている。ボランティアをすることが必要なことなんだという認識を持ってもらうことがいいんだらうというぐらいである。

	・広原氏の説明であったが、ぶっつけ本番はできないので事前学習を行い、参加できる生徒が行くといった活動がボランティアにあたると思う。これを教育として結び付けサービスラーニングという部分にどう昇華させるのか、参加しながら学内に持って帰れるように勉強しないといけないと思った。考え方の両面性というか、教育と相容れない部分で難しいところに取り組んでいることは素晴らしいと思うし、ヒントになるところは取り入れたい。 （平良） ・初めは中部農林高校を中心としたプログラム作成であったが、そこからボランティア活動、それに伴う教育活動と膨らみ、沖縄県の掲げるキャリア教育の理想形というか、高校で終わるのではなく専門学校、さらに追跡調査等を行い将来まで結び付けているところが印象的であった。生徒一人ひとりが生き方を見つけていくのがキャリア教育である。 ・評価と教育が結びつかないという表現が正しいかわからないが、ボランティア活動を評価することはちょっと難しい。自分で行動することがボランティアであり、その点を盛り込んだ教育、カリキュラムを作っていくとのことなので参考にしたいと思う。 （喜納委員） ・中核的人材養成事業ということで、グラウンドで使えるプレイヤーという人材育成だと。しかし実際はフィールドに立つとなかなかプレイできないところが問題。規模によるものかわからないが、4～5名単位の病院だとスマートに安定する人材でうまくいくが、30名ほどを流動させながら行うとなかなかうまくいかない部分もある。 ・学生の間は「学び」という部分でうまく対応してくれる。社会人は3年目で環境にちょうど馴染んでくる頃、5年くらいで自分がある程度出せる状況になるかと。そういった経験をしている人たちとコミュニケーションを取らせてもいいかと思う。私は看護師でも獣医でもないが16年になる。ドクターなどは話をすると「安心する」と捉えてくれている。定年も考えているが辞めないでほしいと言われる。 ・社会に出てもほとんどが自分迷子である。入社した頃、自分をどう出したらわからない人には1年更新で自分を進めるよう話をしている。もし来年も頑張ろうと思ったら一生懸命1年やってみる。私もそうして16年になる。この話をすると、つられて10年単位、それ以上にそばで働いてくれている状況。動物看護師として実際に働いている人とコミュニケーションがとれる環境、コミュニティを作ってあげてほしい。 （徳田委員） ・実証事業の対象校として、事業がスムーズにいけるよう今後も協力したい。最終的に素晴らしい結果が出るようサポートしていけたらと思っている。 ・今後の予定について（伊禮） ①実証授業 中部農林高校対象：資料①を参照 北部農林高校1年生対象：インターンシップと面接の対策 熱帯農業科 屋良先生と調整中 ②第2回 プログラム検討委員会（予定） 日程：令和6年11月29日（金）
--	--

	時間：15：00～17：00 会場：沖縄ペットワールド専門学校 以上 委員会を終了する。
--	--

文部科学省事業 令和6年度「専修学校による地域産業中核人材養成事業」 第2回 プログラム検討委員会 議事録	
開催日時	2024年11月29日（金） 15:00～17:00
会場並びに 開催方法	沖縄ペットワールド専門学校 5階トレーニング室 （一部、ZOOM 利用によるリモート方式）
出席者	（プログラム検討委員） ・沖縄県立中部農林高等学校 教諭 徳田 佐 ・学校法人シモソノ学園 国際動物専門学校・大宮国際動物専門学校 募集広報部 部長 吉川 鉄平 ・学校法人KBC学園 沖縄ペットワールド専門学校 副校長 吉田 剛 教務課長 儀間 秀人 教務主任 山城 正仁 名護 聡美 教務 永井 洋美 就職課 嶋山 孝司 ・株式会社WOLVES HAND 沖縄事務局 喜納 保 ・公益財団法人 沖縄こどもの国 動物みらい課 課長 翁長 朝 （事務スタッフ） ・学校法人KBC学園 地域創生室 伊禮 嘉本 當間 律子 東 知範 （教材制作） ・株式会社 グローバル専門人材開発ラボ 開発マネージャー 広原 敬幸 （議事録作成） ・学校法人KBC学園 地域創生室 當間 律子
議題	議 事 議題1 令和6年度の事業進捗について （1）実証授業 ①愛玩動物飼養管理士試験対策 ②キャリア教育（職業講話） （2）卒後セミナー （3）ボランティア活動（フィールドワーク） （4）高校生の職業意識調査 議題2 KBC「サービスマーケティング」について
配布資料	配布資料 資料① 【令和6年度 実証授業】 予定 資料② 実証授業報告 資料③ 卒後セミナー報告書 資料④ 実証活動報告

	資料⑤ 高校生の職業意識に関する調査報告書 資料⑥ K B C「サービスマーケティング」について 資料⑦ R 6 年度 キャリア教育講座
会議概要	伊禮よりスケジュール、配布資料を確認。吉田の挨拶後、議題 1 にて伊禮より実証授業の進捗、途中に休憩をとりながら広原氏より資料②～③を使いアンケート結果等について分析、報告を行ってもらった。また報告途中で各委員より質疑応答があった。議題 2 にて広原氏より資料⑥ K B C「サービスマーケティング」について説明と伊禮より各委員へ協力をお願いを行う。最後に伊禮より今後の予定を確認し終了。
目次	議題 1：令和 6 年度の事業進捗について ・伊禮より資料①をつかい、令和 6 年度 実証授業の状況について報告 ・担当教員（名護、儀間、永井、吉田）より感想等 質疑・応答等 （徳田委員） ・高校教員は専門学校教員に比べて、分厚い教科書を期間内に学んで試験に臨ませることを最優先に考えてしまう。授業の時間数もあり、ざっと「広く浅く」やってしまいがち。1 つの単元について時間をかけて詳しく説明してもらえて非常に良い学びとなった。 ・生徒から高校教員による授業では「こう覚えなさい」という方法であったが、専門学校教員の授業では「なぜそうなるのか」がわかり、より深く理解が進んだという意見があった。 ・職業に関する講話を受けた 1 年生は、動物が好きという理由で中部農林高校の熱帯資源科に入学したが自分が思っていた以上に動物に関係する職業が多く「やりたい」「好き」という気持ちだけではできないこと、知識・技術・資格、県や国の許可が必要なものがあるということを再認識した。目指すべき道、この職種を目指したいという生徒もおり有難い授業になった。 ・どのような仕事でもコミュニケーション能力が必要であり、大切であることに気づいた。自分に足りない部分を知れたという意見もあった。専門の教員による授業で認知することができたことは、生徒にとってとても良い刺激、学習になった。 ・広原氏より資料②を使い、実証授業のアンケート結果を報告 （吉川委員） ・高校生と専門学生への教え方では、どのような違いがあるのか？ （儀間委員） ・その部分が 1 番難しい。専門的知識を教えられる点は高校の教員に比べて優位でありこの部分を伝えたい。専門学生は「絶対にこの業種で就職したい」という具体的な目標がある。高校生にはいかにイメージさせるか。動物が好きである部分は同じだと思うので身近で飼育している動物を例にしたり、動物がただ好きであるというだけでなく、どこまで考えているかといった「熱意」も入れ込んでいる。教科書を読み上げるだけでは楽しくない。興味を持たせることを意識している。 （永井委員） ・動物看護専攻の専門学生たちと内容は異なる。高校生はまだ飼い主の目線で、これから動物を相手にしていく。自身の担当が病気に関する理解を深める分野であった。何に注意しながら動物

	たちと暮らせばよい。高校生が身近な生活で気づけることはたくさんあると思う。生活の中で「授業で話していたことはこの点か」というように気づきに結びつけられる話し方になる。 ・愛玩動物飼養管理士 1 級のテキスト内容は非常に簡易。自分と動物の生活に結び付けられるよう意識して膨らませている。話し方や態度など基本的な授業スタイルは変えず、内容を分かりやすくして適時間いかけのフィードバックを行ったが反応してくれる子が少なくコミュニケーションが難しかった。しかし多くの生徒が理解してくれた分野だと思う。 (名護委員) ・特に話し方や態度を変えてはいない。儀間委員、永井委員と同様、専門学生のように通年を通して理解へつなげるのではなく限られた時間でコンパクトに重点を絞り、3 点程度ポイントを伝えるようにした。 ・高校生は動物が好きではあるが、まだ職業を模索している段階だと思う。授業内容で興味を持ってもらい発見のきっかけになればよい。内容はかみ砕いて優しく作るよう意識している。就職を見据えた問いかけよりは、普段から関わりのある身近な動物から例えて興味を引くようにした。 ・広原氏より資③を使い、卒後セミナーのアンケート結果を報告 ・担当教員（永井、儀間）より感想等 (伊禮) ・ネットプロモータースコアの目安は 20 でマイナスになる事もある。今回の 58 という結果は非常に高い。今後もこのようなセミナーを行うことはメリットが大きい。卒業生が働く病院へ案内をしたところ、卒業生以外も一緒に参加した。取り組みとしてはとても良かったと思う。 (吉川) ・参加者の年代や、就業年数、割合や周知の方法について教えてほしい (儀間) ・採血に関する内容だったため従事して 1 ～ 2 年目の方が多いと考えていたが、意外と 10 年目といった方もいた。 ・採血は病院によって動物看護師が国家資格となる以前から実施、これから始める、今後も獣医師が行うといった違いがある。看護師による行為は可能なので学びに来た方、指導の方法に困っている方の参加もあったため年齢にばらつきが出たと思う。 (永井) ・5 ～ 10 年目に近い方も多かった。また動物看護専攻以外の卒業生が参加していた。病院への F A X をきちんと見ているから来てくれたと思う。 (儀間) ・中堅の方が多かった。別の病院で働いた経歴があり、トータルで 5 年前後になる参加者もいた。セミナー終了後の懇親会はなかったが、なかなか質問や話が止まらず終了時間が 23 時だった。内容以外の情報を得ることもできたので、このような機会が実施出来てよかった。 ・周知の方法は病院への F A X。参加の有無はメールで返信してもらった。県内でリアルなセミナーや学会はあまりない。ネットでの有料セミナーを含めても今回のような企画は近年なかったと思う。学びたい人は多いと思うので、そういった方々のきっかけになりたかった。
--	--

・広原氏より資④を使い、実証活動のアンケート結果を報告

・担当教員（山城）より感想等

（伊禮）

・イオンモールライカムでは、学生たちが要望した爪切りや耳そうじといったボランティア活動を施設に希望したが、施設内にペットショップがあるため急遽実施できなくなったことがアンケート結果に影響したのでは。今後の課題になると感じる。学生が主体性を持った取り組みを次年度から取り組みたいので委員へご協力をお願いしたい。

（翁長委員）

・明確に中学生以下をターゲットにしたクイズを考えていた。言葉使いなど小さな子どもにも「伝えること」を考慮していたと感じた。当日も笑顔で子どもたちに接している学生の姿が見られた。自身の成長を感じた学生も7割強という結果で非常にうれしい。

・広原氏より報告のあった「目標を持ったボランティア」「主体性を持つ」といったキーワードや山城委員から希望のあった学生たちと直接関わる機会も踏まえて協力したい。今回、飼育担当職員がクイズ作りで関わるきっかけがあったが自身は直接の関わりがなかった。今後はもっと何か出来ればと思った。

・広原氏より資⑤を使い、職業意識に関するアンケート結果を報告

（徳田）

・中部農林高校の教員として気になった部分は、将来の生き方や進路について全国平均より高い70%が保護者と話しているとの結果ではあるが、逆に30%が出来ていないことである。生徒たちへ職業観や勤労観を伝え、できるだけゼロに近づけるようにしたい。残り2年半でいかに小さくしていくかが教員のやるべきことだと感じる。

・生活できる収入があればのんびり暮らしたい、仕事より自身の趣味や自由を大切にしたいなど今どきの傾向が出ている。反対に自分の会社や店を持ちたい、高い地位に就きたいといった回答が少ないのが生徒の傾向なのかと強く感じる。これからも学習を通じ成長を見ていきたい。

議題2：KBC「サービラーニング」について

（広原氏より資料⑥を使い説明）

・サービラーニングとは、「学校における学び」と「社会・企業における諸課題の解決」を具体的な実践活動を通して結合させていく学びの手法。この学びを通して様々な社会・企業貢献活動によって、双方向の人間関係を育み、学生が社会人としての資質や社会性を高め、課題解決力、チームとしての実践力などを高めていくことを目的としている。「地域課題」「企業課題」を学生が地域や企業・団体の方々と協働して活動することにより、地域、企業、学生が成長を実感する状況を実現する。

・日本では主に東京や京都の大学、主にミッション系の大学で行われている。例えば、企業課題であれば「ペットショップにおける集客力低下」をインターンシップ時の解決課題にする、地域課題であれば「保護猫の増加を食い止め減少させる」などが考えられる。ボランティア活動と異なるところ

は「活動」が目的ではなく、明確に「数値化された目標」を持つこと。前の例でいうと、集客力では1日に800人の来店客数が目標になり、保護猫を100匹から3年で0匹にするなどがある。

- ・学生が数値目標達成のために「いつ」「どこ」で「だれ」が「なに」を「どのように」に活動するかを計画、実行して振り返り、次年度の計画を立てるまでの一連のプログラムを行う。このプログラムを開発し動物をキーワードに全国展開できればと考えている。

（伊禮）

- ・プログラム構築の期間が残り2年ある。このサービスマーケティングのプログラムができれば、地域と沖縄ペットワールドのつながりが強くなれると考えている。ボランティア活動も実施前後の報告だけではなくタイアップ先からの評価もあれば、今より学生たちの社会的評価が上がると思う。学校にとっても非常に価値がある。

- ・学生たちには事前にレクチャーする時間を設け、考える「仕掛けづくり」を行い取り組んでみたい。構築に向けてインターンシップや実習、ボランティアを受け入れてくれている企業へヒアリングに伺わせてほしい。ご協力よろしくお願いします。

- ・今後の予定について（伊禮）

（1）12月18日（水）北部農林高校の実証授業（キャリア教育講座）

（2）県内中学校職業体験イベント（動物とのふれあい等）

11月28日（木）西原中学校（西原町）

12月5日（木）豊崎中学校（豊見城市）

12月6日（金）神森中学校（浦添市）

1月22日（水）あげな中学校（うるま市）

（3）第3回 プログラム検討委員会（予定）

日程：令和7年2月7日（金）

時間：15：00～17：00

会場：沖縄ペットワールド専門学校

以上 委員会を終了する。

会場とZ o o mを使った会議の様子



文部科学省事業 令和6年度「専修学校による地域産業中核人材養成事業」 第3回 プログラム検討委員会 議事録	
開催日時	2025年2月7日(金) 15:00~17:00
会場並びに 開催方法	沖縄ペットワールド専門学校 5階トレーニング室 (一部、ZOOM 利用によるリモート方式)
出席者	(プログラム検討委員) ・沖縄県教育庁 県立学校教育課 産業教育班 指導主事 平良 一朗 ・沖縄県立中部農林高等学校 教諭 徳田 佐 ・学校法人シモソノ学園 国際動物専門学校・大宮国際動物専門学校 募集広報部 部長 吉川 鉄平 ・学校法人KBC学園 沖縄ペットワールド専門学校 副校長 吉田 剛 事務局長 仲松 謙 教務課長 儀間 秀人 教務主任 山城 正仁 名護 聡美 ・教務 永井 洋美 就職課 崎山 孝司 ・公益財団法人 沖縄こどもの国 動物みらい課 課長 翁長 朝 (事務スタッフ) ・学校法人KBC学園 地域創生室 伊禮 嘉本 富間 律子 東 知範 (教材制作) ・株式会社 グローバル専門人材開発ラボ 開発マネージャー 広原 敬幸 (議事録作成) ・学校法人KBC学園 地域創生室 富間 律子
議題	議 事 議題1 令和6年度の事業報告 (1) 実証授業 キャリア教育 (2) フィールドワーク(ボランティア)活動 (3) 高校生の職業意識調査 議題2 令和7年度の新たな取り組み (1) 中学生対象 職業体験 (2) サービスラーニング
配布資料	配布資料 資料① 実証授業報告 資料② フィールドワーク(ボランティア)報告 資料③ 中部農林高校 プログラム前後調査(2年生) 資料④ インターンシップ サービスラーニング受入について調査報告書

会議概要	伊禮よりスケジュール、配布資料を確認。吉田の挨拶後、議題1にて広原氏より資料①から③を使い、令和6年度の事業報告を行い、委員より質疑応答を受けた。途中で休憩をとりながら議題2にて伊禮より新たな取り組みについて説明。広原氏より資料④を使い企業ヒアリング調査を報告。委員より質問や感想を伺った。最後に伊禮より今後の予定を確認して終了。
目次	議題1：令和6年度の事業進捗について (1) 実証授業 キャリア教育について ・広原氏より資料①を使い報告 ・広原氏、富間より職業講話、マナー研修について報告 (徳田委員) ・休みの生徒がいたため代役で生徒として広原氏の授業に参加した。ポイントを絞っており、生徒たちにとって刺激のある授業だと感じた。意識して人の話を聞く点は、日々の生活態度に応用している生徒もいる。メモを取る事の大切さなどは今後の進路でも重要なポイント。実体験ができる素晴らしい授業であった。 (2) フィールドワーク（ボランティア）活動 ・広原氏より資料②を使い報告 ・儀間よりフィールドワーク（ボランティア）活動の様子を報告 (吉川委員) ・ボランティア活動に参加した人数について詳細を教えてほしい ・イベントの規模など詳細を教えてほしい。 (儀間) ・32名のクラスで手を挙げたのが10名。希望した10名からクラス全員で参加したいという要望があったため、当日の運営は32名全員で行った。 ・立体駐車場からメインとなる売り場をつなぐ3階の通路で行った。ポスターでの告知はしていたが、ショッピング目的でたまたま通った方に声をかけた。我々のブースに来てくれた人数が40名。目視で4階の一部が見えたがおそらく全体で80名程度。足を止めて見てくれた人もいた。 ・主催者である那覇市の目的が動物に興味がない方にも告知できることであった。以前まで実施していた場所は郊外でドックランなど広いスペースがあったが、動物に興味のある方しか参加しなかった。そういった方はすでに動物に関する知識も持ち合わせていた。今回は子ども連れのファミリー層が多い場所だったので、目的に合った告知が果たせた。学生にとっては知識の学びを活かすことよりコミュニケーションスキルを身につける結果となった。 (3) 高校生の職業意識調査 ・広原氏より資料③を使い報告 議題2：令和7年度の新たな取り組み ・永井より「お仕事体験イベント」の取り組みについて報告

・広原氏より資料④を使いインターンシップ サービスラーニング受入について調査を報告

(伊禮)

・次年度も中部農林高、北部農林高との実証授業は継続的に実施。新たな取り組みとして中学生向けの職業体験、卒業生向けの卒業セミナーを実施したいと考えている。現在実施している子ども向けの職業体験は好評。早期から動物業界に興味を持つ人材を増やしたい。また卒業セミナーでは現場の職員が求める知識やスキルの向上、卒業生の働く姿を知ることができる。文科省からも「小・中・高校、専門学校、企業」が一貫して繋がるが良いという意見があった。

(儀間)

・他の団体が計画したボランティア活動では制約が多く、学生たちが希望する企画ができないことが多い。希望を最大限に実現するためには自分たちで企画するか、スタートの段階から一緒に進めていけると良いと感じる。障壁も多く不安もあるが自分から手を挙げて参加した学生たちなので、職員の想像を超えた結果を生む期待もある。

(吉田)

・サービスラーニングについて再度説明してほしい。

(広原氏)

・学生が学校で学んだ知識を社会で実践していく教育手法の1つ。ボランティアはマンパワーを社会で活かすこと。学んだ事をそのまま社会へ還元していくことがサービスラーニングの趣旨。地域の発展と学生の力が高まり、お互いにとって良い効果が期待できる。国内で本格的に取り組む専門学校は思いつかない。K B C 学園が初めての取り組み事例になればと考えている。

(翁長委員)

・サービスラーニングは一緒にやっていきたい。本施設の「どうぶつ広場」ではモルモットやウサギなど小動物がいる。以前は団体の子ども達が来ると無秩序になり、動物はグッタリしていたこともあった。子どもたちが動物に触れることは大切なことで、利用者からの要望もあり令和4年度より施設をリニューアルして完全予約制で再開。動物福祉に考慮し、観察方法や触り方を学ぶ教室スタイルにした。担当職員が学生たちにレクチャーして、プログラムを企画してもらえば良い実践の場になると思った。ぜひ次年度実現したい。

・アンケートでは「職業について知りたい」という結果が高かった。中部農林高校や沖縄ペットワールド専門学校出身の飼育員が多く働いている。先輩たちの声を生徒や学生に伝えられる場がさらに設けられるとプログラムに参加する意義や貢献に繋がると思う。

(吉川委員)

・生きている充実感が下がっているアンケートの結果について考えてしまった。このプログラムを通して今後も考えていきたい。

・永井委員から報告のあった職業体験イベントに関して、埼玉県が「リアル体験教室」という県内小学生向けの講座を年間通して大小60回ほど開設。本校も協力しており、毎回約20倍程度の体験参加倍率になる。学校独自でもどうぶつ祭などを実施している。動物病院やペットショップなど実際の場所としてマインドセットする永井委員の手法は良いと感じた。説明が中心となっていて実社会の想定ができていなかった。動物に早く触りたい子どもの気持ちを抑える方法として素晴らしい。

・西武グループが実施する同様の企画と合わせ、10年以上取り組んでいる。毎年2～3名がこれらの企画がきっかけで入学してくる。小さい子どもへの種まきが実になってきた。比較的順調に伸びている動物系専門学校で存在が示せてきているのは、このような活動のおかげと実感している。

(徳田委員)

・日々の授業と違い、外部講師による実証授業は生徒にとって刺激となっている。我々も学年をまたいで職業や資格の授業を行っているが、生徒たちへのインプットが違う。アンケートの報告も分かりやすく、データから生徒の変化や伝わり方を知ることが出来る。

(平良委員)

・自身も農林高校で教えていた経験がある。キャリア教育は県の重要施策。沖縄県の生徒は、進学・就職の活動が遅く、とりあえず決めてしまう傾向がある。自己肯定感や職業観をきちんと形成しないとこれからの社会では通用しない。これらの内容がしっかりと組み込まれており、素晴らしいと感じる。

・フィールドワークでも学生たちをやる気にさせ、しっかりと引っ張っていている。これを高校生と一緒に取り組んでもおもしろいと思った。お互いにとって学びになると思う。同様に実証授業でも専門学生と高校生が関われないか。高校生にとって少し年上の学生たちから話を聞けると良い学びになると思う。

今後の予定

(1) 卒後セミナー (カッセルセミナー)

日程：令和7年2月19日(水)

時間：19:30～21:30

会場：沖縄ペットワールド専門学校

(2) 令和7年度 プログラム検討委員会

日程：①令和7年7月25日(金) 15:00～17:00

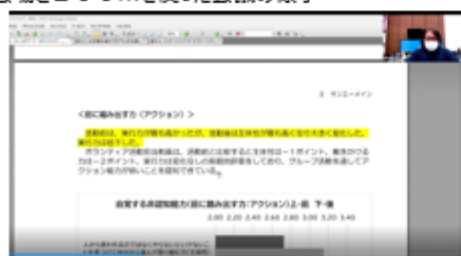
②令和7年11月21日(金) 15:00～17:00

③令和8年1月30日(金) 15:00～17:00

場所：沖縄ペットワールド専門学校

以上 委員会を終了する。

会場とZoomを使った会議の様子



令和6年度文部科学省委託
「専修学校による地域産業中核人材養成事業による委託事業」

沖縄・動物分野における
有機的高専連携プログラム開発・実証事業

令和6年度 事業報告書

令和7年2月
学校法人KBC学園 沖縄ペットワールド専門学校
〒900-0034 沖縄県那覇市東町 19-20